

宝塚市第5次障^{が い}碍者施策長期推進計画
宝塚市障害福祉計画（第6期計画）・
宝塚市障害児福祉計画（第2期計画）

共通資料編

令和3年（2021年）3月
宝 塚 市

目次

アンケート調査結果	1
1. 調査概要	2
(1) 調査目的	2
(2) 調査方法	2
(3) 回収結果	2
(4) 報告書の見方	3
2. 調査結果の概要	4
(1) 相談	4
(2) 教育	5
(3) 啓発	6
(4) 就労	7
(5) 災害	9
(6) 医療	9
(7) 権利	10
(8) 生活	11
(9) バリアフリー	14
3. 調査結果	16
(1) 18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査結果	16
①基礎的事項	16
② ^が い障害者福祉への関心	18
③ ^が い障害のある人に対する理解	19
④ ^が い障害のある人へ支援・ボランティアなど	22
⑤ ^が い障害のある人の就労・教育	26
⑥福祉のまちづくり	29
⑦宝塚市の ^が い障害者施策	31
⑧自由意見	36
(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者所持者向け調査結果	38
①回答者の属性	38
② ^が い障害の状況	41
③介助の状況	45
④外出の状況	50
⑤日中の過ごし方	53
⑥通園・通学の状況	55
⑦仕事の状況や今後の希望	59

⑧サービスの利用	68
⑨情報の入手・相談	80
⑩権利擁護	86
⑪今後の暮らし	95
⑫保健・医療	101
⑬災害対策	105
⑭福祉全般	107
⑮自由意見	111
4. 資料編（調査票）	114
（1）18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査票	114
（2）障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者所持者向け調査票	119
団体へのヒアリング調査結果	133
1. 医療・介護等について	134
2. 年金等について	134
3. 教育について	134
4. 療育について	135
5. 職業相談等について	135
6. 雇用の促進等について	135
7. 住宅の確保について	135
8. 公共的施設のバリアフリー化について	135
9. 情報の利用におけるバリアフリー化等について	136
10. 相談等について	136
11. 経済的負担の軽減について	136
12. 文化的諸条件の整備について	136
13. 防災及び防犯について	136
14. 選挙等における配慮について	137
15. その他	137
宝塚市 ^{がい} 障害者差別解消に関する条例	139
宝塚市手話言語条例	145

アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和3年度を初年度とする「第5次障害者^{がい}施策長期推進計画及び第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画」の策定にあたり、市民の障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的とする。

(2) 調査方法

○対象者：18歳以上の障害者手帳非所持者 1,000人

障害者手帳所持者 2,000人

障害福祉サービス等受給者証所持者 1,000人

○抽出方法：無作為抽出

※障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者の抽出内容は以下のとおりです。

手帳所持者全体 (令和元年11月現在)		障害福祉サービス等受給者証所持者	手帳のみ所持者数	サービス受給者からアンケート対象者人数	手帳のみ所持者からアンケート対象者人数
A		B	(A-B)=C	B	C
身体障害者手帳	9,056人	398人	8,658人	145人	1,600人
療育手帳	2,114人	1,219人	895人	430人	160人
精神障害者保健福祉手帳	1,765人	385人	1,380人	145人	240人
手帳なし		629人		280人	
合計	12,935人	2,631人	10,933人	1,000人	2,000人

○実施方法：郵送配布・郵送回収

○調査期間：令和2年1月15日（水）～1月31日（金）

(3) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
【調査票①】 18歳以上の障害者手帳非所持者	1,000件	384件	38.4%
【調査票②】 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者	3,000件	1,589件	53.0%

（４）報告書の見方

- 回答結果は、小数第２位を四捨五入した有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 「n」（number of cases の略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示しています。
- 図表等の「身体」、「知的」、「精神」、「手帳なし」の表記については、アンケート設問の障害者手帳の所持状況（問４－１）の回答から算出した「身体障害者手帳所持者（身体障害者手帳を持っている人）」、「療育手帳所持者（療育手帳を持っている人）」、「精神障害者保健福祉手帳所持者（精神障害者保健福祉手帳を持っている人）」、「障害者手帳を持っていない（障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人）」をそれぞれ指します。なお、障害者手帳を複数所持している場合も含まれるため、合計と有効回収数は一致しません。
 - ・身　　体：身体障害者手帳所持者
（身体障害者手帳を持っている人、身体障^{がい}碍のある人）
 - ・知　　的：療育手帳所持者
（療育手帳を持っている人、知的障^{がい}碍のある人）
 - ・精　　神：精神障害者保健福祉手帳所持者
（精神障害者保健福祉手帳を持っている人、精神障^{がい}碍のある人）
 - ・手帳なし：障害者手帳を持っていない
（障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人）

◎「^{がい}碍」の表記について

平成 31 年(2019 年) 4 月 1 日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障^{がい}碍」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障^{がい}碍」と表記しています。

「障^{がい}碍」には「さまたげ」や「バリア」の意義があり、このバリアは、個人の心身機能が原因で生じるのではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。本市は、障^{がい}碍のある人の地域社会への参画の促進に取り組むなかで、この社会的障壁を取り除き、障^{がい}碍の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う暮らしやすい社会の実現を図ります。

2. 調査結果の概要

(1) 相談

■ 身体障害者手帳を持っている人

- ^{がい}障害に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う身体障害^{がい}の人は 26.9%で、ふだんの情報の入手先は、「市の広報」が最も多く 40.1%となっています。(調査票②問 16・17)
- 身体障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 40.6%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「特にない」が最も多く 43.0%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 療育手帳を持っている人

- ^{がい}障害に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う知的障害^{がい}の人は 30.9%で、ふだんの情報の入手先は、「福祉施設（職員・スタッフなど）」が最も多く 29.5%となっています。(調査票②問 16・17)
- 知的障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 36.5%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 31.9%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- ^{がい}障害に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う精神障害^{がい}の人は 25.5%で、ふだんの情報の入手先は、「市の広報」が最も多く 25.5%となっています。(調査票②問 16・17)
- 精神障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 41.0%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「特にない」が最も多く 30.0%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- ^{がい}障害に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う手帳なしの人は 32.4%で、ふだんの情報の入手先は、「学校や保育所、幼稚園など」「友人・知人、近所の人」が最も多くそれぞれ 22.3%となっています。(調査票②問 16・17)
- 手帳なしの人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 44.6%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「特にない」が最も多く 39.6%となっています。(調査票②問 18・19)

(2) 教育

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害のある人への市民の理解を深めるために必要なことは、「学校における福祉教育の充実」が最も多く 48.4%となっています。(調査票①問 11)
- 市民が思う障害のある子どもにとって望ましい就学環境は、「障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が最も多く 48.7%となっています。(調査票①問 19)

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 身体障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「特にない」が最も多く 24.5%となっています。(調査票②問 21)
- 身体障害の人の通園・通学先は「保育所、幼稚園、障害児通園施設」「小学校・中学校（特別支援学級）」「大学、専門学校、職業能力開発校」が最も多くそれぞれ 15.8%で、学校・園生活を送る上での課題は「通園・通学が大変」が最も多く 36.8%となっています。また、学校卒業後の進路は「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 42.1%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「障害への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進」が最も多く 36.8%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 療育手帳を持っている人

- 知的障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 45.8%となっています。(調査票②問 21)
- 知的障害の人の通園・通学先は「小学校・中学校（特別支援学級）」が最も多く 33.7%で、学校・園生活を送る上での課題は「特にない」が最も多く 30.4%となっています。また、学校卒業後の進路は「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 39.1%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 51.1%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 精神障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 24.5%となっています。(調査票②問 21)
- 精神障害の人の通園・通学先は「保育所、幼稚園、障害児通園施設」「小学校・中学校（特別支援学級）」「小学校・中学校（通常学級）」が最も多くそれぞれ 25.0%で、学校・園生活を送る上での課題は「学習サポート体制が不十分」が最も多く 50.0%となっています。また、学校卒業後の進路は「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 50.0%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 75.0%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 手帳なしの人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 61.2%となっています。(調査票②問 21)
- 手帳なしの人の通園・通学先は「保育所、幼稚園、障害児通園施設」が最も多く 57.3%で、学校・園生活を送る上での課題は「特になし」が最も多く 51.5%となっています。また、学校卒業後の進路は「わからない(まだ考えられない)」が最も多く 70.9%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 58.3%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

(3) 啓発

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害のある人の福祉に対して関心がある市民は 71.4%で、その理由としては「自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる(いた)から」が最も多く 53.6%となっています。(調査票①問 5・6)
- 地域社会における障害のある人への対応や理解が足りないと思う市民は 47.9%で、対応や理解が足りないと思う具体的な場面は「交通機関や建築物の構造」が最も多く 61.4%となっています。(調査票①問 9・10)
- 障害のある人を対象とするボランティア活動をしたことがない(ないが関心はあるも含む)市民は 79.7%で、活動に参加するために必要なことは「時間の余裕」が最も多く 39.2%となっています。(調査票①問 14・15)
- 市民が思う障害のある人にしてみたい支援や活動内容は、「施設でのボランティア(話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等)」が最も多く 22.9%となっています。(調査票①問 16)
- 市民に対する『宝塚市手話言語条例』の認知度は、2.6%となっています。(調査票①問 23)
- 宝塚市は障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思う市民は、23.7%となっています。(調査票①問 25)

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』を詳しく知っている身体障害の人は 3.7%となっています。(調査票②問 36)
- 宝塚市が暮らしやすいと思う身体障害の人は 64.3%で、障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「必要なサービスが、必要なときに利用できる」が最も多く 39.7%となっています。(調査票②問 37・38)

■ 療育手帳を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』を詳しく知っている知的障害の人は 2.4%となっています。(調査票②問 36)
- 宝塚市が暮らしやすいと思う知的障害の人は 60.1%で、障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「障害の有無にかかわらず、地域でともに生活するのが自然という意識」

が最も多く 42.4%となっています。(調査票②問 37・38)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○『宝塚市手話言語条例』を詳しく知っている精神障害^{がいの}の人は 2.5%となっています。(調査票②問 36)

○宝塚市が暮らしやすいと思う精神障害^{がいの}の人は 56.0%で、障害^{がいの}のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる」が最も多く 45.5%となっています。(調査票②問 37・38)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○『宝塚市手話言語条例』を詳しく知っている手帳なしの人は 0.7%となっています。(調査票②問 36)

○宝塚市が暮らしやすいと思う手帳なしの人は、が 69.0%で、障害^{がいの}のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「幼稚園・保育所、学校において適切な支援を受けて学ぶことができる」が最も多く 48.2%となっています。(調査票②問 37・38)

(4) 就労

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

○障害^{がいの}のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思う市民は 66.4%で、障害^{がいの}のある人が働くために必要な条件は「障害^{がいの}に合った仕事であること」が最も多く 58.1%となっています。(調査票①問 17・18)

■ 身体障害者手帳を持っている人

○現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）身体障害^{がいの}の人の就労形態は「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 40.3%で、現在の職場に就いたときの、障害^{がいの}や疾患の診断を受けた時期は「診断を受ける前」が最も多く 48.8%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「いずれも利用していない」が最も多く 67.4%となっています。(調査票②問 11-1・11-2・11-3)

○現在、働いていない身体障害^{がいの}の人で収入を得る仕事をしたい人は 34.5%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 31.7%、職業訓練を受けたい人は 19.5%、働く際に必要な支援は「職場の障害^{がいの}への理解」が最も多く 46.3%、働く際に重視したい条件は「職場の障害^{がいの}への理解」が最も多く 22.0%となっています。(調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5)

○今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）身体障害^{がいの}の人の理由は、「障害^{がいの}が重い」が最も多く 49.2%となっています。(調査票②問 12-6)

■ 療育手帳を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）知的障害^がいの人の就労形態は「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 60.0%で、現在の職場に就いたときの、障害^がや疾患の診断を受けた時期は「前診断を受けた後」が最も多く 100.0%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「宝塚市障害^が者就業・生活支援センター「あとむ」」が最も多く 64.4%となっています。（調査票②問 11-1・11-2・11-3）
- 現在、働いていない知的障害^がいの人で収入を得る仕事をしたい人は 44.6%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 58.1%、職業訓練を受けたい人は 17.7%、働く際に必要な支援は「職場の障害^がへの理解」が最も多く 51.6%、働く際に重視したい条件は「職場の障害^がへの理解」が最も多く 30.6%となっています。（調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5）
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）知的障害^がいの人理由は、「障害^がが重い」が最も多く 51.9%となっています。（調査票②問 12-6）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）精神障害^がいの人の就労形態は「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 39.3%で、現在の職場に就いたときの、障害^がや疾患の診断を受けた時期は「前診断を受けた後」が最も多く 85.7%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「ハローワーク」が最も多く 50.0%となっています。（調査票②問 11-1・11-2・11-3）
- 現在、働いていない精神障害^がいの人で収入を得る仕事をしたい人は 63.6%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 27.0%、職業訓練を受けたい人は 21.3%、働く際に必要な支援は「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が最も多く 56.2%、働く際に重視したい条件は「職場の障害^がへの理解」が最も多く 19.1%となっています。（調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5）
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）精神障害^がいの人理由は、「働くことが不安である」が最も多く 62.8%となっています。（調査票②問 12-6）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）手帳なしの人の就労形態は「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 50.0%で、現在の職場に就いたときの、障害^がや疾患の診断を受けた時期は「診断を受ける前」が最も多く 50.0%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「いずれも利用していない」が最も多く 50.0%となっています。（調査票②問 11-1・11-2・11-3）
- 現在、働いていない手帳なしの人で収入を得る仕事をしたい人は 60.0%で、希望する就労形態は「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 66.7%、職業訓練を受けたい人は 66.7%、働く際に必要な支援は「通勤手段の確保」「勤務場所における障害^がへ配慮した設備（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）」「短時間勤務や勤務日数等の配慮」「在宅勤務の拡充」「就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」「仕事に役立つ講習や職業訓練を受けられること（マナーやスキルなど）」

がそれぞれ 33.3%、働く際に重視したい条件は「やりがいの持てる仕事内容」が最も多く 66.7%となっています。（調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5）

（５）災害

■ 身体障害者手帳を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある身体障害^{がいの}の人は 56.4%で、心配なことは、「避難所など、安全なところまで避難することができない」が最も多く 39.6%となっています。（調査票②問 34・35）

■ 療育手帳を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある知的障害^{がいの}の人は 58.0%で、心配なことは、「自力で救助を求めることができない」が最も多く 58.7%となっています。（調査票②問 34・35）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある精神障害^{がいの}の人は 63.5%で、心配なことは、「必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない」が最も多く 47.2%となっています。（調査票②問 34・35）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある手帳なしの人は 38.8%で、心配なことは、「避難所などで障害^{がいの}に対する配慮をしてもらえるか心配」が最も多く 33.3%となっています。（調査票②問 34・35）

（６）医療

■ 身体障害者手帳を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる身体障害^{がいの}の人は 72.3%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 21.8%となっています。（調査票②問 30・31）

○身体障害の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 40.3%で、障害^{がいの}のある人の保健・医療に必要なことは、「障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 44.7%となっています。（調査票②問 32・33）

■ 療育手帳を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる知的障害^{がいの}の人は 62.5%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 27.5%となっています。（調査票②問 30・31）

○知的障害の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 30.9%で、障害^{がいの}のある人の保健・医療に必要なことは、「障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 54.2%となっています。（調査票②問 32・33）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 宝塚市内のかかりつけの医師がいる精神障害^がいの人は 52.5%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 35.7%となっています。（調査票②問 30・31）
- 精神障害の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 30.0%で、障害^がのある人の保健・医療に必要なことは、「障害^がのある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 49.0%となっています。（調査票②問 32・33）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 宝塚市内のかかりつけの医師がいる手帳なしの人は 63.3%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 33.3%となっています。（調査票②問 30・31）
- 手帳なしの人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 56.8%で、障害^がのある人の保健・医療に必要なことは、「障害^がのある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 26.6%となっています。（調査票②問 32・33）

（7）権利

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害^がのある人に対して障害^がを理由とする差別や偏見があると思う市民は 51.3%で、その中で以前と比べて改善されている市民は 58.9%となっています。（調査票①問 7・8）
- 市民に対する『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度は、2.9%となっています。（調査票①問 22）
- 市民に対する「成年後見制度」の認知度は、38.3%となっています。（調査票①問 24）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 障害^ががあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある身体障害^がの人は 10.1%で、場所（場面）としては、「電車やバスなどを利用するとき」が最も多く 38.7%で、その時の対応は、「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 33.3%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）
- 成年後見制度を詳しく知っている身体障害^がの人は 35.8%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 14.0%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 25.1%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため」が最も多く 33.5%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3・20-4）
- 『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を詳しく知っている身体障害^がの人は 2.9%となっています。（調査票②問 23）

■ 療育手帳を持っている人

- 障害^ががあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある知的障害^がの人は 39.6%で、場所（場面）

としては、学校や保育所・幼稚園」が最も多く 56.7%で、その時の対応は、「親や家族に相談した」が最も多く 49.4%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）

○成年後見制度を詳しく知っている知的障害^がいの人^がいは 38.9%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 35.4%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 47.8%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくいいため」が最も多く 37.8%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3・20-4）

○『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を詳しく知っている知的障害^がいの人^がいは 2.8%となっています。（調査票②問 23）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○障害^がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある精神障害^がいの人^がいは 29.5%で、場所（場面）としては、「職場（工作中）」が最も多く 45.2%で、その時の対応は、「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 47.1%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）

○成年後見制度を詳しく知っている精神障害^がいの人^がいは 45.0%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 18.0%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 20.0%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくいいため」が最も多く 40.7%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3・20-4）

○『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を詳しく知っている精神障害^がいの人^がいは 1.0%となっています。（調査票②問 23）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○障害^がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある手帳なしの人^がいは 8.6%で、場所（場面）としては、手帳なしでは「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 64.3%で、その時の対応は、「親や家族に相談した」が最も多く 47.6%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）

○成年後見制度を詳しく知っている手帳なしの人^がいは 40.3%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 6.5%となっています。また、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくいいため」が最も多く 33.9%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3・20-4）

○『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を詳しく知っている手帳なしの人^がいは 0.7%となっています。（調査票②問 23）

（８）生活

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

○市民の立場で、今後の宝塚市の障害者施策^がいにおいて、行政以外で、障害^がいのある人をサポートするのに望ましいと思う支援者は「専門機関や事業者等」が最も多く 29.9%で、強化することが望ましいと思う分野は「労働・雇用」が最も多く 51.0%となっています。（調査票①問 26・27）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している身体障害^がの人は 49.0%で、介助や支援が必要な場面は「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 69.2%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）
- 身体障害^がの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に5日以上）」が最も多く 33.6%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 31.8%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 身体障害^がの人の休日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 75.0%で、平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 36.2%となっています。（調査票②問 9-1・9-2）
- 身体障害^がの人における現在利用中のサービスは「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く 32.9%、使いたいときに使えないサービスは「短期入所」が最も多く 28.3%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く 28.8%となっています。（調査票②問 14-1・14-2・14-3）
- 身体障害^がの人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「特にない」が最も多く 32.6%となっています。（調査票②問 15）
- 身体障害^がの人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 54.5%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「家族の理解・支援」が最も多く 40.9%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「特にない」が最も多く 33.1%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 33.7%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 身体障害^がの人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 42.1%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「近所付き合いが苦手だから」が最も多く 22.4%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 療育手帳を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している知的障害^がの人は 74.3%で、介助や支援が必要な場面は「お金の管理」が最も多く 83.6%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）
- 知的障害^がの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に5日以上）」が最も多く 84.0%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 49.6%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 知的障害^がの人の休日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 69.8%で、平日の日中の主な過ごし方は、「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が最も多く 35.1%となっています。（調査票②問 9-1・9-2）
- 知的障害^がの人における現在利用中のサービスは「移動支援」が最も多く 25.4%、使いたいときに使えないサービスは「移動支援」が最も多く 40.6%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「移動支援」が最も多く 31.3%となっています。（調査票②問 14-1・14-2・14-3）
- 知的障害^がの人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 23.6%となっています。（調査票②問 15）

- 知的障害^がの人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 30.9%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「経済的な負担の軽減」が最も多く 42.0%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「趣味やサークル活動」が最も多く 34.4%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援」が最も多く 46.5%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 知的障害^がの人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 35.1%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 45.2%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している精神障害^がの人は 49.0%で、介助や支援が必要な場面は「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 65.3%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）
- 精神障害^がの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に5日以上）」が最も多く 43.0%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 18.1%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 精神障害^がの人の休日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 71.5%で、平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 34.0%となっています。（調査票②問 9-1・9-2）
- 精神障害^がの人における現在利用中のサービスは「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く 46.4%、使いたいときに使えないサービスは「移動支援」が最も多く 21.1%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く 39.5%となっています。（調査票②問 14-1・14-2・14-3）
- 精神障害^がの人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「特にない」が最も多く 28.0%となっています。（調査票②問 15）
- 精神障害^がの人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 33.0%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「経済的な負担の軽減」が最も多く 49.0%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「趣味やサークル活動」が最も多く 40.5%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 41.5%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 精神障害^がの人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 26.0%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、近所付き合いが苦手だから」が最も多く 41.7%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している手帳なしの人は 41.7%で、介助や支援が必要な場面は「外出（通学・通勤、通院を含む）」が最も多く 60.3%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）

- 手帳なしの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に5日以上）」が最も多く 87.8%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 59.6%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 手帳なしの人の休日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 63.3%で、平日の日中の主な過ごし方は、「通園・通学している」が最も多く 74.1%となっています。（調査票②問 9-1・9-2）
- 手帳なしの人における現在利用中のサービスは「児童発達支援」が最も多く 62.8%、使いたいときに使えないサービスは「児童発達支援」が最も多く 51.9%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「放課後等デイサービス」が最も多く 63.0%となっています。（調査票②問 14-1・14-2・14-3）
- 手帳なしの人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「特にない」が最も多く 30.2%となっています。（調査票②問 15）
- 手帳なしの人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 35.3%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「家族の理解・支援」が最も多く 38.1%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「特にない」が最も多く 29.5%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 31.7%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 手帳なしの人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 46.8%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「近所付き合いが苦手だから」が最も多く 100.0%となっています。（調査票②問 28・29）

（９）バリアフリー

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 市民が障害のある人に対して行った支援は、「車いすを押すなど、移動を手伝った」が最も多く 40.6%となっています。（調査票①問 12）
- 身体障害のある人の支援に関する市民の考えは、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 69.5%、知的障害のある人の支援に関する市民の考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 45.6%、精神障害のある人の支援に関する市民の考えについて、「その他（支援方法がわからないなど）」が最も多く 52.1%となっています。（調査票①問 13）
- 以前と比較して、まちの環境は、障害のある人が外出しやすく改善されていると思う市民は 52.1%で、特に問題のある市民の行動は「誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている」が最も多く 31.0%となっています。（調査票①問 20・21）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 身体障害の人が外出する時に困ることは「特にない」が最も多く 32.3%となっています。（調査票②問 8-3）

■ 療育手帳を持っている人

○知的障^{がい}碍の人が外出する時に困ることは「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 47.8%となっています。(調査票②問 8-3)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○精神障^{がい}碍の人が外出する時に困ることは「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 35.7%となっています。(調査票②問 8-3)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○手帳なしの人が外出する時に困ることは「特にない」が最も多く 63.2%となっています。(調査票②問 8-3)

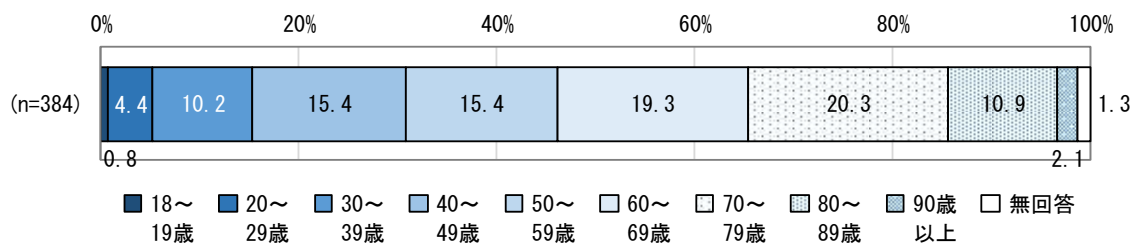
3. 調査結果

(1) 18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査結果

①基礎的事項

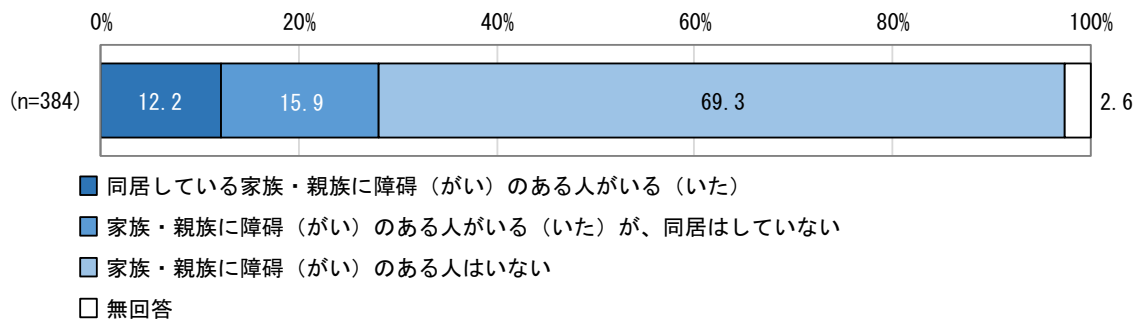
問1	あなたの年齢をお答えください。	数値記入
----	-----------------	------

回答者の年齢について、「70～79歳」が最も多く20.3%、次いで「60～69歳」が19.3%、「40～49歳」「50～59歳」がそれぞれ15.4%となっています。



問2	あなたの家族・親族に、障害のある人がいますか。	1つに○
----	-------------------------	------

障害のある家族・親族の有無について、「家族・親族に障害のある人はいない」が最も多く69.3%、次いで「家族・親族に障害のある人がいる（いた）が、同居はしていない」が15.9%、「同居している家族・親族に障害のある人がいる（いた）」が12.2%となっています。

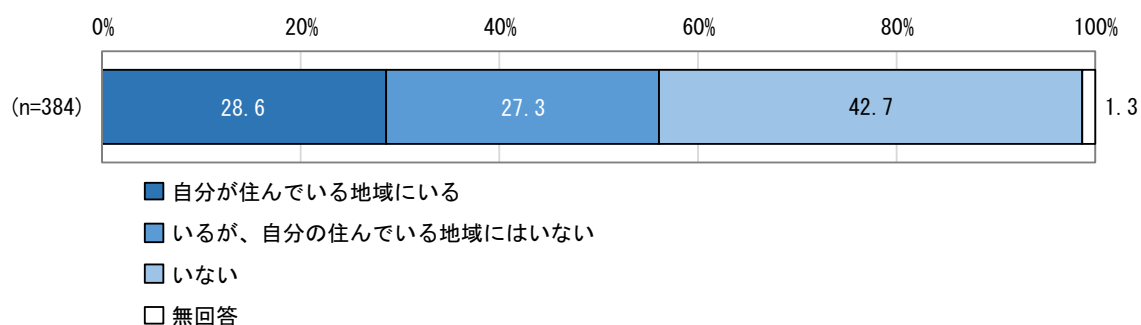


		単位：%			
	n	同居している家族・親族に障害（がい）のある人がいる（いた）	家族・親族に障害（がい）のある人がいる（いた）が、同居はしていない	家族・親族に障害（がい）のある人はいない	無回答
全体	384	12.2	15.9	69.3	2.6
18～39歳	59	10.2	11.9	78.0	0.0
40～64歳	144	15.3	18.8	63.9	2.1
65歳以上	176	10.2	14.2	71.6	4.0

※「家族・親族」とは、おおむね、父母・祖父母・子・孫・きょうだい・おじ・おば・いとことします。

問 3	あなたは、 ^{がい} 障害のある人の知り合いがいますか。	1 つに○
-----	---------------------------------------	-------

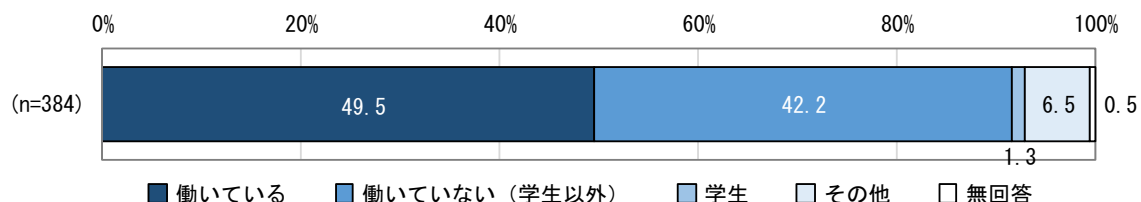
障害のある人の知り合いの有無について、「いない」が最も多く 42.7%、次いで「自分が住んでいる地域にいる」が 28.6%、「いるが、自分の住んでいる地域にはいない」が 27.3%となっています。



	n	自分が住 んでいる 地域に いる	いるが、 自分の住 んでいる 地域に はいない	いない	無回答
全体	384	28.6	27.3	42.7	1.3
18～39歳	59	23.7	30.5	45.8	0.0
40～64歳	144	32.6	29.2	38.2	0.0
65歳以上	176	26.1	25.0	46.0	2.8

問 4	あなたは働いていますか。	1 つに○
-----	--------------	-------

就労状況について、「働いている」が最も多く 49.5%、次いで「働いていない（学生以外）」が 42.2%、「学生」が 1.3%となっています。

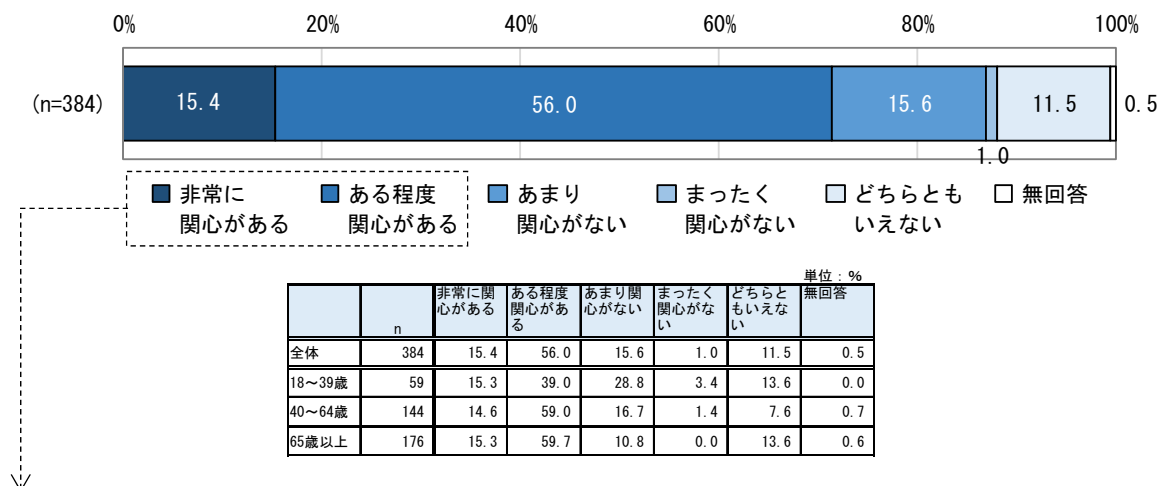


	n	働いて いる	働いて いない （学 生 以 外）	学生	その他	無回答
全体	384	49.5	42.2	1.3	6.5	0.5
18～39歳	59	79.7	8.5	6.8	5.1	0.0
40～64歳	144	77.8	20.8	0.7	0.7	0.0
65歳以上	176	16.5	70.5	0.0	11.9	1.1

②障害者福祉への関心

問5	あなたは、障害のある人の福祉について関心をお持ちですか。	1つに○
----	------------------------------	------

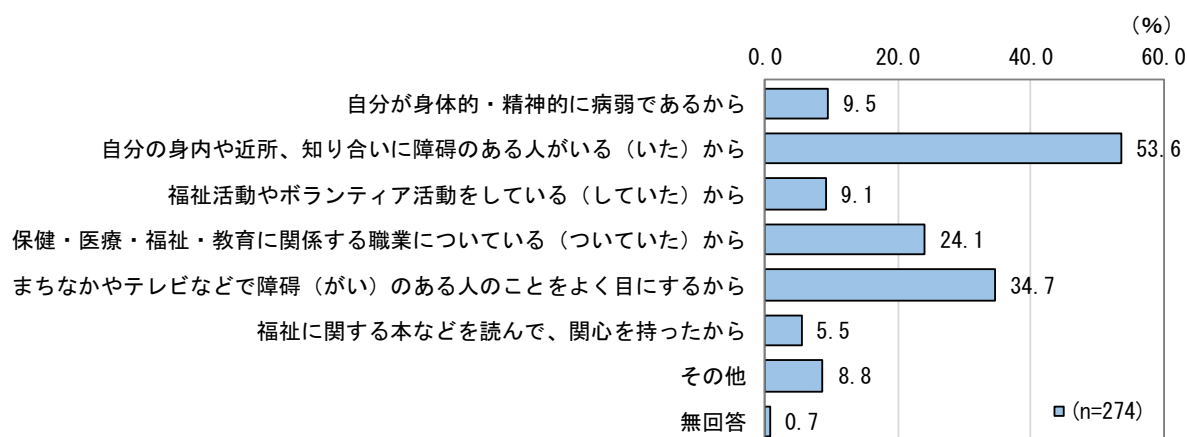
障害のある人の福祉に対する関心について、「ある程度関心がある」が最も多く 56.0%、次いで「あまり関心がない」が 15.6%、「非常に関心がある」が 15.4%となっています。



《問5で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお聞きます。》

問6	どのような理由から、関心をお持ちですか。	すべてに○
----	----------------------	-------

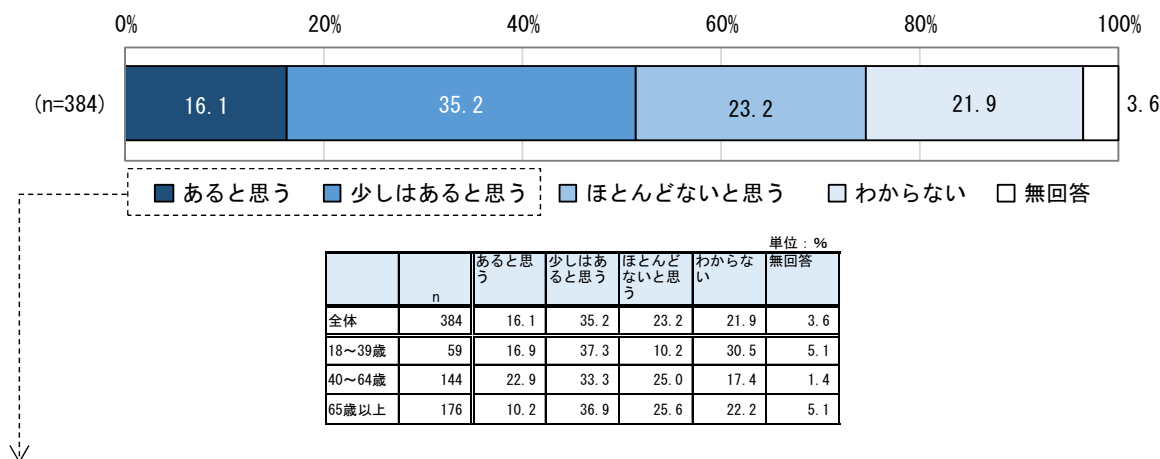
障害のある人の福祉に関心がある人に、その理由について聞いたところ、「自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる（いた）から」が最も多く 53.6%、次いで「まちなかやテレビなどで障害のある人のことをよく目にするから」が 34.7%、「保健・医療・福祉・教育に関する職業についている（ついていた）から」が 24.1%となっています。



③障害のある人に対する理解

問7	あなたは、あなたが住む地域社会には障害のある人に対し、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。	1つに○
----	--	------

障害のある人に対して障害を理由とする差別や偏見について、「少しはあると思う」が最も多く 35.2%、次いで「ほとんどないと思う」が 23.2%、「わからない」が 21.9%となっています。

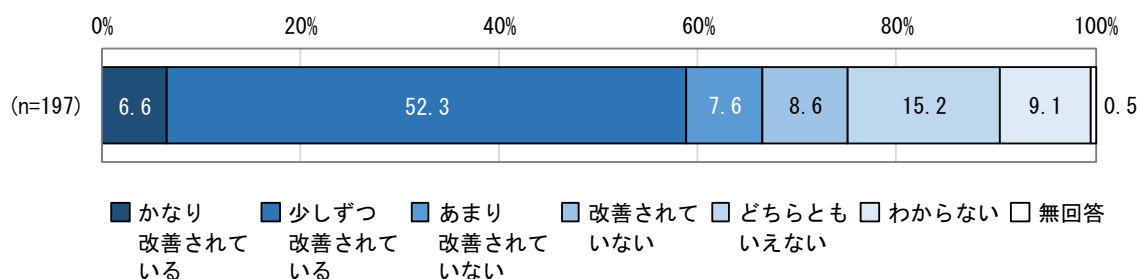


《問7で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と回答した方にお聞きします。》

問8	以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思いますか。	1つに○
----	--	------

障害のある人に対して障害を理由とする差別や偏見があると思う人に、以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思うかについて聞いたところ、「少しずつ改善されている」が最も多く 52.3%、次いで「どちらともいえない」が 15.2%、「改善されていない」が 8.6%となっています。

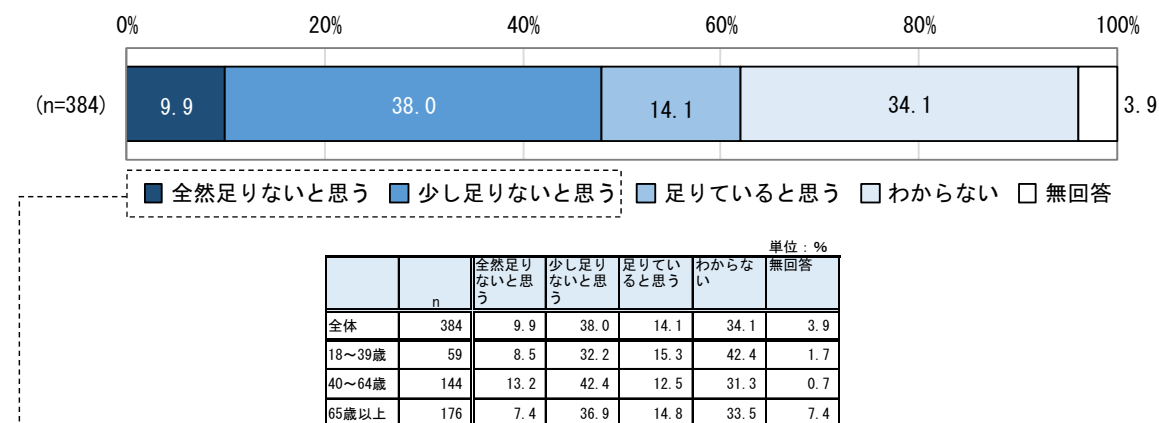
また、「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」を『改善されている』、「あまり改善されていない」と「改善されていない」を『改善されていない』とすると、『改善されている』が 58.9%、『改善されていない』が 16.2%で、『改善されている』が 42.7 ポイント多くなっています。



	n	かなり改善されている	少しずつ改善されている	あまり改善されていない	改善されていない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	197	6.6	52.3	7.6	8.6	15.2	9.1	0.5
18～39歳	32	0.0	43.8	9.4	12.5	15.6	18.8	0.0
40～64歳	81	4.9	46.9	7.4	8.6	21.0	9.9	1.2
65歳以上	83	10.8	61.4	7.2	6.0	9.6	4.8	0.0

問 9	あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域社会には ^{がい} 障害のある人への対応や理解が足りないと思いますか。	1 つに○
-----	--	-------

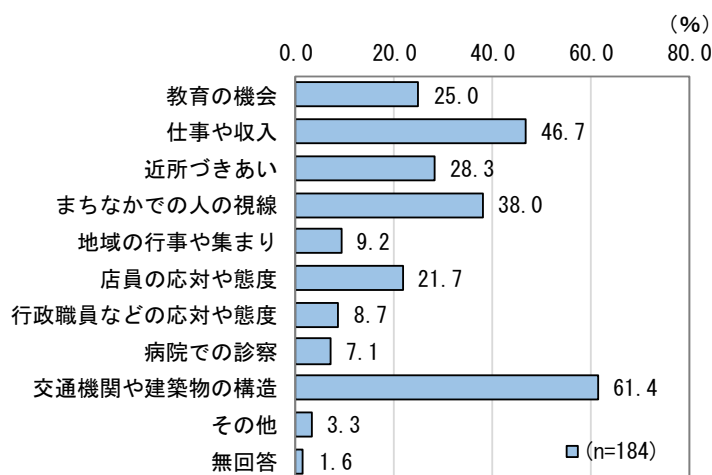
地域社会における^{がい}障害のある人への対応や理解について、「少し足りないと思う」が最も多く 38.0%、次いで「わからない」が 34.1%、「足りていると思う」が 14.1%となっています。



《問 9 で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と回答した方にお聞きします。》

問 10	それはどんな場合ですか。	すべてに○
------	--------------	-------

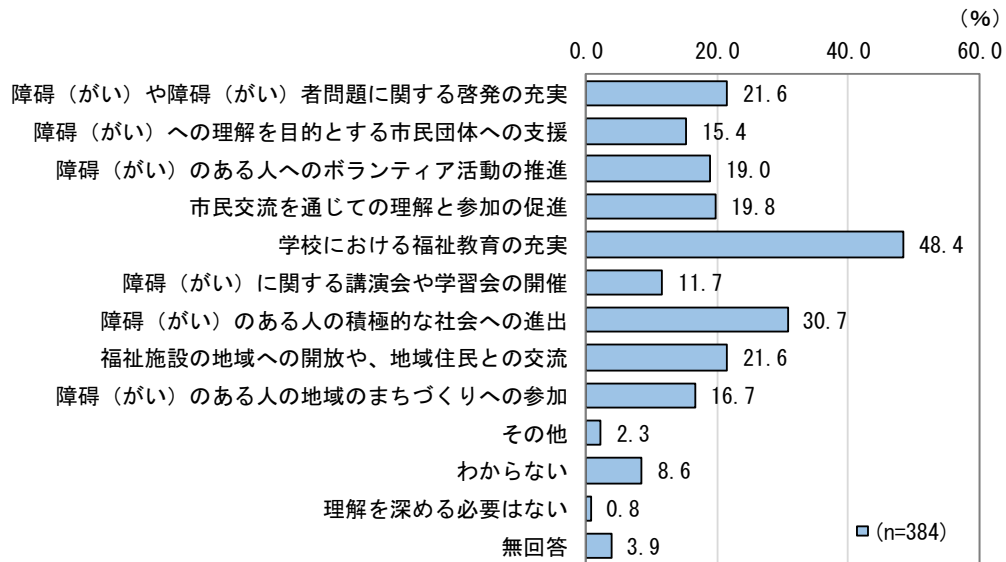
地域社会における^{がい}障害のある人への対応や理解が足りないと思う人に、具体的な場面について聞いたところ、「交通機関や建築物の構造」が最も多く 61.4%、次いで「仕事や収入」が 46.7%、「まちなかでの人の視線」が 38.0%となっています。



	n	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	まちなかでの人の視線	地域の行事や集まり	店員の対応や態度	行政職員などの対応や態度	病院での診察	交通機関や建築物の構造	その他	無回答
全体	184	25.0	46.7	28.3	38.0	9.2	21.7	8.7	7.1	61.4	3.3	1.6
18～39歳	24	45.8	37.5	25.0	29.2	16.7	33.3	12.5	0.0	45.8	12.5	0.0
40～64歳	80	25.0	51.3	30.0	43.8	7.5	26.3	10.0	8.8	63.8	2.5	2.5
65歳以上	78	16.7	43.6	25.6	34.6	7.7	12.8	6.4	7.7	65.4	1.3	1.3

問 11	あなたは、 ^が いのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要であると思いますか。	3つまで○
------	--	-------

^がいのある人への市民の理解を深めるために必要なことについて、「学校における福祉教育の充実」が最も多く 48.4%、次いで「^がいのある人の積極的な社会への進出」が 30.7%、「^がいや^がい者問題に関する啓発の充実」「福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流」がそれぞれ 21.6%となっています。



単位：%

	n	障害（ ^が い）や障害（ ^が い）者問題に関する啓発の充実	障害（ ^が い）への理解を目的とする市民団体への支援	障害（ ^が い）のある人へのボランティア活動の推進	市民交流を通じての理解と参加の促進	学校における福祉教育の充実	障害（ ^が い）に関する講演会や学習会の開催	障害（ ^が い）のある人の積極的な社会への進出	福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	障害（ ^が い）のある人の地域のまちづくりへの参加	その他	わからない	理解を深める必要はない	無回答
全体	384	21.6	15.4	19.0	19.8	48.4	11.7	30.7	21.6	16.7	2.3	8.6	0.8	3.9
18～39歳	59	13.6	10.2	18.6	22.0	62.7	18.6	44.1	16.9	11.9	1.7	6.8	1.7	1.7
40～64歳	144	27.1	11.8	16.0	17.4	52.1	13.9	26.4	18.1	19.4	4.2	7.6	1.4	2.1
65歳以上	176	20.5	20.5	22.2	21.0	40.3	8.0	29.5	26.1	16.5	0.6	9.7	0.0	6.3

単位：%

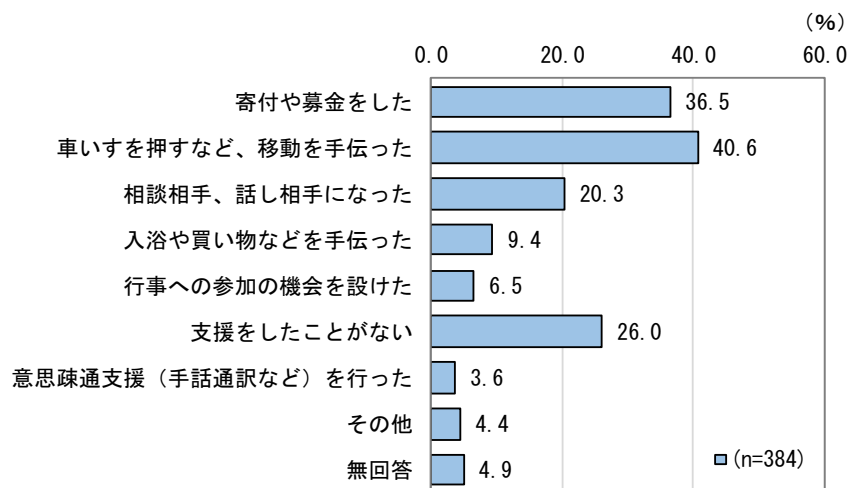
問 9

	n	障害（ ^が い）や障害（ ^が い）者問題に関する啓発の充実	障害（ ^が い）への理解を目的とする市民団体への支援	障害（ ^が い）のある人へのボランティア活動の推進	市民交流を通じての理解と参加の促進	学校における福祉教育の充実	障害（ ^が い）に関する講演会や学習会の開催	障害（ ^が い）のある人の積極的な社会への進出	福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	障害（ ^が い）のある人の地域のまちづくりへの参加	その他	わからない	理解を深める必要はない	無回答
全体	384	21.6	15.4	19.0	19.8	48.4	11.7	30.7	21.6	16.7	2.3	8.6	0.8	3.9
全然足りないと思う	38	31.6	18.4	15.8	36.8	47.4	13.2	26.3	13.2	15.8	10.5	10.5	0.0	0.0
少し足りないと思う	146	24.0	19.9	18.5	18.5	50.7	8.9	34.9	24.0	21.9	0.7	6.2	1.4	3.4
足りていると思う	54	22.2	11.1	20.4	14.8	53.7	13.0	29.6	25.9	11.1	0.0	5.6	1.9	0.0
わからない	131	17.6	12.2	19.8	18.3	47.3	14.5	29.0	19.8	12.2	2.3	13.0	0.0	3.8

④障害のある人へ支援・ボランティアなど

問 12	あなたは、今まで障害のある人へ、どのような支援を行ったことがありますか。	すべてに○
------	--------------------------------------	-------

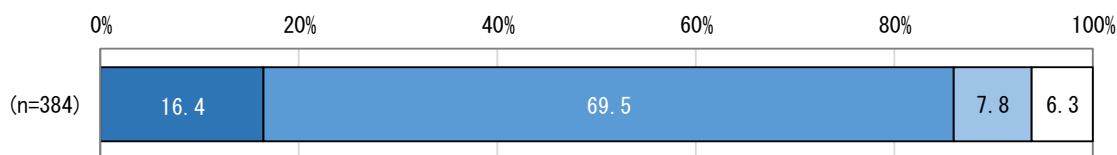
障害のある人に対して行った支援について、「車いすを押すなど、移動を手伝った」が最も多く 40.6%、次いで「寄付や募金をした」が 36.5%、「支援をしたことがない」が 26.0%となっています。



	n	寄付や募金をした	車いすを押すなど、移動を手伝った	相談相手、話し相手になった	入浴や買い物などを手伝った	行事への参加の機会を設けた	支援をしたことがない	意思疎通支援（手話通訳など）を行った	その他	無回答
全体	384	36.5	40.6	20.3	9.4	6.5	26.0	3.6	4.4	4.9
18～39歳	59	30.5	40.7	20.3	8.5	10.2	30.5	11.9	5.1	1.7
40～64歳	144	41.7	46.5	21.5	13.9	6.3	25.0	2.1	4.2	2.1
65歳以上	176	34.1	35.8	18.8	6.3	5.1	25.6	1.7	4.5	8.5

問 13①	あなたは、身体障害のある人の支援に関してどのような考えですか。	1つに○
-------	---------------------------------	------

身体障害のある人の支援に関する考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 69.5%、次いで「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 16.4%、「その他（支援方法がわからないなど）」が 7.8%となっています。

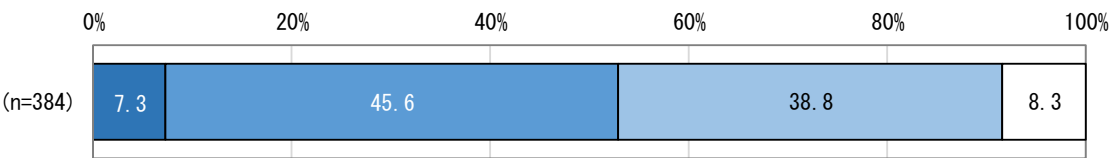


- ☒ 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う
- ☒ 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う
- ☒ その他（支援方法がわからないなど）
- ☐ 無回答

	n	困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	その他（支援方法がわからないなど）	無回答
全体	384	16.4	69.5	7.8	6.3
18～39歳	59	18.6	76.3	5.1	0.0
40～64歳	144	11.1	83.3	3.5	2.1
65歳以上	176	20.5	56.3	12.5	10.8

問 13②	あなたは、知的障害 ^が のある人の支援に関してどのような考えですか。	1 つに○
--------------	---	-------

知的障害^がのある人の支援に関する考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 45.6%、次いで「その他（支援方法がわからないなど）」が 38.8%、「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 7.3%となっています。



- ☒ 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う
- ☒ 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う
- ☒ その他（支援方法がわからないなど）
- ☐ 無回答

		単位：%			
	n	困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	その他（支援方法がわからないなど）	無回答
全体	384	7.3	45.6	38.8	8.3
18～39歳	59	11.9	52.5	35.6	0.0
40～64歳	144	6.9	52.8	37.5	2.8
65歳以上	176	6.3	36.9	42.0	14.8

問 13③	あなたは、精神障害 ^が のある人の支援に関してどのような考えですか。	1 つに○
--------------	---	-------

精神障害^がのある人の支援に関する考えについて、「その他（支援方法がわからないなど）」が最も多く 52.1%、次いで「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が 34.1%、「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 4.9%となっています。

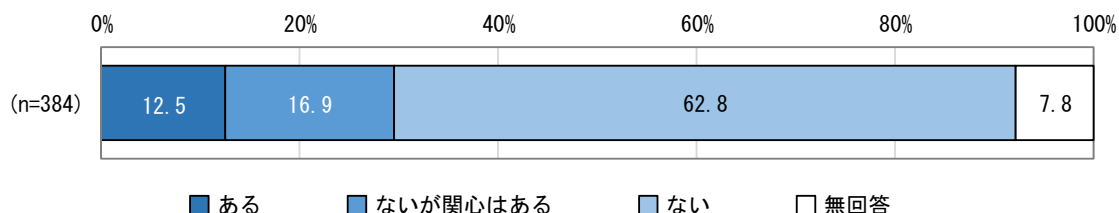


- ☒ 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う
- ☒ 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う
- ☒ その他（支援方法がわからないなど）
- ☐ 無回答

		単位：%			
	n	困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	その他（支援方法がわからないなど）	無回答
全体	384	4.9	34.1	52.1	8.9
18～39歳	59	8.5	47.5	44.1	0.0
40～64歳	144	4.9	39.6	52.8	2.8
65歳以上	176	4.0	24.4	55.7	15.9

問 14	あなたは、 ^が 障碍のある人を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。	1 つに○
------	---	-------

^が障碍のある人を対象とするボランティア活動の有無について、「ない」が最も多く 62.8%、次いで「ないが関心はある」が 16.9%、「ある」が 12.5%となっています。

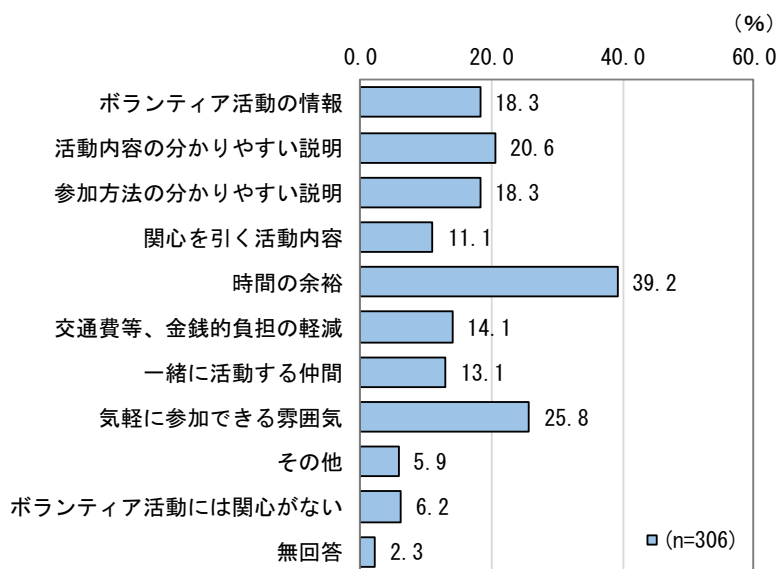


	n	ある	ないが関心はある	ない	無回答
全体	384	12.5	16.9	62.8	7.8
18～39歳	59	15.3	20.3	59.3	5.1
40～64歳	144	9.7	18.1	66.0	6.3
65歳以上	176	13.6	14.8	61.4	10.2

《問 14 で「2. ないが関心はある」または「3. ない」と回答した方にお聞きします。》

問 15	活動に参加するためには何が必要ですか。	2 つまで○
------	---------------------	--------

^が障碍のある人を対象とするボランティア活動をしたことがない（ないが関心はあるを含む）人に、活動に参加するために必要なことについて聞いたところ、「時間の余裕」が最も多く 39.2%、次いで「気軽に参加できる雰囲気」が 25.8%、「活動内容の分かりやすい説明」が 20.6%となっています。



	n	ボランティア活動の情報	活動内容の分かりやすい説明	参加方法の分かりやすい説明	関心を引く活動内容	時間の余裕	交通費等、金銭的負担の軽減	一緒に活動する仲間	気軽に参加できる雰囲気	その他	ボランティア活動には関心がない	無回答
全体	306	18.3	20.6	18.3	11.1	39.2	14.1	13.1	25.8	5.9	6.2	2.3
18～39歳	47	12.8	21.3	17.0	27.7	48.9	21.3	8.5	17.0	2.1	4.3	2.1
40～64歳	121	19.8	27.3	18.2	8.3	54.5	9.1	14.0	21.5	3.3	5.8	0.8
65歳以上	134	19.4	14.9	19.4	7.5	23.1	15.7	14.2	32.1	9.0	7.5	3.7

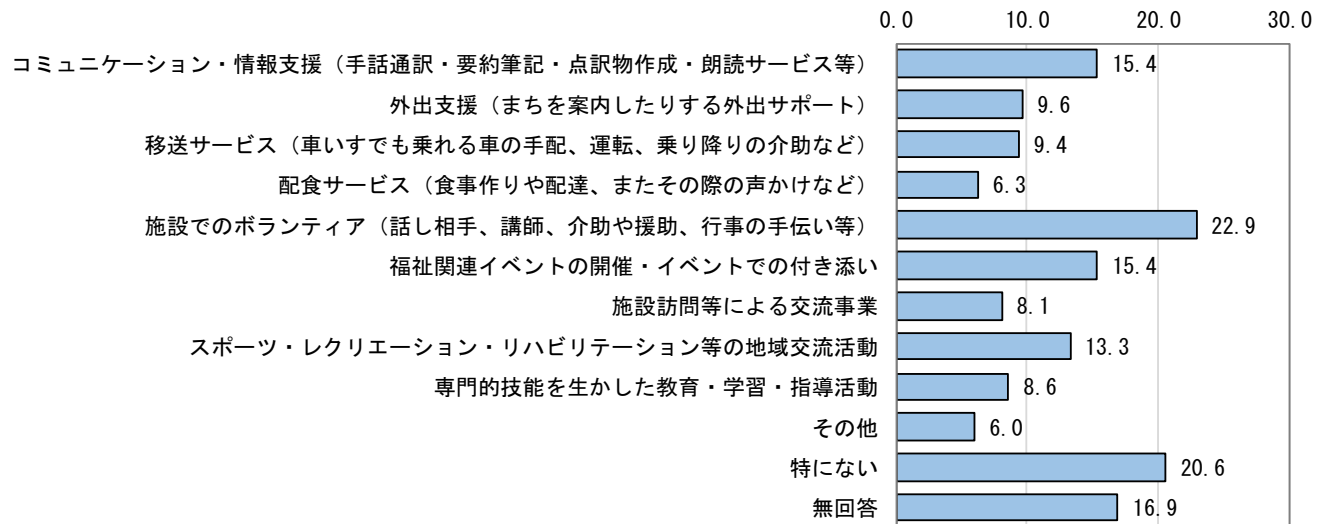
問 16

あなたは、^がい障害のある人に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。

3 つまで○

障害のある人にしてみたい支援や活動内容について、「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）」が最も多く 22.9%、次いで「特にない」が 20.6%、「コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）」「福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い」がそれぞれ 15.4%となっています。

(%)



□ (n=384)

単位：%

	n	コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）	外出支援（まちを案内したりする外出サポート）	移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など）	配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど）	施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）	福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	施設訪問等による交流事業	スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	専門的技能を生かした教育・学習・指導活動	その他	特にない	無回答
全体	384	15.4	9.6	9.4	6.3	22.9	15.4	8.1	13.3	8.6	6.0	20.6	16.9
18～39歳	59	27.1	6.8	6.8	3.4	20.3	15.3	6.8	15.3	16.9	3.4	23.7	13.6
40～64歳	144	17.4	12.5	11.8	5.6	25.7	18.1	6.3	19.4	12.5	6.9	17.4	10.4
65歳以上	176	9.7	8.5	8.0	8.0	21.6	13.1	10.2	7.4	2.3	5.7	22.7	23.3

単位：%

	n	コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）	外出支援（まちを案内したりする外出サポート）	移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など）	配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど）	施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）	福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	施設訪問等による交流事業	スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	専門的技能を生かした教育・学習・指導活動	その他	特にない	無回答
全体	384	15.4	9.6	9.4	6.3	22.9	15.4	8.1	13.3	8.6	6.0	20.6	16.9
問14 ある	48	18.8	27.1	14.6	8.3	41.7	39.6	22.9	12.5	14.6	2.1	0.0	2.1
ないが関心はある	65	21.5	13.8	12.3	10.8	41.5	13.8	6.2	20.0	12.3	4.6	7.7	13.8
ない	241	13.3	4.6	7.5	5.0	14.5	9.5	4.6	11.6	7.1	7.5	29.5	18.7

⑤障害のある人の就労・教育

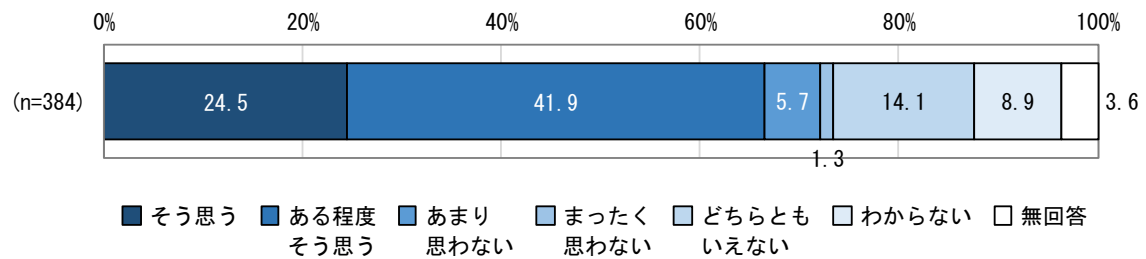
問 17

あなたは、障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思いますか。

1 つに○

障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思うかについて、「ある程度そう思う」が最も多く 41.9%、次いで「そう思う」が 24.5%、「どちらともいえない」が 14.1%となっています。

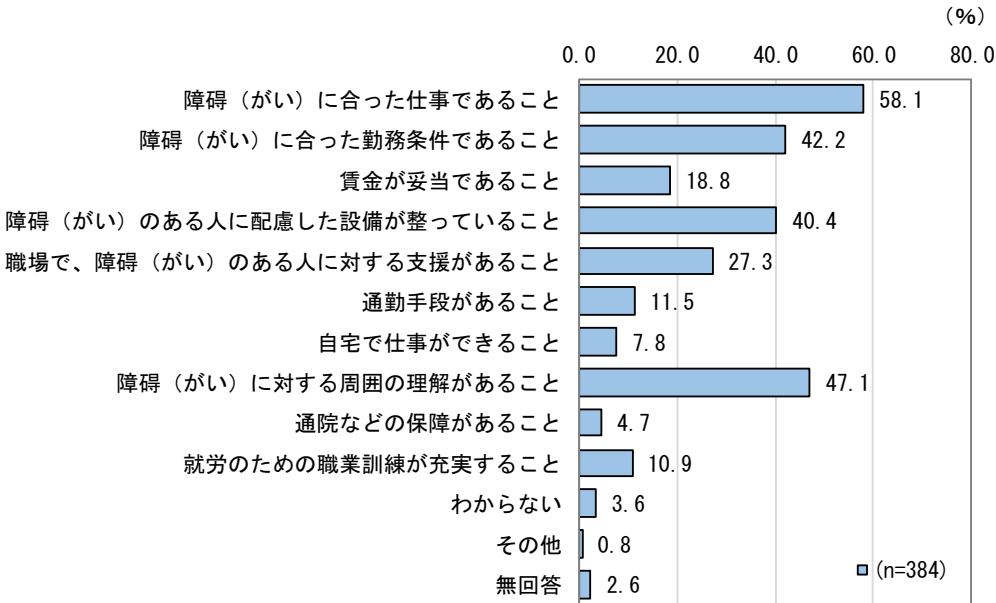
また、「そう思う」と「ある程度そう思う」を『思う』、「あまり思わない」と「全く思わない」を『思わない』とすると、『思う』が 66.4%、『思わない』が 7.0%で、『思う』が 59.4 ポイント多くなっています。



		単位：%						
	n	そう思う	ある程度 そう思う	あまり 思わない	まったく 思わない	どちらとも いえない	わから ない	無回答
全体	384	24.5	41.9	5.7	1.3	14.1	8.9	3.6
18～39歳	59	30.5	33.9	10.2	0.0	16.9	8.5	0.0
40～64歳	144	20.1	49.3	8.3	2.1	13.9	6.3	0.0
65歳以上	176	26.1	38.6	2.3	0.6	13.1	11.4	8.0

問 18	現在、障害のある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障害のある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。	3つまで○
------	---	-------

障害のある人が働くために必要な条件について、「障害に合った仕事であること」が最も多く 58.1%、次いで「障害に対する周囲の理解があること」が 47.1%、「障害に合った勤務条件であること」が 42.2%となっています。



単位：%

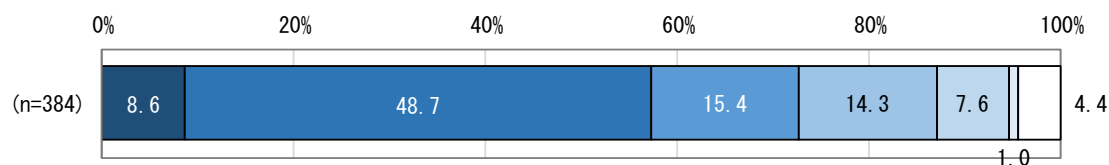
	n	障害（が）に合った仕事であること	障害（が）に合った勤務条件であること	賃金が妥当であること	障害（が）のある人に配慮した設備が整っていること	職場で、障害（が）のある人に対する支援があること	通勤手段があること	自宅で仕事ができること	障害（が）に対する周囲の理解があること	通院などの保障があること	就労のための職業訓練が充実すること	わからない	その他	無回答
全体	384	58.1	42.2	18.8	40.4	27.3	11.5	7.8	47.1	4.7	10.9	3.6	0.8	2.6
18～39歳	59	55.9	45.8	28.8	42.4	39.0	8.5	6.8	55.9	1.7	10.2	1.7	0.0	0.0
40～64歳	144	61.8	43.1	15.3	43.1	28.5	9.7	7.6	54.2	1.4	9.7	3.5	0.7	0.0
65歳以上	176	55.1	41.5	17.6	38.6	22.7	14.2	8.5	39.2	8.5	11.4	4.0	1.1	5.7

単位：%

	n	障害（が）に合った仕事であること	障害（が）に合った勤務条件であること	賃金が妥当であること	障害（が）のある人に配慮した設備が整っていること	職場で、障害（が）のある人に対する支援があること	通勤手段があること	自宅で仕事ができること	障害（が）に対する周囲の理解があること	通院などの保障があること	就労のための職業訓練が充実すること	わからない	その他	無回答
全体	384	58.1	42.2	18.8	40.4	27.3	11.5	7.8	47.1	4.7	10.9	3.6	0.8	2.6
問17 そう思う	94	55.3	52.1	33.0	43.6	33.0	10.6	9.6	42.6	4.3	10.6	1.1	1.1	0.0
ある程度そう思う	161	59.0	40.4	14.3	47.2	31.1	12.4	5.0	57.8	5.0	10.6	0.6	0.6	1.2
あまり思わない	22	100.0	36.4	18.2	31.8	22.7	9.1	9.1	45.5	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0
まったく思わない	5	60.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
どちらともいえない	54	59.3	38.9	13.0	35.2	27.8	14.8	9.3	50.0	3.7	14.8	3.7	0.0	0.0
わからない	34	50.0	41.2	11.8	23.5	5.9	11.8	11.8	29.4	5.9	14.7	26.5	0.0	0.0
思う	255	57.6	44.7	21.2	45.9	31.8	11.8	6.7	52.2	4.7	10.6	0.8	0.8	0.8
思わない	27	92.6	37.0	22.2	29.6	18.5	7.4	14.8	37.0	3.7	7.4	0.0	3.7	0.0

問 19	障害のある子どもの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。	1 つに○
------	---------------------------------	-------

障害のある子どもにとって望ましい就学環境について、「障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が最も多く 48.7%、次いで「普通学校の特別支援学級などでの、障害に応じたサポート」が 15.4%、「障害に応じた特別支援学校での専門的な教育」が 14.3%となっています。



- ☒ 障害（がい）の有無にかかわらず共に学べる環境
- ☒ 障害（がい）の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害（がい）に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート
- ☒ 普通学校の特別支援学級などでの、障害（がい）に応じたサポート
- ☒ 障害（がい）に応じた特別支援学校での専門的な教育
- ☐ わからない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

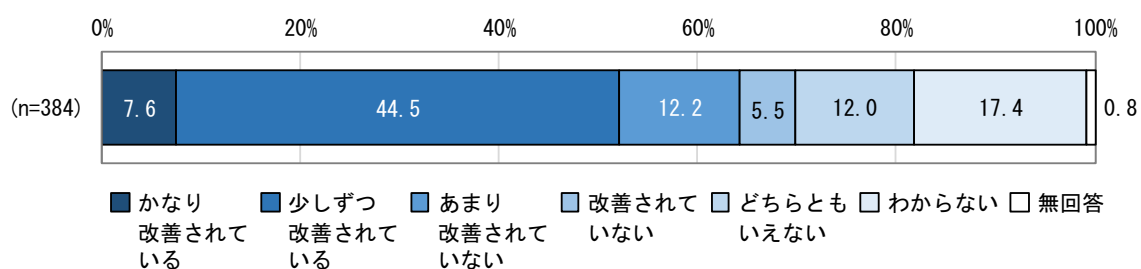
		障害（がい）の有無にかかわらず共に学べる環境	障害（がい）の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害（がい）に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート	普通学校の特別支援学級などでの、障害（がい）に応じたサポート	障害（がい）に応じた特別支援学校での専門的な教育	わからない	その他	単位：% 無回答
	n							
全体	384	8.6	48.7	15.4	14.3	7.6	1.0	4.4
18～39歳	59	11.9	54.2	22.0	8.5	1.7	1.7	0.0
40～64歳	144	11.1	52.8	10.4	16.0	5.6	1.4	2.8
65歳以上	176	5.7	43.8	17.0	15.3	10.8	0.6	6.8

⑥福祉のまちづくり

問 20	以前と比較して、まちの環境は、障碍のある人が外出しやすく改善されていると思いますか。	1 つに○
------	--	-------

以前と比較して、まちの環境は、障碍のある人が外出しやすく改善されていると思うかについて、「少しずつ改善されている」が最も多く 44.5%、次いで「わからない」が 17.4%、「あまり改善されていない」が 12.2%となっています。

また、「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」を『改善されている』、「あまり改善されていない」と「改善されていない」を『改善されていない』とすると、『改善されている』が 52.1%、『改善されていない』が 17.7%で、『改善されている』が 34.4 ポイント多くなっています。



単位：%

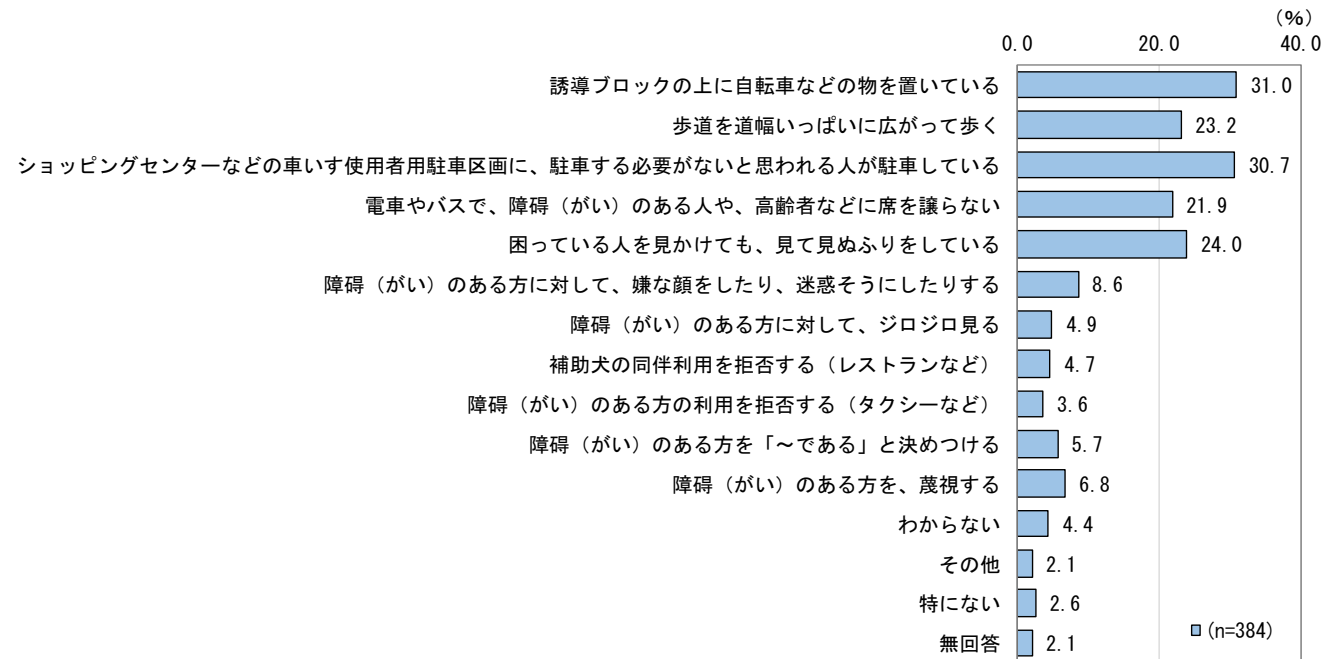
	n	かなり改善されている	少しずつ改善されている	あまり改善されていない	改善されていない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	384	7.6	44.5	12.2	5.5	12.0	17.4	0.8
18～39歳	59	3.4	40.7	5.1	6.8	15.3	28.8	0.0
40～64歳	144	8.3	45.8	11.1	5.6	13.2	16.0	0.0
65歳以上	176	8.0	45.5	15.9	5.1	9.7	14.2	1.7

問 21

まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。

2 つまで○

まちで見かける人で、特に問題のある行動について、「誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている」が最も多く 31.0%、次いで「ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している」が 30.7%、「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が 24.0%となっています。



	n	誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている	歩道を道幅いっぱい広がって歩く	ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している	電車やバスで、障害（がい）のある人や、高齢者などに席を譲らない	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	障害（がい）のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする	障害（がい）のある方に対して、ジロジロ見る	補助犬の同伴利用を拒否する（レストランなど）	障害（がい）のある方の利用を拒否する（タクシーなど）	障害（がい）のある方を「～である」と決めつける	障害（がい）のある方を、蔑視する	わからない	その他	特にない	無回答
全体	384	31.0	23.2	30.7	21.9	24.0	8.6	4.9	4.7	3.6	5.7	6.8	4.4	2.1	2.6	2.1
18～39歳	59	23.7	25.4	25.4	11.9	22.0	11.9	3.4	8.5	8.5	6.8	18.6	5.1	5.1	1.7	0.0
40～64歳	144	36.8	21.5	38.9	18.1	24.3	7.6	4.2	4.9	5.6	6.3	5.6	3.5	2.8	1.4	0.0
65歳以上	176	29.0	24.4	25.6	28.4	25.0	8.5	6.3	3.4	0.6	4.5	4.0	5.1	0.0	3.4	4.5

	n	誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている	歩道を道幅いっぱい広がって歩く	ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している	電車やバスで、障害（がい）のある人や、高齢者などに席を譲らない	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	障害（がい）のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする	障害（がい）のある方に対して、ジロジロ見る	補助犬の同伴利用を拒否する（レストランなど）	障害（がい）のある方の利用を拒否する（タクシーなど）	障害（がい）のある方を「～である」と決めつける	障害（がい）のある方を、蔑視する	わからない	その他	特にない	無回答
全体	384	31.0	23.2	30.7	21.9	24.0	8.6	4.9	4.7	3.6	5.7	6.8	4.4	2.1	2.6	2.1
かなり改善されている	29	51.7	24.1	44.8	20.7	10.3	13.8	0.0	0.0	3.4	10.3	3.4	3.4	0.0	3.4	0.0
少しずつ改善されている	171	31.6	22.2	34.5	21.6	27.5	12.3	4.1	5.3	4.7	5.3	5.8	3.5	1.2	1.2	1.8
あまり改善されていない	47	25.5	31.9	27.7	31.9	27.7	0.0	6.4	2.1	2.1	6.4	8.5	2.1	2.1	0.0	2.1
改善されていない	21	23.8	14.3	33.3	33.3	28.6	14.3	14.3	9.5	4.8	14.3	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0
どちらともいえない	46	30.4	26.1	23.9	23.9	30.4	8.7	6.5	4.3	0.0	2.2	6.5	2.2	4.3	2.2	0.0
わからない	67	26.9	19.4	22.4	11.9	13.4	1.5	4.5	6.0	4.5	4.5	10.4	11.9	3.0	9.0	3.0
改善されている	200	34.5	22.5	36.0	21.5	25.0	12.5	3.5	4.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.0	1.5	1.5
改善されていない	68	25.0	26.5	29.4	32.4	27.9	4.4	8.8	4.4	2.9	8.8	7.4	1.5	2.9	0.0	1.5

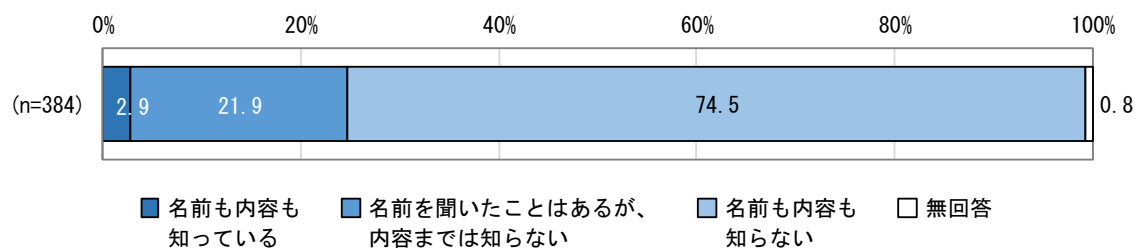
⑦宝塚市の障害者施策

問 22

あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。

1 つに○

『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度について、「名前も内容も知らない」が最も多く 74.5%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 21.9%、「名前も内容も知っている」が 2.9%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：%

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	2.9	21.9	74.5	0.8
18～39歳	59	0.0	11.9	88.1	0.0
40～64歳	144	4.9	16.7	78.5	0.0
65歳以上	176	2.3	29.0	67.0	1.7

単位：%

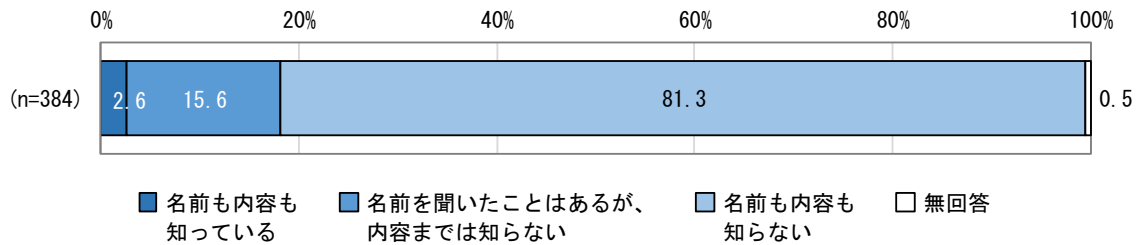
	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	2.9	21.9	74.5	0.8
非常に興味がある	59	13.6	37.3	49.2	0.0
ある程度興味がある	215	1.4	22.3	75.8	0.5
あまり興味がない	60	0.0	15.0	83.3	1.7
まったく興味がない	4	0.0	0.0	100.0	0.0
どちらともいえない	44	0.0	11.4	86.4	2.3
興味がある	274	4.0	25.5	70.1	0.4
興味がない	64	0.0	14.1	84.4	1.6

問 23

あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。

1 つに○

『宝塚市手話言語条例』の認知度について、「名前も内容も知らない」が最も多く 81.3%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 15.6%、「名前も内容も知っている」が 2.6%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：%

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	2.6	15.6	81.3	0.5
18～39歳	59	1.7	6.8	91.5	0.0
40～64歳	144	4.9	9.7	85.4	0.0
65歳以上	176	1.1	23.9	73.9	1.1

単位：%

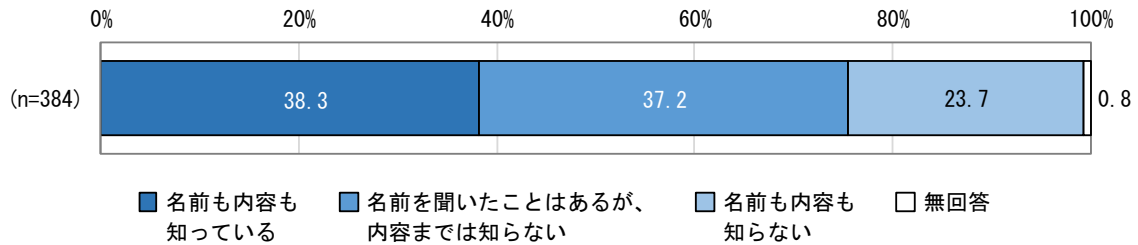
	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	2.6	15.6	81.3	0.5
問14 非常に関心がある	59	10.2	30.5	59.3	0.0
ある程度関心がある	215	1.4	14.9	83.7	0.0
あまり関心がない	60	1.7	10.0	86.7	1.7
まったく関心がない	4	0.0	0.0	100.0	0.0
どちらともいえない	44	0.0	9.1	88.6	2.3
関心がある	274	3.3	18.2	78.5	0.0
関心がない	64	1.6	9.4	87.5	1.6

問 24

あなたは、成年後見制度についてご存じですか。

1 つに○

成年後見制度の認知度について、「名前も内容も知っている」が最も多く 38.3%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 37.2%、「名前も内容も知らない」が 23.7%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：%

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	38.3	37.2	23.7	0.8
18～39歳	59	27.1	37.3	35.6	0.0
40～64歳	144	42.4	33.3	24.3	0.0
65歳以上	176	39.2	40.9	18.2	1.7

単位：%

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	384	38.3	37.2	23.7	0.8
問14 非常に関心がある	59	50.8	27.1	20.3	1.7
ある程度関心がある	215	43.3	37.7	19.1	0.0
あまり関心がない	60	25.0	43.3	30.0	1.7
まったく関心がない	4	0.0	25.0	75.0	0.0
どちらともいえない	44	20.5	40.9	36.4	2.3
関心がある	274	44.9	35.4	19.3	0.4
関心がない	64	23.4	42.2	32.8	1.6

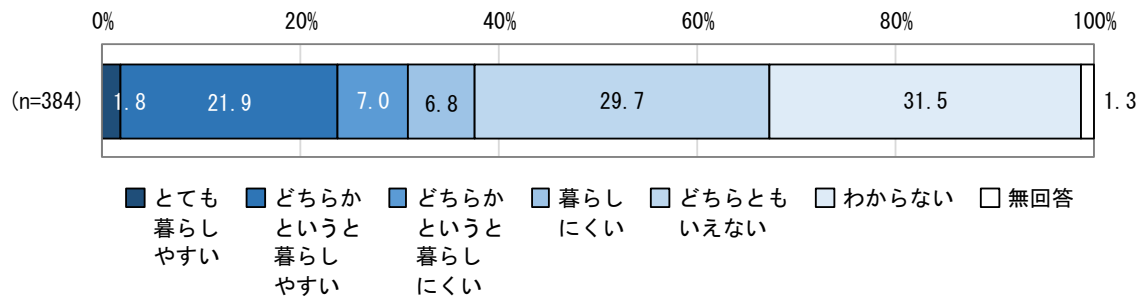
問 25

あなたは、宝塚市は^が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。

1 つに○

宝塚市は^が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについて、「わからない」が最も多く 31.5%、次いで「どちらともいえない」が 29.7%、「どちらかという暮らしやすい」が 21.9%となっています。

また、「とても暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を『暮らしやすい』、「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」を『暮らしにくい』とすると、『暮らしやすい』が 23.7%、『暮らしにくい』が 13.8%で、『暮らしやすい』が 9.9 ポイント多くなっています。



単位：%

	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	384	1.8	21.9	7.0	6.8	29.7	31.5	1.3
18～39歳	59	0.0	18.6	0.0	5.1	35.6	40.7	0.0
40～64歳	144	2.1	20.1	6.9	6.9	31.3	31.9	0.7
65歳以上	176	2.3	25.0	8.5	7.4	27.3	27.3	2.3

単位：%

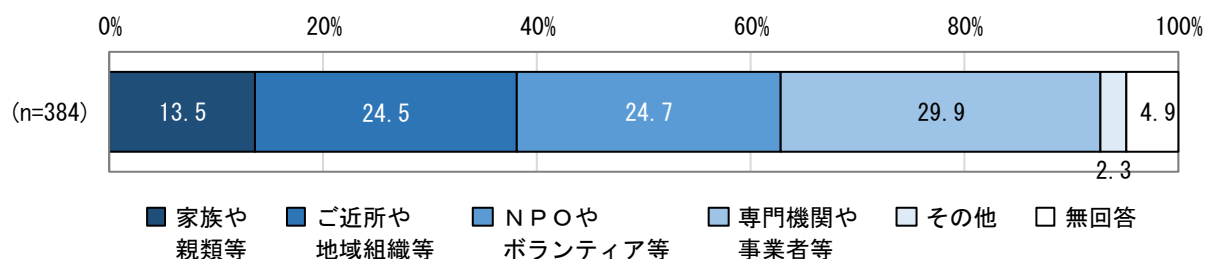
	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	384	1.8	21.9	7.0	6.8	29.7	31.5	1.3
問7 あると思う	62	1.6	19.4	14.5	19.4	29.0	16.1	0.0
少しはあると思う	135	3.0	25.2	7.4	5.2	37.8	21.5	0.0
ほとんどないと思う	89	2.2	28.1	3.4	4.5	30.3	28.1	3.4
わからない	84	0.0	10.7	6.0	2.4	16.7	63.1	1.2

単位：%

	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	384	1.8	21.9	7.0	6.8	29.7	31.5	1.3
問9 全然足りないと思う	38	0.0	7.9	10.5	26.3	34.2	21.1	0.0
少し足りないと思う	146	2.1	28.1	8.9	5.5	34.2	20.5	0.7
足りていると思う	54	5.6	38.9	9.3	5.6	29.6	7.4	3.7
わからない	131	0.8	11.5	3.1	3.8	24.4	55.7	0.8

問 26	今後の宝塚市の障害者施策において、障害のある人をサポートする支援者は、行政以外では、次のうちどれが望ましいと思いますか。	1 つに○
------	--	-------

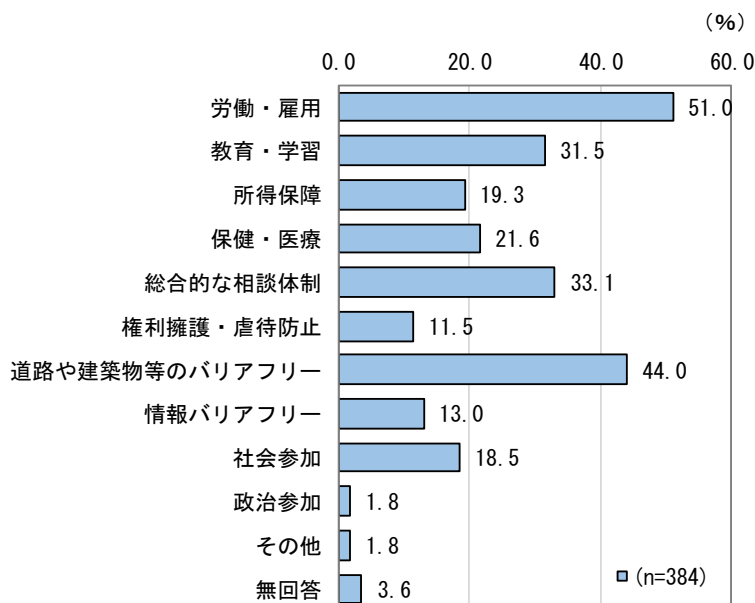
今後の宝塚市の障害者施策において、行政以外で、障害のある人をサポートするのに望ましい支援者について、「専門機関や事業者等」が最も多く 29.9%、次いで「NPOやボランティア等」が 24.7%、「ご近所や地域組織等」が 24.5%となっています。



	n	家族や親類等	ご近所や地域組織等	NPOやボランティア等	専門機関や事業者等	その他	無回答
全体	384	13.5	24.5	24.7	29.9	2.3	4.9
18～39歳	59	20.3	18.6	22.0	35.6	1.7	1.7
40～64歳	144	11.8	23.6	28.5	30.6	2.8	2.8
65歳以上	176	12.5	26.7	23.3	27.8	1.7	8.0

問 27	今後の宝塚市の障害者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。	3 つまで○
------	--	--------

今後の宝塚市の障害者施策において、強化することが望ましい分野について、「労働・雇用」が最も多く 51.0%、次いで「道路や建築物等のバリアフリー」が 44.0%、「総合的な相談体制」が 33.1%となっています。



	n	労働・雇用	教育・学習	所得保障	保健・医療	総合的な相談体制	権利擁護・虐待防止	道路や建築物等のバリアフリー	情報バリアフリー	社会参加	政治参加	その他	無回答
全体	384	51.0	31.5	19.3	21.6	33.1	11.5	44.0	13.0	18.5	1.8	1.8	3.6
18～39歳	59	62.7	57.6	20.3	15.3	23.7	8.5	32.2	18.6	15.3	5.1	1.7	3.4
40～64歳	144	50.0	30.6	16.0	18.8	29.9	14.6	50.7	13.2	22.2	1.4	2.1	1.4
65歳以上	176	48.3	23.3	21.6	25.6	39.2	10.2	43.8	11.4	17.0	1.1	1.1	5.1

⑧自由意見

問 28	障害者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。	自由記述
------	--	------

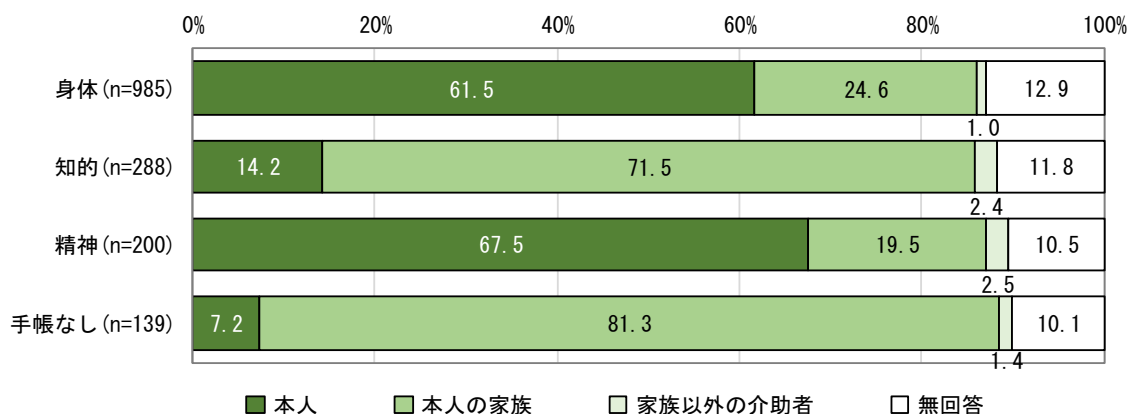
No	内容
1	建物や交通に関するバリアフリーがまだまだ不足していると感じます。
2	知的、身体だとわかりやすいけれど精神は見た目では分からないことがあります。福祉業界にま ず精神障害 ^が についての理解を求めるべきと思います。
3	まずは「障害 ^が 」ということに対して理解することが大事だと思います。
4	子どもが小学生の時に少しだけ福祉の勉強をした内容がとても薄いと思いました。もっと、専門 的に仕事をされている方からお話を聞いて充実した内容の勉強をさせてほしいと思いました。
5	他のマイノリティーの人々（例：外国人・LGBT など）も含め、多様性を重んじる社会を育んでい く必要があると思います。
6	街中で、車いすの方などに、手助けしようと声かけして断られることがあります。少しショック でした。
7	身体障害 ^が のあるかたについては、お手伝いを申し出ることもありますが知的・精神 ^が の障害のある かたには、どう接していいか、わかりません。学べるような企画をしてもらえると良いと思いま す。
8	精神障害 ^が がある方に関しては、素人での対応は無理と感じます。どう対応すればいいか、気軽に 相談できる窓口を作ってもらえると良いと思います。
9	市民の理解がまだまだ不足していると思われるので講演や勉強会など企業と協同して行う事が 必要だと考えます。
10	今一番気になっている事は、全国的に増えているひきこもりになっている人達の事です。親も高 齢化し、どうなっていくのか心配です。地域にも何名かいますが、ひきこもりの方が障害 ^が になる のかどうか、それすら理解できていません。
11	「障害 ^が 者」というくくりだけでなく、社会的に弱い立場の方々、精神的に支えが必要な方々へ の幅広い支援や地域づくりが大切だと思います。
12	障害 ^が 者に対してはある程度行政の援助があるように思いますが、家庭内のひきこもり等に関して は色々な面で行政の力がスルーしているように思います。
13	障害 ^が のある方に手厚いケアは絶対必要です。またその家族とくに子どもにもケアしてあげられる 環境が整った社会になることを願っています。
14	発達障害 ^が の子供が多いと感じます。発見が遅れてしまわないようにサポートも必要だと思いま す。
15	障害 ^が 者を含む地域住民にとってはその地域の安全がいかに確保されるかが、特に近年の異常気象 の中で、行政にとっての最優先課題だと考えます。
16	ボランティアに興味はありますが、子育てと仕事でとにかく時間がなく、自分自身に余裕があり ません。

No	内容
17	ボランティア活動の内容や組織等の情報が広まればもっと参加される方も増えると思います。
18	施設よりも家族・親族の責任感の向上が重要と感じます。
19	行政と、住民、会社と、障碍 ^{がい} の方との意見をすりあわせて、皆が良く思える環境になればいいと思います。
20	精神的、認知的障碍 ^{がい} 者との接し方がむづかしく、この分野の啓発が手薄だと思っています。
21	障碍 ^{がい} のない市民が、いつでも「もっと恐れずに障碍 ^{がい} 者と気楽に融け合える場所」が必要と考えます。
22	「障碍 ^{がい} 」や「障 ^{がい} がい」と書くのは、余計に差別的だと思っています。「障害」で良いと思います。
23	「障害」を「障碍 ^{がい} 」と表記変更された趣旨は理解します。しかし、「碍 ^{がい} 」という字は難しいですし、市内には外国人や漢字を読めない人も多くいます。「障 ^{がい} がい者」で良かったのではと思います。
24	障碍 ^{がい} 者にとって、住みやすい地域は、弱者(高齢者や子どもたち)にとっても、住みやすい生活しやすい地域になるので財政的に難しいですが、丁寧に1つ1つ取り組んでほしいです。
25	車いすの人や、他の障碍 ^{がい} がある人達が自由で住み易い宝塚にしていく事が私達の役目だと思います。

(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者所持者向け調査結果

このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。	1 つに○
---------------------------	-------

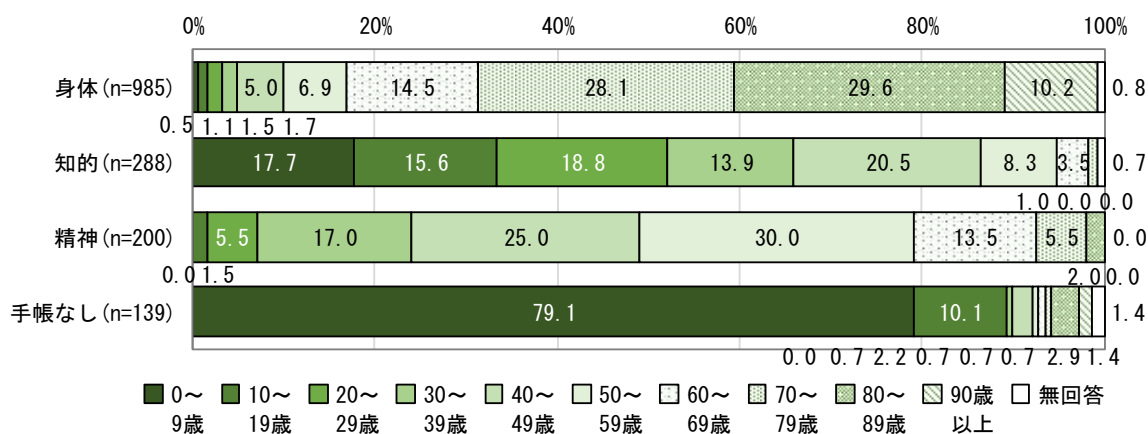
記入者について、身体では「本人」が最も多く 61.5%、知的では「本人の家族」が最も多く 71.5%、精神では「本人」が最も多く 67.5%、手帳なしでは「本人の家族」が最も多く 81.3%となっています。



①回答者の属性

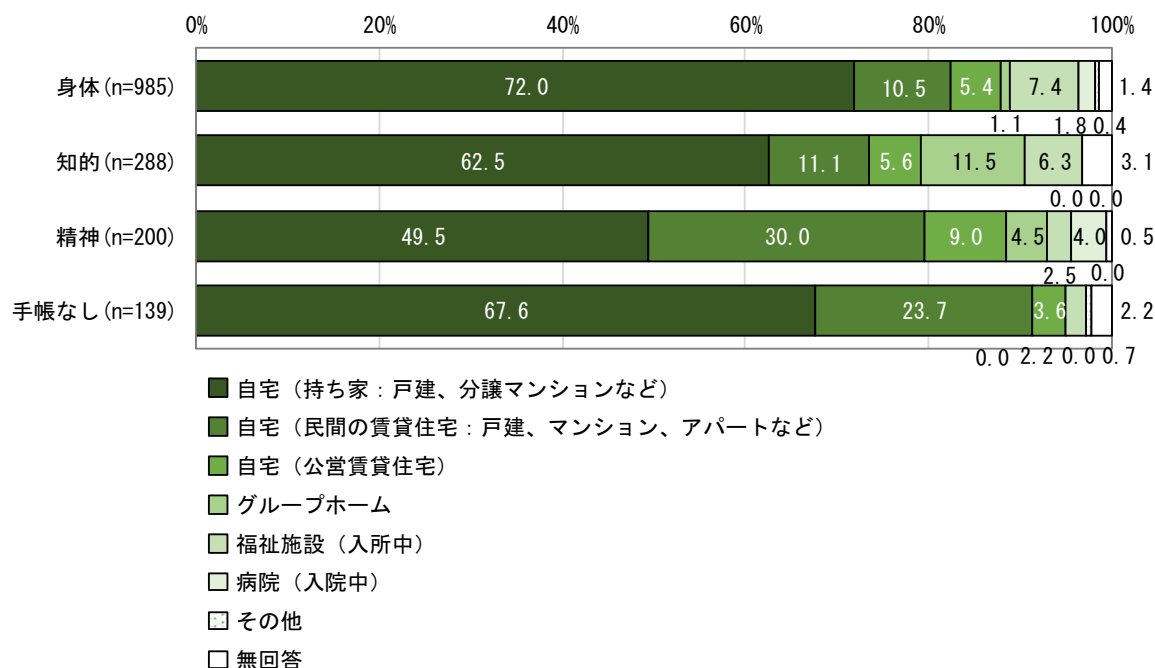
問 1	あなたの年齢をお答えください。	数値記入
-----	-----------------	------

回答者の年齢について、身体では「80～89 歳」が最も多く 29.6%、知的では「40～49 歳」が最も多く 20.5%、精神では「50～59 歳」が最も多く 30.0%、手帳なしでは「0～9 歳」が最も多く 79.1%となっています。



問2	現在、あなたはどこで生活していますか。	1つに○
----	---------------------	------

生活している場所について、すべてにおいて「自宅（持ち家：戸建、分譲マンションなど）」が最も多く、身体が 72.0%、知的が 62.5%、精神が 49.5%、手帳なしが 67.6%となっています。



単位：%

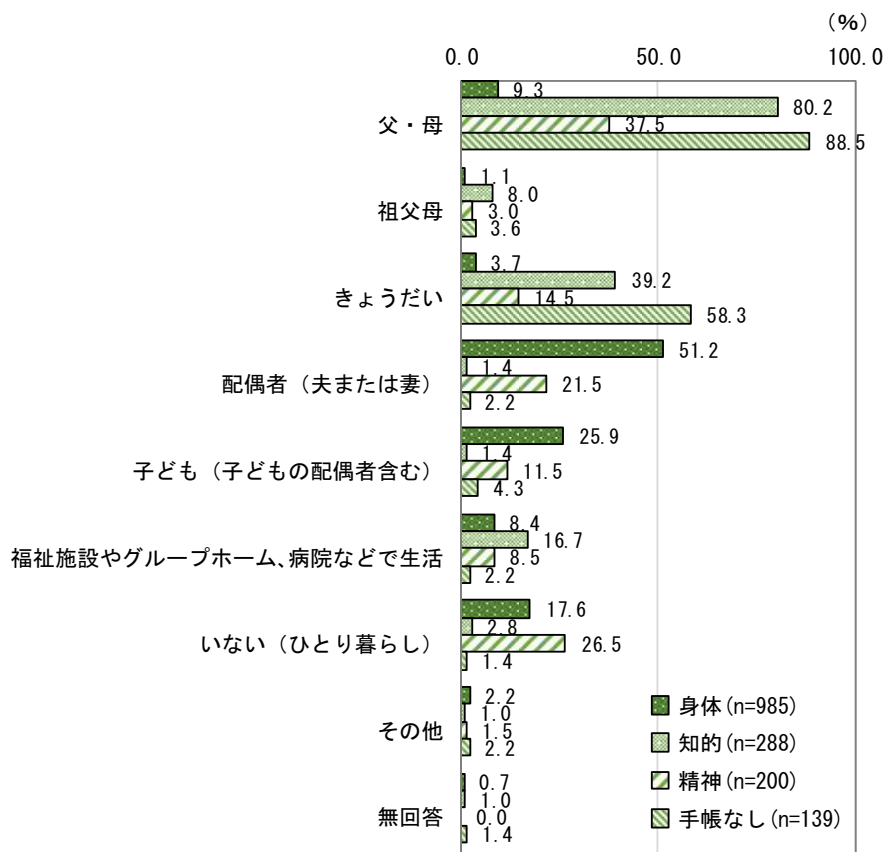
	n	自宅（持ち家：戸建、分譲マンションなど）	自宅（民間の賃貸住宅：戸建、マンション、アパートなど）	自宅（公営賃貸住宅）	グループホーム	福祉施設（入所中）	病院（入院中）	その他	無回答
全体	1,589	67.4	14.3	5.5	2.7	6.0	1.7	0.3	2.1
身体	0～17歳	14	85.7	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	34	76.5	11.8	2.9	5.9	0.0	0.0	2.9
	40～64歳	172	62.8	16.3	7.0	3.5	6.4	1.2	1.7
	65歳以上	757	74.0	9.0	5.3	0.3	8.2	2.1	1.1
知的	0～17歳	92	75.0	18.5	5.4	0.0	0.0	0.0	1.1
	18～39歳	98	75.5	8.2	5.1	8.2	2.0	0.0	1.0
	40～64歳	92	38.0	7.6	5.4	27.2	15.2	0.0	6.5
	65歳以上	4	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	66.7	24.4	2.2	4.4	0.0	0.0	2.2
	40～64歳	129	42.6	34.9	11.6	4.7	1.6	4.7	0.0
	65歳以上	23	52.2	13.0	8.7	4.3	13.0	8.7	0.0
手帳なし	0～17歳	124	70.2	25.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.8
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	42.9	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3

問3

現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。

すべてに○

同居している人について、身体では「配偶者（夫または妻）」が最も多く 51.2%、知的では「父・母」が最も多く 80.2%、精神では「父・母」が最も多く 37.5%、手帳なしでは「父・母」が最も多く 88.5% となっています。



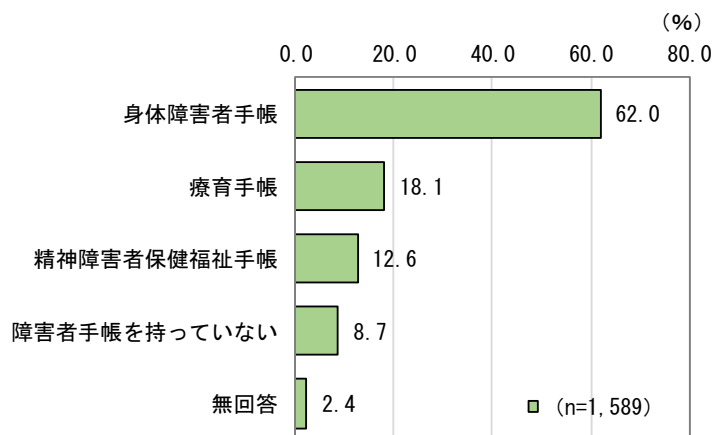
		n	父・母	祖父母	きょうだい	配偶者（夫または妻）	子ども（子どもの配偶者含む）	福祉施設やグループホーム、病院などで生活	いない（ひとり暮らし）	その他	無回答
全体		1,589	31.1	2.5	15.8	35.2	18.3	8.6	14.7	1.8	1.4
身体	0～17歳	14	85.7	28.6	78.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	34	73.5	17.6	29.4	8.8	5.9	5.9	11.8	2.9	0.0
	40～64歳	172	26.7	0.6	6.4	45.9	27.9	11.0	14.0	2.3	1.2
	65歳以上	757	1.1	0.0	0.5	55.1	26.9	8.2	19.2	2.1	0.4
知的	0～17歳	92	96.7	14.1	69.6	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	98	87.8	10.2	38.8	1.0	1.0	10.2	3.1	1.0	0.0
	40～64歳	92	59.8	0.0	12.0	1.1	1.1	39.1	4.3	2.2	2.2
	65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	62.2	13.3	28.9	8.9	0.0	4.4	15.6	2.2	0.0
	40～64歳	129	34.1	0.0	10.1	22.5	14.0	8.5	31.0	0.8	0.0
	65歳以上	23	0.0	0.0	0.0	43.5	21.7	17.4	26.1	4.3	0.0
手帳なし	0～17歳	124	97.6	4.0	63.7	0.8	1.6	0.0	0.0	0.8	0.8
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	28.6	0.0

②障^{がい}碍の状況

問 4-1 現在お持ちの障害者手帳および等級（判定）をお答えください。

すべてに○

障害者手帳の種類について、「身体障害者手帳」が最も多く 62.0%、次いで「療育手帳」が 18.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が 12.6%となっています。



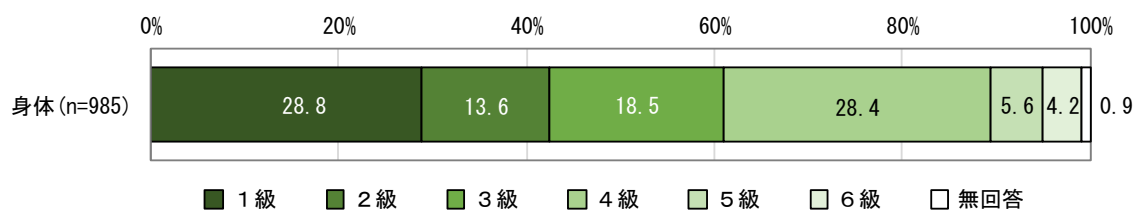
		単位：%				
	n	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	障害者手帳を持っていない	無回答
全体	1,589	62.0	18.1	12.6	8.7	2.4
0～17歳	233	6.0	39.5	1.3	53.2	2.6
18～39歳	163	20.9	60.1	27.6	0.6	2.5
40～64歳	370	46.5	24.9	34.9	1.4	0.5
65歳以上	802	94.4	0.5	2.9	0.9	2.1

《問 4-1 で「身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1 ① 等級をお答えください。

1 つに○

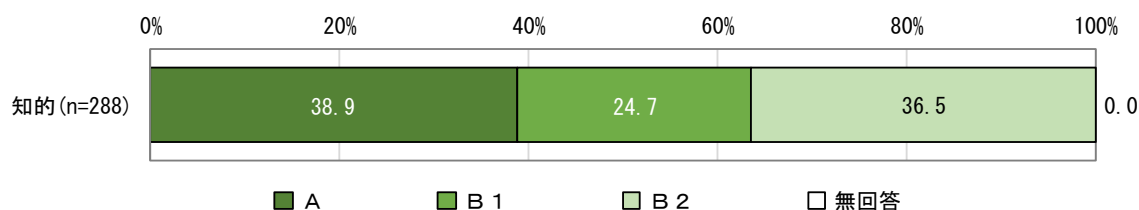
身体障害者手帳を持っている人に、等級について聞いたところ、「1 級」が最も多く 28.8%、次いで「4 級」が 28.4%、「3 級」が 18.5%となっています。



《問 4-1 で「療育手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1 ②	判定をお答えください。	1 つに○
---------	-------------	-------

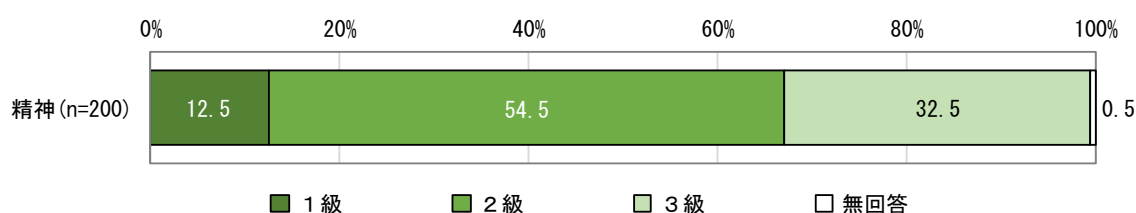
療育手帳を持っている人に、判定について聞いたところ、「A」が最も多く 38.9%、次いで「B 2」が 36.5%、「B 1」が 24.7%となっています。



《問 4-1 で「精神障害者保健福祉手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1 ③	等級をお答えください。	1 つに○
---------	-------------	-------

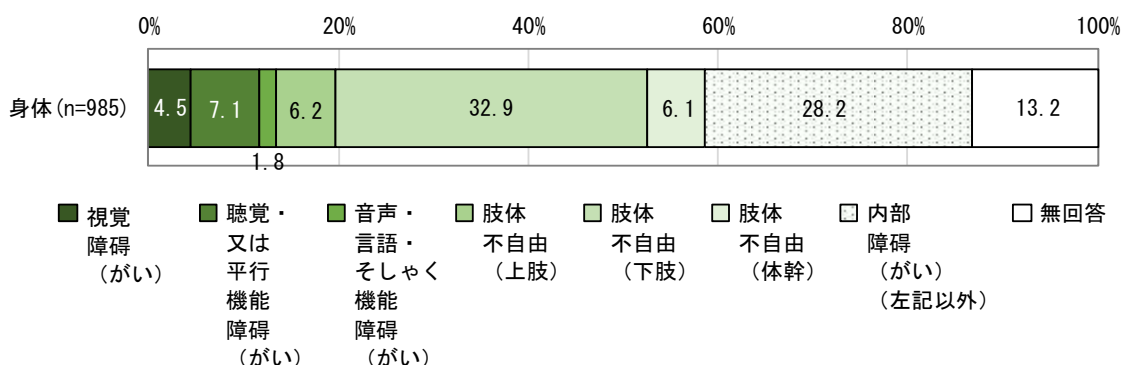
精神障害者保健福祉手帳を持っている人に、等級について聞いたところ、「2 級」が最も多く 54.5%、次いで「3 級」が 32.5%、「1 級」が 12.5%となっています。



《問 4-1 で「身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-2	主たる ^が 障害は何ですか。	1 つに○
-------	---------------------------	-------

身体障害者手帳を持っている人に、主たる^が障害について聞いたところ、「肢体不自由（下肢）」が最も多く 32.9%、次いで「内部障害^が」が 28.2%、「聴覚・又は平行機能障害^が」が 7.1%となっています。

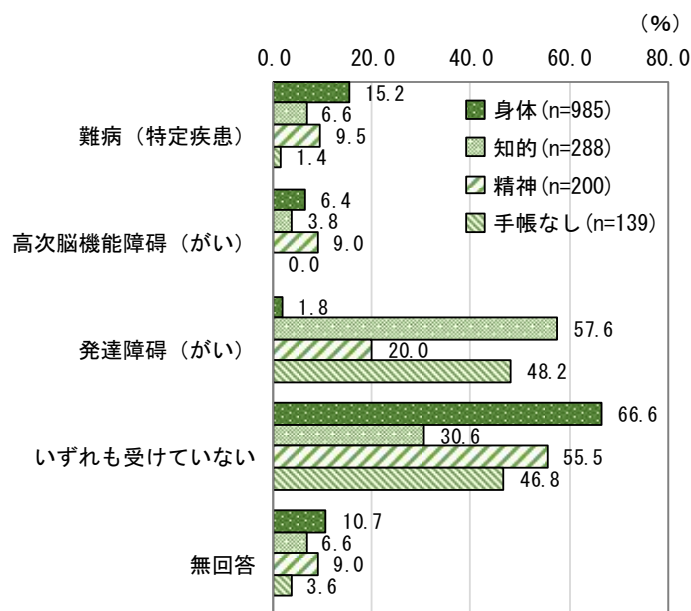


問5

あなたは、医師等から次の診断を受けていますか。

すべてに○

医師等から受けている診断について、身体では「いずれも受けていない」が最も多く 66.6%、知的では「発達障害^がい」が最も多く 57.6%、精神では「いずれも受けていない」が最も多く 55.5%、手帳なしでは「発達障害^がい」が最も多く 48.2%となっています。



単位：％							
	n	難病（特 定疾患）	高次脳機 能障害 （がい）	発達障害 （がい）	いずれも 受けてい ない	無回答	
	1,589	11.2	5.3	17.4	57.4	9.9	
身体	0～17歳	14	35.7	0.0	7.1	57.1	0.0
	18～39歳	34	17.6	5.9	26.5	50.0	8.8
	40～64歳	172	15.7	12.2	2.9	63.4	7.0
	65歳以上	757	14.7	5.3	0.4	68.3	11.6
知的	0～17歳	92	9.8	0.0	62.0	28.3	4.3
	18～39歳	98	4.1	4.1	71.4	20.4	6.1
	40～64歳	92	5.4	6.5	38.0	43.5	9.8
	65歳以上	4	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	15.6	6.7	44.4	37.8	4.4
	40～64歳	129	6.2	9.3	12.4	62.8	10.1
	65歳以上	23	17.4	13.0	4.3	56.5	13.0
手帳 なし	0～17歳	124	0.0	0.0	52.4	45.2	2.4
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	71.4	14.3

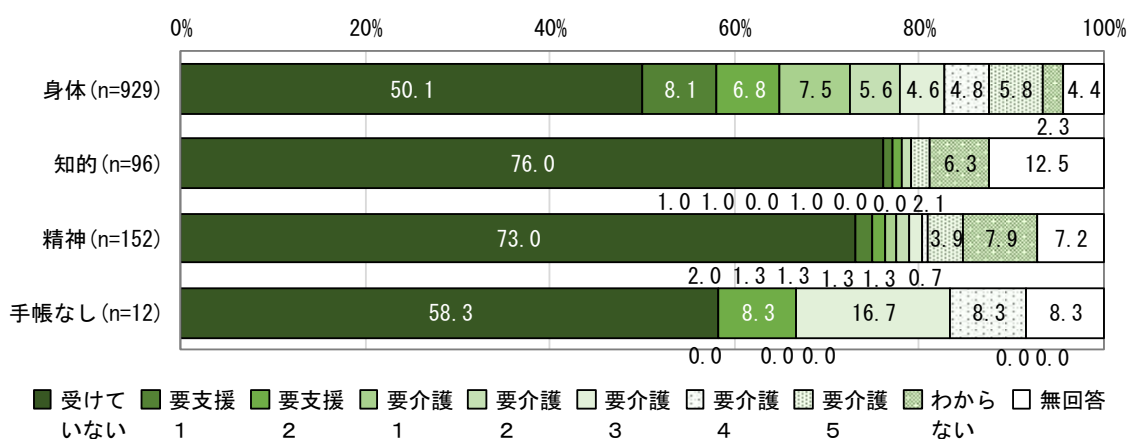
- ※1 難病（特定疾患）とは、関節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。
- ※2 高次脳機能障害^がとは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障害等により、脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障害^が、注意障害^が、社会的行動障害^がなどの認知障害^が等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状があります。
- ※3 発達障害^がとは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害^が、学習障害^が、注意欠陥多動性障害^がなどをいいます。

《40 歳以上の方にお聞きします。》

問 6	あなたは現在、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は、 あてはまる要介護度をお答えください	1 つに○
-----	---	-------

40 歳以上の方に、介護保険の要介護認定について聞いたところ、すべてにおいて「受けていない」が最も多く、身体が 50.1%、知的が 76.0%、精神が 73.0%、手帳なしが 58.3%となっています。

また、介護保険の要介護認定を受けている（要支援 1～要介護 5）人は、身体が 43.3%、知的が 5.2%、精神が 11.8%、手帳なしが 33.3%となっています。

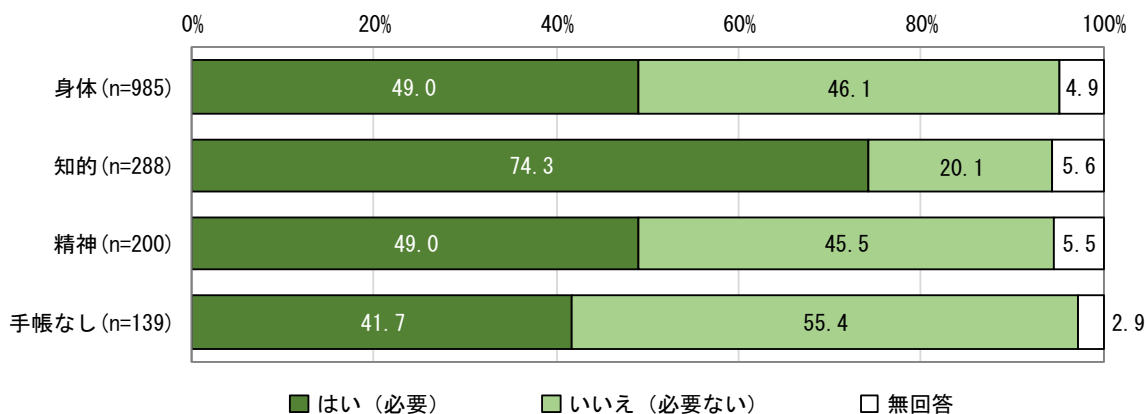


		n	受けていない	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	わからない	無回答	受けている
全体		1,172	54.7	6.6	5.8	6.1	4.8	4.2	3.9	5.5	3.2	5.3	36.9
身体	40～64歳	172	78.5	0.6	1.2	1.2	1.7	1.7	1.2	3.5	4.7	5.8	11.0
	65歳以上	757	43.6	9.8	8.1	9.0	6.5	5.3	5.7	6.3	1.7	4.1	50.6
知的	40～64歳	92	77.2	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0	2.2	6.5	12.0	4.3
	65歳以上	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
精神	40～64歳	129	80.6	1.6	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8	0.8	7.8	7.0	4.7
	65歳以上	23	30.4	4.3	4.3	8.7	4.3	8.7	0.0	21.7	8.7	8.7	52.2
な手し帳	40～64歳	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	57.1

③介助の状況

問 7-1	あなたは、ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。	1 つに○
-------	-------------------------------------	-------

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要しているかについて、身体では「はい（必要）」の方が多く 49.0%、知的では「はい（必要）」の方が多く 74.3%、精神では「はい（必要）」の方が多く 49.0%、手帳なしでは「いいえ（必要ない）」の方が多く 55.4%となっています。



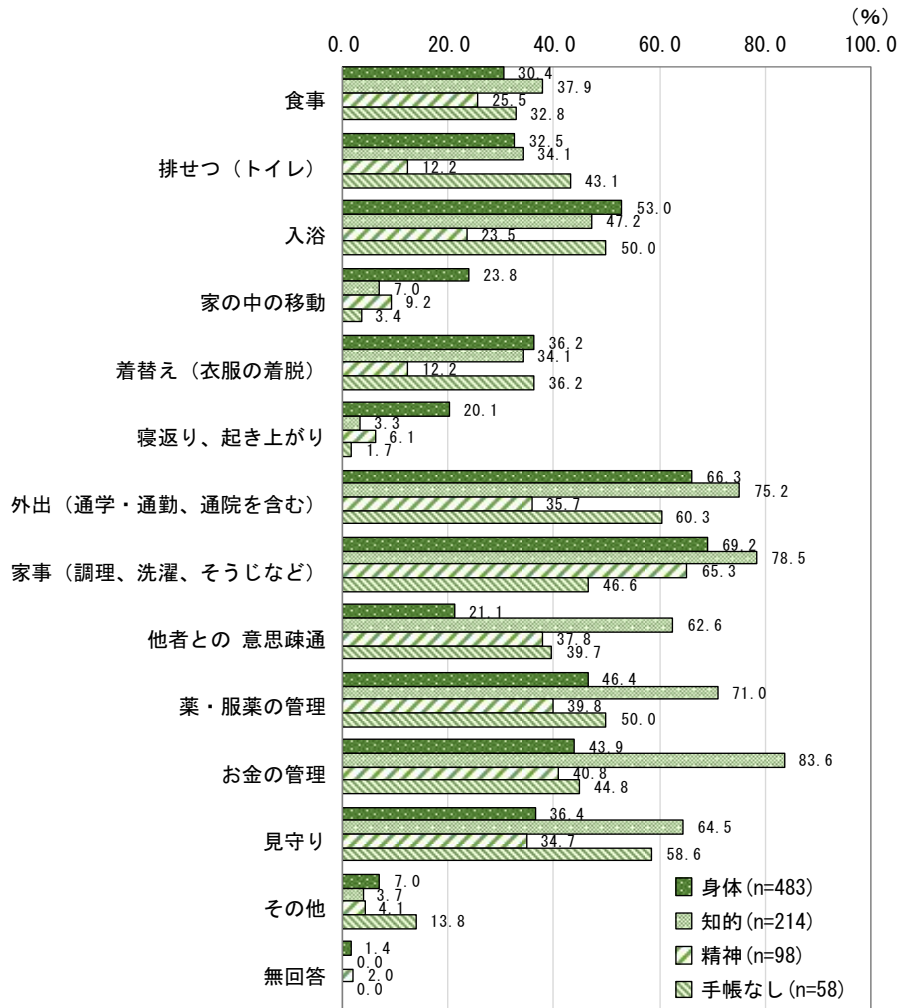
			はい（必要）	いいえ（必要ない）	単位：％ 無回答
		n			
全体		1,589	51.4	43.3	5.3
身体	0～17歳	14	71.4	28.6	0.0
	18～39歳	34	67.6	32.4	0.0
	40～64歳	172	41.9	53.5	4.7
	65歳以上	757	49.7	45.4	4.9
知的	0～17歳	92	75.0	17.4	7.6
	18～39歳	98	78.6	18.4	3.1
	40～64歳	92	68.5	25.0	6.5
	65歳以上	4	100.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	45	53.3	44.4	2.2
	40～64歳	129	45.7	47.3	7.0
	65歳以上	23	60.9	34.8	4.3
手帳なし	0～17歳	124	41.9	54.8	3.2
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	80.0	0.0
	65歳以上	7	71.4	28.6	0.0

《問7-1で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。》

問7-2 どのような場面で介助や支援が必要ですか。

すべてに○

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としている人に、介助や支援が必要な場面について聞いたところ、身体では「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く69.2%、知的では「お金の管理」が最も多く83.6%、精神では「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く65.3%、手帳なしでは「外出（通学・通勤、通院を含む）」が最も多く60.3%となっています。

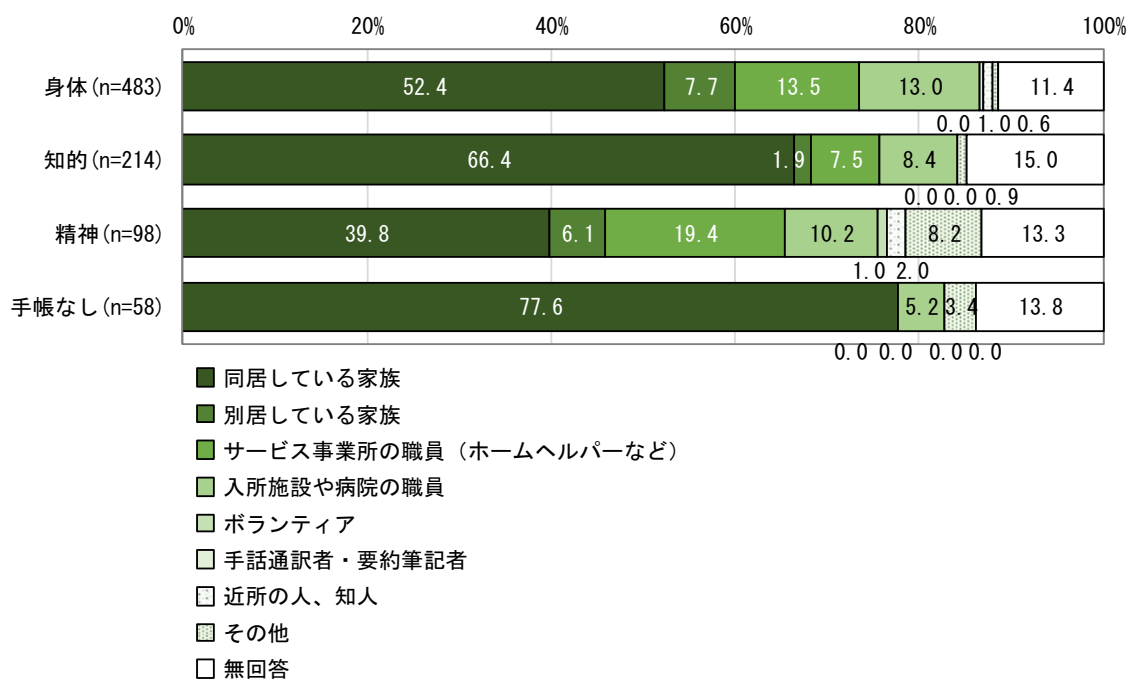


	n	食事	排せつ（トイレ）	入浴	家の中の移動	着替え（衣服の着脱）	寝返り、起き上がり	外出（通学・通勤、通院を含む）	家事（調理、洗濯、そうじなど）	他者との意思疎通	薬・服薬の管理	お金の管理	見守り	その他	無回答
全体	817	31.1	30.5	47.1	16.0	31.7	12.6	63.9	68.7	33.2	50.4	52.0	43.5	6.5	1.1
身体	0～17歳	10	60.0	50.0	50.0	40.0	60.0	20.0	80.0	60.0	40.0	40.0	40.0	10.0	0.0
	18～39歳	23	60.9	60.9	73.9	21.7	60.9	17.4	87.0	87.0	47.8	69.6	73.9	52.2	13.0
	40～64歳	72	33.3	30.6	44.4	20.8	30.6	19.4	65.3	69.4	40.3	51.4	51.4	40.3	8.3
	65歳以上	376	27.4	30.6	53.5	23.9	35.1	20.2	64.9	68.4	15.4	43.9	40.7	34.6	6.1
知的	0～17歳	69	39.1	40.6	52.2	5.8	39.1	2.9	79.7	65.2	69.6	65.2	72.5	66.7	2.9
	18～39歳	77	37.7	31.2	42.9	5.2	31.2	2.6	77.9	87.0	63.6	72.7	92.2	63.6	6.5
	40～64歳	63	36.5	30.2	47.6	9.5	31.7	4.8	68.3	82.5	55.6	74.6	85.7	63.5	1.6
	65歳以上	4	50.0	50.0	50.0	25.0	50.0	0.0	75.0	100.0	50.0	75.0	75.0	75.0	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	18～39歳	24	16.7	4.2	16.7	4.2	4.2	0.0	29.2	50.0	45.8	37.5	45.8	29.2	8.3
	40～64歳	59	22.0	8.5	20.3	6.8	8.5	5.1	35.6	69.5	35.6	37.3	39.0	37.3	0.0
	65歳以上	14	57.1	42.9	42.9	28.6	42.9	21.4	42.9	71.4	28.6	50.0	35.7	28.6	7.1
手帳なし	0～17歳	52	30.8	42.3	50.0	1.9	34.6	1.9	59.6	44.2	40.4	48.1	44.2	57.7	15.4
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	65歳以上	5	60.0	60.0	60.0	20.0	60.0	0.0	80.0	60.0	20.0	60.0	40.0	60.0	0.0

《問7-1で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。》

問7-3	あなたを介助・支援してくれる主な人はどなたですか。	1つに○
------	---------------------------	------

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としている人に、介助・支援してくれる主な人について聞いたところ、すべてにおいて「同居している家族」が最も多く、身体が52.4%、知的が66.4%、精神が39.8%、手帳なしが77.6%となっています。

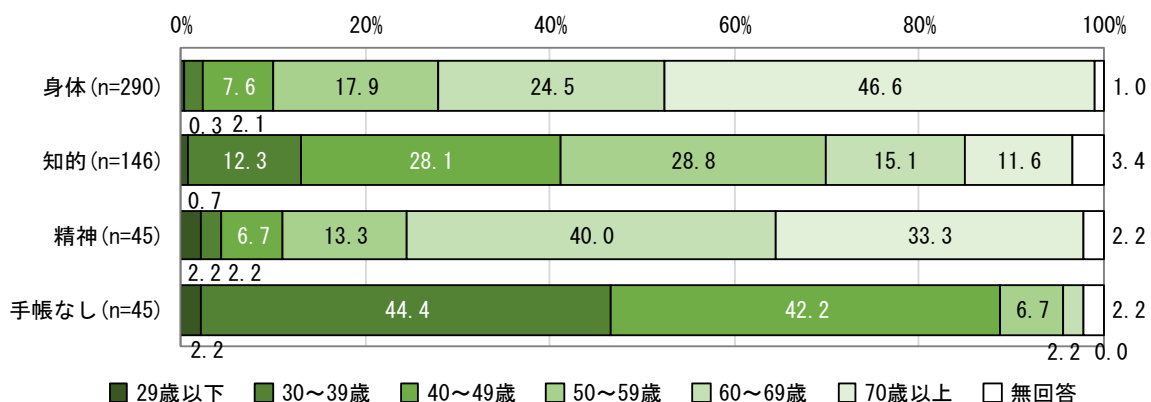


		n	同居している家族	別居している家族	サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）	入所施設や病院の職員	ボランティア	手話通訳者・要約筆者	近所の人、知人	その他	無回答
全体		817	56.2	5.6	11.8	11.3	0.1	0.2	0.9	1.7	12.2
身体	0～17歳	10	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	23	69.6	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4
	40～64歳	72	54.2	4.2	8.3	16.7	0.0	1.4	2.8	1.4	11.1
	65歳以上	376	49.7	8.8	15.2	13.6	0.0	0.3	0.8	0.3	11.4
知的	0～17歳	69	94.2	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.9
	18～39歳	77	74.0	1.3	6.5	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	40～64歳	63	30.2	4.8	14.3	20.6	0.0	0.0	0.0	1.6	28.6
	65歳以上	4	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
精神	0～17歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	24	58.3	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
	40～64歳	59	33.9	6.8	25.4	11.9	1.7	0.0	3.4	6.8	10.2
	65歳以上	14	28.6	7.1	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	28.6
手帳なし	0～17歳	52	82.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	15.4
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	65歳以上	5	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問7-3で「同居している家族」または「別居している家族」と回答した方にお聞きます。》

問7-4	主にあなたを介助・支援してくれる方は何歳ですか。	1つに○
------	--------------------------	------

介助・支援してくれる主な人が、同居・別居している家族の人に、主に介助・支援してくれる方の年齢について聞いたところ、身体では「70歳以上」が最も多く46.6%、知的では「50～59歳」が最も多く28.8%、精神では「60～69歳」が最も多く40.0%、手帳なしでは「30～39歳」が最も多く44.4%となっています。



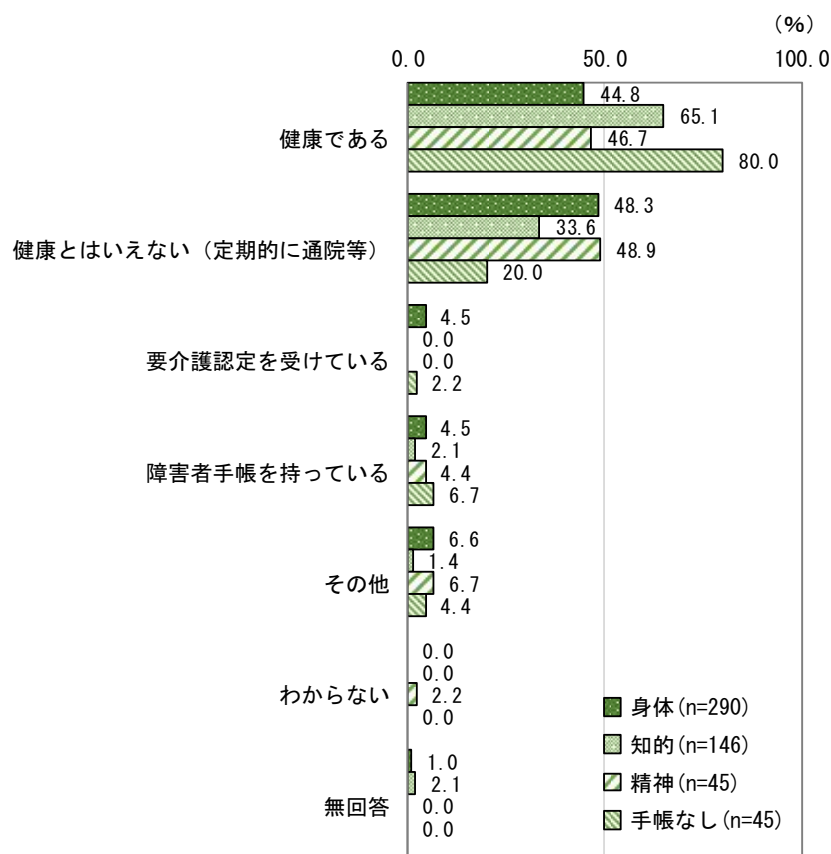
単位：%

	n	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体	505	0.8	8.9	16.0	19.0	21.4	32.1	1.8
身体	0～17歳	10	10.0	0.0	80.0	0.0	0.0	10.0
	18～39歳	17	0.0	0.0	23.5	35.3	41.2	0.0
	40～64歳	42	0.0	4.8	9.5	23.8	26.2	35.7
	65歳以上	220	0.0	1.8	2.7	16.4	24.1	54.1
知的	0～17歳	65	1.5	27.7	55.4	12.3	0.0	0.0
	18～39歳	58	0.0	0.0	6.9	55.2	29.3	5.2
	40～64歳	22	0.0	0.0	0.0	9.1	22.7	63.6
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	15	0.0	0.0	0.0	26.7	73.3	0.0
	40～64歳	24	4.2	4.2	4.2	8.3	20.8	54.2
	65歳以上	5	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0
手帳なし	0～17歳	43	2.3	46.5	44.2	4.7	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0

《問7-3で「同居している家族」または「別居している家族」と回答した方にお聞きします。》

問7-5	主にあなたを介助・支援してくれる方の健康状態や身体状況についてお伺いします。	すべてに○
------	--	-------

介助・支援してくれる主な人が、同居・別居している家族の人に、主に介助・支援してくれる方の健康状態や身体状況について聞いたところ、身体では「健康とはいえない（定期的に通院等）」が最も多く48.3%、知的では「健康である」が最も多く65.1%、精神では「健康とはいえない（定期的に通院等）」が最も多く48.9%、手帳なしでは「健康である」が最も多く80.0%となっています。



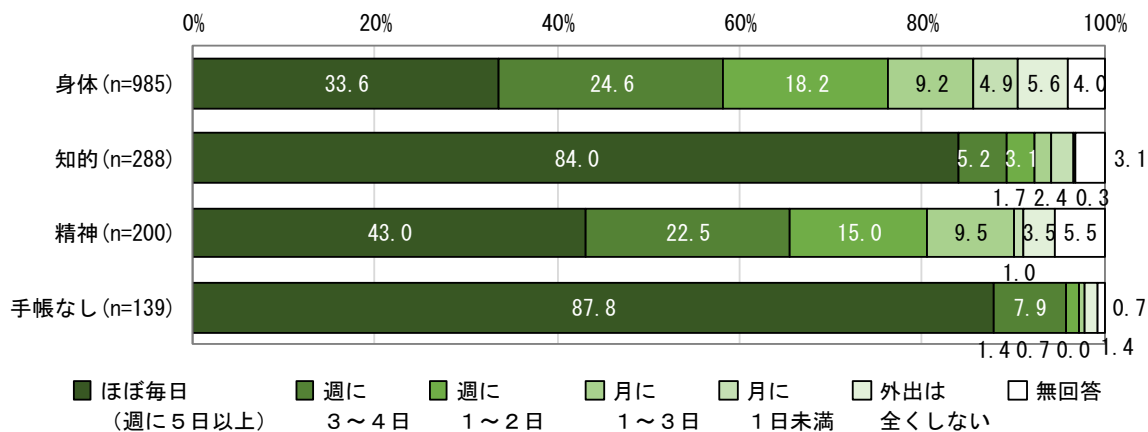
単位：%

	n	健康である	健康とはいえない（定期的に通院等）	要介護認定を受けている	障害者手帳を持っている	その他	わからない	無回答
全体	505	53.9	41.8	2.8	4.2	4.8	0.2	1.2
身体	0～17歳	10	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	18～39歳	17	58.8	41.2	0.0	5.9	0.0	0.0
	40～64歳	42	42.9	50.0	4.8	7.1	7.1	0.0
	65歳以上	220	42.7	50.0	5.0	4.1	6.8	1.4
知的	0～17歳	65	83.1	15.4	0.0	1.5	3.1	3.1
	18～39歳	58	55.2	44.8	0.0	1.7	0.0	0.0
	40～64歳	22	36.4	59.1	0.0	4.5	0.0	4.5
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	15	53.3	40.0	0.0	0.0	0.0	6.7
	40～64歳	24	37.5	58.3	0.0	8.3	12.5	0.0
	65歳以上	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	43	83.7	16.3	2.3	4.7	4.7	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	2	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0

④外出の状況

問 8-1	あなたはふだん、どのくらいの頻度で外出していますか。 ※通勤・通学、病院への通院、施設への通所も含みます。	1 つに○
-------	--	-------

外出の頻度について、すべてにおいて「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く、身体が 33.6%、知的が 84.0%、精神が 43.0%、手帳なしが 87.8%となっています。



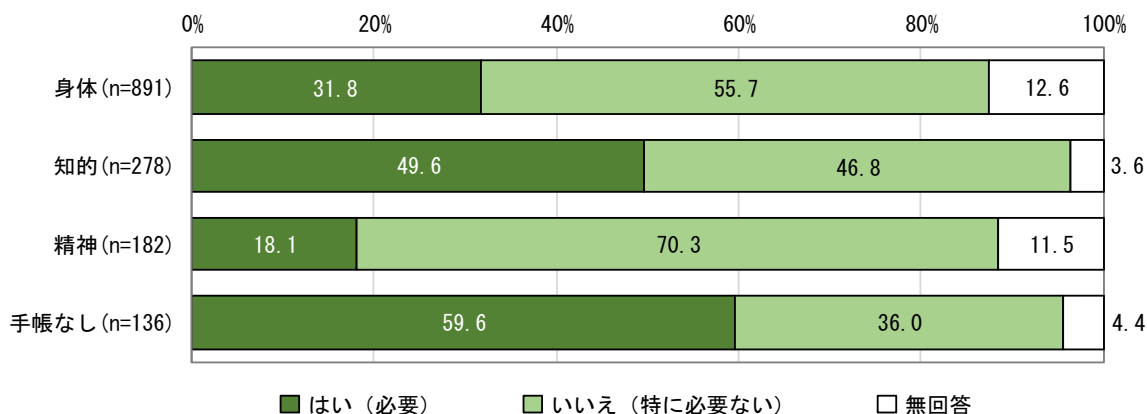
単位：%

	n	ほぼ毎日 (週に 5 日以上)	週に 3~ 4 日	週に 1~ 2 日	月に 1~ 3 日	月に 1 日 未満	外出は全 くしない	無回答
全体	1,589	48.0	19.6	14.0	7.0	3.3	4.3	3.7
身体	0~17歳	14	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	18~39歳	34	73.5	11.8	5.9	2.9	0.0	2.9
	40~64歳	172	59.9	16.3	7.0	5.8	3.5	1.7
	65歳以上	757	24.8	27.2	21.5	10.4	4.9	6.5
知的	0~17歳	92	96.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	18~39歳	98	83.7	7.1	5.1	1.0	0.0	2.0
	40~64歳	92	73.9	5.4	4.3	3.3	4.3	1.1
	65歳以上	4	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0
精神	0~17歳	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18~39歳	45	44.4	26.7	13.3	13.3	0.0	2.2
	40~64歳	129	47.3	20.2	16.3	7.8	0.8	2.3
	65歳以上	23	8.7	30.4	13.0	13.0	4.3	13.0
手帳なし	0~17歳	124	92.7	6.5	0.0	0.0	0.0	0.8
	18~39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40~64歳	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6

《問8-1で「ほぼ毎日」～「月に1日未満」のいずれかに回答した方にお聞きします。》

問8-2	外出する際に、付き添ってくれる人は必要ですか。	1つに○
------	-------------------------	------

ふだん外出している人に、外出する際に付き添ってくれる人の必要性について聞いたところ、身体では「いいえ（特に必要ない）」の方が多く 55.7%、知的では「はい（必要）」の方が多く 49.6%、精神では「いいえ（特に必要ない）」の方が多く 70.3%、手帳なしでは「はい（必要）」の方が多く 59.6%となっています。

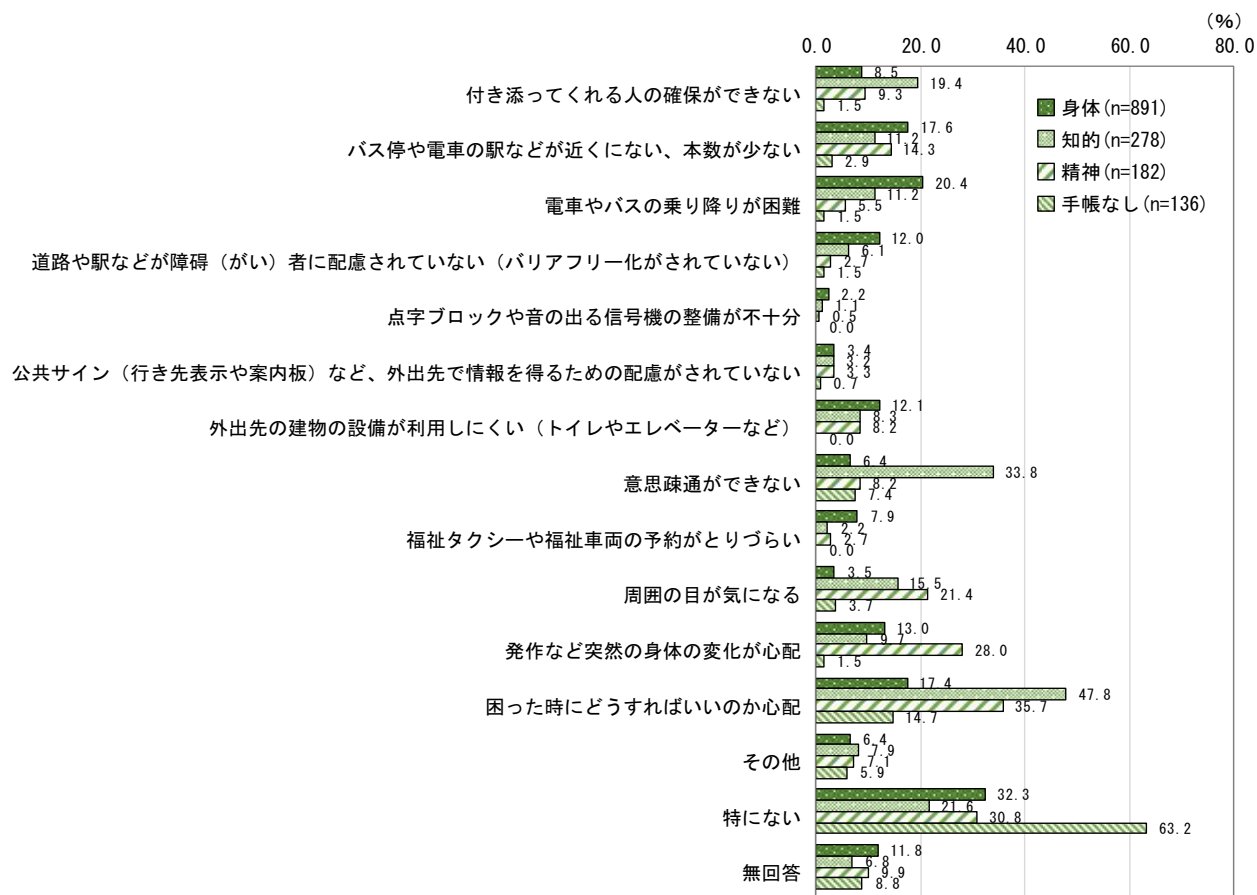


				単位：％	
		n	はい（必要）	いいえ（特に必要ない）	無回答
全体		1,462	35.0	54.7	10.3
身体	0～17歳	14	71.4	28.6	0.0
	18～39歳	33	48.5	42.4	9.1
	40～64歳	163	24.5	69.9	5.5
	65歳以上	673	32.1	53.2	14.7
知的	0～17歳	92	64.1	33.7	2.2
	18～39歳	96	37.5	54.2	8.3
	40～64歳	84	46.4	53.6	0.0
	65歳以上	4	100.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	44	18.2	72.7	9.1
	40～64歳	119	16.0	71.4	12.6
	65歳以上	16	31.3	56.3	12.5
手帳なし	0～17歳	123	63.4	32.5	4.1
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	80.0	0.0
	65歳以上	5	40.0	40.0	20.0

《問8-1で「ほぼ毎日」～「月に1日未満」のいずれかに回答した方にお聞きします。》

問8-3	外出する時に困ることは何ですか。	すべてに○
------	------------------	-------

ふだん外出している人に、外出する時に困ることについて聞いたところ、身体では「特にない」が最も多く32.3%、知的では「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く47.8%、精神では「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く35.7%、手帳なしでは「特にない」が最も多く63.2%となっています。

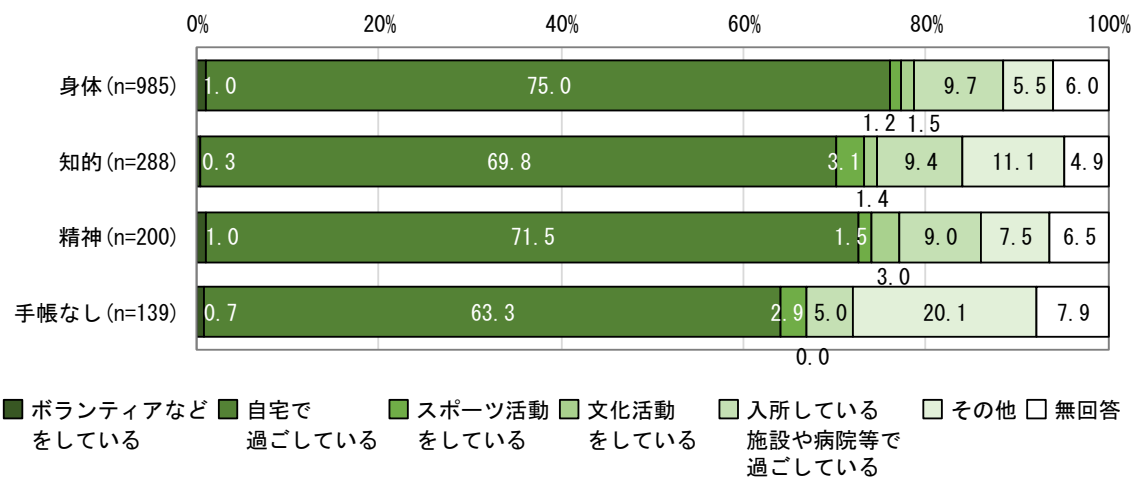


		n	付き添ってくれる人の確保ができない	バス停や電車の駅などが近くにない、本数が少ない	電車やバスの乗り降りが困難	道路や駅などが障害（がい）者に配慮されていない（バリアフリー化がされていない）	点字ブロックや音の出る信号機の整備が不十分	公共サイン（行き先表示や案内板）など、外出先で情報を得るための配慮がされていない	外出先の建物の設備が利用しにくい（トイレやエレベーターなど）	意思疎通ができない	福祉タクシーや福祉車両の予約がとりづらい	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	困った時にどうすればいいのか心配	その他	特にない	無回答
全体		1,462	9.0	14.0	14.6	8.5	1.4	3.0	9.4	10.9	5.3	7.5	12.8	24.4	6.6	33.7	10.6
身体	0～17歳	14	14.3	21.4	42.9	21.4	0.0	14.3	21.4	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	28.6	7.1
	18～39歳	33	21.2	18.2	24.2	12.1	0.0	3.0	21.2	9.1	3.0	9.1	6.1	27.3	9.1	21.2	15.2
	40～64歳	163	11.0	19.6	15.3	13.5	3.7	4.3	19.0	14.1	6.1	8.6	18.4	26.4	6.7	33.1	4.9
	65歳以上	673	7.3	16.9	21.1	11.4	2.1	3.0	10.0	4.3	8.3	1.8	11.9	14.6	6.1	32.7	13.5
知的	0～17歳	92	13.0	10.9	12.0	4.3	1.1	2.2	4.3	30.4	1.1	10.9	4.3	45.7	8.7	27.2	4.3
	18～39歳	96	21.9	7.3	12.5	4.2	0.0	5.2	7.3	35.4	1.0	19.8	10.4	57.3	8.3	18.8	4.2
	40～64歳	84	20.2	16.7	9.5	9.5	1.2	2.4	13.1	35.7	3.6	16.7	15.5	42.9	7.1	19.0	13.1
	65歳以上	4	75.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
	18～39歳	44	4.5	13.6	0.0	2.3	0.0	6.8	6.8	4.5	0.0	34.1	31.8	50.0	4.5	27.3	6.8
	40～64歳	119	10.9	15.1	6.7	1.7	0.8	2.5	5.9	10.1	2.5	17.6	26.1	31.9	8.4	36.1	9.2
	65歳以上	16	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	31.3	6.3	12.5	18.8	37.5	25.0	0.0	6.3	18.8
手帳なし	0～17歳	123	1.6	3.3	0.8	1.6	0.0	0.8	0.0	7.3	0.0	4.1	0.8	14.6	4.1	62.6	8.9
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	80.0	0.0
	65歳以上	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0

⑤日中の過ごし方

問 9-1	あなたは、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。	1 つに○
-------	-----------------------------	-------

休日の日中の主な過ごし方について、すべてにおいて「自宅で過ごしている」が最も多く、身体が 75.0%、知的が 69.8%、精神が 71.5%、手帳なしが 63.3%となっています。

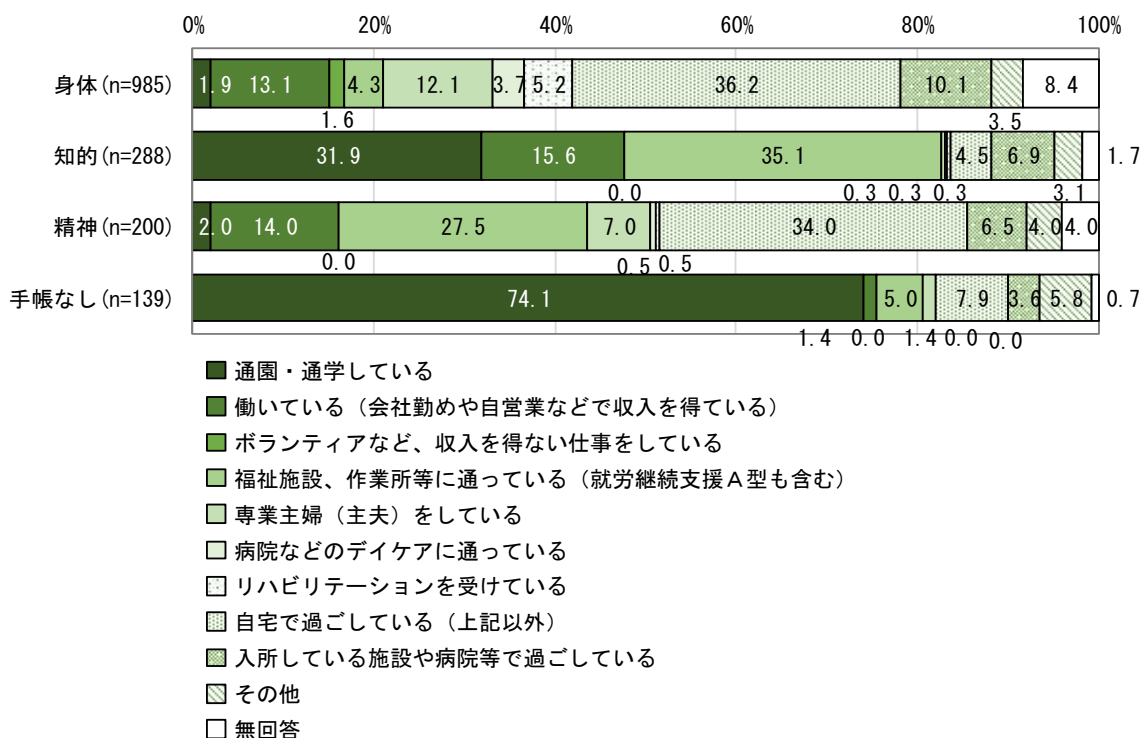


単位：%

	n	ボラン ティアな どをして いる	自宅で過 ごしてい る	スポーツ 活動をし ている	文化活動 をしてい る	入所して いる施設 や病院等 で過ごし ている	その他	無回答
全体	1,589	1.0	72.7	1.9	1.4	8.8	7.9	6.3
身体	0～17歳	14	0.0	85.7	0.0	0.0	7.1	7.1
	18～39歳	34	0.0	73.5	2.9	0.0	11.8	11.8
	40～64歳	172	0.6	76.7	1.7	1.7	8.7	7.6
	65歳以上	757	1.2	74.5	1.1	1.6	10.7	4.5
知的	0～17歳	92	0.0	78.3	4.3	0.0	13.0	4.3
	18～39歳	98	1.0	75.5	2.0	1.0	10.2	7.1
	40～64歳	92	0.0	55.4	3.3	3.3	23.9	10.9
	65歳以上	4	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
	18～39歳	45	0.0	75.6	4.4	6.7	0.0	11.1
	40～64歳	129	1.6	71.3	0.8	2.3	10.1	6.2
	65歳以上	23	0.0	69.6	0.0	0.0	21.7	0.0
手帳なし	0～17歳	124	0.0	66.9	2.4	0.0	2.4	21.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	28.6	0.0	0.0	57.1	0.0

問9-2	あなたはふだん、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。	1つに○
------	--------------------------------	------

平日の日中の主な過ごし方について、身体では「自宅で過ごしている」が最も多く 36.2%、知的では「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が最も多く 35.1%、精神では「自宅で過ごしている」が最も多く 34.0%、手帳なしでは「通園・通学している」が最も多く 74.1%となっています。



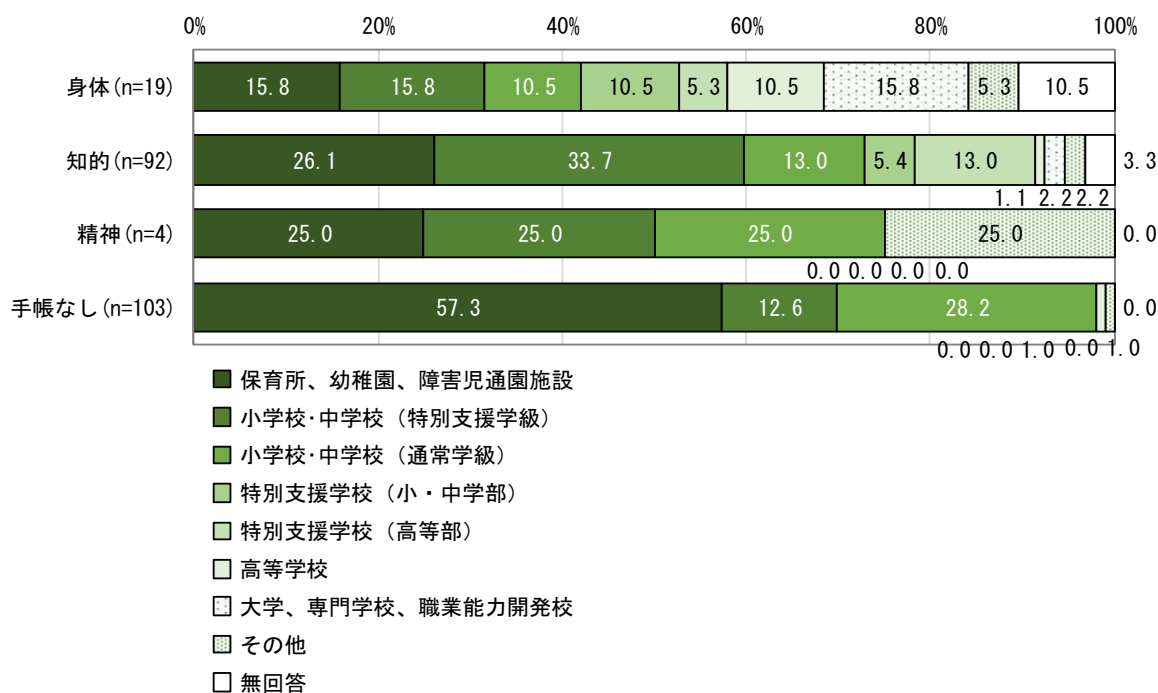
単位：％												
		通園・通学している	働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）	専業主婦（主夫）をしている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（上記以外）	入所している施設や病院等で過ごしている	その他	無回答
	n											
全体	1,589	13.6	12.9	1.1	11.4	8.6	2.3	3.3	28.4	8.4	3.7	6.3
身体	0～17歳	14	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1
	18～39歳	34	8.8	23.5	0.0	41.2	0.0	2.9	0.0	8.8	0.0	8.8
	40～64歳	172	1.2	41.3	1.7	12.2	8.7	1.7	1.7	20.3	9.3	0.0
	65歳以上	757	0.3	6.5	1.7	0.9	13.6	4.2	6.3	41.5	11.0	10.3
知的	0～17歳	92	93.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	3.3	2.2
	18～39歳	98	2.0	27.6	0.0	52.0	0.0	1.0	0.0	9.2	2.0	2.0
	40～64歳	92	3.3	18.5	0.0	53.3	1.1	0.0	0.0	4.3	17.4	0.0
	65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0
精神	0～17歳	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	0.0	15.6	0.0	22.2	4.4	2.2	0.0	42.2	0.0	2.2
	40～64歳	129	0.8	16.3	0.0	34.1	8.5	0.0	0.0	28.7	6.2	3.1
	65歳以上	23	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	4.3	52.2	21.7	13.0
手帳なし	0～17歳	124	82.3	0.8	0.0	2.4	0.0	0.0	7.3	0.8	6.5	0.0
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3

⑥通園・通学の状況

《問9で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問10-1	現在、通園・通学しているところはどこですか。	1つに○
-------	------------------------	------

現在、通園・通学している人に、通園・通学先について聞いたところ、身体では「保育所、幼稚園、障害児通園施設」「小学校・中学校（特別支援学級）」「大学、専門学校、職業能力開発校」が最も多くそれぞれ15.8%、知的では「小学校・中学校（特別支援学級）」が最も多く33.7%、精神では「保育所、幼稚園、障害児通園施設」「小学校・中学校（特別支援学級）」「小学校・中学校（通常学級）」が最も多くそれぞれ25.0%、手帳なしでは「保育所、幼稚園、障害児通園施設」が最も多く57.3%となっています。

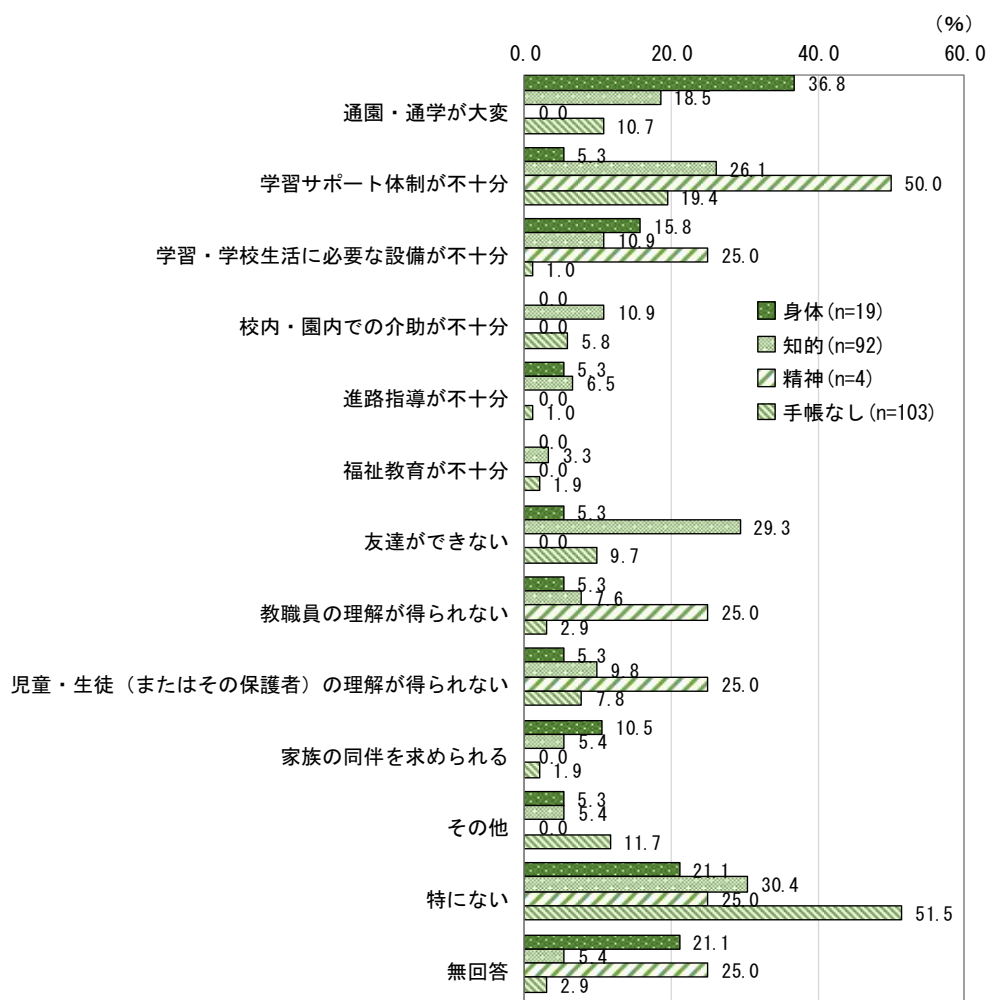


		単位：%								
	n	保育所、幼稚園、障害児通園施設	小学校・中学校（特別支援学級）	小学校・中学校（通常学級）	特別支援学校（小・中学部）	特別支援学校（高等部）	高等学校	大学、専門学校、職業能力開発校	その他	無回答
全体	216	40.7	21.3	20.8	2.8	5.6	1.9	2.3	2.8	1.9
身体	0～17歳	12	16.7	25.0	16.7	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0
	18～39歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
知的	0～17歳	86	26.7	36.0	14.0	5.8	12.8	1.2	0.0	2.3
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	102	57.8	12.7	27.5	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問9で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問10-2	学校・園生活を送る上での課題は、次のどれですか。	3つまで○
-------	--------------------------	-------

現在、通園・通学している人に、学校・園生活を送る上での課題について聞いたところ、身体では「通園・通学が大変」が最も多く36.8%、知的では「特にない」が最も多く30.4%、精神では「学習サポート体制が不十分」が最も多く50.0%、手帳なしでは「特にない」が最も多く51.5%となっています。

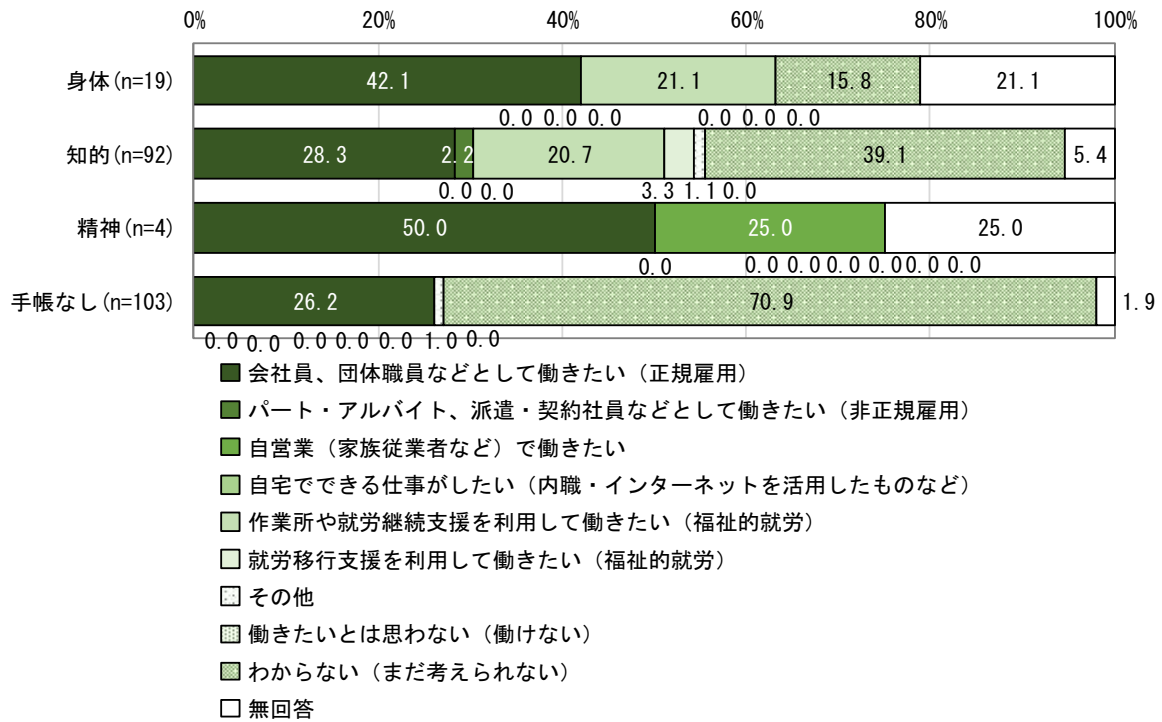


		通園・通学が大変	学習サポート体制が不十分	学習・学校生活に必要な設備が不十分	校内・園内での介助が不十分	進路指導が不十分	福祉教育が不十分	友達ができない	教職員の理解が得られない	児童・生徒（またはその保護者）の理解が得られない	家族の同伴を求められる	その他	特にない	無回答
n														
全体		216	14.8	21.8	6.0	7.4	3.2	3.2	18.1	6.0	9.3	3.7	7.9	5.1
身体	0～17歳	12	58.3	8.3	25.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7	8.3	0.0
	18～39歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	40～64歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
知的	0～17歳	86	19.8	26.7	10.5	11.6	5.8	3.5	31.4	8.1	9.3	5.8	5.8	3.5
	18～39歳	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	102	10.8	19.6	1.0	5.9	1.0	2.0	9.8	2.9	7.8	2.0	11.8	2.9
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問9で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-3	学校卒業後の進路はどうお考えですか。	1 つに○
--------	--------------------	-------

現在、通園・通学している人に、学校卒業後の進路について聞いたところ、身体では「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 42.1%、知的では「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 39.1%、精神では「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 50.0%、手帳なしでは「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 70.9%となっています。



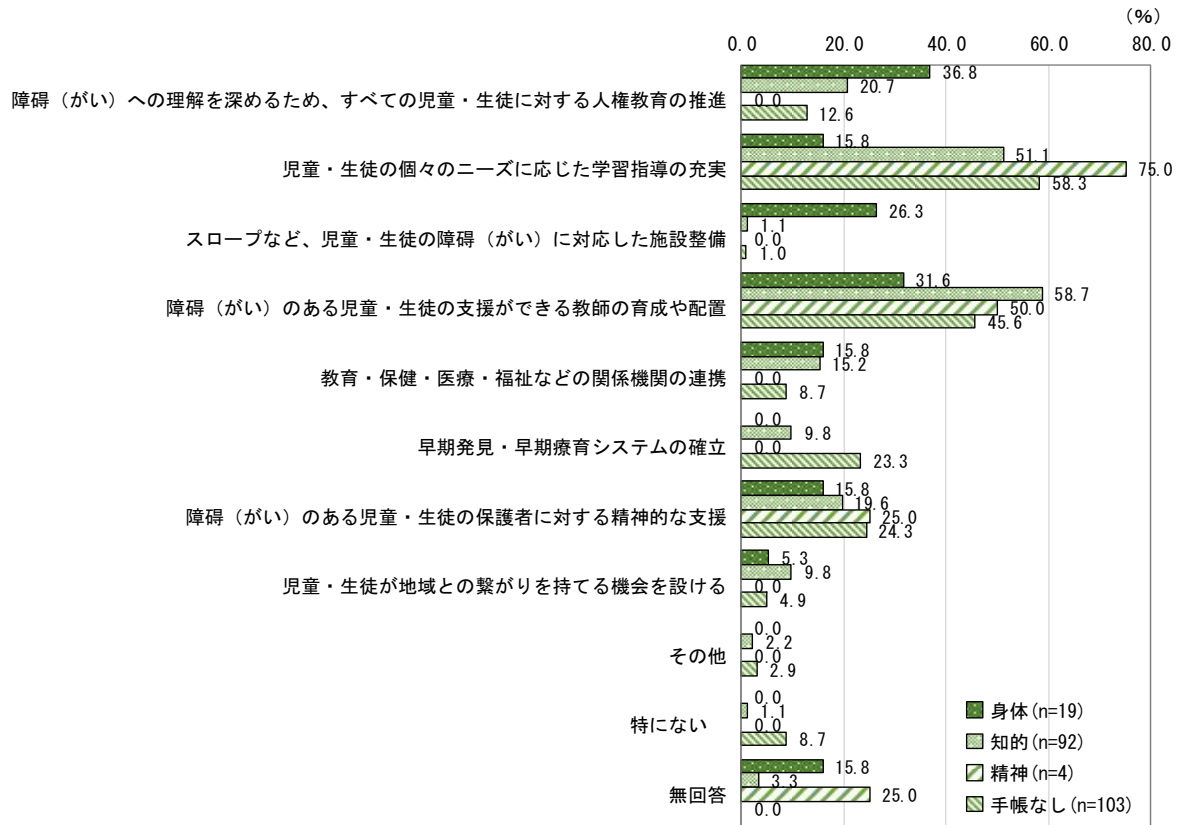
単位：％

			会社員、 団体職員 などとして 働きたい（正規 雇用）	パート・ アルバイト、 派遣・契約 社員など として働 きたい（非正規 雇用）	自営業 （家族従 業者な ど）で働 きたい	自宅でで きる仕事 がしたい （内職・ インター ネットを 活用した ものなど）	作業所や 就労継続 支援を利 用して働 きたい （福祉的 就労）	就労移行 支援を利 用して働 きたい （福祉的 就労）	その他	働きたい とは思わ ない（働 けない）	わからな い（まだ 考えられ ない）	無回答
	n											
	全体	216	29.2	0.9	0.5	0.0	8.8	1.9	0.9	0.0	53.7	4.2
身体	0～17歳	12	41.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	18～39歳	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
知的	0～17歳	86	29.1	2.3	0.0	0.0	20.9	2.3	1.2	0.0	41.9	2.3
	18～39歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	102	26.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	70.6	2.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問9で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-4	あなたは、障害 ^{がい} のある児童・生徒の教育・育成に関し、どのようなことが必要であると思いますか。	2つまで○
--------	--	-------

現在、通園・通学している人に、障害^{がい}のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについて聞いたところ、身体では「障害^{がい}への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進」が最も多く 36.8%、知的では「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 51.1%、精神では「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 75.0%、手帳なしでは「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 58.3%となっています。



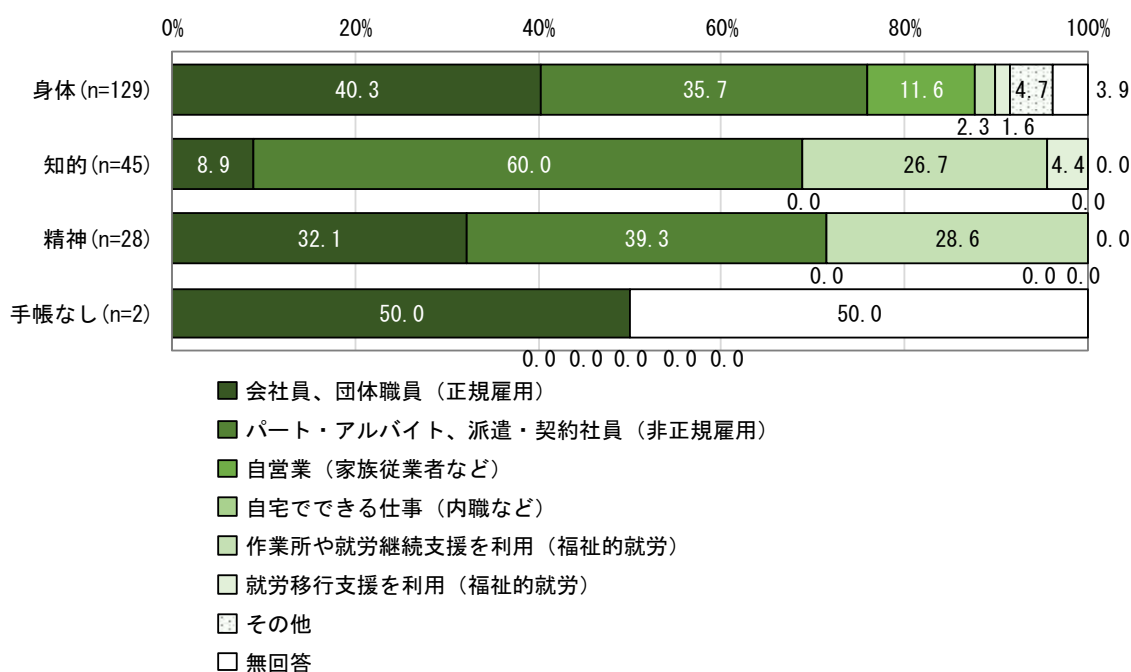
		n	障害（がい）への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進	児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実	スロープなど、児童・生徒の障害（がい）に対応した施設整備	障害（がい）のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置	教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携	早期発見・早期療育システムの確立	障害（がい）のある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援	児童・生徒が地域との繋がりを持てる機会を設ける	その他	特になし	無回答
単位：%													
全体			216	18.1	53.2	2.8	51.4	11.6	15.3	21.8	6.9	2.3	1.9
身体	0～17歳	12	33.3	25.0	33.3	33.3	25.0	0.0	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
知的	0～17歳	86	19.8	53.5	1.2	61.6	15.1	10.5	20.9	9.3	2.3	1.2	1.2
	18～39歳	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	102	12.7	58.8	1.0	45.1	8.8	23.5	23.5	4.9	2.9	8.8	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑦仕事の状況や今後の希望

《問9-2で「働いている」と回答した方にお聞きします。》

問11-1	あなたは現在、どのように働いていますか。	1つに○
-------	----------------------	------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、就労形態について聞いたところ、身体では「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く40.3%、知的では「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く60.0%、精神では「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く39.3%、手帳なしでは「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く50.0%となっています。

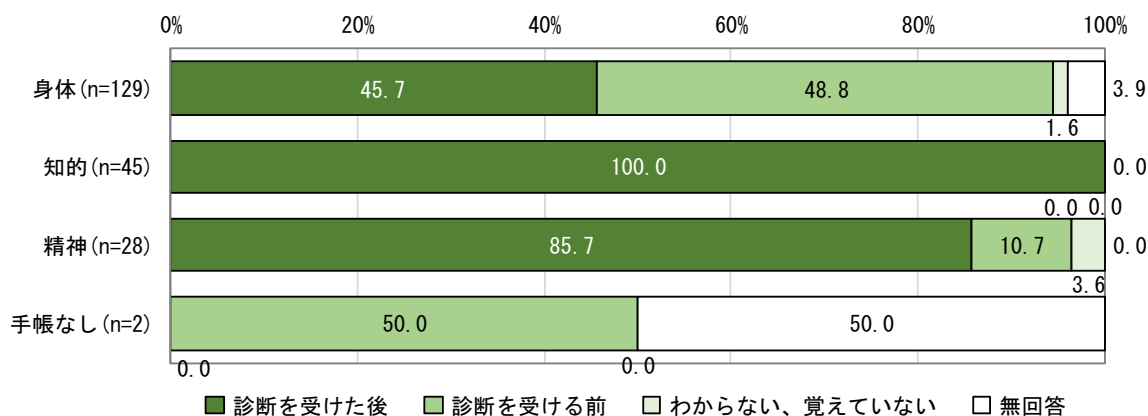


		単位：%							
	n	会社員、 団体職員 （正規雇 用）	パート・ アルバイ ト、派 遣・契約 社員（非 正規雇 用）	自営業 （家族従 業者な ど）	自宅で できる 仕事 （内職 など）	作業所 や就 労継続 支援を 利用 （福祉 的就 労）	就労移行 支援を 利用 （福祉 的就 労）	その他	無回答
全体	205	32.7	41.0	7.3	0.0	11.7	1.5	2.9	2.9
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	8	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	71	56.3	21.1	11.3	0.0	2.8	1.4	4.2
	65歳以上	49	10.2	59.2	14.3	0.0	2.0	2.0	6.1
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	27	7.4	66.7	0.0	0.0	22.2	3.7	0.0
	40～64歳	17	11.8	47.1	0.0	0.0	35.3	5.9	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	21	28.6	33.3	0.0	0.0	38.1	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問9-2で「働いている」と回答した方にお聞きします。》

問11-2	現在の職場に就いたのは、 ^が 障害や疾患の診断を受けた後でしたか。	1つに○
-------	--	------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、現在の職場に就いたときの、^が障害や疾患の診断を受けた時期について聞いたところ、身体では「診断を受ける前」が最も多く48.8%、知的では「前診断を受けた後」が最も多く100.0%、精神では「前診断を受けた後」が最も多く85.7%、手帳なしでは「診断を受ける前」が最も多く50.0%となっています。



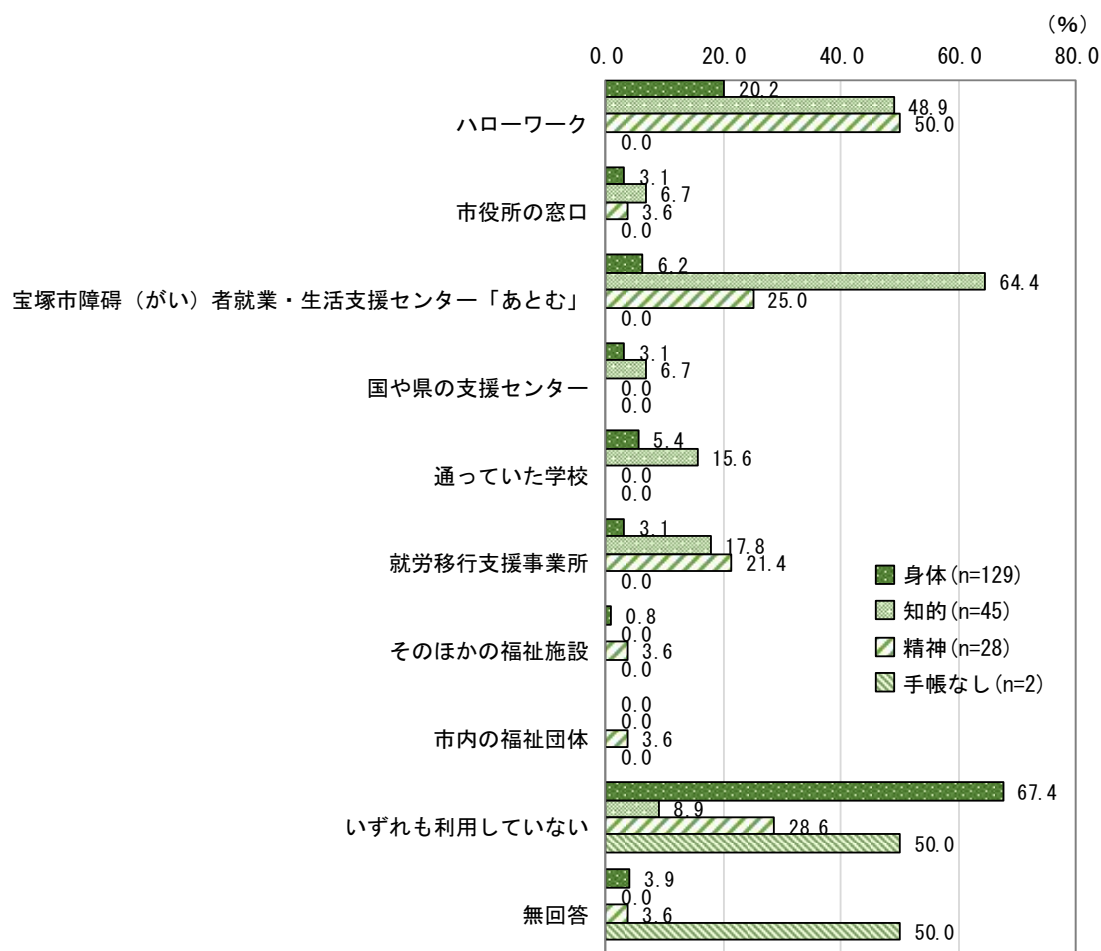
単位：%

	n	診断を受けた後	診断を受ける前	わからない、覚えていない	無回答
全体	205	62.4	33.2	1.5	2.9
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	8	87.5	12.5	0.0
	40～64歳	71	42.3	50.7	2.8
	65歳以上	49	44.9	51.0	0.0
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	27	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	17	100.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	7	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	21	81.0	14.3	4.8
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0

《問 9-2 で「働いている」と回答した方にお聞きます。》

問 11-3	現在の職場に就くために、次の機関の支援を利用しましたか。	すべてに○
--------	------------------------------	-------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、現在の職場に就くために利用した支援機関について、身体では「いずれも利用していない」が最も多く 67.4%、知的では「宝塚市障^{がい}者就業・生活支援センター「あとむ」が最も多く 64.4%、精神では「ハローワーク」が最も多く 50.0%、手帳なしでは「いずれも利用していない」が最も多く 50.0%となっています。

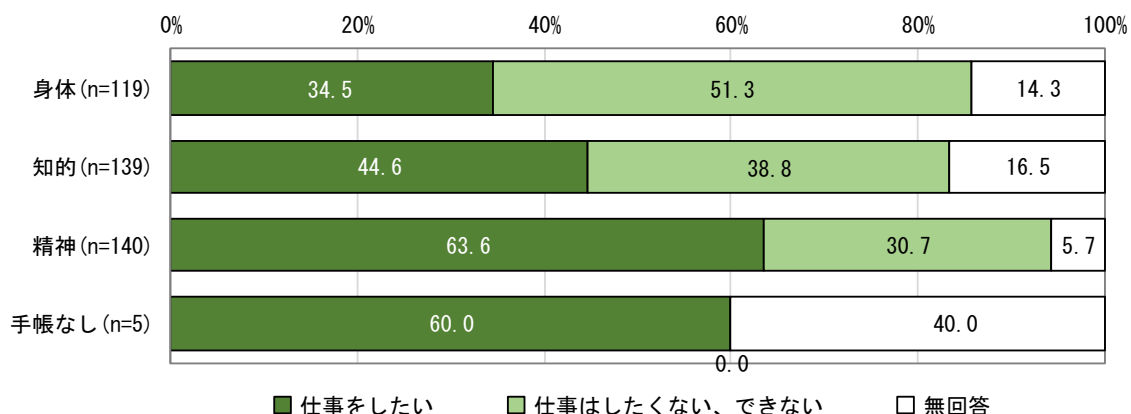


単位：%												
		ハロー ワーク	市役所の 窓口	宝塚市障 碍（が い）者就 業・生活 支援セン ター「あ とむ」	国や県の 支援セン ター	通っていた学校	就労移行 支援事業 所	そのほか の福祉施 設	市内の福 祉団体	いずれも 利用して いない	無回答	
	n											
全体		205	29.8	3.4	20.5	3.4	7.3	8.3	1.0	0.5	49.8	3.4
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	8	25.0	0.0	37.5	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0	50.0	0.0
	40～64歳	71	19.7	4.2	5.6	2.8	7.0	1.4	0.0	0.0	67.6	2.8
	65歳以上	49	20.4	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	69.4	6.1
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	27	48.1	3.7	70.4	7.4	18.5	14.8	0.0	0.0	11.1	0.0
	40～64歳	17	47.1	11.8	58.8	5.9	11.8	17.6	0.0	0.0	5.9	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	7	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
	40～64歳	21	52.4	4.8	19.0	0.0	0.0	23.8	4.8	4.8	28.6	4.8
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問9-2で「通園・通学している」または「働いている」以外のいずれかに回答した方（現在、働いていない18歳から64歳の方）にお聞きます。）

問12-1	あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。	1つに○
-------	---------------------------	------

現在、働いていない人に、収入を得る仕事への希望について聞いたところ、身体では「仕事はしたくない、できない」の方が多く51.3%、知的では「仕事をしたい」の方が多く44.6%、精神では「仕事をしたい」の方が多く63.6%、手帳なしでは「仕事をしたい」の方が多く60.0%となっています。

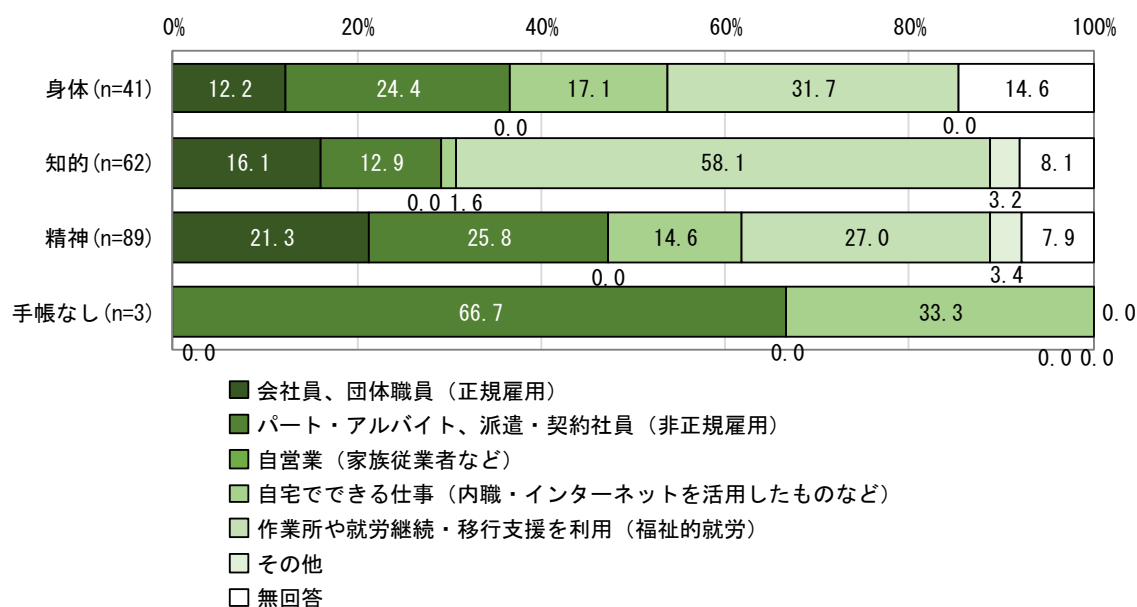


単位：％					
		仕事をしたい	仕事はしたくない、できない	無回答	
	n				
全体	364	49.2	39.8	11.0	
身体	18～39歳	20	35.0	40.0	25.0
	40～64歳	99	34.3	53.5	12.1
知的	18～39歳	67	55.2	32.8	11.9
	40～64歳	72	34.7	44.4	20.8
精神	18～39歳	37	73.0	18.9	8.1
	40～64歳	103	60.2	35.0	4.9
な手帳	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	60.0	0.0	40.0

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-2	どのような形で働きたいと思いますか。	1 つに○
--------	--------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、希望する就労形態について聞いたところ、身体では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 31.7%、知的では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 58.1%、精神では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 27.0%、手帳なしでは「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 66.7%となっています。

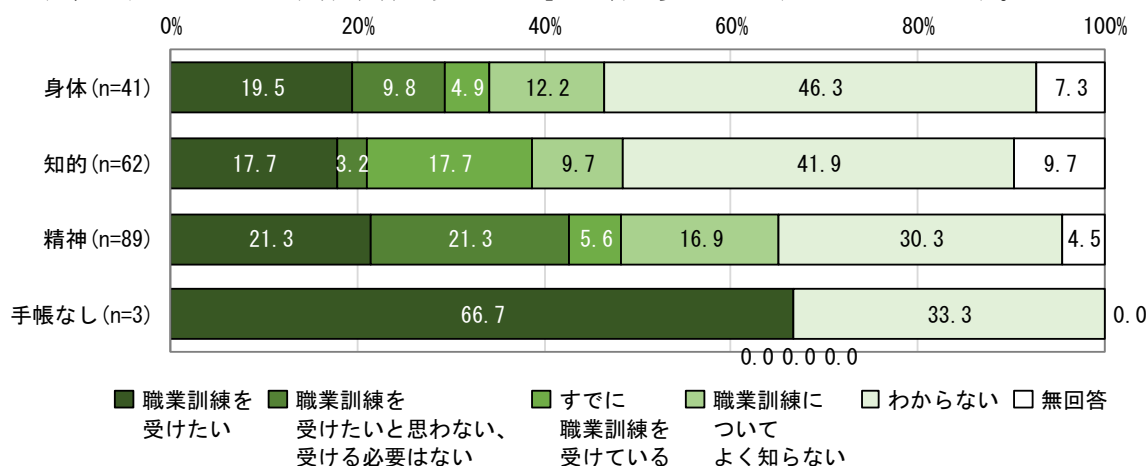


単位：％									
			会社員・ 団体職員 （正規雇 用）	パート・ アルバイト ・派遣・契約 社員（非 正規雇 用）	自営業 （家族従 業者な ど）	自宅でで きる仕事 （内職・ インター ネットを 活用した ものな ど）	作業所や 就労継続・移行 支援を利用 （福祉 的就労）	その他	無回答
		n							
全体		179	17.3	22.9	0.0	12.3	36.9	2.2	8.4
身体	18～39歳	7	14.3	14.3	0.0	0.0	57.1	0.0	14.3
	40～64歳	34	11.8	26.5	0.0	20.6	26.5	0.0	14.7
知的	18～39歳	37	21.6	8.1	0.0	2.7	59.5	2.7	5.4
	40～64歳	25	8.0	20.0	0.0	0.0	56.0	4.0	12.0
精神	18～39歳	27	11.1	25.9	0.0	25.9	25.9	3.7	7.4
	40～64歳	62	25.8	25.8	0.0	9.7	27.4	3.2	8.1
なし手帳	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-3	働くにあたって、職業訓練を受けたいと思いますか。	1 つに○
--------	--------------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、職業訓練の希望について聞いたところ、身体では「わからない」が最も多く 46.3%、知的では「わからない」が最も多く 41.9%、知的では「わからない」が最も多く 30.3%、手帳なしでは「職業訓練を受けたい」が最も多く 66.7%となっています。

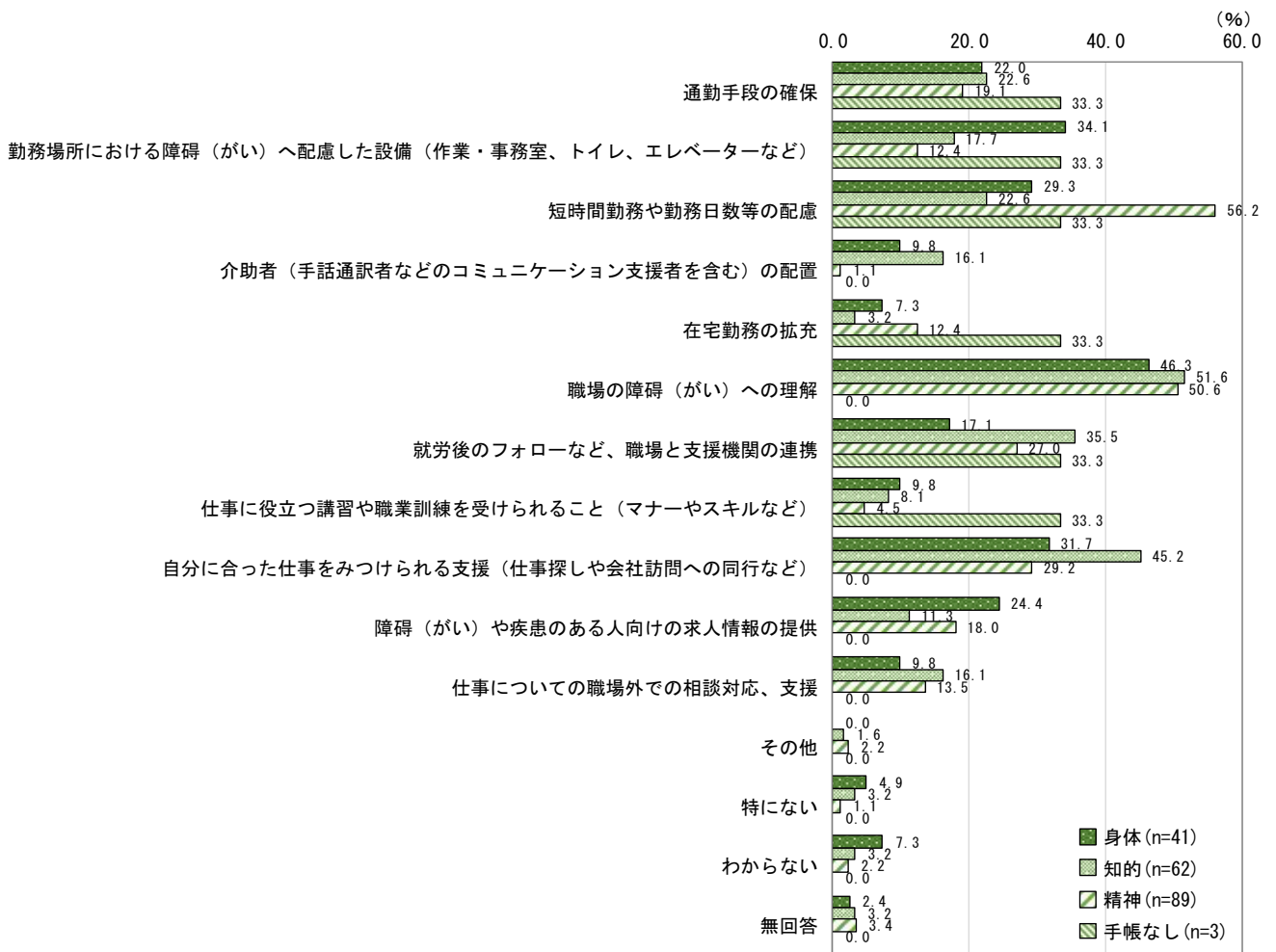


		単位：%					
	n	職業訓練を受けたい	職業訓練を受けたいと思わない、受ける必要はない	すでに職業訓練を受けている	職業訓練についてよく知らない	わからない	無回答
全体	179	19.6	14.0	8.9	14.5	36.9	6.1
身体	18～39歳	7	14.3	0.0	14.3	0.0	57.1
	40～64歳	34	20.6	11.8	2.9	14.7	44.1
知的	18～39歳	37	16.2	5.4	18.9	13.5	40.5
	40～64歳	25	20.0	0.0	16.0	4.0	44.0
精神	18～39歳	27	37.0	11.1	11.1	18.5	22.2
	40～64歳	62	14.5	25.8	3.2	16.1	33.9
な手帳	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-4	あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。	3つまで○
--------	---------------------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、働く際に必要な支援について聞いたところ、身体では「職場の障^{がい}碍への理解」が最も多く 46.3%、知的では「職場の障^{がい}碍への理解」が最も多く 51.6%、精神では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が最も多く 56.2%、手帳なしでは「通勤手段の確保」「勤務場所における障^{がい}碍へ配慮した設備（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）」「短時間勤務や勤務日数等の配慮」「在宅勤務の拡充」「就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」「仕事に役立つ講習や職業訓練を受けられること（マナーやスキルなど）」がそれぞれ 33.3%となっています。

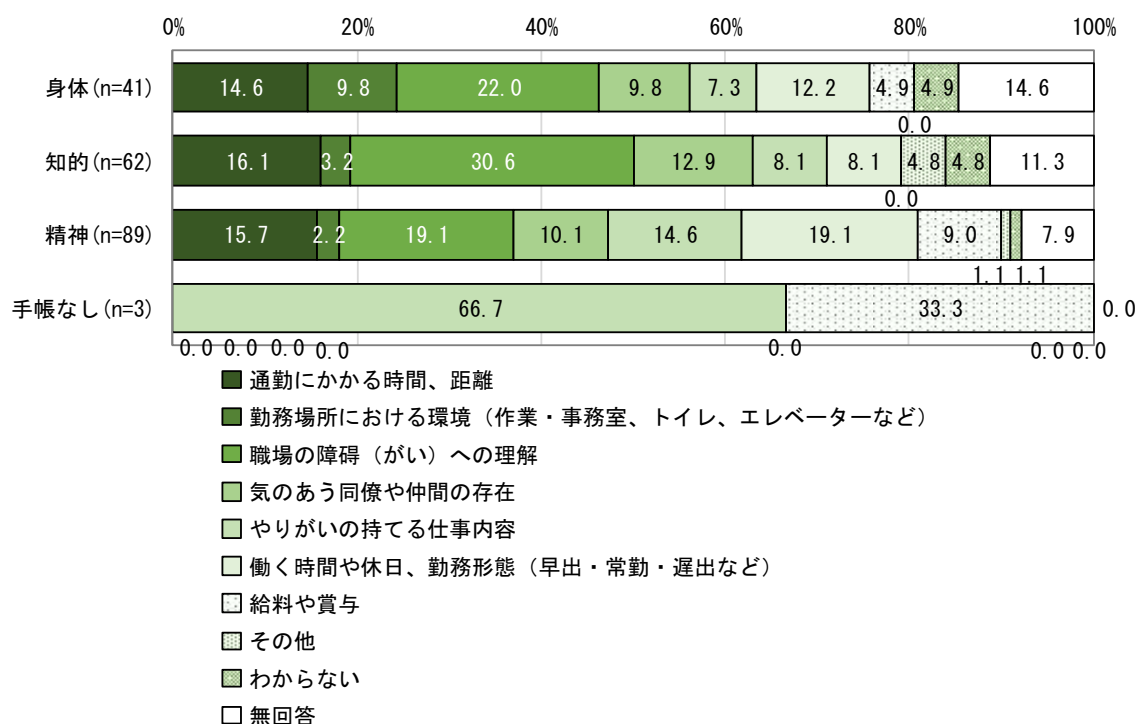


		n	通勤手段の確保	勤務場所における障 ^{がい} 碍へ配慮した設備（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）	短時間勤務や勤務日数等の配慮	介助者（手話通訳者などのコミュニケーション支援者を含む）の配置	在宅勤務の拡充	職場の障 ^{がい} 碍への理解	就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携	仕事に役立つ講習や職業訓練を受けられること（マナーやスキルなど）	自分に合った仕事をみつけれられる支援（仕事探しや会社訪問への同行など）	障 ^{がい} 碍（がい）や疾患のある人向けの求人情報の提供	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	特にない	わからない	無回答
全体		179	20.7	17.3	41.9	6.1	8.9	49.2	27.4	7.3	35.2	17.3	13.4	1.1	2.8	3.4	2.8
身体	18～39歳	7	42.9	57.1	14.3	28.6	0.0	71.4	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3
	40～64歳	34	17.6	29.4	32.4	5.9	8.8	41.2	14.7	11.8	35.3	23.5	5.9	0.0	5.9	8.8	0.0
知的	18～39歳	37	27.0	16.2	21.6	18.9	5.4	56.8	43.2	10.8	54.1	16.2	13.5	0.0	2.7	0.0	2.7
	40～64歳	25	16.0	20.0	24.0	12.0	0.0	44.0	24.0	4.0	32.0	4.0	20.0	4.0	4.0	8.0	4.0
精神	18～39歳	27	11.1	3.7	63.0	0.0	18.5	66.7	44.4	7.4	29.6	18.5	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	62	22.6	16.1	53.2	1.6	9.7	43.5	19.4	3.2	29.0	17.7	12.9	3.2	1.6	3.2	4.8
なし手帳	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きます。》

問 12-5	あなたが働く際に、こういった条件を重視したいと思いますか。	1 つに○
--------	-------------------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、働く際に重視したい条件について聞いたところ、身体では「職場の障碍^{がい}への理解」が最も多く 22.0%、知的では「職場の障碍^{がい}への理解」が最も多く 30.6%、精神では「職場の障碍^{がい}への理解」が最も多く 19.1%、手帳なしでは「やりがいの持てる仕事内容」が最も多く 66.7%となっています。



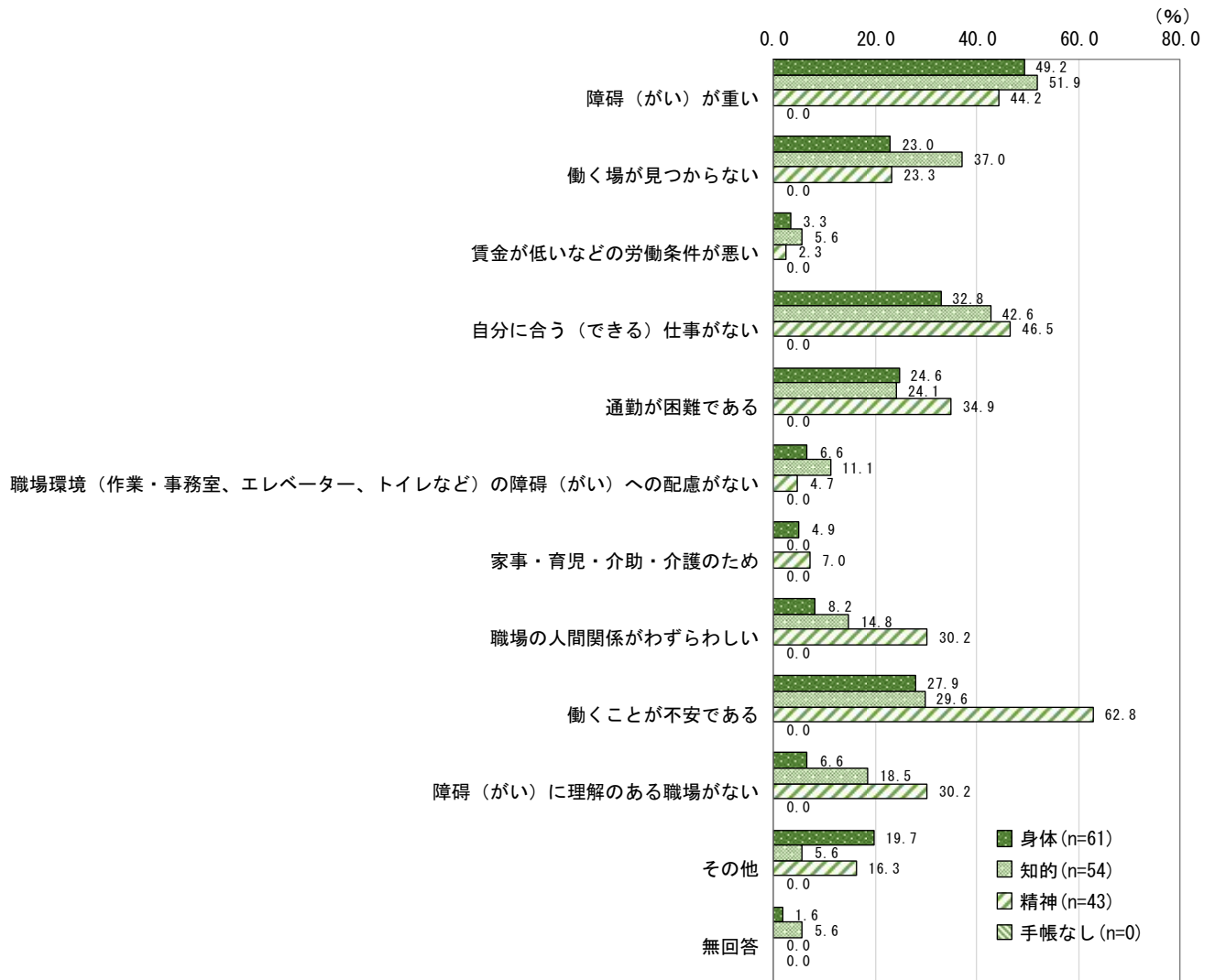
		n	通勤にかかる時間、距離	勤務場所における環境（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）	職場の障碍（がい）への理解	気のあう同僚や仲間の存在	やりがいの持てる仕事内容	働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）	給料や賞与	その他	わからない	無回答
全体		179	15.6	3.4	23.5	11.2	12.3	14.5	6.1	1.7	2.8	8.9
身体	18～39歳	7	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6
	40～64歳	34	14.7	8.8	20.6	11.8	8.8	11.8	5.9	0.0	5.9	11.8
知的	18～39歳	37	16.2	2.7	35.1	13.5	8.1	8.1	0.0	5.4	2.7	8.1
	40～64歳	25	16.0	4.0	24.0	12.0	8.0	8.0	0.0	4.0	8.0	16.0
精神	18～39歳	27	7.4	0.0	22.2	7.4	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	7.4
	40～64歳	62	19.4	3.2	17.7	11.3	16.1	12.9	8.1	1.6	1.6	8.1
なし手帳	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

単位：%

《問 12-1 で「仕事はしたくない、できない」と回答した方にお聞きします。》

問 12-6	仕事をしたくない、できない理由は何ですか。	すべてに○
--------	-----------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）人に、その理由について聞いたところ、身体では「^がい障害が重い」が最も多く 49.2%、知的では「^がい障害が重い」が最も多く 51.9%、精神では「働くことが不安である」が最も多く 62.8%となっています。



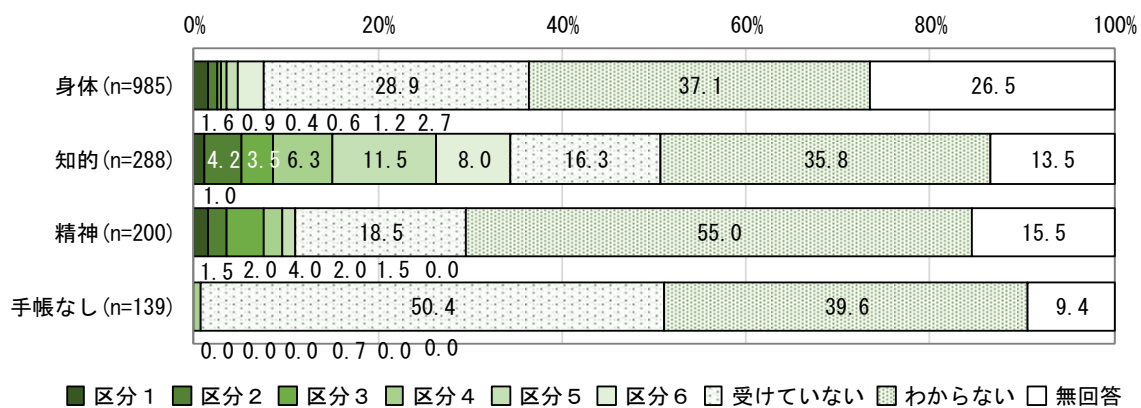
単位：%

		n	障害（が）い	働く場が見つからない	賃金が低いなどの労働条件が悪い	自分に合う（できる）仕事がない	通勤が困難である	職場環境（作業・事務室、エレベーター、トイレなど）の障害（が）いへの配慮がない	家事・育児・介助・介護のため	職場の人間関係がわずらわしい	働くことが不安である	障害（が）いに理解のある職場がない	その他	無回答
全体		145	46.9	28.3	4.1	42.1	25.5	5.5	4.1	17.2	40.7	19.3	13.8	2.1
身体	18～39歳	8	62.5	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0
	40～64歳	53	47.2	22.6	0.0	34.0	20.8	3.8	5.7	7.5	26.4	7.5	18.9	1.9
知的	18～39歳	22	63.6	50.0	4.5	54.5	40.9	22.7	0.0	18.2	36.4	18.2	0.0	0.0
	40～64歳	32	43.8	28.1	6.3	34.4	12.5	3.1	0.0	12.5	25.0	18.8	9.4	9.4
精神	18～39歳	7	28.6	14.3	0.0	28.6	57.1	0.0	0.0	57.1	100.0	14.3	57.1	0.0
	40～64歳	36	47.2	25.0	2.8	50.0	30.6	5.6	8.3	25.0	55.6	33.3	8.3	0.0
手帳なし	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑧サービスの利用

問 13	あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。	1 つに○
------	-------------------------	-------

障害支援区分の認定について、身体では「わからない」が最も多く 37.1%、知的では「わからない」が最も多く 35.8%、精神では「わからない」が最も多く 55.0%、手帳なしでは「受けていない」が最も多く 50.4%となっています。



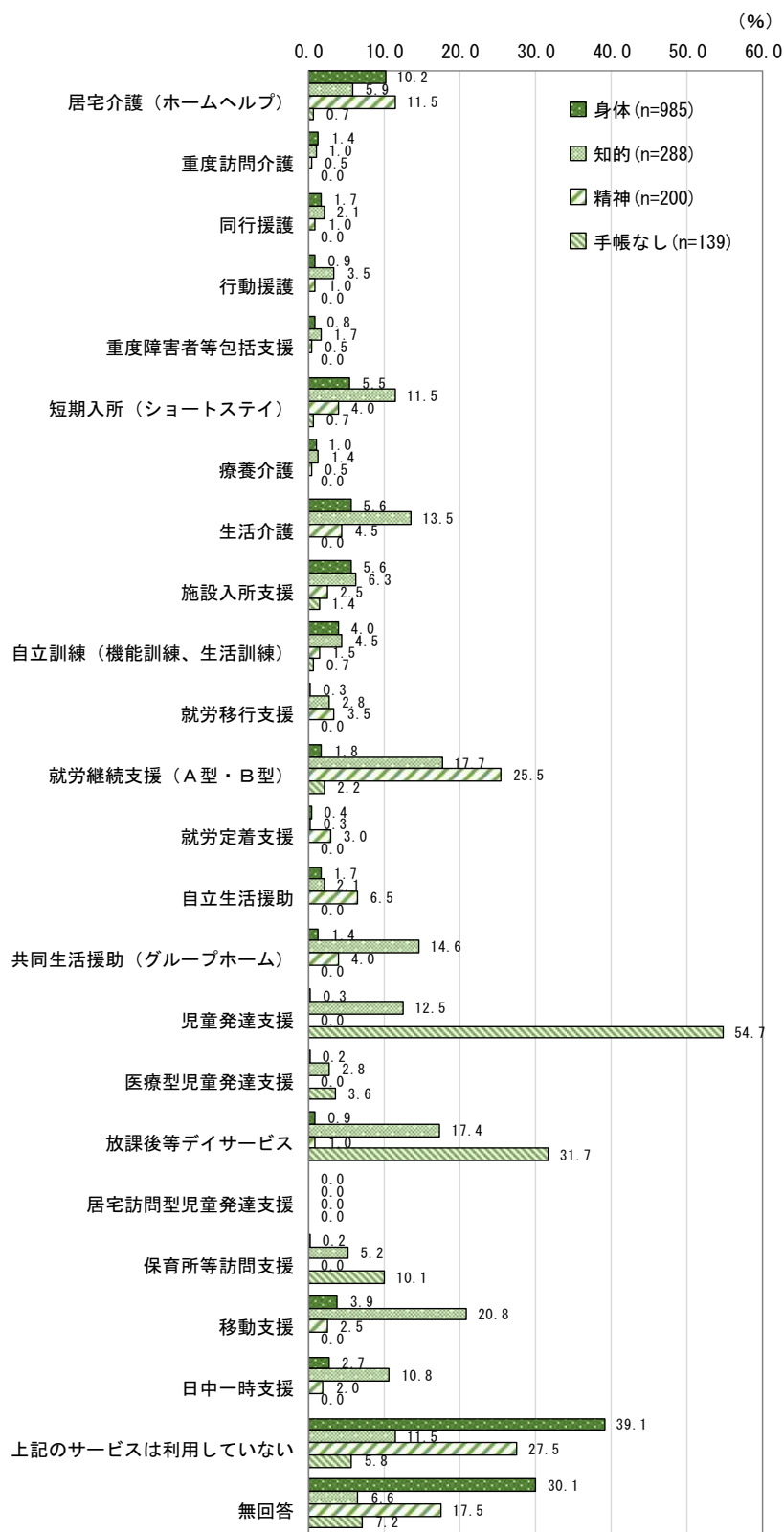
		n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	わからない	無回答
全体		1,589	1.4	1.5	1.3	1.7	2.5	2.3	27.9	39.1	22.3
身体	0～17歳	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	71.4	7.1
	18～39歳	34	0.0	0.0	2.9	8.8	8.8	26.5	17.6	29.4	5.9
	40～64歳	172	0.0	0.6	0.6	0.0	4.1	7.6	36.6	40.7	9.9
	65歳以上	757	2.1	1.1	0.3	0.4	0.3	0.7	27.9	36.2	31.2
知的	0～17歳	92	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.8	60.9	14.1
	18～39歳	98	2.0	5.1	7.1	7.1	12.2	10.2	16.3	26.5	13.3
	40～64歳	92	0.0	6.5	3.3	12.0	21.7	13.0	8.7	21.7	13.0
	65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	45	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	15.6	66.7	13.3
	40～64歳	129	0.8	2.3	6.2	1.6	2.3	0.0	20.9	51.2	14.7
	65歳以上	23	8.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	47.8	26.1
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.8	42.7	6.5
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	57.1

《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きします。》

問 14① 現在利用中のサービスはありますか。

すべてに○

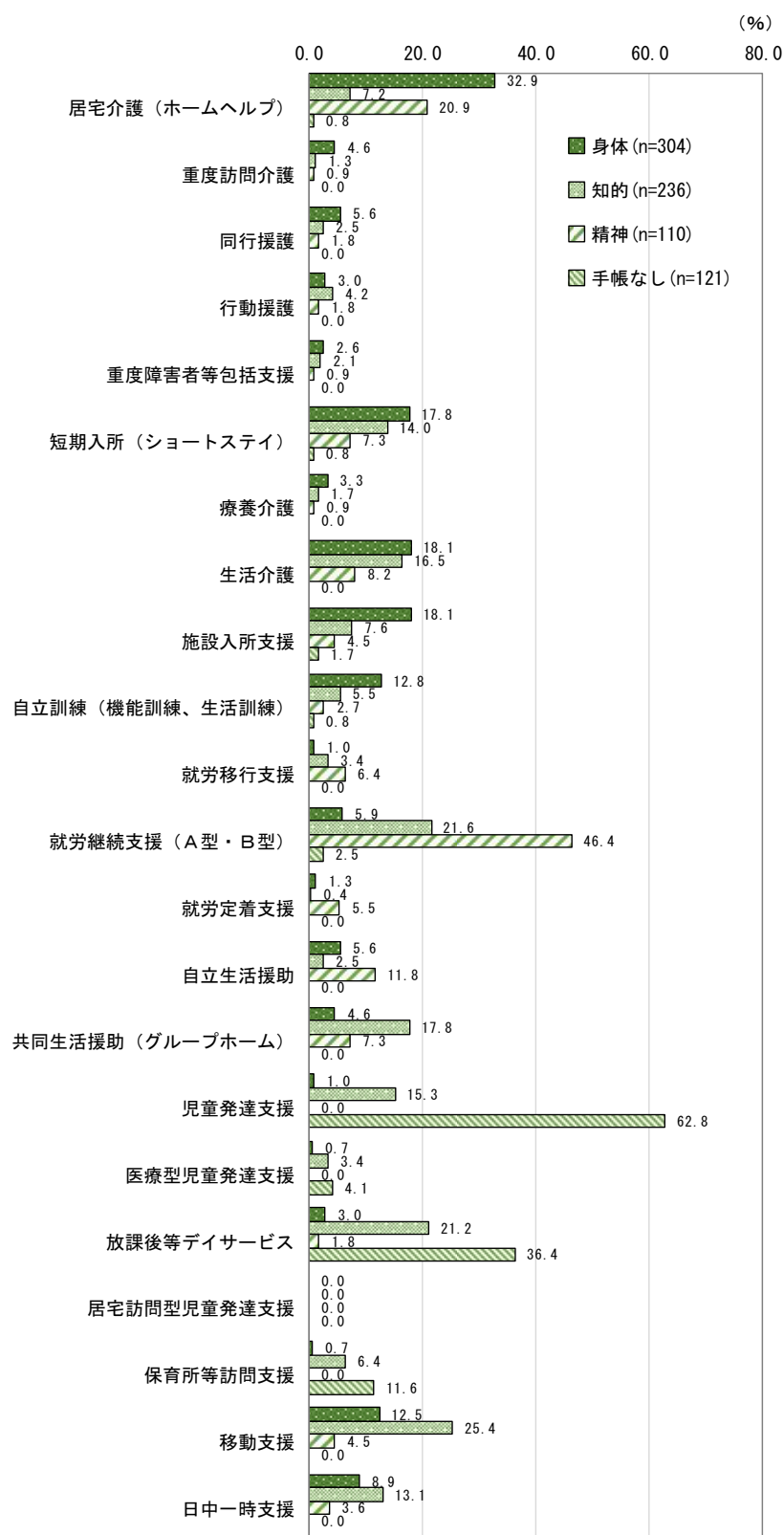
現在利用中のサービスについて、身体では「サービスは利用していない」が最も多く 39.1%、知的では「移動支援」が最も多く 20.8%、精神では「サービスは利用していない」が最も多く 27.5%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 54.7%となっています。



単位：％

		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショー トステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援(A 型・B 型)
全体		1,589	8.6	1.0	1.2	1.1	0.7	5.4	0.9	5.7	4.8	3.2	0.9	7.2
身体	0～17歳	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	34	11.8	11.8	2.9	2.9	5.9	26.5	0.0	26.5	0.0	0.0	2.9	14.7
	40～64歳	172	5.8	2.9	1.7	0.0	1.2	4.1	1.2	7.6	6.4	1.7	0.0	7.6
	65歳以上	757	11.1	0.7	1.7	1.1	0.5	5.0	1.1	4.4	5.8	4.8	0.3	0.0
知的	0～17歳	92	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
	18～39歳	98	7.1	1.0	1.0	4.1	1.0	21.4	0.0	19.4	3.1	3.1	6.1	26.5
	40～64歳	92	9.8	2.2	3.3	4.3	3.3	10.9	3.3	19.6	14.1	7.6	1.1	27.2
	65歳以上	4	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	25.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	31.1
	40～64歳	129	14.0	0.8	0.8	0.8	0.8	3.9	0.0	6.2	1.6	0.8	0.8	28.7
	65歳以上	23	17.4	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7	4.3	4.3	13.0	8.7	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
		n	就労定着 支援	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	移動支援	日中一時 支援	上記の サービス は利用し ていない	無回答
全体		1,589	0.5	2.1	3.1	7.4	0.9	6.4	0.0	2.0	5.7	3.7	30.1	23.6
身体	0～17歳	14	0.0	0.0	0.0	21.4	14.3	35.7	0.0	14.3	0.0	14.3	35.7	7.1
	18～39歳	34	2.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	17.6	32.4	2.9
	40～64歳	172	1.2	1.2	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.6	53.5	16.9
	65歳以上	757	0.1	1.8	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.9	2.4	36.6	34.2
知的	0～17歳	92	0.0	0.0	0.0	39.1	8.7	53.3	0.0	16.3	6.5	12.0	10.9	5.4
	18～39歳	98	0.0	1.0	9.2	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	34.7	14.3	14.3	7.1
	40～64歳	92	0.0	4.3	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.7	6.5	7.6	7.6
	65歳以上	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	45	4.4	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	22.2	17.8
	40～64歳	129	3.1	6.2	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.8	29.5	16.3
	65歳以上	23	0.0	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.1	26.1
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	61.3	4.0	33.9	0.0	11.3	0.0	0.0	4.8	4.8
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9

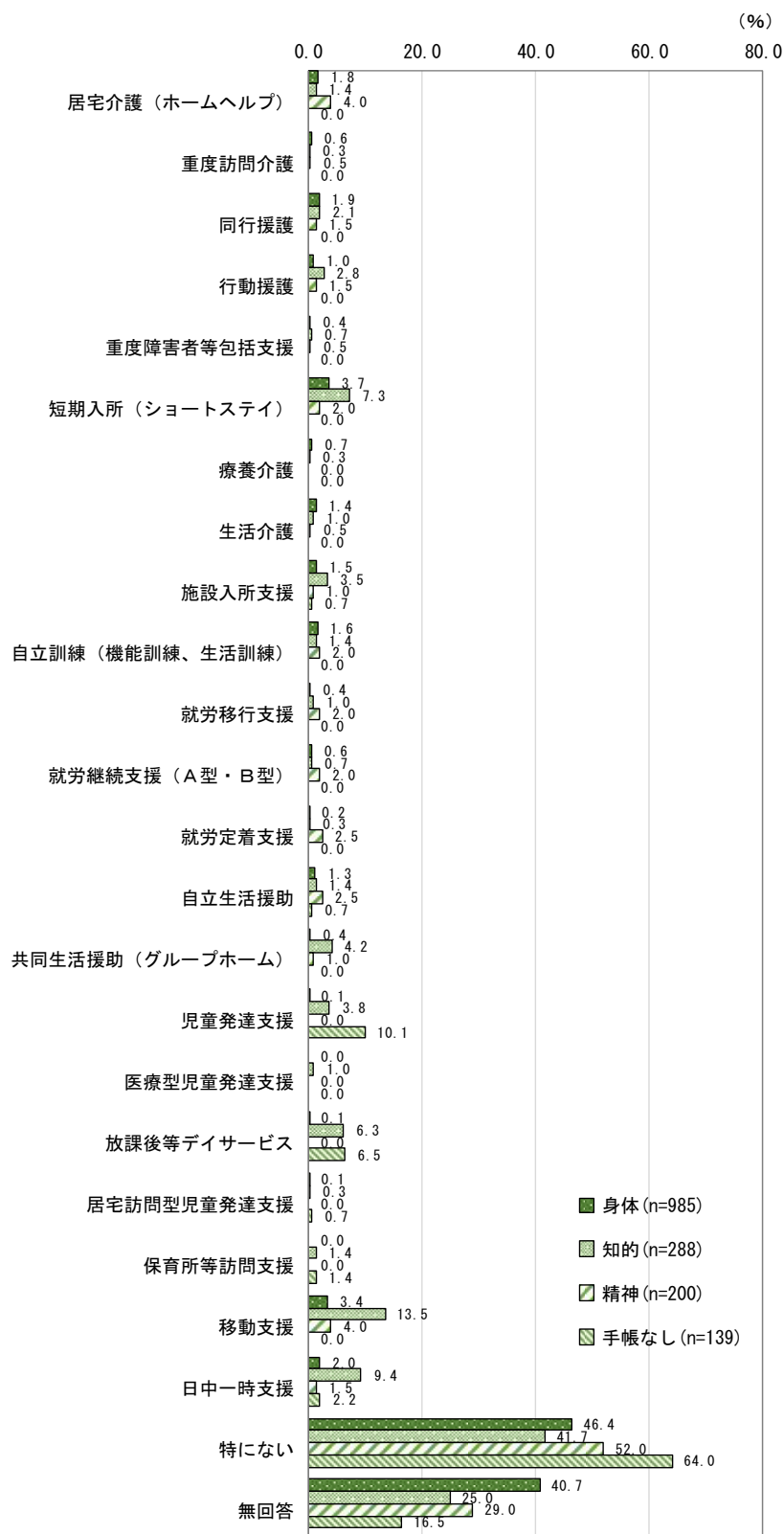
また、「サービスは利用していない」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く 32.9%、知的では「移動支援」が最も多く 25.4%、精神では「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く 46.4%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 62.8%となっています。



《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きします。》

問 14②	使いたいときに使えないサービスはありますか。	すべてに○
-------	------------------------	-------

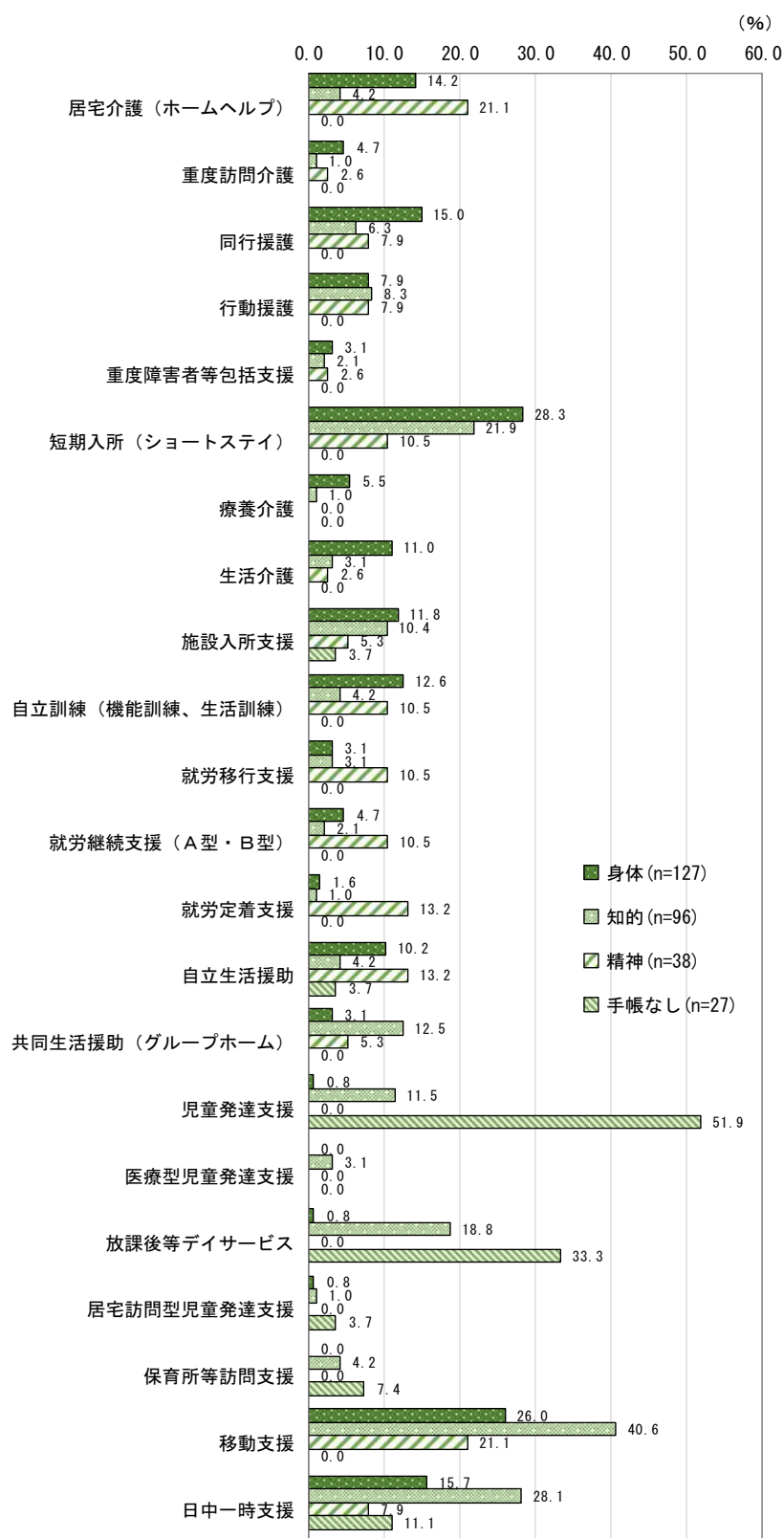
使いたいときに使えないサービスについて、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 46.4%、知的が 41.7%、精障が 52.0%、手帳なしが 64.0%となっています。



単位：％

		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショート ステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援(A 型、B 型)
全体		1,589	1.8	0.4	1.5	1.1	0.3	3.5	0.4	1.1	1.4	1.4	0.6	0.6
身体	0～17歳	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1
	18～39歳	34	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9
	40～64歳	172	2.3	1.7	2.9	1.7	1.2	2.9	0.6	0.0	1.7	0.6	1.2	1.7
	65歳以上	757	1.8	0.4	1.8	0.7	0.3	3.2	0.8	1.8	1.6	1.8	0.0	0.0
知的	0～17歳	92	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1	1.1
	18～39歳	98	2.0	0.0	2.0	4.1	1.0	15.3	0.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0
	40～64歳	92	2.2	1.1	3.3	3.3	1.1	5.4	1.1	0.0	6.5	0.0	1.1	0.0
	65歳以上	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	2.2
	40～64歳	129	5.4	0.8	2.3	2.3	0.8	2.3	0.0	0.8	0.8	1.6	2.3	2.3
	65歳以上	23	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
		n	就労定着 支援	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	移動支援	日中一時 支援	特にない	無回答
全体		1,589	0.4	1.3	0.8	1.6	0.2	1.9	0.2	0.4	4.3	3.1	48.0	35.2
身体	0～17歳	14	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	71.4	0.0
	18～39歳	34	2.9	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	5.9	38.2	23.5
	40～64歳	172	0.6	1.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	1.2	57.6	29.7
	65歳以上	757	0.0	1.2	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	2.4	1.7	44.1	44.3
知的	0～17歳	92	0.0	1.1	1.1	12.0	3.3	19.6	1.1	4.3	9.8	14.1	46.7	14.1
	18～39歳	98	1.0	2.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.3	12.2	45.9	21.4
	40～64歳	92	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	1.1	31.5	40.2
	65歳以上	4	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	45	4.4	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	2.2	51.1	28.9
	40～64歳	129	2.3	2.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	1.6	55.0	26.4
	65歳以上	23	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	30.4	47.8
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.8	0.0	11.3	0.0	6.5	0.8	1.6	0.0	2.4	66.1	13.7
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1

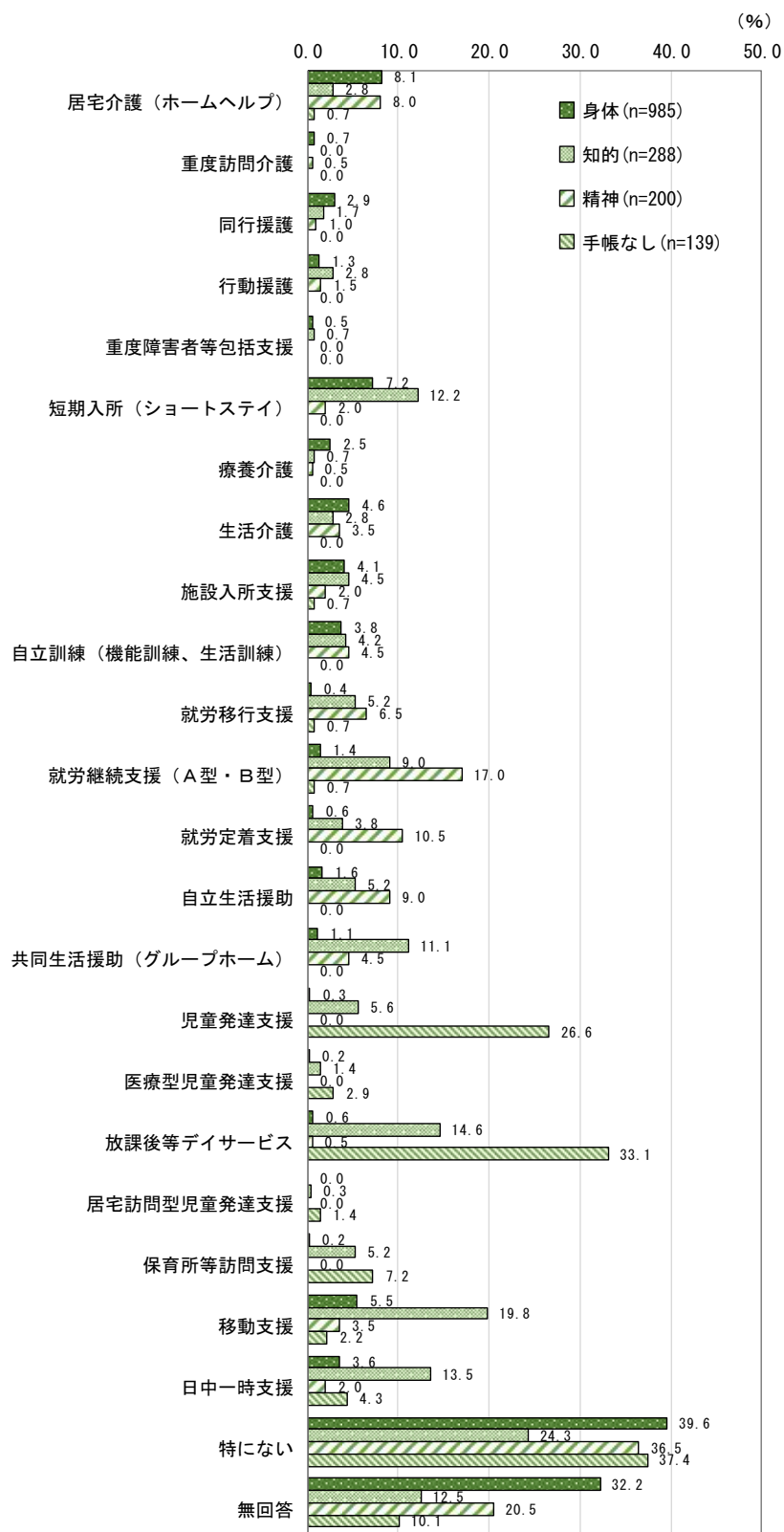
また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「短期入所」が最も多く 28.3%、知的では「移動支援」が最も多く 40.6%、精神では「移動支援」が最も多く 21.1%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 51.9%となっています。



《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きします。》

問 14③	今後、新たに利用を始めた、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）はどれですか。	すべてに○
-------	--	-------

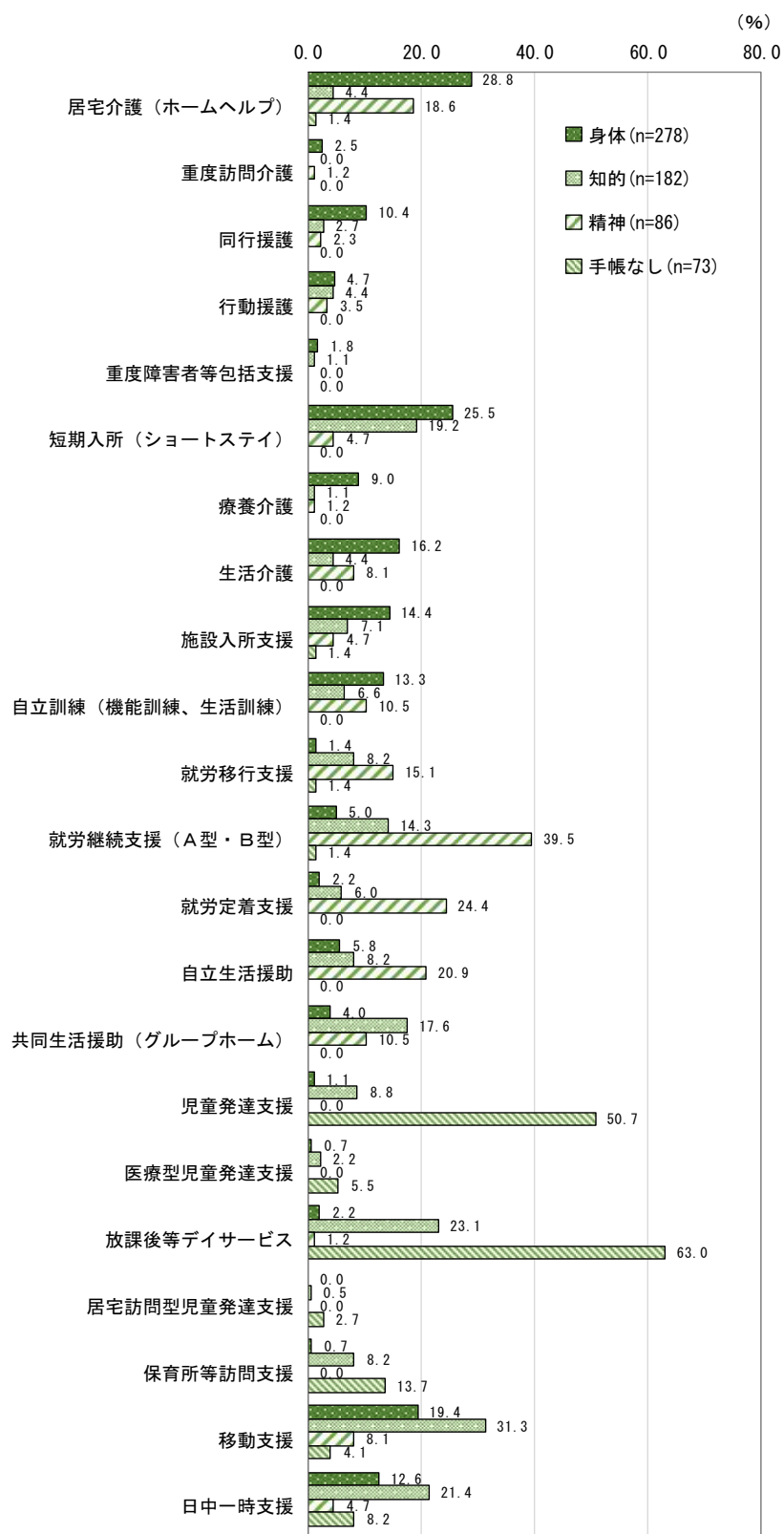
今後、新たに利用を始めた、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）について、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 39.6%、知的が 24.3%、精神が 36.5%、手帳なしが 37.4%となっています。



単位：％

		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショート ステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援(A 型、B 型)
	全体	1,589	6.4	0.6	2.2	1.2	0.4	6.6	1.8	3.5	3.3	3.5	1.8	4.3
身体	0～17歳	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
	18～39歳	34	8.8	2.9	0.0	2.9	2.9	17.6	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	8.8
	40～64歳	172	5.2	1.2	0.6	0.0	0.0	3.5	1.7	4.7	4.1	4.1	1.2	5.2
	65歳以上	757	9.0	0.5	3.7	1.6	0.5	7.7	2.9	4.9	4.4	3.8	0.0	0.1
知的	0～17歳	92	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	4.3	3.3	2.2
	18～39歳	98	3.1	0.0	2.0	4.1	1.0	24.5	0.0	1.0	2.0	3.1	10.2	16.3
	40～64歳	92	4.3	0.0	2.2	2.2	1.1	6.5	2.2	5.4	9.8	4.3	2.2	8.7
	65歳以上	4	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	18～39歳	45	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	15.6	22.2
	40～64歳	129	7.8	0.0	1.6	1.6	0.0	3.1	0.8	4.7	2.3	5.4	3.9	17.8
	65歳以上	23	21.7	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
		n	就労定着 支援	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	移動支援	日中一時 支援	特になし	無回答
	全体	1,589	2.1	3.0	2.8	3.6	0.5	6.1	0.3	1.7	6.8	4.8	36.7	26.0
身体	0～17歳	14	0.0	0.0	7.1	21.4	14.3	21.4	0.0	14.3	14.3	35.7	42.9	0.0
	18～39歳	34	2.9	5.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	14.7	32.4	17.6
	40～64歳	172	2.3	1.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	2.9	53.5	23.3
	65歳以上	757	0.1	1.6	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	4.9	2.6	36.9	35.0
知的	0～17歳	92	0.0	0.0	1.1	17.4	4.3	45.7	1.1	16.3	14.1	17.4	26.1	4.3
	18～39歳	98	7.1	8.2	17.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.5	15.3	25.5	9.2
	40～64歳	92	4.3	6.5	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.7	8.7	19.6	25.0
	65歳以上	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	45	20.0	4.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	2.2	28.9	24.4
	40～64歳	129	8.5	12.4	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.3	38.0	17.8
	65歳以上	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.5	30.4
手帳なし	0～17歳	124	0.0	0.0	0.0	29.8	3.2	36.3	1.6	8.1	1.6	4.8	37.1	7.3
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	42.9

また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く28.8%、知的では「移動支援」が最も多く31.3%、精神では「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く39.5%、手帳なしでは「放課後等デイサービス」が最も多く63.0%となっています。

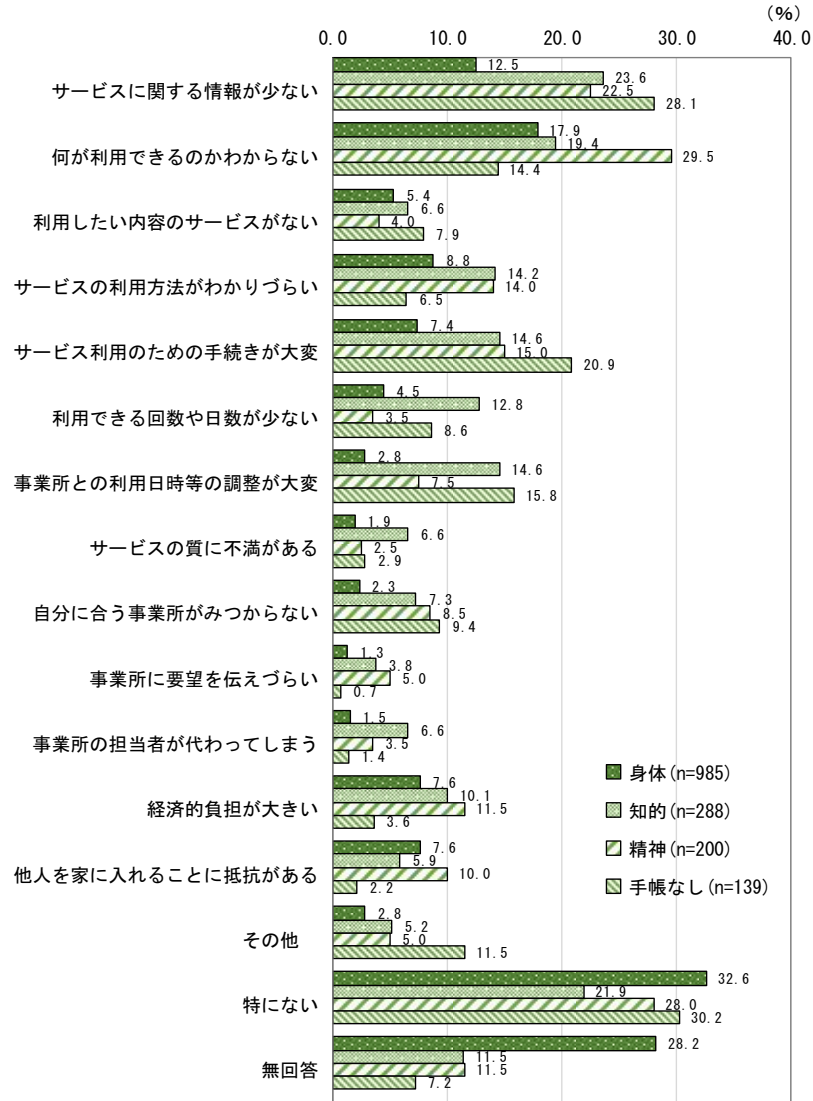


問 15

サービスを利用する際、または利用しようとした際に、あなたは、困ったり、不便だと思うことはありますか。

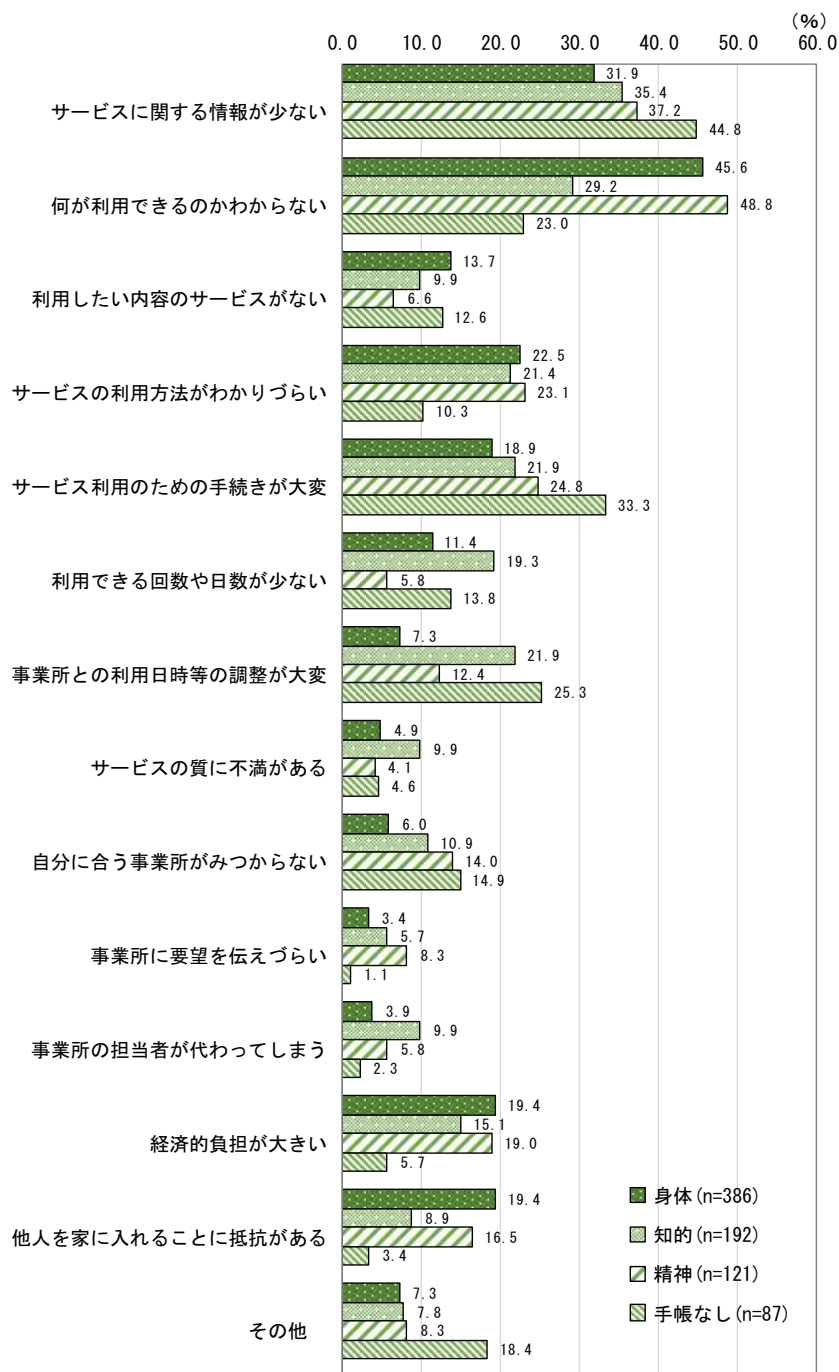
3つまで○

サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことについて、身体では「特にない」が最も多く 32.6%、知的では「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 23.6%、精神では「特にない」が最も多く 28.0%、手帳なしでは「特にない」が最も多く 30.2%となっています。



	n	サービスに関する情報が少ない	何が利用できるのかわからない	利用したい内容のサービスがない	サービスの利用方法がわかりづらい	サービス利用のための手続きが大変	利用できる回数や日数が少ない	事業所との利用日時等の調整が大変	サービスの質に不満がある	自分に合う事業所がみつからない	事業所に要望を伝えづらい	事業所の担当者が代わってしまう	経済的負担が大きい	他人を家に入れることに抵抗がある	その他	特にない	無回答
全体	1,589	17.4	19.4	5.7	10.1	10.5	5.6	6.2	2.8	4.5	2.1	2.3	8.3	6.9	4.2	29.9	22.2
身体	0～17歳	14	35.7	14.3	21.4	0.0	21.4	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	21.4	7.1	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	34	14.7	14.7	0.0	14.7	8.8	5.9	11.8	2.9	5.9	0.0	8.8	8.8	17.6	5.9	32.4
	40～64歳	172	14.0	20.9	6.4	9.9	7.6	5.2	5.2	1.2	4.1	4.1	1.7	5.8	5.2	2.3	41.3
	65歳以上	757	11.8	17.6	5.2	8.6	7.1	4.0	1.8	2.0	1.8	0.8	1.2	7.8	7.8	2.9	30.3
知的	0～17歳	92	38.0	22.8	9.8	14.1	16.3	20.7	16.3	7.6	12.0	2.2	4.3	10.9	4.3	7.6	14.1
	18～39歳	98	24.5	22.4	5.1	20.4	14.3	7.1	16.3	7.1	8.2	4.1	8.2	12.2	10.2	6.1	21.4
	40～64歳	92	6.5	12.0	5.4	8.7	12.0	9.8	12.0	5.4	2.2	5.4	6.5	7.6	3.3	2.2	29.3
	65歳以上	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	20.0	35.6	2.2	20.0	15.6	2.2	0.0	4.4	15.6	6.7	2.2	2.2	17.8	2.2	24.4
	40～64歳	129	23.3	29.5	4.7	13.2	14.7	3.9	10.9	2.3	7.8	5.4	3.1	14.7	8.5	7.0	27.1
	65歳以上	23	13.0	17.4	0.0	8.7	13.0	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7	13.0	4.3	0.0	43.5
手帳なし	0～17歳	124	29.8	15.3	8.9	5.6	22.6	8.9	17.7	2.4	10.5	0.8	0.8	4.0	1.6	11.3	30.6
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	65歳以上	7	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9

また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「何が利用できるのかわからない」が最も多く 45.6%、知的では「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 35.4%、精神では「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 37.2%、手帳なしでは「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 44.8%となっています。

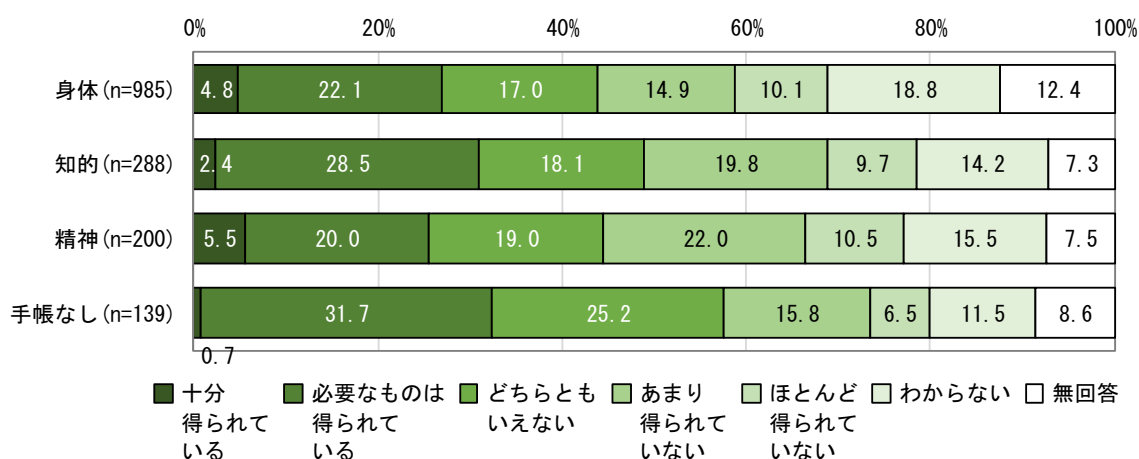


⑨情報の入手・相談

問 16	あなたはふだん、 ^が 障害に関することや福祉サービスなどに関する情報について、十分に得られていると思いますか。	1 つに○
------	--	-------

障害に関することや福祉サービスなどに関する情報について、すべてにおいて「必要なものは得られている」が最も多く、身体が 22.1%、知的が 28.5%、精神が 20.0%、手帳なしが 31.7%となっています。

また、「十分得られている」と「必要なものは得られている」を『得られている』、「あまり得られていない」と「ほとんど得られていない」を『得られていない』とすると、身体では『得られている』が 26.9%、『得られていない』が 25.0%で、『得られている』が 1.9 ポイント多く、知的では『得られている』が 30.9%、『得られていない』が 29.5%で、『得られている』が 1.4 ポイント多く、精神では『得られている』が 25.5%、『得られていない』が 32.5%で、『得られていない』が 7.0 ポイント多く、手帳なしでは『得られている』が 32.4%、『得られていない』が 22.3%で、『得られている』が 10.1 ポイント多くなっています。



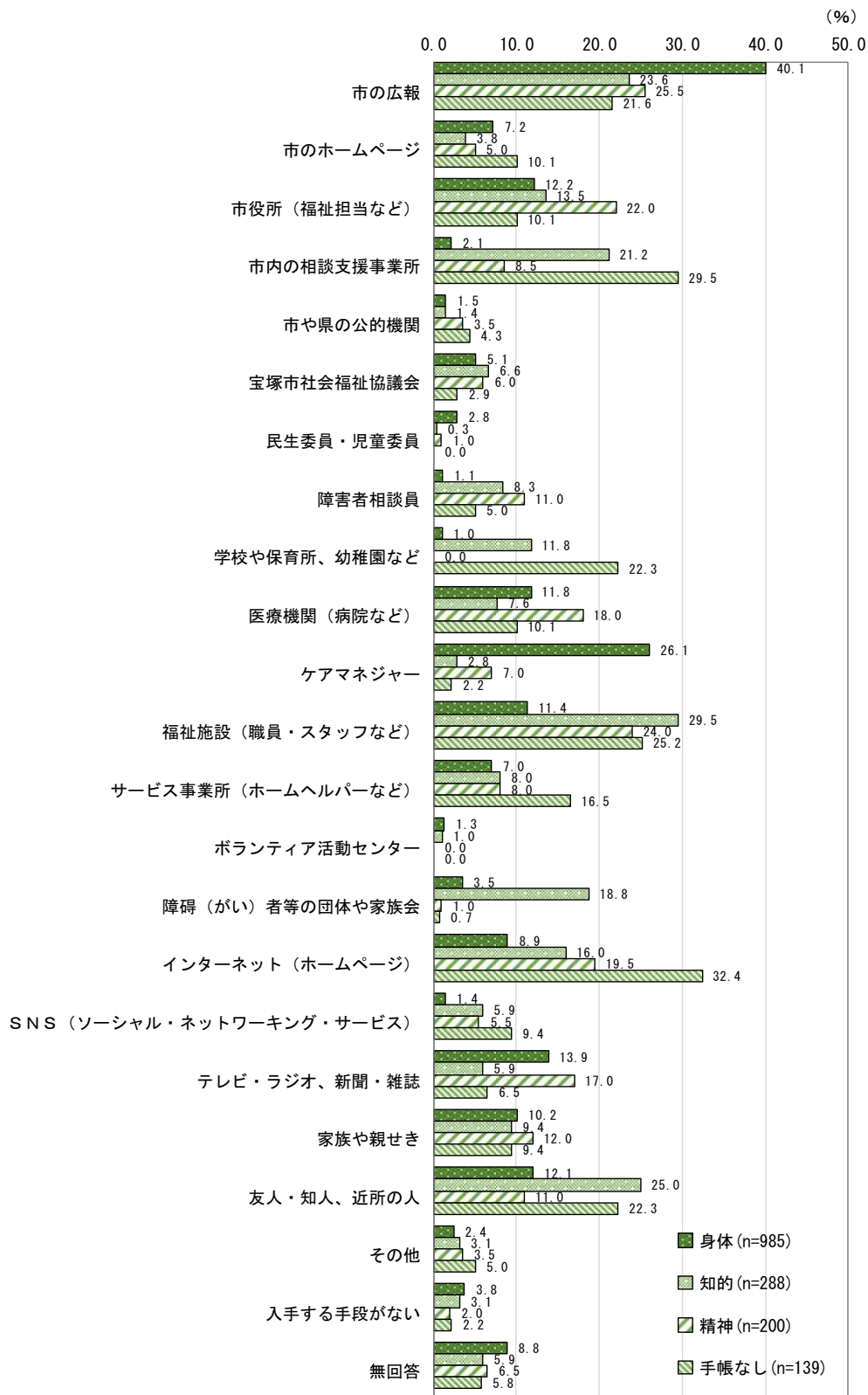
		n	十分得られている	必要なものは得られている	どちらともいえない	あまり得られていない	ほとんど得られていない	わからない	無回答
全体		1,589	4.1	23.6	17.7	16.6	10.1	17.0	11.0
身体	0～17歳	14	0.0	21.4	42.9	14.3	14.3	7.1	0.0
	18～39歳	34	5.9	20.6	32.4	14.7	5.9	17.6	2.9
	40～64歳	172	5.8	17.4	21.5	18.6	14.0	16.9	5.8
	65歳以上	757	4.5	23.4	14.9	14.1	9.4	19.7	14.0
知的	0～17歳	92	2.2	32.6	17.4	23.9	12.0	8.7	3.3
	18～39歳	98	1.0	28.6	20.4	19.4	14.3	9.2	7.1
	40～64歳	92	4.3	25.0	17.4	17.4	2.2	21.7	12.0
	65歳以上	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
	18～39歳	45	6.7	11.1	17.8	28.9	6.7	24.4	4.4
	40～64歳	129	3.9	25.6	15.5	22.5	11.6	12.4	8.5
	65歳以上	23	13.0	8.7	34.8	8.7	8.7	17.4	8.7
手帳なし	0～17歳	124	0.8	32.3	28.2	13.7	5.6	12.1	7.3
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6

問 17

ふだん、どこから情報を得ていますか。

すべてに○

ふだんの情報の入手先について、身体では「市の広報」が最も多く 40.1%、知的では「福祉施設（職員・スタッフなど）」が最も多く 29.5%、精神では「市の広報」が最も多く 25.5%、手帳なしでは「学校や保育所、幼稚園など」「友人・知人、近所の人」が最も多くそれぞれ 22.3%となっています。



単位：％

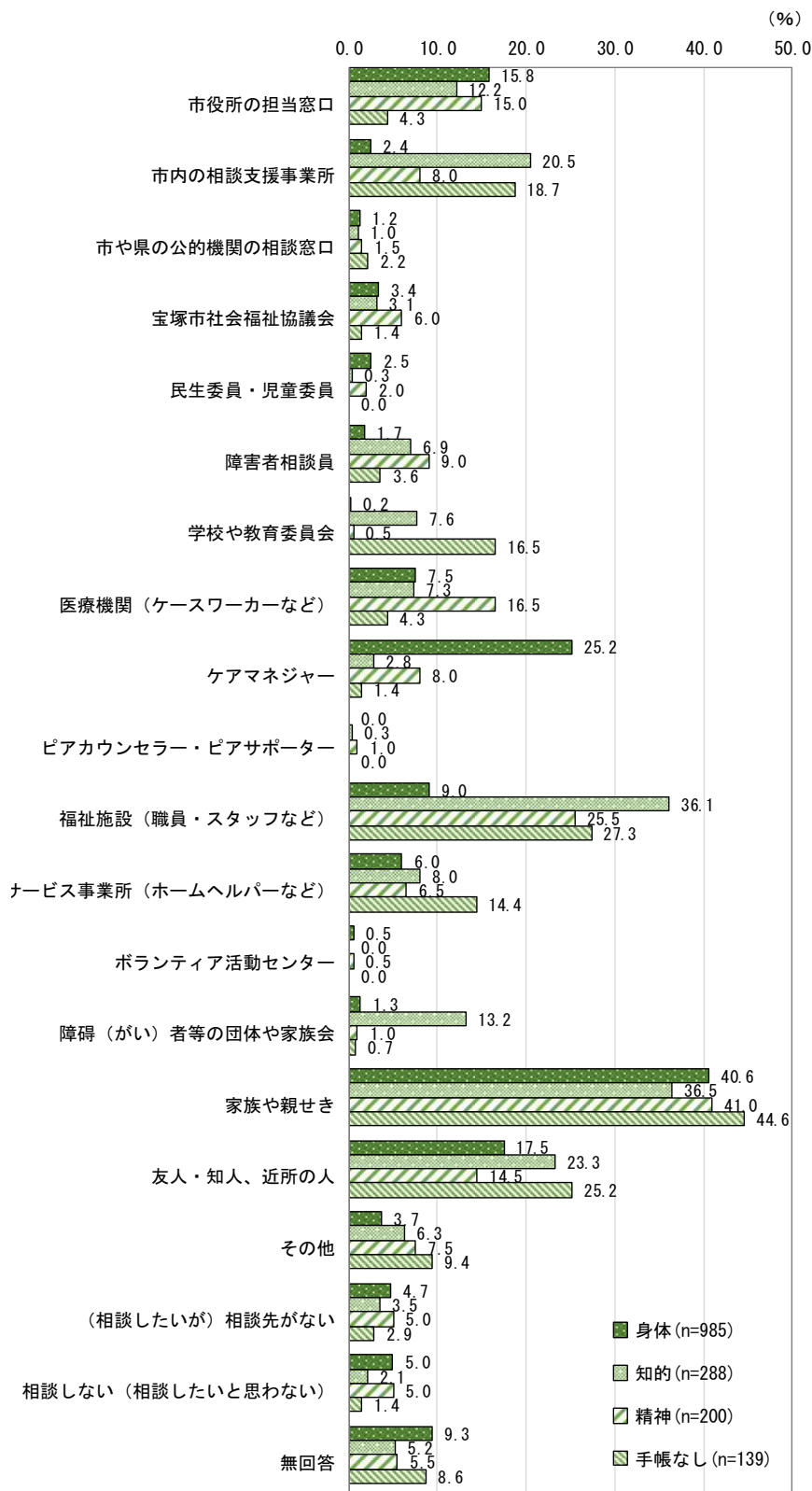
		市の広報	市のホームページ	市役所 (福祉担当など)	市内の相談支援事業所	市や県の公的機関	宝塚市社会福祉協議会	民生委員・児童委員	障害者相談員	学校や保育所、幼稚園など	医療機関 (病院など)	ケアマネジャー	福祉施設 (職員・スタッフなど)
	n												
全体	1,589	33.9	6.9	12.8	8.5	2.0	4.7	2.0	3.7	4.6	11.8	17.6	16.6
身体	0～17歳	14	35.7	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	50.0	35.7	0.0	21.4
	18～39歳	34	20.6	8.8	20.6	23.5	0.0	2.9	0.0	2.9	17.6	2.9	35.3
	40～64歳	172	37.8	13.4	16.3	1.7	2.3	6.4	1.2	3.5	11.6	11.6	13.4
	65歳以上	757	41.7	5.9	11.0	1.2	1.3	4.9	3.4	0.4	11.0	30.9	9.8
知的	0～17歳	92	23.9	3.3	7.6	17.4	2.2	1.1	0.0	7.6	33.7	1.1	15.2
	18～39歳	98	21.4	7.1	17.3	29.6	0.0	6.1	1.0	9.2	2.0	5.1	32.7
	40～64歳	92	27.2	1.1	15.2	17.4	2.2	10.9	0.0	7.6	0.0	2.2	40.2
	65歳以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
精神	0～17歳	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
	18～39歳	45	17.8	8.9	17.8	8.9	4.4	4.4	0.0	11.1	0.0	26.7	24.4
	40～64歳	129	27.1	3.1	24.8	10.1	3.1	6.2	0.8	13.2	0.0	16.3	26.4
	65歳以上	23	30.4	8.7	17.4	0.0	4.3	8.7	4.3	0.0	4.3	30.4	13.0
手帳なし	0～17歳	124	21.8	8.9	10.5	31.5	4.8	3.2	0.0	4.8	25.0	10.5	24.2
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1
	n												
全体	1,589	7.9	1.0	5.0	13.7	3.4	12.5	10.3	14.5	2.9	3.5	8.3	
身体	0～17歳	14	7.1	7.1	28.6	0.0	0.0	7.1	28.6	0.0	0.0	0.0	
	18～39歳	34	11.8	2.9	14.7	14.7	0.0	5.9	11.8	2.9	5.9	2.9	
	40～64歳	172	4.1	1.2	7.6	19.2	5.2	13.4	8.1	10.5	4.1	5.2	6.4
	65歳以上	757	7.5	1.2	1.6	6.5	0.7	14.8	10.7	11.5	2.1	3.4	9.6
知的	0～17歳	92	7.6	0.0	8.7	29.3	13.0	5.4	7.6	42.4	3.3	2.2	3.3
	18～39歳	98	10.2	1.0	19.4	14.3	3.1	7.1	9.2	21.4	2.0	4.1	5.1
	40～64歳	92	6.5	2.2	28.3	4.3	2.2	5.4	9.8	12.0	4.3	3.3	9.8
	65歳以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	2.2	0.0	0.0	31.1	6.7	11.1	28.9	11.1	4.4	0.0	4.4
	40～64歳	129	9.3	0.0	0.8	19.4	6.2	17.8	6.2	12.4	3.9	2.3	7.0
	65歳以上	23	13.0	0.0	4.3	0.0	0.0	26.1	4.3	0.0	0.0	4.3	8.7
手帳なし	0～17歳	124	16.1	0.0	0.8	32.3	9.7	5.6	9.7	23.4	5.6	2.4	4.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6

問 18

あなたは、悩みごとや困りごとがあったとき、だれに（どこに）相談していますか。

すべてに○

悩みごとや困りごとがあったときの相談先について、すべてにおいて「家族や親せき」が最も多く、身体が40.6%、知的が36.5%、精神が41.0%、手帳なしが44.6%となっています。



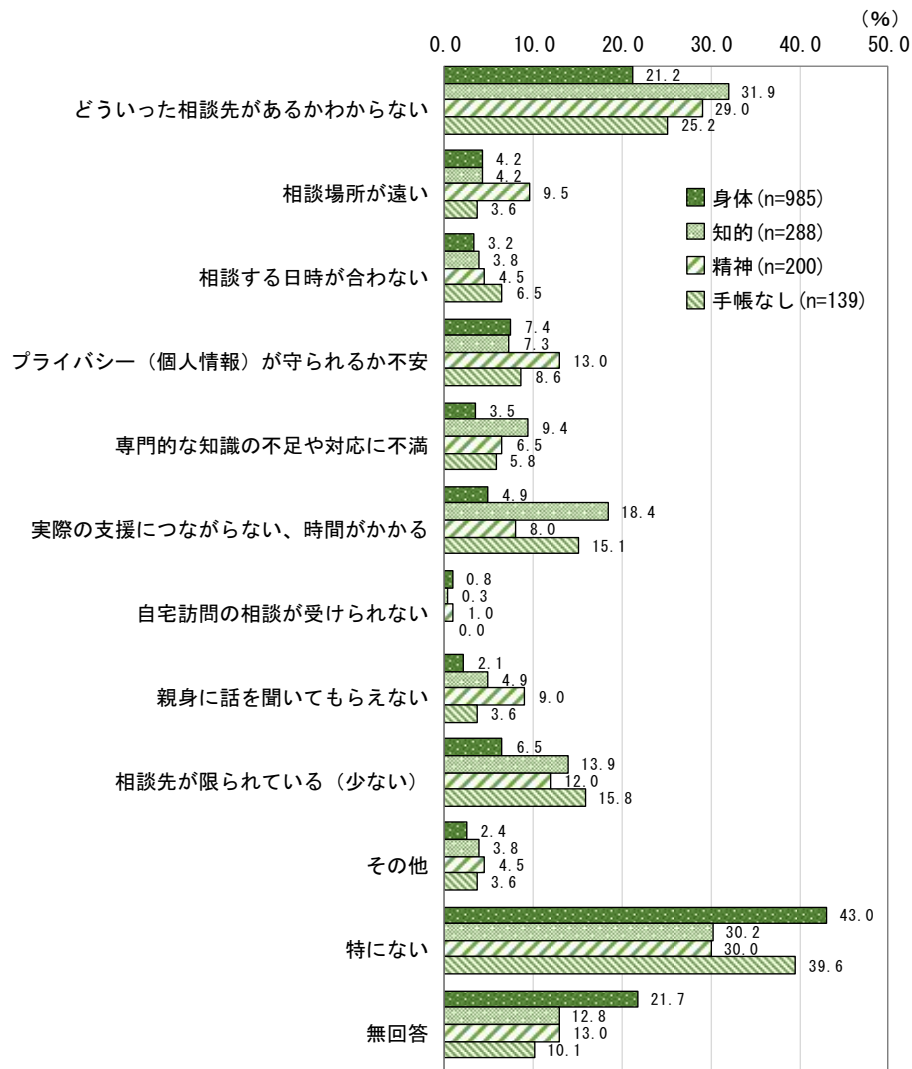
単位：％												
		市役所の 担当窓口	市内の相 談支援事 業所	市や県の 公的機関 の相談窓 口	宝塚市社 会福祉協 議会	民生委 員・児童 委員	障害者相 談員	学校や教 育委員会	医療機関 (ケース ワーカー など)	ケアマネ ジャー	ピアカウ ンセー ラー・ピ アサポー ター	
	全体	1,589	13.7	7.4	1.4	3.2	1.9	3.3	3.0	8.4	17.2	0.2
身 体	0～17歳	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0
	18～39歳	34	29.4	20.6	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	8.8	2.9	0.0
	40～64歳	172	19.8	1.7	1.2	3.5	2.9	2.3	0.0	5.8	7.6	0.0
	65歳以上	757	14.7	1.8	1.3	3.6	2.6	1.2	0.0	7.8	30.8	0.0
知 的	0～17歳	92	7.6	13.0	1.1	0.0	0.0	5.4	23.9	7.6	3.3	0.0
	18～39歳	98	13.3	31.6	0.0	1.0	1.0	5.1	0.0	8.2	2.0	0.0
	40～64歳	92	15.2	17.4	2.2	7.6	0.0	9.8	0.0	5.4	2.2	1.1
	65歳以上	4	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
精 神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	18～39歳	45	13.3	8.9	0.0	2.2	0.0	6.7	0.0	20.0	4.4	0.0
	40～64歳	129	17.1	9.3	2.3	8.5	2.3	10.9	0.0	15.5	4.7	1.6
	65歳以上	23	8.7	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7	34.8	0.0
手 帳 な し	0～17歳	124	4.0	21.0	2.4	1.6	0.0	3.2	18.5	4.0	0.8	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
		福祉施設 (職員・ スタッフ など)	サービ ス事業 所（ホ ーム ヘルパ ーな ど）	ボラン ティア 活動セ ンター	障 碍（が い）者 等の 団体 や家 族会	家族 や親 せき	友人・ 知人・ 近所 の人	その他	（相談 したい が） 相談 先が ない	相談 しな い（相 談し たい と思 わな い）	無回答	
	全体	1,589	16.4	7.0	0.4	3.0	40.7	18.4	5.0	4.3	4.2	8.6
身 体	0～17歳	14	21.4	7.1	0.0	7.1	71.4	64.3	0.0	7.1	0.0	0.0
	18～39歳	34	23.5	11.8	0.0	8.8	47.1	32.4	2.9	2.9	2.9	0.0
	40～64歳	172	13.4	5.2	0.6	4.7	37.8	21.5	5.2	5.8	9.9	6.4
	65歳以上	757	7.3	5.9	0.5	0.1	40.4	15.1	3.3	4.5	4.1	10.3
知 的	0～17歳	92	15.2	8.7	0.0	5.4	47.8	39.1	6.5	5.4	3.3	4.3
	18～39歳	98	38.8	6.1	0.0	15.3	36.7	19.4	5.1	4.1	1.0	4.1
	40～64歳	92	52.2	9.8	0.0	19.6	25.0	12.0	6.5	1.1	2.2	7.6
	65歳以上	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精 神	0～17歳	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	17.8	2.2	0.0	0.0	62.2	22.2	13.3	2.2	2.2	2.2
	40～64歳	129	29.5	8.5	0.8	0.8	34.1	12.4	6.2	7.0	7.0	6.2
	65歳以上	23	17.4	4.3	0.0	4.3	34.8	8.7	4.3	0.0	0.0	8.7
手 帳 な し	0～17歳	124	26.6	13.7	0.0	0.8	46.8	28.2	10.5	1.6	1.6	7.3
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3

問 19

悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることはありますか。

3 つまで○

悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることについて、身体では「特にない」が最も多く 43.0%、知的では「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 31.9%、精神では「特にない」が最も多く 30.0%、手帳なしでは「特にない」が最も多く 39.6%となっています。



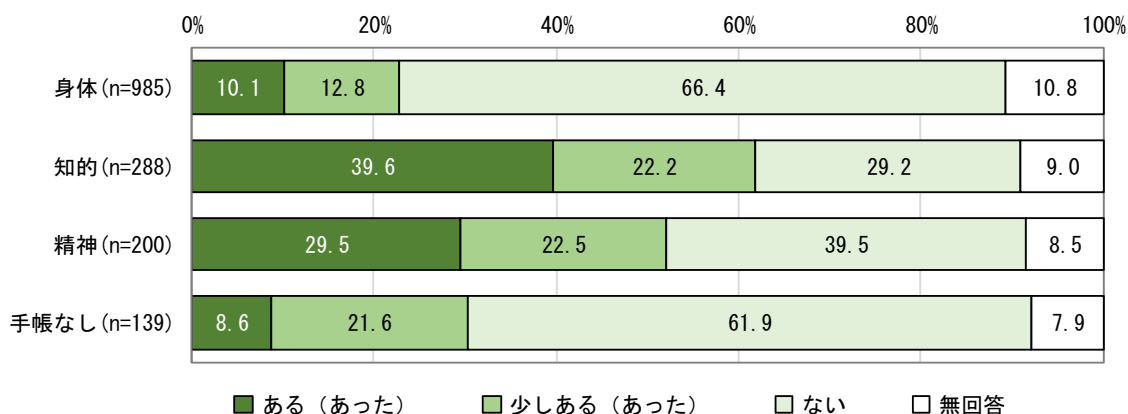
		単位：%											
	n	どういった相談先があるかわからない	相談場所が遠い	相談する日時が合わない	プライバシー（個人情報）が守られるか不安	専門的な知識の不足や対応に不満	実際の支援につながらない、時間がかかる	自宅訪問の相談が受けられない	親身に話を聞いてもらえない	相談先が限られている（少ない）	その他	特にない	無回答
全体	1,589	24.5	4.8	3.8	8.1	5.0	8.3	0.7	3.6	9.3	3.0	38.8	18.4
身体	0～17歳	14	35.7	0.0	7.1	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	42.9	0.0
	18～39歳	34	23.5	2.9	8.8	8.8	5.9	0.0	2.9	11.8	2.9	35.3	11.8
	40～64歳	172	24.4	5.2	6.4	9.3	6.4	0.6	4.1	5.8	2.3	43.0	13.4
	65歳以上	757	20.3	4.1	2.2	6.9	2.6	4.4	0.9	6.1	2.5	43.5	24.0
知的	0～17歳	92	43.5	5.4	5.4	5.4	8.7	18.5	0.0	5.4	13.0	2.2	9.8
	18～39歳	98	37.8	4.1	4.1	11.2	13.3	24.5	0.0	3.1	14.3	5.1	7.1
	40～64歳	92	14.1	2.2	2.2	5.4	6.5	13.0	1.1	6.5	14.1	4.3	22.8
	65歳以上	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	45	20.0	11.1	6.7	13.3	6.7	11.1	0.0	13.3	22.2	2.2	6.7
	40～64歳	129	32.6	10.9	3.1	13.2	6.2	8.5	1.6	7.8	10.1	6.2	13.2
	65歳以上	23	21.7	0.0	4.3	13.0	8.7	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	26.1
手帳なし	0～17歳	124	26.6	4.0	6.5	9.7	5.6	14.5	0.0	3.2	15.3	3.2	7.3
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9

⑩権利擁護

問 20- 1	あなたは、 ^{がい} 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。	1 つに○
---------	---	-------

^{がい}障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについて、身体では「ない」が最も多く 66.4%、知的では「ある（あった）」が最も多く 39.6%、精神では「ない」が最も多く 39.5%、手帳なしでは「ない」が最も多く 61.9%となっています。

また、「ある（あった）」と「少しある（あった）」を『ある（あった）』とすると、身体が 22.9%、知的が 61.8%、精神が 52.0%、手帳なしが 30.2%で、知的が最も多くなっています。



単位：％

	n	ある (あつた)	少しある (あつた)	ない	無回答	
全体	1,589	16.4	16.7	56.8	10.1	
身体	0～17歳	14	28.6	21.4	42.9	7.1
	18～39歳	34	38.2	11.8	41.2	8.8
	40～64歳	172	19.8	20.3	56.4	3.5
	65歳以上	757	6.3	11.1	70.1	12.4
知的	0～17歳	92	35.9	26.1	34.8	3.3
	18～39歳	98	45.9	21.4	23.5	9.2
	40～64歳	92	38.0	18.5	28.3	15.2
	65歳以上	4	0.0	25.0	75.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	33.3	0.0	0.0
	18～39歳	45	37.8	31.1	28.9	2.2
	40～64歳	129	30.2	18.6	41.9	9.3
	65歳以上	23	4.3	26.1	52.2	17.4
手帳なし	0～17歳	124	9.7	24.2	60.5	5.6
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	60.0	40.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	71.4	28.6

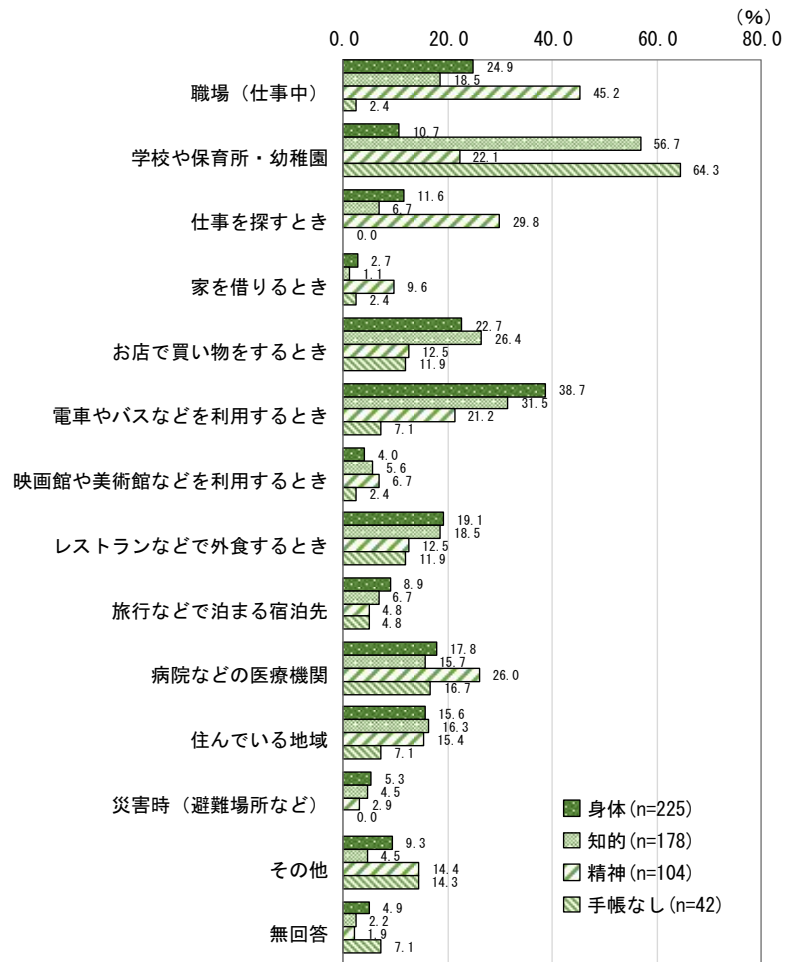
《問 20-1 で「ある（あった）」または「少しある（あった）」と回答した方にお聞きします。》

問 20-2

それはどのような場所（場面）でしたか。

すべてに○

障^{がい}碍があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある人に、場所（場面）について聞いたところ、身体では「電車やバスなどを利用するとき」が最も多く 38.7%、知的では「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 56.7%、精神では「職場（仕事中）」が最も多く 45.2%、手帳なしでは「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 64.3%となっています。



単位：%																
		n	職場（仕事中）	学校や保育所・幼稚園	仕事を探するとき	家を借りるとき	お店で買物をするとき	電車やバスなどを利用するとき	映画館や美術館などを利用するとき	レストランなどで外食するとき	旅行などで泊まる宿泊先	病院などの医療機関	住んでいる地域	災害時（避難場所など）	その他	無回答
	全体	525	24.0	31.2	12.8	3.6	20.4	29.0	4.8	15.8	6.7	18.3	14.5	4.2	9.3	3.6
身体	0～17歳	7	0.0	57.1	0.0	0.0	14.3	57.1	0.0	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	17	35.3	64.7	23.5	5.9	23.5	47.1	5.9	23.5	17.6	11.8	11.8	0.0	23.5	0.0
	40～64歳	69	39.1	11.6	18.8	2.9	29.0	43.5	4.3	24.6	7.2	14.5	14.5	5.8	4.3	4.3
	65歳以上	132	17.4	0.8	6.8	2.3	19.7	34.1	3.8	14.4	7.6	21.2	16.7	6.1	10.6	6.1
知的	0～17歳	57	1.8	70.2	0.0	0.0	28.1	24.6	10.5	19.3	10.5	17.5	10.5	3.5	7.0	3.5
	18～39歳	66	22.7	59.1	13.6	3.0	22.7	34.8	3.0	12.1	4.5	15.2	16.7	1.5	6.1	1.5
	40～64歳	52	32.7	40.4	5.8	0.0	28.8	32.7	3.8	25.0	5.8	13.5	23.1	9.6	0.0	1.9
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	31	41.9	38.7	32.3	9.7	16.1	16.1	9.7	6.5	3.2	16.1	16.1	0.0	19.4	6.5
	40～64歳	63	54.0	12.7	33.3	11.1	12.7	22.2	6.3	14.3	6.3	31.7	14.3	4.8	11.1	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
手帳なし	0～17歳	42	2.4	64.3	0.0	2.4	11.9	7.1	2.4	11.9	4.8	16.7	7.1	0.0	14.3	7.1
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

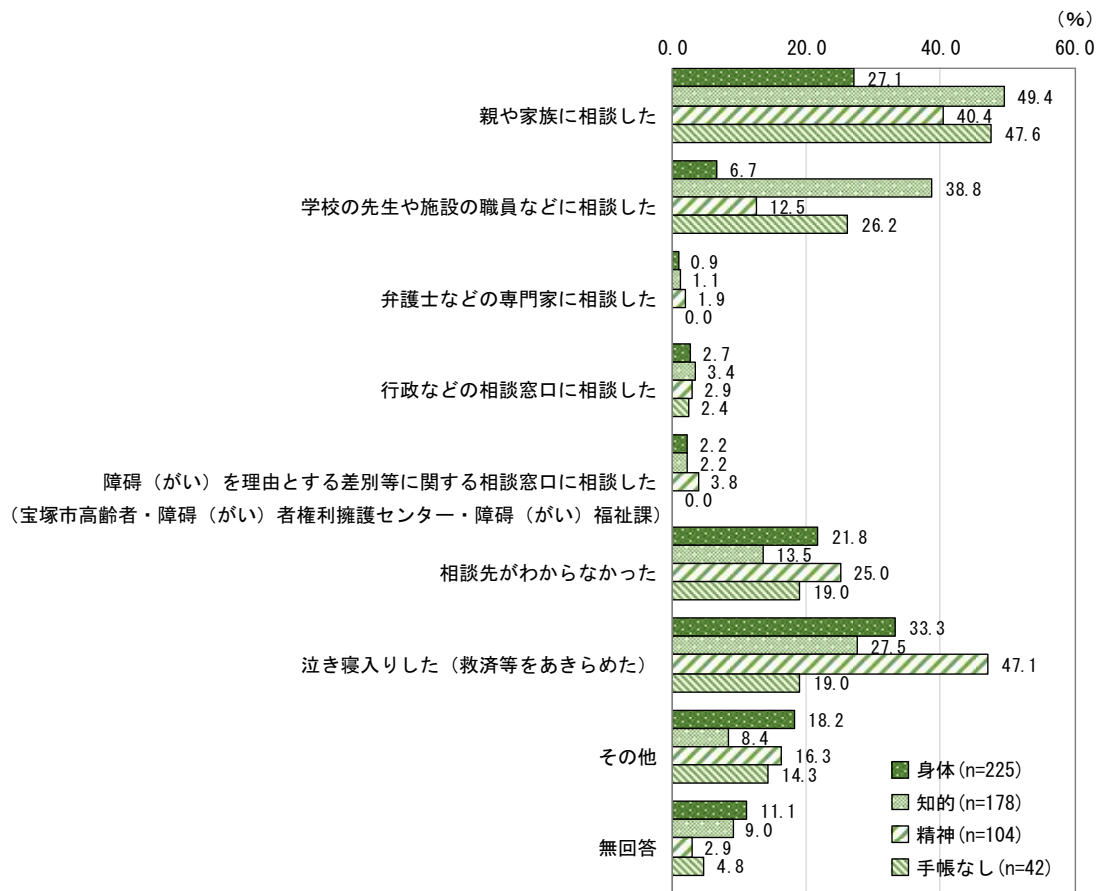
《問 20-1 で「ある（あった）」または「少しある（あった）」と回答した方にお聞きします。》

問 20-3

その時、あなたは、どのような対応をされましたか。

すべてに○

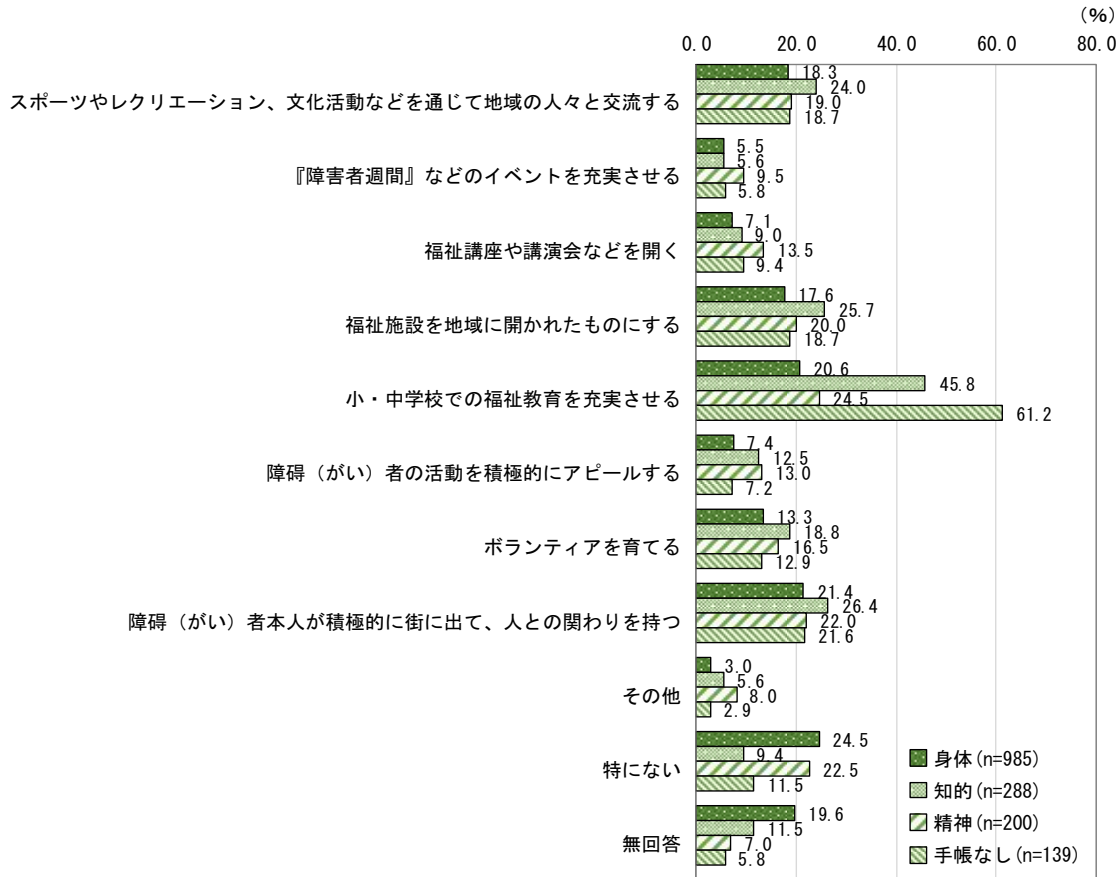
障害（がい）があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある人に、その時の対応について聞いたところ、身体では「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 33.3%、知的では「親や家族に相談した」が最も多く 49.4%、精神では「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 47.1%、手帳なしでは「親や家族に相談した」が最も多く 47.6%となっています。



		単位：%								
	n	親や家族に相談した	学校の先生や施設の職員などに相談した	弁護士などの専門家に相談した	行政などの相談窓口相談した	障害（がい）を理由とする差別等に関する相談窓口相談した	相談先がわからなかった	泣き寝入りした（救済等をあきらめた）	その他	無回答
全体	525	38.7	19.0	1.1	3.0	2.5	19.6	32.2	14.3	8.6
身体	0～17歳	7	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0
	18～39歳	17	35.3	17.6	0.0	0.0	5.9	41.2	17.6	11.8
	40～64歳	69	29.0	10.1	1.4	4.3	26.1	42.0	13.0	7.2
	65歳以上	132	23.5	1.5	0.8	2.3	22.7	28.0	21.2	13.6
知的	0～17歳	57	45.6	50.9	1.8	1.8	1.8	14.0	33.3	5.3
	18～39歳	66	54.5	39.4	1.5	7.6	3.0	12.1	18.2	9.1
	40～64歳	52	48.1	25.0	0.0	0.0	1.9	13.5	32.7	11.5
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	31	48.4	12.9	3.2	0.0	0.0	22.6	35.5	25.8
	40～64歳	63	36.5	11.1	1.6	4.8	6.3	30.2	52.4	14.3
	65歳以上	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0
手帳なし	0～17歳	42	47.6	26.2	0.0	2.4	0.0	19.0	19.0	14.3
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 21	障害者に対する理解を深めるためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。	3つまで○
------	--	-------

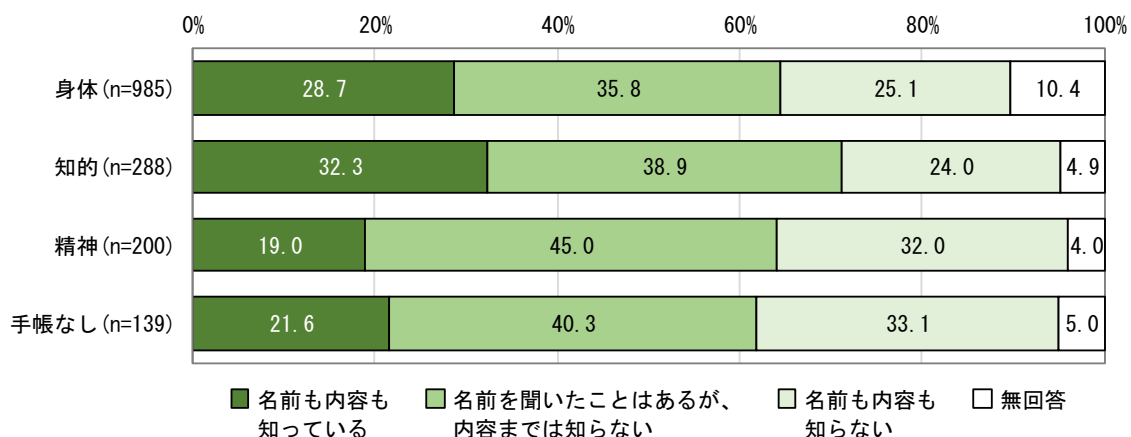
障害者に対する理解を深めるために、今後力を入れるべきことについて、身体では「特にない」が最も多く 24.5%、知的では「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 45.8%、精神では「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 24.5%、手帳なしでは「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 61.2%となっています。



		n	スポーツやレクリエーション、文化活動などを通じて地域の人々と交流する	『障害者週間』などのイベントを充実させる	福祉講座や講演会などを開く	福祉施設を地域に開かれたものにする	小・中学校での福祉教育を充実させる	障害（がい）者の活動を積極的にアピールする	ボランティアを育てる	障害（がい）者本人が積極的に街に出て、人との関わりを持つ	その他	特にない	無回答
	全体	1,589	19.4	6.0	8.6	19.1	28.6	8.4	14.6	21.8	4.0	20.8	15.5
身体	0～17歳	14	35.7	0.0	14.3	14.3	57.1	7.1	28.6	42.9	0.0	7.1	7.1
	18～39歳	34	23.5	5.9	2.9	20.6	44.1	14.7	8.8	47.1	5.9	8.8	14.7
	40～64歳	172	16.3	8.1	6.4	22.7	28.5	12.8	11.6	27.3	2.9	23.3	12.8
	65歳以上	757	18.2	4.9	7.3	16.5	17.2	5.9	13.6	18.6	3.0	25.9	21.1
知的	0～17歳	92	21.7	1.1	12.0	19.6	65.2	7.6	18.5	22.8	8.7	7.6	5.4
	18～39歳	98	28.6	8.2	9.2	29.6	37.8	15.3	19.4	27.6	7.1	9.2	12.2
	40～64歳	92	21.7	6.5	5.4	28.3	35.9	14.1	19.6	30.4	1.1	10.9	16.3
	65歳以上	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
精神	0～17歳	3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	15.6	8.9	20.0	8.9	44.4	20.0	13.3	35.6	4.4	17.8	2.2
	40～64歳	129	20.2	10.1	13.2	24.8	17.8	13.2	19.4	19.4	10.9	22.5	6.2
	65歳以上	23	17.4	4.3	4.3	13.0	17.4	0.0	8.7	13.0	0.0	34.8	21.7
手帳なし	0～17歳	124	18.5	5.6	8.9	19.4	67.7	7.3	14.5	21.8	3.2	10.5	3.2
	18～39歳	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0
	65歳以上	7	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	14.3

問 22-1	あなたは、成年後見制度についてご存じですか。	1 つに○
--------	------------------------	-------

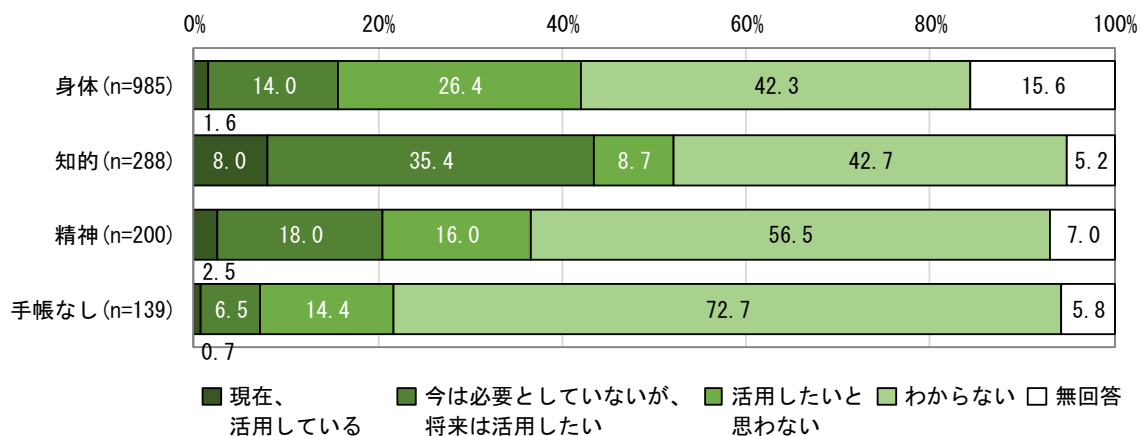
成年後見制度の認知度について、すべてにおいて「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も多く、身体が 35.8%、知的が 38.9%、精神が 45.0%、手帳なしが 40.3%となっています。



単位：%						
		名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答	
	n					
	全体	1,589	26.6	38.0	26.7	8.6
身体	0～17歳	14	21.4	42.9	28.6	7.1
	18～39歳	34	26.5	41.2	32.4	0.0
	40～64歳	172	30.8	34.3	28.5	6.4
	65歳以上	757	28.4	36.1	23.9	11.6
知的	0～17歳	92	16.3	46.7	31.5	5.4
	18～39歳	98	30.6	45.9	19.4	4.1
	40～64歳	92	51.1	25.0	19.6	4.3
	65歳以上	4	25.0	0.0	50.0	25.0
精神	0～17歳	3	0.0	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	45	8.9	55.6	35.6	0.0
	40～64歳	129	24.8	43.4	27.9	3.9
	65歳以上	23	8.7	34.8	43.5	13.0
手帳なし	0～17歳	124	20.2	41.9	35.5	2.4
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	0.0	0.0	60.0
	65歳以上	7	28.6	42.9	14.3	14.3

問 22-2	あなたは成年後見制度を活用したいと思いますか。	1 つに○
--------	-------------------------	-------

成年後見制度を活用したいと思うかについて、すべてにおいて「わからない」が最も多く、身体が 42.3%、知的が 42.7%、精神が 56.5%、手帳なしが 72.7%となっています。

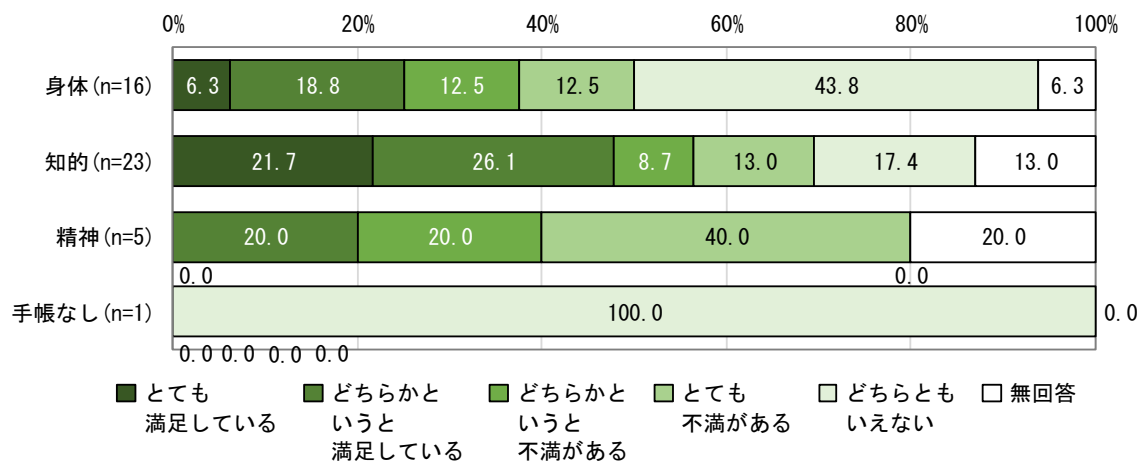


		単位：%				
	n	現在、活用している	今は必要としていないが、将来は活用したい	活用したい	わからない	無回答
全体	1,589	2.4	17.2	21.0	47.0	12.5
身体	0～17歳	14	0.0	21.4	0.0	71.4
	18～39歳	34	0.0	26.5	11.8	58.8
	40～64歳	172	2.9	14.5	22.1	52.9
	65歳以上	757	1.5	13.2	28.7	38.7
知的	0～17歳	92	0.0	32.6	3.3	57.6
	18～39歳	98	6.1	40.8	8.2	40.8
	40～64歳	92	18.5	32.6	15.2	29.3
	65歳以上	4	0.0	50.0	0.0	25.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	45	2.2	6.7	13.3	73.3
	40～64歳	129	2.3	23.3	16.3	51.2
	65歳以上	23	4.3	13.0	21.7	47.8
手帳なし	0～17歳	124	0.8	5.6	11.3	79.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	57.1	14.3

《問 22-2 で「現在、活用している」と回答した方にお聞きします。》

問 22-3	現在、活用している成年後見制度に満足していますか。	1 つに○
--------	---------------------------	-------

現在、成年後見制度を活用している人に、満足度について聞いたところ、身体では「どちらともいえない」が最も多く 43.8%、知的では「どちらかという満足している」が最も多く 26.1%、精神では「とても不満がある」が最も多く 40.0%、手帳なしでは「どちらともいえない」が最も多く 100.0%となっています。



単位：%

	n	とても満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満がある	とても不満がある	どちらともいえない	無回答
全体	38	15.8	21.1	13.2	10.5	28.9	10.5
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	65歳以上	11	9.1	18.2	9.1	9.1	54.5
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	6	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7
	40～64歳	17	23.5	29.4	5.9	5.9	17.6
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

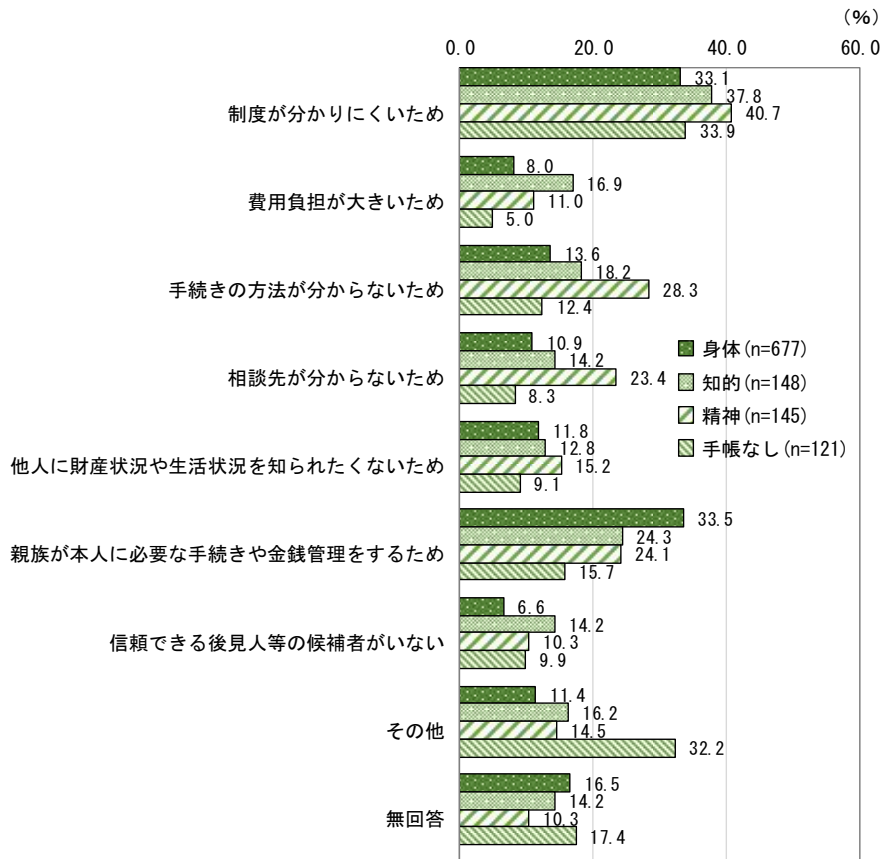
《問 22-2 で「活用したいとは思わない」または「わからない」と回答した方にお聞きます。》

問 22-4

それはどうしてですか。

1 つに○

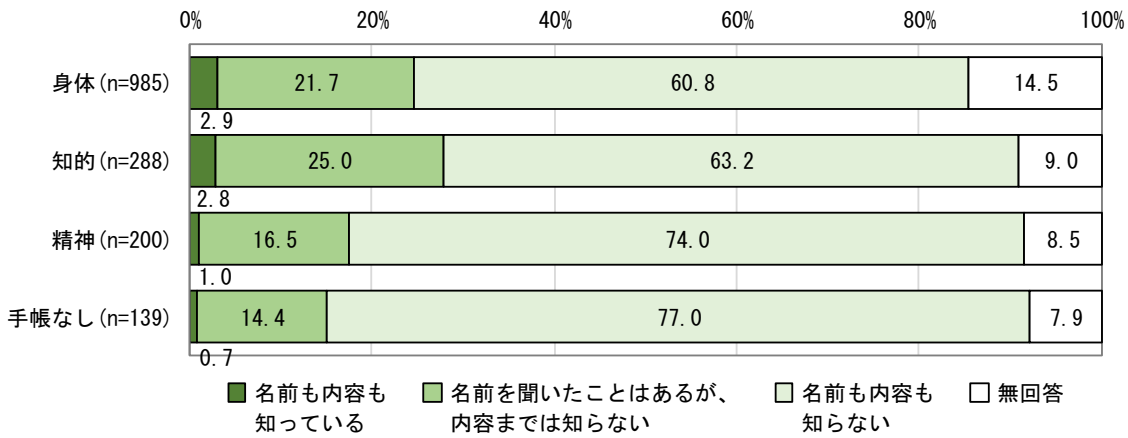
成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）人に、その理由について聞いたところ、身体では「親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため」が最も多く 33.5%、知的では「制度が分かりにくいため」が最も多く 37.8%、精神では「制度が分かりにくいため」が最も多く 40.7%、手帳なしでは「制度が分かりにくいため」が最も多く 33.9%となっています。



		n	制度が分かりにくい	費用負担が大きい	手続きの方法が分からない	相談先が分からない	他人に財産状況や生活状況を知られたくない	親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため	信頼できる後見人等の候補者がいない	その他	無回答
全体		1,080	35.0	8.8	15.8	12.7	11.7	29.1	8.2	14.4	15.6
身体	0～17歳	10	30.0	0.0	10.0	10.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0
	18～39歳	24	37.5	8.3	16.7	12.5	25.0	33.3	8.3	12.5	8.3
	40～64歳	129	45.0	7.8	16.3	16.3	14.7	22.5	7.8	10.1	12.4
	65歳以上	510	30.0	8.2	12.9	9.6	10.6	36.1	6.5	11.2	18.2
知的	0～17歳	56	48.2	3.6	19.6	19.6	7.1	12.5	5.4	25.0	8.9
	18～39歳	48	37.5	18.8	20.8	14.6	20.8	31.3	22.9	8.3	16.7
	40～64歳	41	24.4	34.1	14.6	7.3	12.2	31.7	14.6	12.2	17.1
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
精神	0～17歳	3	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	39	33.3	7.7	25.6	28.2	15.4	20.5	7.7	17.9	12.8
	40～64歳	87	43.7	12.6	29.9	24.1	14.9	20.7	9.2	14.9	10.3
	65歳以上	16	31.3	12.5	31.3	12.5	12.5	50.0	25.0	6.3	6.3
手帳なし	0～17歳	112	34.8	4.5	13.4	8.0	8.9	15.2	9.8	34.8	16.1
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	5	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	40.0

問 23	あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。	1 つに○
------	------------------------------------	-------

『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度について、すべてにおいて「名前も内容も知らない」が最も多く、身体が 60.8%、知的が 63.2%、精神が 74.0%、手帳なしが 77.0%となっています。



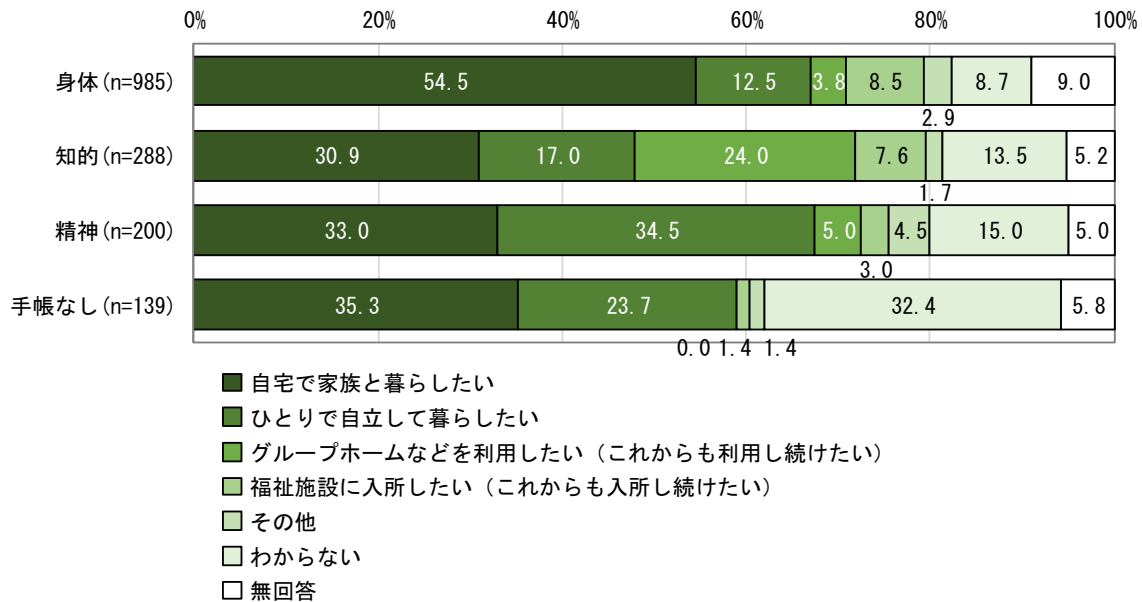
単位：%

		n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体						
	全体	1,589	2.5	20.6	64.4	12.5
身体	0～17歳	14	7.1	35.7	42.9	14.3
	18～39歳	34	11.8	26.5	55.9	5.9
	40～64歳	172	2.9	19.2	63.4	14.5
	65歳以上	757	2.5	22.1	60.8	14.7
知的	0～17歳	92	5.4	22.8	64.1	7.6
	18～39歳	98	1.0	21.4	72.4	5.1
	40～64歳	92	2.2	30.4	53.3	14.1
	65歳以上	4	0.0	25.0	50.0	25.0
精神	0～17歳	3	0.0	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	45	0.0	15.6	77.8	6.7
	40～64歳	129	1.6	15.5	76.0	7.0
	65歳以上	23	0.0	21.7	56.5	21.7
手帳なし	0～17歳	124	0.8	12.9	80.6	5.6
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	20.0	60.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	71.4	14.3

⑪今後の暮らし

問 24	あなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。	1 つに○
------	--------------------------	-------

将来どのように暮らしたいと思うかについて、すべてにおいて「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く、身体が 54.5%、知的が 30.9%、精神が 33.0%、手帳なしが 35.3%となっています。

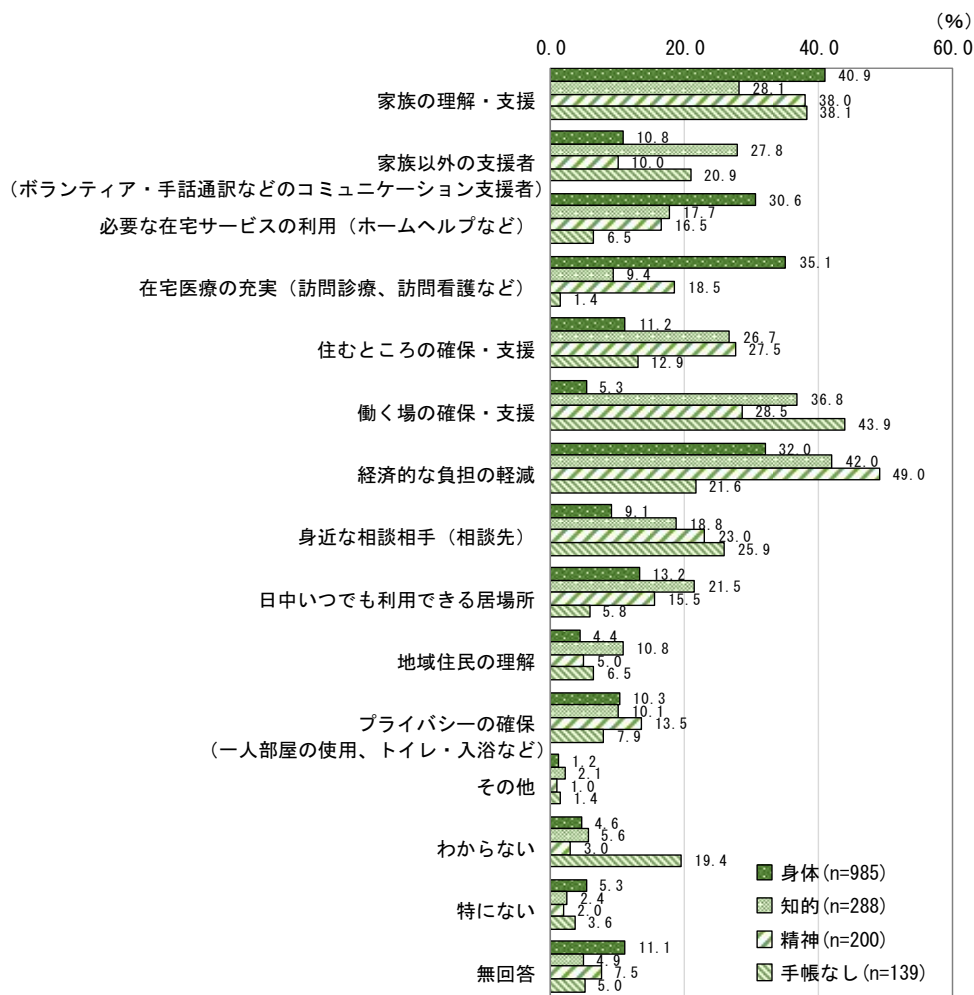


単位：%

		n	自宅で家族と暮らしたい	ひとりで自立して暮らしたい	グループホームなどを利用したい（これからも利用し続けたい）	福祉施設に入所したい（これからも入所し続けたい）	その他	わからない	無回答
全体		1,589	46.9	17.1	6.0	7.2	2.8	12.3	7.7
身体	0～17歳	14	42.9	21.4	14.3	0.0	0.0	14.3	7.1
	18～39歳	34	38.2	14.7	20.6	0.0	8.8	8.8	8.8
	40～64歳	172	50.6	13.4	7.0	5.8	2.3	12.2	8.7
	65歳以上	757	56.3	12.2	2.0	9.8	2.9	7.8	9.1
知的	0～17歳	92	33.7	27.2	6.5	1.1	1.1	27.2	3.3
	18～39歳	98	41.8	14.3	27.6	6.1	0.0	7.1	3.1
	40～64歳	92	17.4	8.7	38.0	14.1	4.3	7.6	9.8
	65歳以上	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	26.7	42.2	6.7	0.0	11.1	8.9	4.4
	40～64歳	129	34.9	34.1	5.4	1.6	3.1	16.3	4.7
	65歳以上	23	34.8	17.4	0.0	17.4	0.0	21.7	8.7
手帳なし	0～17歳	124	33.9	24.2	0.0	0.0	1.6	36.3	4.0
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3

問 25	仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような条件（支援）が必要と思いますか。	3つまで○
------	---	-------

地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）について、身体では「家族の理解・支援」が最も多く 40.9%、知的では「経済的な負担の軽減」が最も多く 42.0%、精神では「経済的な負担の軽減」が最も多く 49.0%、手帳なしでは「家族の理解・支援」が最も多く 38.1%となっています。



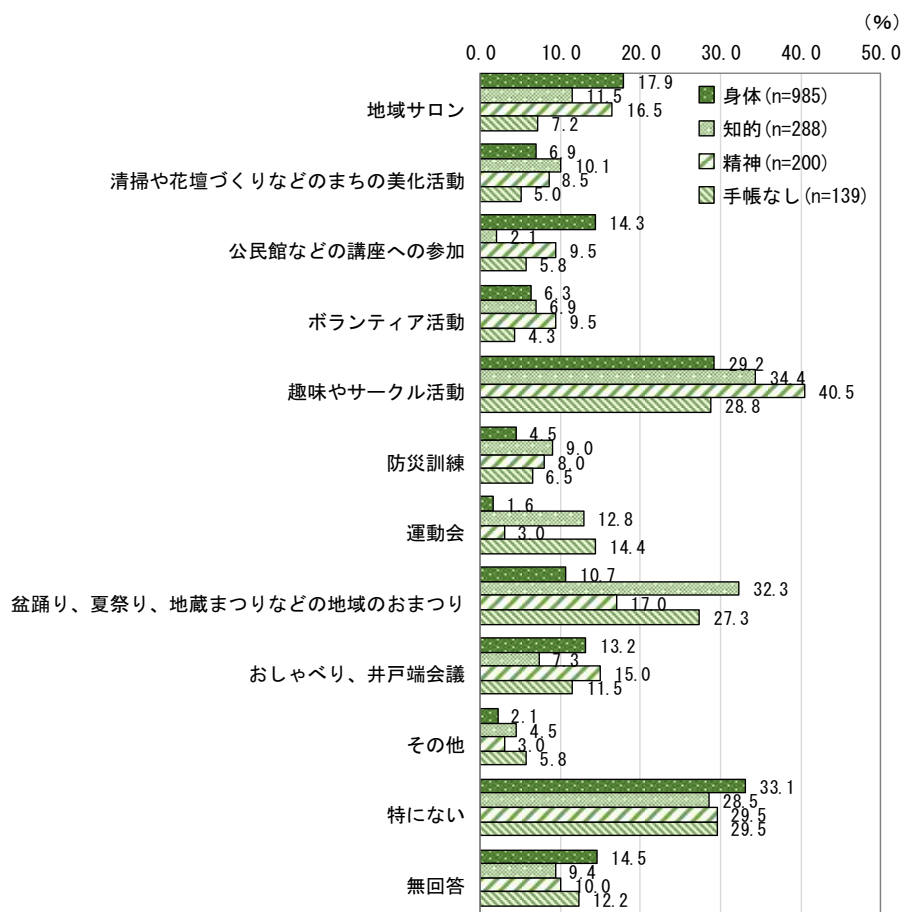
		n	家族の理解・支援	家族以外の支援者	必要な在宅サービスの利用 (ホームヘルプなど)	在宅医療の充実 (訪問診療、訪問看護など)	住むところの確保・支援	働く場の確保・支援	経済的な負担の軽減	身近な相談相手 (相談先)	日中いつでも利用できる居場所	地域住民の理解	プライバシーの確保	その他	わからない	特になし	無回答
全体		1,589	38.4	13.8	24.3	25.6	15.8	17.2	34.7	13.8	14.0	5.5	10.6	1.3	5.7	4.2	9.4
身体	0～17歳	14	35.7	14.3	14.3	7.1	35.7	50.0	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1
	18～39歳	34	32.4	23.5	20.6	20.6	17.6	14.7	50.0	23.5	23.5	11.8	8.8	5.9	2.9	2.9	8.8
	40～64歳	172	35.5	15.7	22.1	21.5	22.7	16.3	39.0	9.3	12.2	5.8	12.8	0.6	4.7	7.0	7.0
	65歳以上	757	42.9	9.1	33.6	39.5	7.8	1.6	30.0	8.5	13.1	3.6	10.0	1.2	4.6	4.9	11.8
知的	0～17歳	92	34.8	30.4	12.0	3.3	29.3	59.8	38.0	17.4	7.6	8.7	8.7	1.1	8.7	3.3	2.2
	18～39歳	98	25.5	31.6	21.4	8.2	26.5	30.6	48.0	23.5	23.5	11.2	13.3	2.0	4.1	1.0	4.1
	40～64歳	92	23.9	19.6	17.4	15.2	22.8	20.7	41.3	15.2	33.7	13.0	7.6	3.3	4.3	2.2	8.7
	65歳以上	4	25.0	75.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
精神	0～17歳	3	100.0	33.3	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	42.2	11.1	11.1	8.9	33.3	31.1	46.7	31.1	22.2	11.1	24.4	0.0	2.2	2.2	6.7
	40～64歳	129	34.9	8.5	17.1	18.6	29.5	31.0	52.7	21.7	14.7	3.1	10.1	1.6	3.9	2.3	6.2
	65歳以上	23	39.1	13.0	26.1	39.1	4.3	0.0	39.1	17.4	8.7	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	17.4
手帳なし	0～17歳	124	37.1	22.6	5.6	0.8	12.9	47.6	19.4	28.2	4.8	6.5	5.6	1.6	21.8	3.2	3.2
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3

問 26

仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような地域活動や行事に参加したいと思いますか。

3つまで○

地域（グループホームを含む自宅）で生活する上で参加したい地域活動や行事について、身体では「特にない」が最も多く 33.1%、知的では「趣味やサークル活動」が最も多く 34.4%、精神では「趣味やサークル活動」が最も多く 40.5%、手帳なしでは「特にない」が最も多く 29.5%となっています。

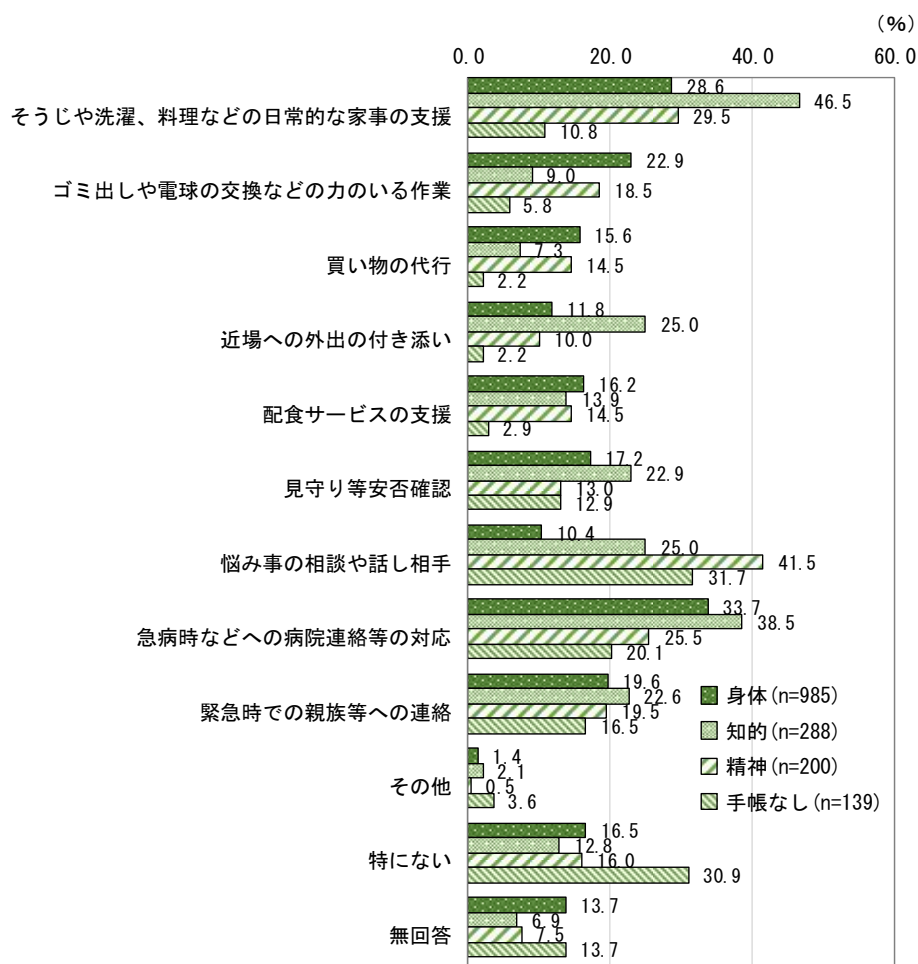


単位：％														
		地域サロ ン	清掃や花 壇づくり などの美化 活動	公民館な どの講座 への参加	ボラン ティア活 動	趣味や サークル 活動	防災訓練	運動会	盆踊り、 夏祭り、 地蔵まつ りなどの 地域のお まつり	おしゃべ り、井戸 端会議	その他	特にない	無回答	
	n													
	全体	1,589	15.7	7.6	11.3	6.7	31.7	5.6	4.8	16.0	12.1	2.8	31.2	13.1
身 体	0～17歳	14	7.1	7.1	0.0	0.0	64.3	7.1	7.1	50.0	14.3	0.0	21.4	7.1
	18～39歳	34	11.8	5.9	0.0	8.8	32.4	14.7	5.9	38.2	23.5	2.9	26.5	8.8
	40～64歳	172	14.5	9.3	12.8	9.3	30.2	8.7	3.5	15.7	9.3	0.6	34.9	11.0
	65歳以上	757	19.2	6.5	15.6	5.7	28.4	3.0	0.9	7.7	13.5	2.5	33.3	15.3
知 的	0～17歳	92	13.0	9.8	2.2	5.4	38.0	14.1	15.2	34.8	1.1	5.4	26.1	7.6
	18～39歳	98	7.1	8.2	2.0	8.2	38.8	6.1	13.3	34.7	12.2	2.0	28.6	5.1
	40～64歳	92	15.2	13.0	2.2	6.5	25.0	6.5	10.9	27.2	7.6	6.5	29.3	16.3
	65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
精 神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	22.2	6.7	6.7	11.1	51.1	8.9	0.0	28.9	17.8	4.4	28.9	2.2
	40～64歳	129	17.1	10.9	10.1	10.1	41.1	8.5	3.9	14.0	14.0	3.1	26.4	10.9
	65歳以上	23	4.3	0.0	13.0	4.3	13.0	4.3	0.0	4.3	8.7	0.0	52.2	21.7
手 帳 な し	0～17歳	124	6.5	5.6	5.6	4.0	28.2	6.5	15.3	29.0	10.5	6.5	29.8	11.3
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	14.3

単位：%

問 27	仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような支え合い活動があってほしいと思いますか。	3つまで○
------	---	-------

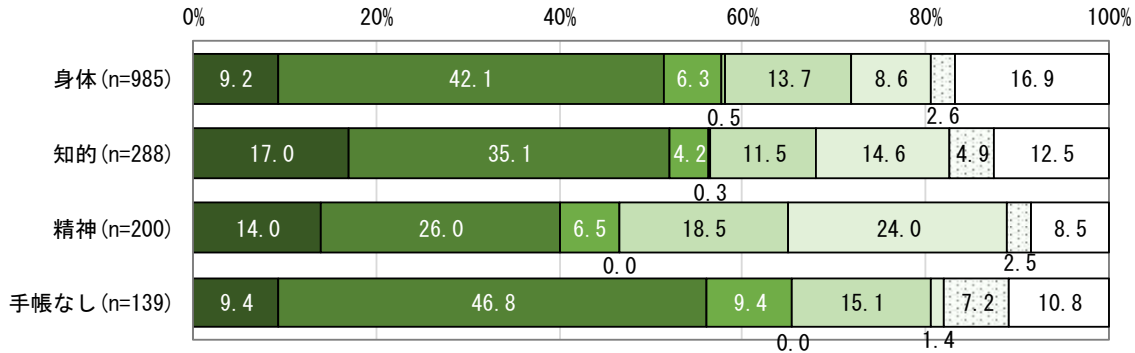
地域（グループホームを含む自宅）で生活していく上であってほしい支え合い活動について、身体では「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 33.7%、知的では「そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援」が最も多く 46.5%、精神では「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 41.5%、手帳なしでは「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 31.7%となっています。



		n	そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援	ゴミ出しや電球の交換などの力のいる作業	買い物の代行	近場への外出の付き添い	配食サービスの支援	見守り等安否確認	悩み事の相談や話し相手	急病時などへの病院連絡等の対応	緊急時での親族等への連絡	その他	特になし	無回答
全体		1,589	29.4	18.4	12.7	12.2	14.3	17.2	18.7	31.8	19.8	1.6	17.2	12.2
身体	0～17歳	14	64.3	14.3	7.1	21.4	7.1	7.1	7.1	50.0	28.6	0.0	14.3	7.1
	18～39歳	34	35.3	23.5	5.9	41.2	8.8	20.6	23.5	35.3	26.5	0.0	8.8	11.8
	40～64歳	172	24.4	19.2	12.2	10.5	13.4	17.4	15.1	37.8	15.7	1.2	20.9	12.2
	65歳以上	757	28.8	24.0	17.2	10.7	17.3	17.2	8.9	32.6	20.2	1.6	16.0	13.9
知的	0～17歳	92	37.0	6.5	5.4	23.9	8.7	31.5	31.5	30.4	20.7	3.3	17.4	4.3
	18～39歳	98	57.1	11.2	7.1	23.5	12.2	20.4	25.5	44.9	25.5	2.0	10.2	4.1
	40～64歳	92	44.6	9.8	8.7	28.3	20.7	18.5	19.6	41.3	22.8	1.1	8.7	13.0
	65歳以上	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	45	17.8	20.0	11.1	6.7	15.6	15.6	62.2	33.3	26.7	0.0	11.1	2.2
	40～64歳	129	34.9	17.8	16.3	11.6	15.5	12.4	36.4	24.8	17.1	0.8	16.3	7.8
	65歳以上	23	26.1	21.7	13.0	8.7	8.7	13.0	26.1	17.4	17.4	0.0	21.7	17.4
手帳なし	0～17歳	124	10.5	4.0	1.6	2.4	1.6	12.9	34.7	19.4	16.1	4.0	33.1	12.1
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	65歳以上	7	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6

問 28	あなたは、地域との関わりに対してどのようにお考えですか。	1 つに○
------	------------------------------	-------

地域との関わりについて、すべてにおいて「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く、身体が 42.1%、知的が 35.1%、精神が 26.0%、手帳なしが 46.8%となっています。



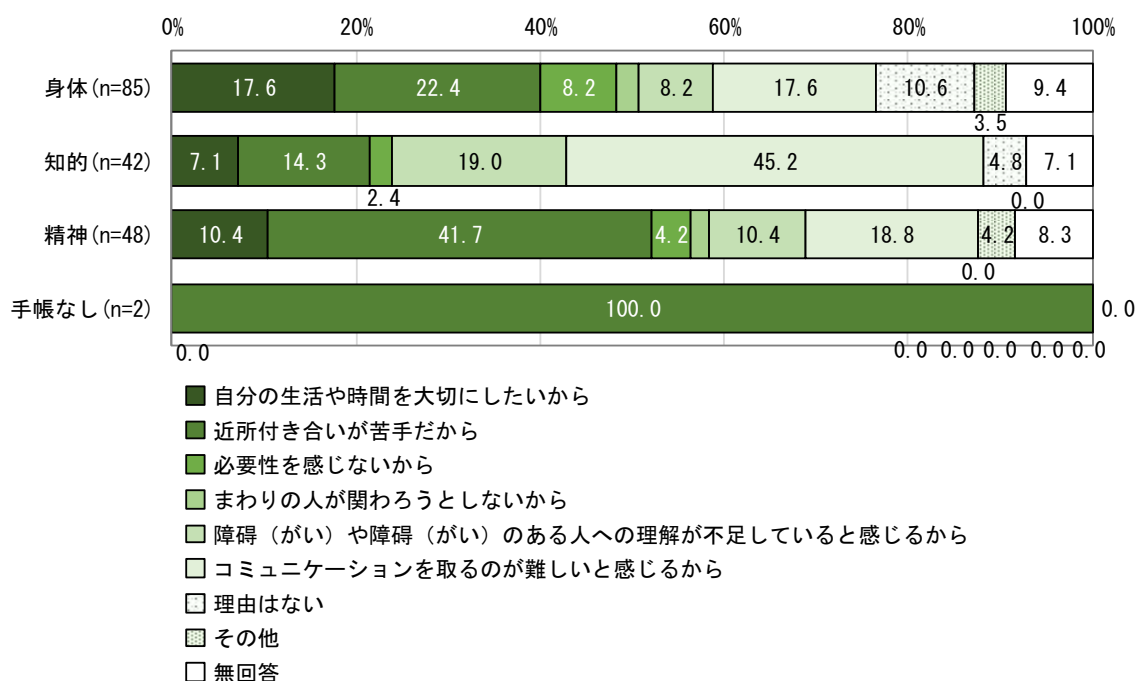
- ☒ 地域の人と心から打ち解けられる関係を築きたい
- ☒ いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい
- ☒ 住民がお互いに協力して地域を良くする活動に参加していきたい
- ☒ ボランティアや自治会、まちづくり協議会等の役員として参加したい
- ☒ 隣近所の協力はあてにせず、自分のことは自分です
- ☐ 地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

		単位：%								
	n	地域の人と心から打ち解けられる関係を築きたい	いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい	住民がお互いに協力して地域を良くする活動に参加していきたい	ボランティアや自治会、まちづくり協議会等の役員として参加したい	隣近所の協力はあてにせず、自分のことは自分です	地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない	その他	無回答	無回答
全体	1,589	10.8	39.3	6.4	0.4	14.2	10.6	3.3	15.0	12.2
身体	0～17歳	14	35.7	28.6	7.1	0.0	14.3	7.1	0.0	7.1
	18～39歳	34	8.8	47.1	5.9	2.9	8.8	5.9	5.9	11.8
	40～64歳	172	8.7	40.7	9.9	1.2	13.4	10.5	3.5	12.2
	65歳以上	757	9.0	42.5	5.5	0.3	14.1	8.3	2.4	17.8
知的	0～17歳	92	18.5	43.5	6.5	0.0	13.0	7.6	3.3	7.6
	18～39歳	98	14.3	31.6	2.0	1.0	13.3	19.4	7.1	11.2
	40～64歳	92	17.4	32.6	3.3	0.0	8.7	14.1	4.3	19.6
	65歳以上	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	13.3	20.0	6.7	0.0	13.3	37.8	6.7	2.2
	40～64歳	129	15.5	25.6	7.8	0.0	19.4	20.2	1.6	10.1
	65歳以上	23	4.3	39.1	0.0	0.0	21.7	21.7	0.0	13.0
手帳なし	0～17歳	124	9.7	50.0	8.9	0.0	13.7	0.0	8.1	9.7
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3

《問 28 で「地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない」と回答した方にお聞きします。》

問 29	地域との関わりを持ちたくないのはなぜですか。	1 つに○
------	------------------------	-------

地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている人に、その理由について聞いたところ、身体では「近所付き合いが苦手だから」が最も多く 22.4%、知的では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 45.2%、精神では「近所付き合いが苦手だから」が最も多く 41.7%、手帳なしでは「近所付き合いが苦手だから」が最も多く 100.0%となっています。



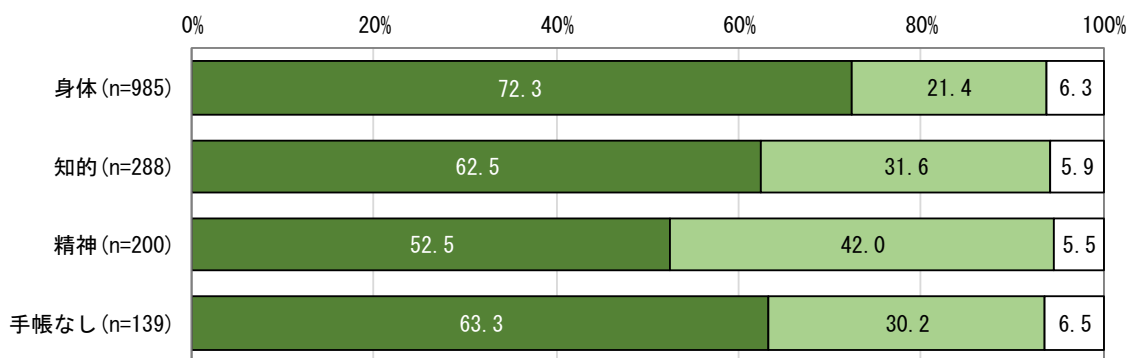
単位：%

		n	自分の生活や時間を大切にしたいから	近所付き合いが苦手だから	必要性を感じないから	まわりの人が関わろうとしないから	障碍（がい）や障碍（がい）のある人への理解が不足していると感じるから	コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから	理由はない	その他	無回答
全体		169	12.4	27.2	5.9	1.8	10.1	24.9	5.9	3.0	8.9
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	40～64歳	18	11.1	33.3	5.6	0.0	0.0	33.3	0.0	11.1	5.6
	65歳以上	63	20.6	20.6	9.5	3.2	9.5	12.7	12.7	1.6	9.5
知的	0～17歳	7	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	19	15.8	10.5	0.0	0.0	21.1	47.4	5.3	0.0	0.0
	40～64歳	13	0.0	15.4	7.7	0.0	0.0	53.8	7.7	0.0	15.4
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	17	0.0	41.2	5.9	0.0	11.8	23.5	0.0	5.9	11.8
	40～64歳	26	15.4	42.3	3.8	3.8	11.5	15.4	0.0	0.0	7.7
	65歳以上	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
手帳なし	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑫保健・医療

問 30	あなたは、宝塚市内にかかりつけの医師はいますか。	1 つに○
------	--------------------------	-------

宝塚市内のかかりつけの医師の有無について、すべてにおいて「宝塚市内にかかりつけの医師がいる」の方が多く、身体が 72.3%、知的が 62.5%、精神が 52.5%、手帳なしが 63.3%となっています。



■ 宝塚市内にかかりつけの医師がいる ■ 宝塚市内にかかりつけの医師はいない □ 無回答

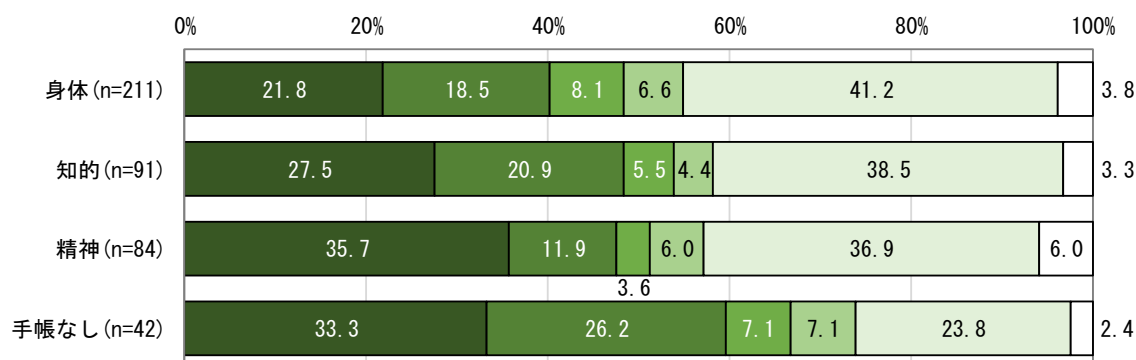
単位：%

		宝塚市内 にかかり つけの医 師がいる	宝塚市内 にかかり つけの医 師はいな い	無回答	
	n				
	全体	1,589	67.7	26.0	6.4
身体	0～17歳	14	28.6	64.3	7.1
	18～39歳	34	47.1	47.1	5.9
	40～64歳	172	61.6	32.0	6.4
	65歳以上	757	76.6	17.2	6.2
知的	0～17歳	92	63.0	33.7	3.3
	18～39歳	98	56.1	38.8	5.1
	40～64歳	92	70.7	20.7	8.7
	65歳以上	4	50.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	45	33.3	62.2	4.4
	40～64歳	129	57.4	37.2	5.4
	65歳以上	23	65.2	26.1	8.7
手帳 なし	0～17歳	124	63.7	31.5	4.8
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	20.0	40.0
	65歳以上	7	71.4	14.3	14.3

《問 30 で「宝塚市内にかかりつけの医師はいない」と回答した方にお聞きします。》

問 31	宝塚市内にかかりつけの医師がいらないのはなぜですか。	1 つに○
------	----------------------------	-------

宝塚市内にかかりつけの医師はいない人に、その理由について聞いたところ、すべてにおいて「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいらないから」が最も多く、身体が 21.8%、知的が 27.5%、精神が 35.7%、手帳なしが 33.3%となっています。



- 宝塚市内に専門に診てくれる医師がいらないから
- 受診先がその都度異なり、特に決まった医師がいらないから
- かかりつけの医師の必要性を感じないから
- かかりつけの医師の探し方がわからないから
- その他
- 無回答

単位：%

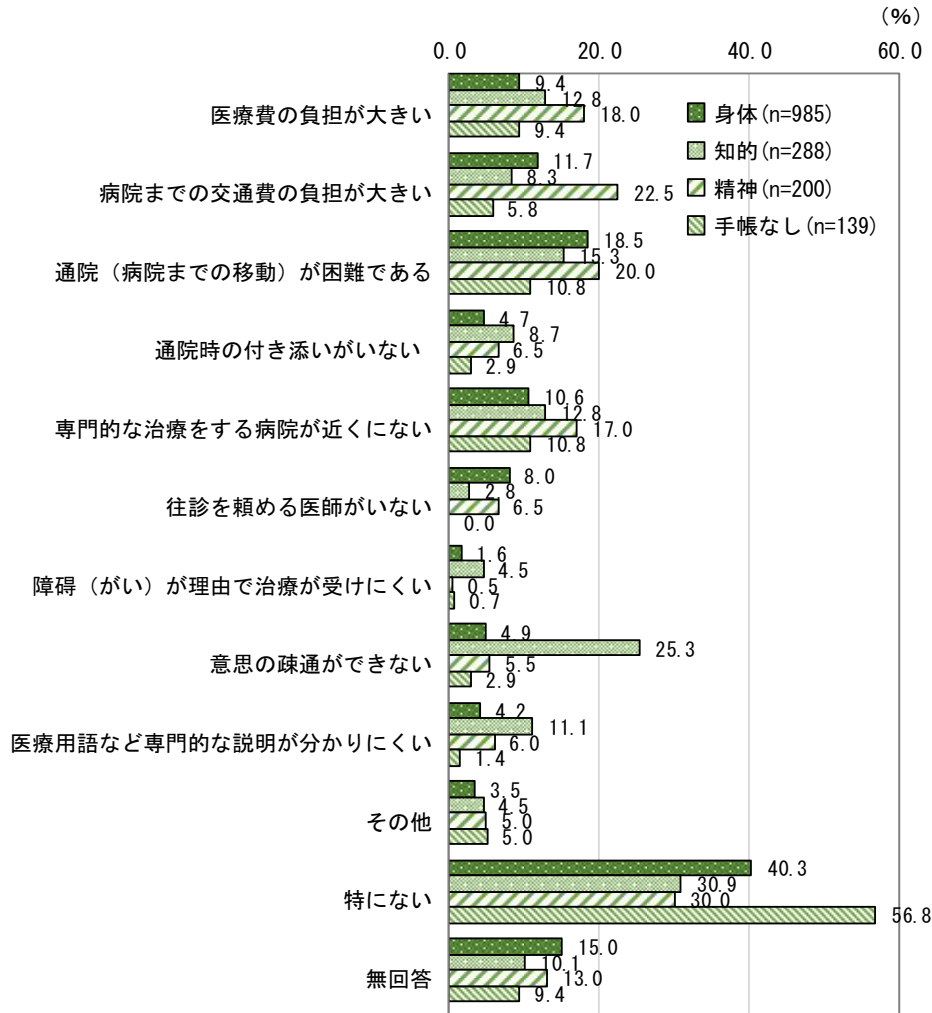
			宝塚市内に専門に診てくれる医師がいらないから	受診先がその都度異なり、特に決まった医師がいらないから	かかりつけの医師の必要性を感じないから	かかりつけの医師の探し方がわからないから	その他	無回答
	n							
	全体	413	26.9	19.1	6.5	6.5	36.8	4.1
身体	0～17歳	9	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	16	31.3	6.3	18.8	6.3	31.3	6.3
	40～64歳	55	21.8	18.2	10.9	3.6	43.6	1.8
	65歳以上	130	17.7	18.5	6.2	8.5	44.6	4.6
知的	0～17歳	31	48.4	29.0	0.0	3.2	16.1	3.2
	18～39歳	38	18.4	21.1	10.5	5.3	42.1	2.6
	40～64歳	19	15.8	10.5	5.3	0.0	63.2	5.3
	65歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
精神	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	28	42.9	7.1	0.0	0.0	46.4	3.6
	40～64歳	48	29.2	16.7	4.2	8.3	33.3	8.3
	65歳以上	6	50.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
手帳なし	0～17歳	39	35.9	23.1	7.7	7.7	23.1	2.6
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 32

医療を受ける上で困っていることはありますか。

3つまで○

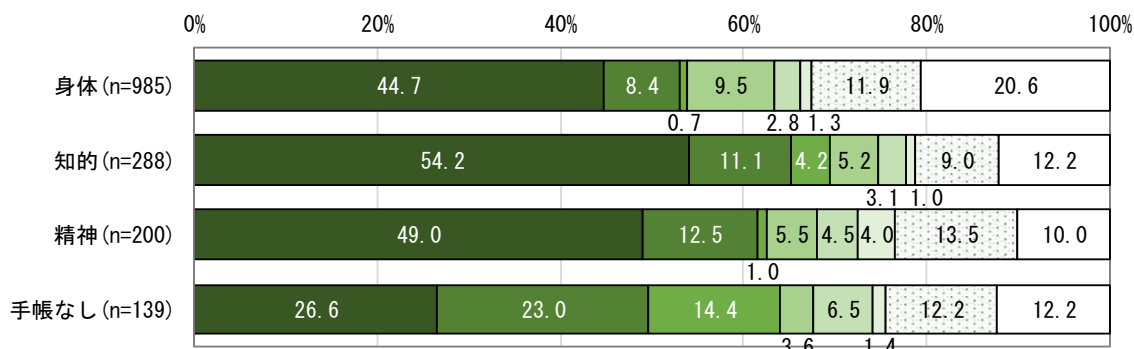
医療を受ける上で困っていることについて、すべてにおいて「特になし」が最も多く、身体が 40.3%、知的が 30.9%、精神が 30.0%、手帳なしが 56.8%となっています。



		n	医療費の負担が大きい	病院までの交通費の負担が大きい	通院（病院までの移動）が困難である	通院時の付き添いがいない	専門的な治療をする病院が近くにない	往診を頼める医師がいない	障碍（がい）が理由で治療が受けにくい	意思の疎通ができない	医療用語など専門的な説明が分かりにくい	その他	特になし	無回答
全体		1,589	11.3	11.8	17.1	5.3	11.8	6.2	1.8	8.0	5.0	3.7	39.3	13.8
身体	0～17歳	14	14.3	21.4	42.9	0.0	21.4	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	35.7	14.3
	18～39歳	34	8.8	11.8	17.6	8.8	23.5	2.9	2.9	8.8	5.9	2.9	41.2	8.8
	40～64歳	172	14.0	7.6	13.4	1.7	12.2	5.2	4.1	8.7	4.7	4.7	43.0	12.2
	65歳以上	757	8.2	12.3	19.4	5.3	9.4	9.1	0.8	3.8	4.0	3.3	39.6	15.9
知的	0～17歳	92	17.4	7.6	16.3	3.3	16.3	1.1	5.4	13.0	2.2	3.3	46.7	5.4
	18～39歳	98	12.2	9.2	12.2	9.2	17.3	1.0	3.1	34.7	19.4	4.1	25.5	8.2
	40～64歳	92	9.8	5.4	15.2	13.0	5.4	5.4	5.4	27.2	10.9	6.5	22.8	16.3
	65歳以上	4	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	18～39歳	45	26.7	24.4	17.8	4.4	13.3	6.7	0.0	4.4	11.1	4.4	35.6	6.7
	40～64歳	129	15.5	21.7	18.6	7.8	16.3	5.4	0.0	5.4	4.7	6.2	31.0	13.2
	65歳以上	23	13.0	17.4	34.8	4.3	21.7	13.0	4.3	8.7	4.3	0.0	13.0	26.1
手帳なし	0～17歳	124	9.7	5.6	9.7	1.6	9.7	0.0	0.8	2.4	0.8	4.8	59.7	8.1
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	42.9	14.3

問 33	あなたは、 ^が いのある人の保健・医療に関し、どのようなことが必要だと思いますか。	1 つに○
------	--	-------

^がいのある人の保健・医療に必要なことについて、すべてにおいて「^がいのある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く、身体が 44.7%、知的が 54.2%、精神が 49.0%、手帳なしが 26.6%となっています。



- 障病（が）いのある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備
- 早期発見・早期療育（治療）システムの確立
- 乳幼児健診とその後の育児相談の充実
- 保健・福祉等関係機関の連携による地域リハビリテーション体制の充実
- 保健・福祉等関係機関の連携による二次的機能障病（が）いの予防・治療
- その他
- 特にな
- 無回答

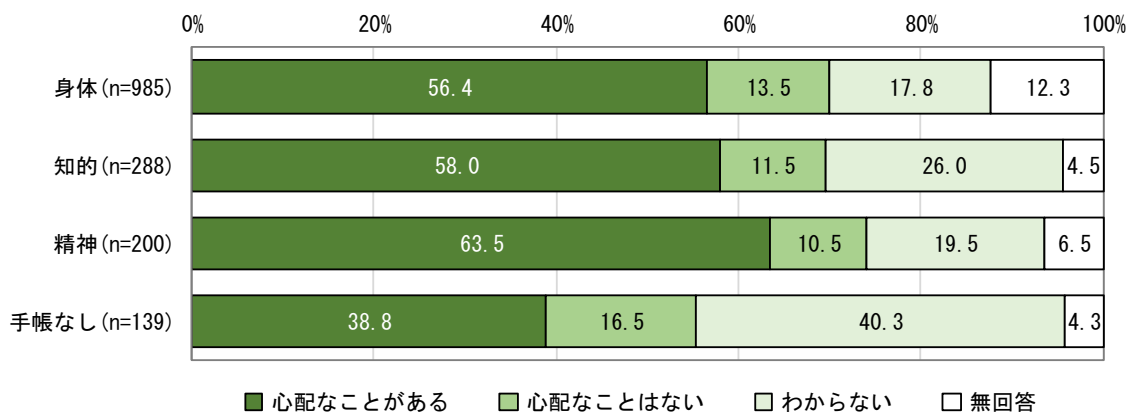
単位：%

	n	障病（が）いのある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備	早期発見・早期療育（治療）システムの確立	乳幼児健診とその後の育児相談の充実	保健・福祉等関係機関の連携による地域リハビリテーション体制の充実	保健・福祉等関係機関の連携による二次的機能障病（が）いの予防・治療	その他	特にな	無回答
全体	1,589	44.9	10.6	2.6	7.5	3.5	1.6	11.6	17.6
身体	0～17歳	14	50.0	14.3	0.0	21.4	0.0	0.0	7.1
	18～39歳	34	44.1	8.8	2.9	17.6	0.0	0.0	14.7
	40～64歳	172	63.4	6.4	0.6	4.1	1.2	1.2	14.5
	65歳以上	757	40.2	8.9	0.7	10.3	3.4	1.5	22.3
知的	0～17歳	92	39.1	16.3	12.0	7.6	5.4	0.0	6.5
	18～39歳	98	65.3	11.2	1.0	3.1	1.0	2.0	8.2
	40～64歳	92	55.4	6.5	0.0	5.4	3.3	1.1	13.0
	65歳以上	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	45	44.4	24.4	0.0	2.2	6.7	2.2	15.6
	40～64歳	129	51.9	10.1	0.8	5.4	3.1	5.4	12.4
	65歳以上	23	39.1	4.3	0.0	13.0	8.7	0.0	17.4
手帳なし	0～17歳	124	26.6	24.2	14.5	3.2	7.3	0.8	13.7
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	57.1	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6

⑬災害対策

問 34	あなたは、災害が起こったときに心配なことはありますか。	1 つに○
------	-----------------------------	-------

災害が起こったときに心配なことがあるかについて、身体では「心配なことがある」が最も多く 56.4%、知的では「心配なことがある」が最も多く 58.0%、精神では「心配なことがある」が最も多く 63.5%、手帳なしでは「わからない」が最も多く 40.3%となっています。



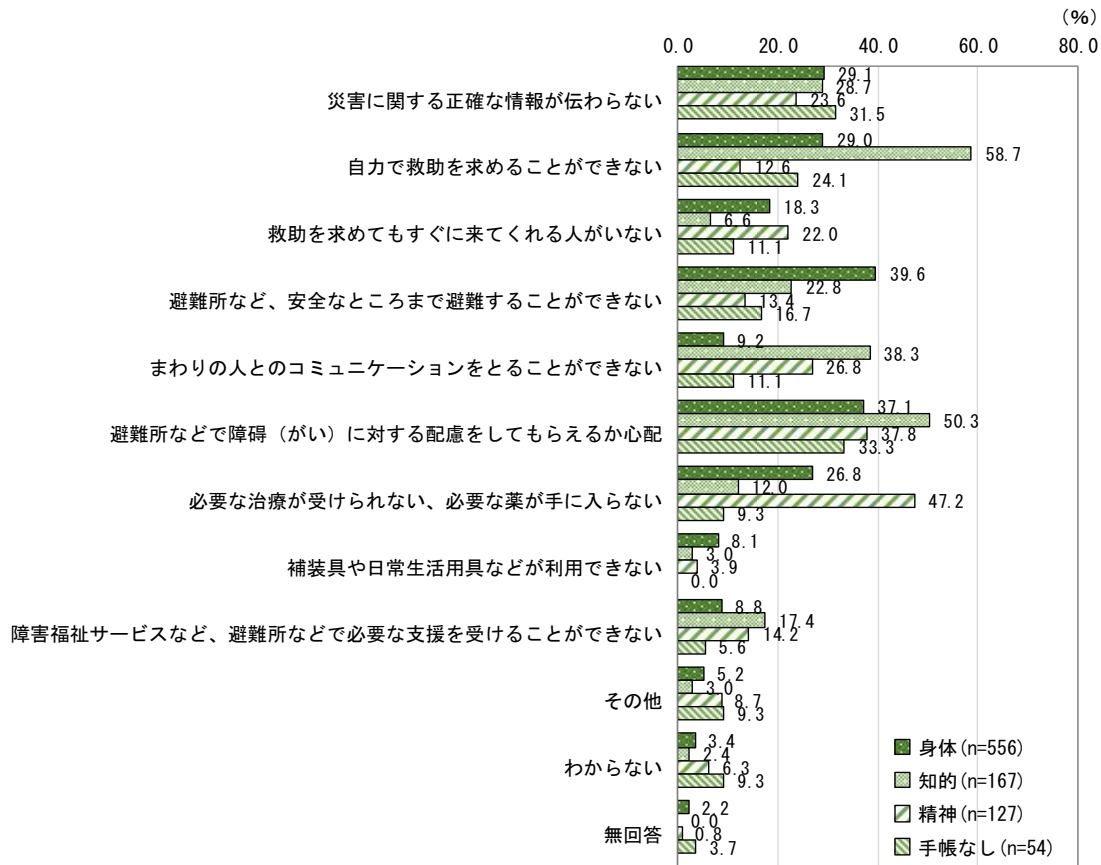
単位：%

	n	心配な ことがある	心配な ことはない	わから ない	無回答
全体	1,589	55.4	13.3	21.4	9.9
身体	0～17歳	14	64.3	7.1	14.3
	18～39歳	34	70.6	2.9	17.6
	40～64歳	172	59.9	19.2	13.4
	65歳以上	757	55.0	12.8	18.9
知的	0～17歳	92	54.3	14.1	28.3
	18～39歳	98	65.3	8.2	22.4
	40～64歳	92	54.3	12.0	27.2
	65歳以上	4	50.0	0.0	50.0
精神	0～17歳	3	66.7	33.3	0.0
	18～39歳	45	66.7	8.9	20.0
	40～64歳	129	64.3	8.5	20.9
	65歳以上	23	52.2	21.7	13.0
手帳なし	0～17歳	124	37.1	16.9	43.5
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	60.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	57.1	14.3	14.3

《問 34 で「心配なことがある」と回答した方にお聞きします。》

問 35	災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。	3 つまで○
------	--------------------------	--------

災害が起こったときに心配なことがある人に、心配なことについて聞いたところ、身体では「避難所など、安全なところまで避難することができない」が最も多く 39.6%、知的では「自力で救助を求めることができない」が最も多く 58.7%、精神では「必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない」が最も多く 47.2%、手帳なしでは「避難所などで障碍（がい）に対する配慮をしてもらえるか心配」が最も多く 33.3%となっています。

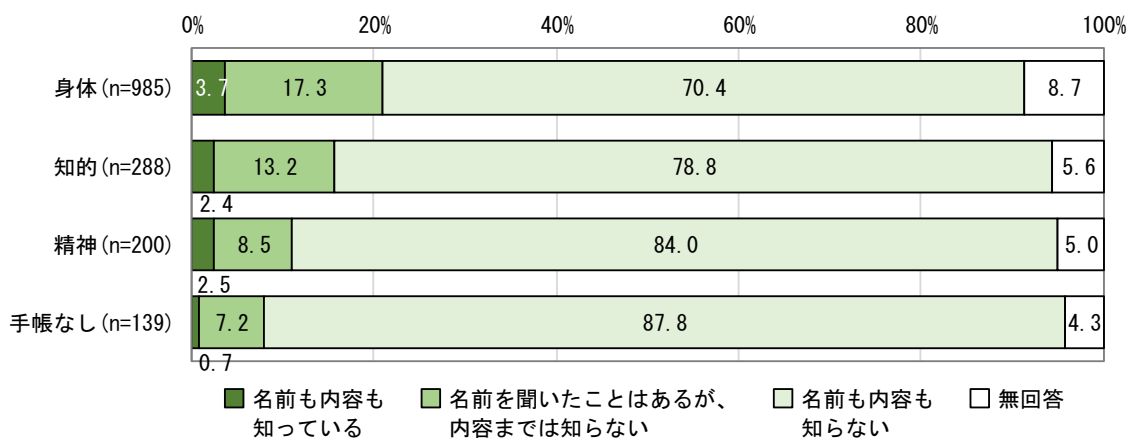


		n	災害に関する正確な情報が伝わらない	自力で救助を求めることができない	救助を求めてもすぐに来てくれる人がいない	避難所など、安全なところまで避難することができない	まわりの人とのコミュニケーションをとることができない	避難所などで障碍（がい）に対する配慮をしてもらえるか心配	必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない	補装具や日常生活用具などが利用できない	障害福祉サービスなど、避難所などで必要な支援を受けることができない	その他	わからない	無回答
全体		880	28.4	30.6	16.5	31.1	16.9	39.3	25.8	6.0	11.1	5.5	3.9	1.7
身体	0～17歳	9	22.2	44.4	11.1	22.2	0.0	33.3	11.1	44.4	22.2	11.1	11.1	0.0
	18～39歳	24	8.3	37.5	4.2	37.5	20.8	54.2	37.5	4.2	8.3	8.3	0.0	4.2
	40～64歳	103	30.1	23.3	10.7	23.3	8.7	45.6	33.0	12.6	4.9	6.8	3.9	1.9
	65歳以上	416	30.5	29.8	20.9	44.2	8.7	34.1	24.5	6.5	9.6	4.6	3.4	2.2
知的	0～17歳	50	26.0	54.0	10.0	20.0	34.0	48.0	6.0	6.0	16.0	4.0	2.0	0.0
	18～39歳	64	29.7	56.3	4.7	26.6	39.1	54.7	12.5	1.6	23.4	3.1	0.0	0.0
	40～64歳	50	28.0	64.0	4.0	22.0	44.0	46.0	16.0	2.0	12.0	2.0	6.0	0.0
	65歳以上	2	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	30	23.3	0.0	13.3	20.0	33.3	50.0	63.3	6.7	13.3	6.7	0.0	0.0
	40～64歳	83	22.9	10.8	25.3	9.6	26.5	33.7	44.6	3.6	15.7	10.8	7.2	1.2
	65歳以上	12	25.0	58.3	25.0	25.0	8.3	41.7	33.3	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0
手帳なし	0～17歳	46	26.1	23.9	6.5	17.4	13.0	30.4	4.3	0.0	4.3	10.9	10.9	4.3
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	4	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

⑭福祉全般

問 36	あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。	1 つに○
------	-----------------------------	-------

『宝塚市手話言語条例』の認知度について、すべてにおいて「名前も内容も知らない」が最も多く、身体が 70.4%、知的が 78.8%、精神が 84.0%、手帳なしが 87.8%となっています。



単位：%

		n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体		1,589	3.0	14.5	74.4	8.1
身体	0～17歳	14	7.1	14.3	71.4	7.1
	18～39歳	34	14.7	5.9	73.5	5.9
	40～64歳	172	1.2	15.7	79.7	3.5
	65歳以上	757	3.7	18.2	68.3	9.8
知的	0～17歳	92	4.3	9.8	82.6	3.3
	18～39歳	98	1.0	12.2	83.7	3.1
	40～64歳	92	2.2	16.3	70.7	10.9
	65歳以上	4	0.0	25.0	75.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	33.3	66.7	0.0
	18～39歳	45	4.4	6.7	86.7	2.2
	40～64歳	129	1.6	6.2	87.6	4.7
	65歳以上	23	4.3	21.7	60.9	13.0
手帳なし	0～17歳	124	0.8	5.6	91.1	2.4
	18～39歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	40.0	40.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	71.4	14.3

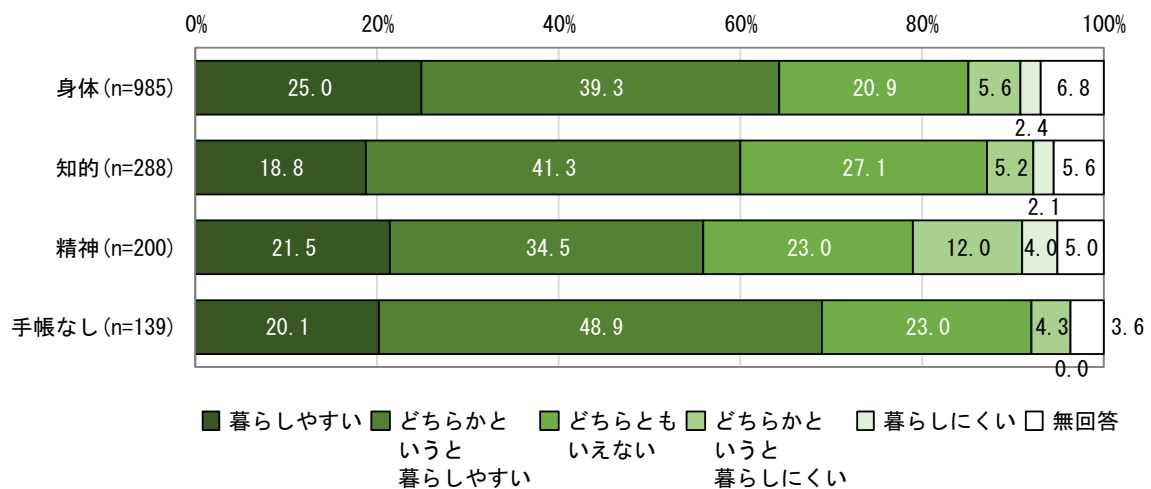
問 37

総合的にみて、現在の宝塚市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか。

1 つに○

宝塚市の暮らしやすさについて、すべてにおいて「どちらかという暮らしやすい」が最も多く、身体が 39.3%、知的が 41.3%、精神が 34.5%、手帳なしが 48.9%となっています。

また、「暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を『暮らしやすい』、「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」を『暮らしにくい』とすると、身体では『暮らしやすい』が 64.3%、『暮らしにくい』が 8.0%で、『暮らしやすい』が 56.3 ポイント多く、知的では『暮らしやすい』が 60.1%、『暮らしにくい』が 7.3%で、『暮らしやすい』が 52.8 ポイント多く、精神では『暮らしやすい』が 56.0%、『暮らしにくい』が 16.0%で、『暮らしやすい』が 40.0 ポイント多く、手帳なしでは『暮らしやすい』が 69.0%、『暮らしにくい』が 4.3%で、『暮らしやすい』が 64.7 ポイント多くなっています。



単位：%

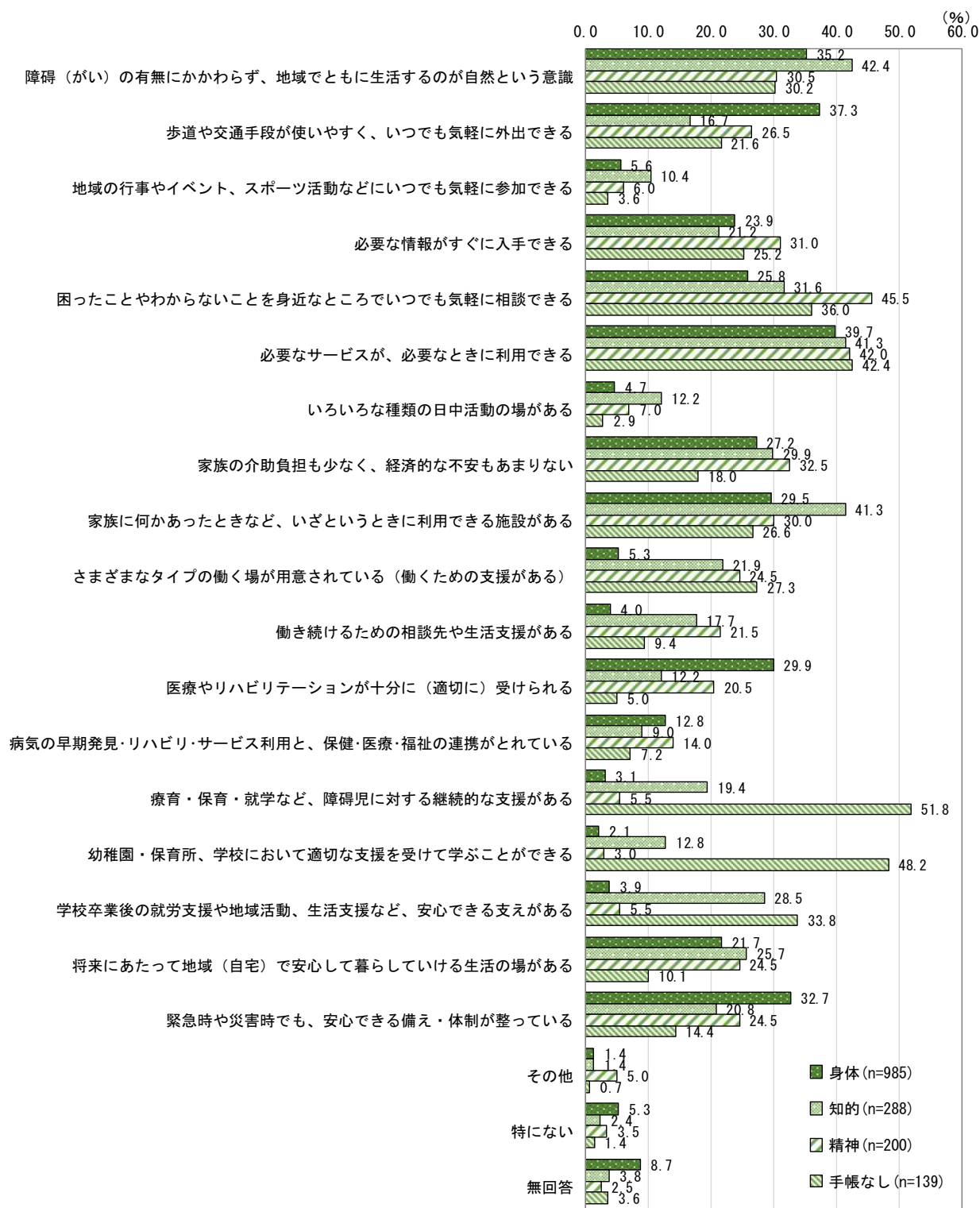
	n	暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	無回答
全体	1,589	23.1	39.1	22.6	6.0	2.6	6.5
身体	0～17歳	14	7.1	57.1	28.6	0.0	7.1
	18～39歳	34	11.8	47.1	20.6	11.8	5.9
	40～64歳	172	23.8	38.4	23.3	6.4	4.7
	65歳以上	757	26.2	39.0	20.3	5.2	7.3
知的	0～17歳	92	14.1	45.7	23.9	10.9	3.3
	18～39歳	98	15.3	46.9	28.6	3.1	4.1
	40～64歳	92	25.0	31.5	30.4	2.2	9.8
	65歳以上	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	18～39歳	45	15.6	37.8	28.9	8.9	0.0
	40～64歳	129	24.0	32.6	20.9	14.7	6.2
	65歳以上	23	21.7	34.8	21.7	4.3	8.7
手帳なし	0～17歳	124	21.0	50.0	21.8	4.8	2.4
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0
	65歳以上	7	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0

問 38

障害（がい）のある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、特に重要なことは何だと思われますか。

5つまで○

障害（がい）のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことについて、身体では「必要なサービスが、必要なときに利用できる」が最も多く 39.7%、知的では「障害の有無にかかわらず、地域とともに生活するのが自然という意識」が最も多く 42.4%、精神では「困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる」が最も多く 45.5%、手帳なしでは「幼稚園・保育所、学校において適切な支援を受けて学ぶことができる」が最も多く 48.2%となっています。



単位：％													
		n	障 碍 （ が い ） の 有 無 に か わ ら ず、 地 域 で と も に 生 活 す る の が 自 然 と い う 意 識	歩 道 や 交 通 手 段 が 使 い や す く、 い つ で も 気 軽 に 外 出 で き る	地 域 の 行 事 や イ ベ ン ト、 ス ポ ー ツ 活 動 な ど に い つ で も 気 軽 に 参 加 で き る	必 要 な 情 報 が す ぐ に 入 手 で き る	困 っ た こ と や わ か ら な い こ と を 身 近 な と こ ろ で も 気 軽 に 相 談 で き る	必 要 な サ ー ビ ス が、 必 要 な と き に 利 用 で き る	い ろ い ろ な 種 類 の 日 中 活 動 の 場 が あ る	家 族 の 介 助 負 担 も 少 な く、 経 済 的 な 不 安 も あ り ま い り な い	家 族 に 何 か あ っ た と き な ど、 い ざ と き に 利 用 で き る 施 設 が あ る	さ ま ざ ま な の 働 く 場 が 用 意 さ れ て い る （ 働 く た め の 支 援 が あ る ）	働 き 続 け る た め の 相 談 先 や 生 活 支 援 が あ る
	全体	1,589	35.2	31.0	6.1	24.9	30.5	39.7	5.9	27.0	30.6	12.5	8.6
身 体	0～17歳	14	14.3	35.7	0.0	21.4	7.1	42.9	7.1	57.1	21.4	42.9	0.0
	18～39歳	34	38.2	44.1	5.9	17.6	14.7	44.1	11.8	32.4	47.1	8.8	14.7
	40～64歳	172	32.6	34.3	4.1	29.7	28.5	35.5	2.9	34.3	27.3	13.4	11.6
	65歳以上	757	36.1	37.9	6.1	22.9	26.0	40.6	4.8	25.0	29.6	2.6	1.7
知 的	0～17歳	92	34.8	16.3	9.8	26.1	30.4	33.7	6.5	28.3	31.5	35.9	14.1
	18～39歳	98	35.7	17.3	12.2	23.5	30.6	50.0	15.3	34.7	54.1	16.3	24.5
	40～64歳	92	54.3	15.2	8.7	13.0	32.6	40.2	14.1	27.2	38.0	15.2	15.2
	65歳以上	4	100.0	25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
精 神	0～17歳	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	18～39歳	45	31.1	24.4	4.4	24.4	44.4	33.3	6.7	33.3	35.6	33.3	42.2
	40～64歳	129	33.3	24.8	6.2	33.3	47.3	43.4	8.5	31.0	29.5	25.6	16.3
	65歳以上	23	17.4	43.5	8.7	30.4	43.5	47.8	0.0	43.5	21.7	0.0	8.7
手 帳 な し	0～17歳	124	30.6	22.6	3.2	24.2	36.3	41.9	3.2	18.5	27.4	27.4	8.9
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	14.3	28.6	42.9	71.4	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
		n	医 療 や リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン が 十 分 に （ 適 切 に ） 受 け ら れ る	病 氣 の 早 期 発 見・ リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン が 十 分 に （ 適 切 に ） 受 け ら れ る	療 育・ 保 育・ 就 学 な ど、 障 碍 （ が い ） 児 に 対 す る 継 続 的 な 支 援 が あ る	幼 稚 園・ 保 育 所・ 学 校 に お い て 適 切 な 支 援 を 受 け て 学 ぶ こ と が で き る	学 校 卒 業 後 の 就 労 支 援 や 地 域 活 動、 生 活 支 援 な ど、 安 心 で き る 支 え が あ る	将 来 に あ た っ て 地 域 （ 自 宅 ） で 安 心 し て 暮 ら し て い ける 生 活 の 場 が あ る	緊 急 時 や 災 害 時 で も、 安 心 で き る 備 え・ 体 制 が 整 っ て い る	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
	全体	1,589	23.3	11.8	10.4	8.4	10.6	21.8	27.8	1.6	4.2	7.4	
身 体	0～17歳	14	28.6	0.0	28.6	14.3	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	
	18～39歳	34	29.4	14.7	11.8	5.9	17.6	32.4	20.6	2.9	0.0	5.9	
	40～64歳	172	26.2	13.4	4.1	3.5	2.3	28.5	39.0	1.2	4.7	2.9	
	65歳以上	757	30.9	12.7	2.1	1.5	2.6	19.7	32.0	1.5	5.7	10.0	
知 的	0～17歳	92	15.2	6.5	46.7	35.9	50.0	16.3	10.9	1.1	1.1	2.2	
	18～39歳	98	10.2	8.2	8.2	3.1	19.4	32.7	28.6	2.0	4.1	3.1	
	40～64歳	92	10.9	12.0	5.4	1.1	16.3	29.3	21.7	1.1	2.2	6.5	
	65歳以上	4	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
精 神	0～17歳	3	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
	18～39歳	45	13.3	11.1	13.3	2.2	8.9	28.9	26.7	4.4	2.2	0.0	
	40～64歳	129	21.7	15.5	2.3	2.3	4.7	22.5	23.3	6.2	3.1	2.3	
	65歳以上	23	30.4	13.0	0.0	0.0	0.0	26.1	26.1	0.0	8.7	8.7	
手 帳 な し	0～17歳	124	4.8	8.1	55.6	53.2	35.5	8.9	10.5	0.8	1.6	2.4	
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	
	65歳以上	7	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	

⑮自由意見

障害福祉サービスや行政の取り組みについて、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。	自由記述
---	------

①身体障害者手帳を持っている人

No	内容
1	道路の整備にもっと力を入れてください。
2	障害 が を持っていると白い目で見られるので、改善していただきたいと思います。
3	学校教育において低学年からの福祉学習、特に障害児 が に対する心の教育の遅れを感じます。
4	宝塚市内にてもっと働く場があるといいと思います。障害者の相談窓口がすこし少ないため、もう少し増やして、場所をわかりやすくしてほしいです。
5	65歳になっても、介護保険優先ではなく、本人の希望にそって、障害福祉サービスを利用できるようにしてください。
6	タクシーチケットはいただいておりますが、バスチケット（福祉バスチケット）もあれば良いと思います。
7	障害者が利用出来る、交通機関や施設が、数多く安価で利用できれば良いと思います。
8	タクシー券の枚数を多く増やしてほしいです。
9	障害者用のタクシー券をもっと増やしてほしいです。
10	経済的不安が大きいと感じています。
11	（開庁日、時間、場所などの問題から）行政への申請や書類（住民票等）等、役所へ行かなくても、自宅等でできるサービスがあれば助かります。
12	聴覚障害者の行ける作業所がないため、尼崎まで通っています。手話でお話しできる作業所があれば、高い交通費を使って遠いところまで行かずにすむのにと、いつも思っています。
13	同じ障害を持つ人達との交流、コミュニケーションをとる機会、場所等の情報が欲しいです。
14	障害、程度による、適切な医療機関情報が欲しいです。
15	市内に信頼できる医療機関がないと感じます。
16	医療機関が第一に障害者を認めてないと感じています。
17	車いすの子供が楽しめるような、イベントをしてほしい。

②療育手帳を持っている人

No	内容
1	教育・保育機関の充実とその後の就職先をもっと充実させてほしいです。
2	相談支援員の人数が足りない、専門知識が足りない、ヘルパーの人数が利用したい人の数より圧倒的に少ないことで、楽しみにしていた外出もできないと感じています。
3	療育について支援が少ないです。支援してくれるスタッフの育成に欠けていると思います。支援級の先生の教育に不満があります。
4	学校の送迎など、家族で交替して送迎していますが、家族の負担が大きいと感じます。

No	内容
5	市立（公立）の障害児通所施設が少なく、未就学児しか通所できないので、小学校入学後も、定期的に通所できる施設がほしいです。毎日、通学のために親が付き添う必要があったため、親が付き添えない日は、本人を欠席させるしかなかったです。
6	放課後等デイサービスを利用しようといろいろ回りましたが、軽度の子や、手帳を持っていない子で占められていて、まったく空きがありませんでした。いくら利用しても定額（補助が受けられる）で塾がわりに利用しているという人もいと聞いたこともあります。本当に困っているのに理不尽です。
7	医療負担が大きいと感じます。
8	地域の高齢者介護施設に親子で入所し、親が亡くなった後も、慣れている状態でそのままみてもらえるようになってほしいです。
9	親子で入居できる施設（介護サービス＋福祉サービス）などが今後できないかと思います。
10	親がもっと働けばいいと思うかもしれませんが、目がはなせず働けない人もいることを知ってほしいです。周囲への気づかいで親が精神的にしんどくなることが多く、相談窓口はあっても、そこまで行けないこともあります。もっと身近に相談できる場所や方法はないかと思います。
11	家族が急に病気やけがで入院した時など子どもを預ける場所がないのでそういう所を作ってほしいです。
12	障害者への仕事の募集等が少ないので、仕事の確保を市として積極的にしてほしいと思います。障害者が1人になっても色々なサービスをうけて生活できるような体制を作ってほしいです。
13	将来的に地域で暮らしていきたいと考えてみたら、幼い頃から我が子を知っている人が周りにいるという安心感が一番だと思います。できるだけ市内の小学校から一緒に学び育っていくことが障害のことも理解してもらえるのではないかと思います。
14	この宝塚で最後を迎えられるよう、重度の障害者施設、医療の整ったグループホームを是非造ってほしいです。
15	グループホームや施設に入居して生活ができるように、段階的に移行していけるシステムや生活の場所を作ってほしいです。
16	宝塚市内に発達の診断ができるクリニックや病院があると、家族の負担が少しでも楽になると思います。
17	市内の病院（開業医）に障害者の治療に対する知識が不十分と感じられ投薬に対しては特に積極的な対応が不足していると常に感じます。公立の大病院等には障害者に対する理解のある医師が（特に内科等）常駐していただきたいと思います。
18	お料理教室とかヨガ教室とか障害のある者が気軽に参加できるイベントを増やして下さい。

③精神障害者保健福祉手帳を持っている人

No	内容
1	計画相談の対応事業所の「新規お断り」の現状をすぐ改善してください。
2	気軽に移動できるように移動支援サービスを充実させてほしいです。

No	内容
3	A型に行ける人が、B型に多数いると感じます。甘いなと思います。
4	交通費（主に鉄道）の障害者割引について、身体障害者と同様に他の障害も適用してほしいです。
5	お金が心配と感じます。電車に乗ることが出来ないので、市バスを作してほしいです。
6	近くの（市役所の）支所で全ての手続きができるようにしてほしいです。
7	B型支援に通っていますが、公賃が安すぎると思います。
8	精神障害者、特に統合失調症の就労支援を充実させてほしいです。
9	病状などから適した理解を得られる精神科の病院が宝塚にはありません。

④障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

No	内容
1	本人に合ったサービスを受けさせてあげれているか不安・心配です。
2	グレーゾーンの子達の、もっときめ細やかな支援を『子どもの未来』のために考えてほしいと思います。
3	療育を利用するにあたり、初動（初回相談）から利用開始まで時間がかかりすぎだと思います。
4	通所受給者証の発行に時間がかかりすぎると思います。
5	療育を利用していますが、親が働いているため、送迎可能な施設が少ないので、選ぶ余地がありません。もっと送迎できる施設を増してほしいです。
6	子どもの療育は事業所が限られているので、サービスの内容よりも通える環境にある事業所をお願いするしかない現状が残念に思います。
7	少し手助けが必要な人のための、スクールボランティアのような人が足りていないと思います。
8	障害を持つ家族（介助者）に対するサービスがもう少しあればありがたいです。障害者本人のサービスは当然ですが、介助者のケアも同じぐらい重要だと感じます。
9	小児精神科医が宝塚にもいると助かります。

4. 資料編（調査票）

（1）18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査票

宝塚市福祉に関するアンケート調査

調査ご協力をお願い

日頃より宝塚市の福祉行政にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
宝塚市では現在、令和3年度を初年度とする、第5次障害者施策長期推進計画及び第6期障害福祉計画・第2期障害福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。
そのため、市民の皆さまの障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるためのアンケート調査を実施することになりました。
この調査は、無記名で回答いただきますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。調査票は宝塚市個人情報保護条例にしたがい、適切な管理をいたします。
また、ご回答いただいた内容は、統計的な処理を行い、計画策定および施策推進のための基礎資料としてのみ使用し、その他の目的で使われることは一切ありません。
調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年1月

宝塚市

宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、家族の方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。

回答は、あてはまる番号に“○”をつけてください（質問によっては、○の数が決まっている場合がありますのでご注意ください）。また、「その他」にあてはまる場合は、その内容を（ ）内に具体的に記入してください。

回答したくない項目があれば、無理に回答いただくことなく構いません。

記入が終わりまししたら、**1月31日（金）までに** 同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。（※切手はいりません）

＜アンケートについてのお問い合わせ先＞

宝塚市健康福祉部 障害福祉課
電話：(0797) 77-2077 / FAX：(0797) 72-8086

◎「障」の表記について

平成31年（2019年）4月1日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障⁷⁶¹」と表記することとしており、法令や制度、固別の名称などを除いては、「障⁷⁶¹」と表記しています。

「障⁷⁶¹」には「さまざま」や「バリア」の意味があり、このバリアは、個人の心身機能の原因で生じるものではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。

本市は、この「障⁷⁶¹」の本来の意味について知識を普及させ、障⁷⁶¹の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」を推進し、暮らしやすい社会の実現を図るため、「障⁷⁶¹」と表記します。

2

1 基礎的事項

問1 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください)

満

歳 (令和2年1月1日現在)

問2 あなたの家族・親族に、障害のある人がいますか。(1つに○)

*「家族・親族」とは、おおむね、父母・祖父母・子・孫・きょうだい・おじ・おば・いとことします。

1. 同居している家族・親族に障害のある人がいる (いた)

2. 家族・親族に障害のある人がいる (いた) が、同居はしていない

3. 家族・親族に障害のある人はいない

問3 あなたは、障害のある人の知り合いがいますか。(1つに○)

1. 自分が住んでいる地域にいる

2. いるが、自分の住んでいる地域にはいない

3. いない

問4 あなたは働いていますか。(1つに○)

1. 働いている

2. 働いていない (学生以外)

3. 学生

4. その他 ()

2 障害者福祉への関心

問5 あなたは、障害のある人の福祉について関心をお持ちですか。(1つに○)

1. 非常に関心がある → 問6へ

2. ある程度関心がある → 問6へ

3. あまり関心がない → 問7へ

4. まったく関心がない → 問7へ

5. どちらともいえない → 問7へ

問6 問5で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。どのような理由から、関心をお持ちですか。(該当するものすべてに○)

1. 自分が身体的・精神的に病弱であるから

2. 自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる (いた) から

3. 福祉活動やボランティア活動をしている (していた) から

4. 保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている (ついでいた) から

5. まちなかやテレビなどで障害のある人のことをよく目にするから

6. 福祉に関する本などを読んで、関心を持ったから

7. その他 ()

3

3 障害のある人に対する理解

問7 あなたは、あなたが住む地域社会には障害のある人に対し、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(1つに○)

1. あると思う → 問8へ

2. 少しはあると思う → 問8へ

3. ほとんどないと思う → 問9へ

4. わからない → 問9へ

問8 問7で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と回答した方にお聞きします。以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思いますか。(1つに○)

1. かなり改善されている

2. 少しずつ改善されている

3. あまり改善されていない

4. 改善されていない

5. どちらともいえない

6. わからない

問9 あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域社会には障害のある人への対応や理解が足りないと思いますか。(1つに○)

1. 全然足りないと思う → 問10へ

2. 少し足りないと思う → 問10へ

3. 足りていると思う → 問11へ

4. わからない → 問11へ

問10 問9で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と回答した方にお聞きします。それはどんな場合ですか。(該当するものすべてに○)

1. 教育の機会

2. 仕事や収入

3. 近所つきあい

4. まちなかでの人の視線

5. 地域の行事や集まり

6. 店員の対応や態度

7. 行政職員などの対応や態度

8. 病院での診察

9. 交通機関や建築物の構造

10. その他 ()

4

115

問11 あなたは、^障碍のある人への市民の理解を深めるためには、何が必要で
あると思いますか。(3つまで○)

1. ^障 碍や ^障 碍者問題に関する啓発の充実
2. ^障 碍への理解を目的とする市民団体への支援
3. ^障 碍のある人へのボランティア活動の推進
4. 市民交流を通じての理解と参加の促進
5. 学校における福祉教育の充実
6. ^障 碍に関する講演会や学習会の開催
7. ^障 碍のある人の積極的な社会への進出
8. 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流
9. ^障 碍のある人の地域のまちづくりへの参加
10. その他 ()
11. わからない
12. 理解を深める必要はない

4 ^障碍のある人への支援・ボランティアなど

問12 あなたは、今まで^障碍のある人へ、どのような支援を行ったことがありますか。(該当するものをすべてに○)

1. 寄付や募金をした	5. 行事への参加の機会を設けた
2. 車いすを押すなど、移動を手伝った	6. 支援をしたことがない
3. 相談相手、話し相手になった	7. 意思疎通支援(手話通訳など)を行った
4. 入浴や買い物などを手伝った	8. その他 ()

問13 あなたは、^障碍のある人の支援に関してどのような考えですか。
(1)～(3)のそれぞれについてお答えください。(それぞれ1つに○)

障 碍 区 分	(それぞれ1つに○)		
	1 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	2 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	3 その他(支援方法がわからないなど)
(1) 身体障 碍 のある人	1	2	3
(2) 知的障 碍 のある人	1	2	3
(3) 精神障 碍 のある人	1	2	3

問14 あなたは、^障碍のある人を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。(1つに○)

1. ある	2. ないが関心はある	3. ない
問16へ	問15へ	問15へ

問15 問14で「2. ないが関心はある」または「3. ない」と回答した方にお聞きします。活動に参加するためには何が必要ですか。(2つまで○)

1. ボランティア活動の情報
2. 活動内容の分かりやすい説明
3. 参加方法の分かりやすい説明
4. 関心を引く活動内容
5. 時間の余裕
6. 交通費等、金銭的負担の軽減
7. 一緒に活動する仲間
8. 気軽に参加できる雰囲気
9. その他 ()
10. ボランティア活動には関心がない

問16 あなたは、^{がい}障碍のある人に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。
(3つまで○)

1. コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）
2. 外出支援（まちを案内したりする外出サポート）
3. 移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など）
4. 配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど）
5. 施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）
6. 福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い
7. 施設訪問等による交流事業
8. スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動
9. 専門的技術を生かした教育・学習・指導活動
10. その他（ ）
11. 特になし

5 障害^{がい}のある人の就労・教育

問17 あなたは、⁴¹⁾ 障碍のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思いませんか。(1つに○)

1. そう思う
2. ある程度そう思う
3. あまり思わない
4. まったく思わない
5. どちらともいえない
6. わからない

問18 現在、^障碍のある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、^障碍のある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。
(3つまで○)

1. 障^{さわり}碍^{がい}に合った仕事であること
 2. 障^{さわり}碍^{がい}に合った勤務条件であること
 3. 賃^{ちん}金が妥当であること
 4. 障^{さわり}碍^{がい}のある人に配慮した設備が整っていること
 5. 職場で、障^{さわり}碍^{がい}のある人に対する支援があること
 6. 通^{つう}勤^{きん}手段があること
 7. 自^{みづか}宅^ちで仕事ができること
 8. 障^{さわり}碍^{がい}に対する周囲の理解があること
 9. 通^{つう}院^{いん}などの保障があること
 0. 就労のための職業訓練が充実すること
1. わからない
 2. その他（

問19 障^か碍のある子どもの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。
(1つに○)

1. 障^{ぼう}障^{しょう}の有無にかかわらず共に学べる環境
2. 障^{ぼう}障^{しょう}の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障^{ぼう}障^{しょう}に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート
3. 普通学校の特別支援学級などでの、障^{ぼう}障^{しょう}に応じたサポート
4. 障^{ぼう}障^{しょう}に応じた特別支援学校での専門的な教育
5. わからない
6. その他（ ）

6 福祉のまちづくり

問20 以前と比較して、まちの環境は、^が障害のある人が外出しやすく改善されていると思いますか。(1つに○)

1. かなり改善されている
2. 少しずつ改善されている
3. あまり改善されていない
4. 改善されていない
5. どちらともいえない
6. わからない

問21 まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。
(2つまで○)

1. 誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている
 2. 歩道を道幅いっぱいには広がって歩く
 3. ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している
 4. 電車やバスで、障^さ碍のある人や、高齢者などに席を譲らない
 5. 困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている
 6. 障^さ碍のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする
 7. 障^さ碍のある方に対して、ジロジロ見る
 8. 補助犬の同伴利用を拒否する（レストランなど）
 9. 障^さ碍のある方の利用を拒否する（タクシーなど）
 10. 障^さ碍のある方を「～である」と決めつける
 11. 障^さ碍のある方を、蔑視する
 12. わからない
 13. その他（
 14. 特にない
- ）

7 宝塚市の障害者施策

問22 あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。

(1つに○)

1. 名前も内容も知っている

2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない

3. 名前も内容も知らない

問23 あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている

2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない

3. 名前も内容も知らない

問24 あなたは、成年後見制度についてご存じですか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている

2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない

3. 名前も内容も知らない

問25 あなたは、宝塚市は障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

1. とても暮らしやすい

2. どちらかというと暮らしやすい

3. どちらかというと暮らしにくい

4. 暮らしにくい

5. どちらともいえない

6. わからない

問26 今後の宝塚市の障害者施策において、障害のある人をサポートする支援者は、行政以外では、次のうちどれが望ましいと思いますか。(1つに○)

1. 家族や親類等

2. ご近所や地域組織等

3. NPOやボランティア等

4. 専門機関や事業者等

5. その他（ ）

問27 今後の宝塚市の障害者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。(3つまで○)

1. 労働・雇用

2. 教育・学習

3. 所得保障

4. 保健・医療

5. 総合的な相談体制

6. 権利擁護・虐待防止

7. 道路や建築物等のバリアフリー

8. 情報バリアフリー

9. 社会参加

10. 政治参加

11. その他（ ）

8 自由意見

問28 障害者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

……ご協力ありがとうございました。

(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者所持者向け調査票

おち 主なサービスの内容 (※回答の参考にしてください)	
居宅介護	居宅において、入浴、排せつ、食事の介護、調理、洗濯、掃除などを行います。
重度訪問介護	重度の肢体不自由者又は重度の知的障害者若しくは精神障害により行動上、著しい困難を有する人で、常時介護を受ける人に、居宅での入浴、排せつ、食事などの介護、外出時の移動の介護を行います。
同行介護	視覚障害のある人が外出をする際に、視覚的情報の交換や移動の支援を行います。
行動支援	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出の支援などを行います。
重度障害者等 包括支援	介護の必要性が著しく高い方(ALS=筋萎縮性側索硬化症、強度行動障害のある知的障害の方など)に、居宅介護など複数の障害福祉サービスを包括的に提供します。
短期入所	自宅で介護をする人が病弱などの場合に、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で療養訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話を行います。
生活介護	常時介護を必要とする人に、原則に障害者支援施設において、①入浴、排せつ、食事の介護、②創作的活動、生産活動の機会、③その他のサービスの提供を行います。
施設入所支援	施設に入所する障害者の方に、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
自立訓練	自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行います。
就労移行支援	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行います。
就労継続支援	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
就労定着支援	一般企業等へ就労した障害者の方に、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために、企業・自治体等の訪問や来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行います。
自立生活援助	施設、グループホームや病院等から一人暮らしを希望する人に、一人暮らしに必要な理解力や生活力を補うために、定期的な居宅訪問など必要な支援を行います。
共同生活援助 (グループホーム)	共同生活を営むべき居宅において入居している人に、主として夜間において、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。

宝塚市福祉に関するアンケート調査

宝塚市健康福祉部 障害福祉課

【ご記入についてのお願い】

■ 宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、家族や介護されている方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。

■ 回答は、あてはまる番号に“○”をつけてください(質問によっては、○の数が増えていく場合がありますのでご注意ください)。また、「その他」にあてはまる場合は、その内容を()内に具体的に記入してください。

■ 回答したくない項目があれば、無理に回答しただけでなくとも構いません。

■ 記入が終わりまししたら、**1月31日(金)までに** 同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。(※切手はいりません)

＜アンケートについてのお願い＞

アンケートへの質問以外にも、ご記入にあたり支援が必要な方はご連絡ください。

宝塚市健康福祉部 障害福祉課

電話：(0797) 77-2077 / FAX：(0797) 72-8086

障害児支援給付	児童発達支援 医療型児童発達支援 放課後等 デイサービス 居宅訪問型 児童発達支援 保育所等訪問 支援	未就学の児童等に、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練を行います。 未就学の児童等に、児童発達支援及び治療を行います。 就学中の児童等に、放課後、又は夏休み等の長期休暇日に、生活能力の向上のために必要となる訓練、社会との交流の促進等を行います。 重度の障害等により外出が困難な児童等に対して、居宅を訪問し発達支援を提供します。 児童発達支援 保育所等訪問支援
地域生活支援事業	移動支援 日中一時支援	屋外での移動が困難な障害者等について、外出のための支援を行います。 障害者等の日中における活動の場を提供し、障害者等の家族の就労支援や、障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息の提供を行います。

◎「障(がい)」の表記について

平成31年(2019年)4月1日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障 碍」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障 碍」と表記しています。

「障」には「さまざま」や「バリア」の意味があり、このバリアは、個人の心身機能の原因で生じるものでなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。

本市は、この「障 碍」の本来の意味について知識を普及させ、障 碍の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」を推進し、暮らしやすい社会の実現を図るため、「障 碍」と表記します。

■ まずはじめに、このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。〈1つに〇〉

1. 本人(この調査票が郵送された宛名の方)
2. 本人の家族
3. 家族以外の介助者

※これ以降、この調査票が郵送された宛名の方を「あなた」とお呼びしますので、ご本人(この調査票の対象者)の状況などについて、お答えください。

※また、回答にあたっては、令和2年1月1日現在の状況でお答えください。

あなた(宛名ご本人)のことなどについて

問1 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください)

満 歳 (令和2年1月1日現在)

問2 現在、あなたはどこで生活していますか。〈1つに〇〉

1. 自宅(持家：戸建、分譲マンションなど) ※家族の所有含む
2. 自宅(民間の賃貸住宅：戸建、マンション、アパートなど)
3. 自宅(公営賃貸住宅)
4. グループホーム
5. 福祉施設(入所中)
6. 病院(入院中) ※一時的に入院されている方は、5以外で選んでください
7. その他()

問3 現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。〈あてはまるものすべてに〇〉

1. 父・母
2. 祖父母
3. きょうだい
4. 配偶者(夫または妻)
5. 子ども(子どもの配偶者含む)
6. 福祉施設やグループホーム、病院などで生活
7. いない(ひとり暮らし)
8. その他()

あなたの状況などについて

問4-1 現在お持ちの障害者手帳および等級（判定）をお答えください。
 <お持ちの手帳すべてに○のうえ、それぞれのあてはまる等級（判定）に○>

- 身体障害者手帳（身体障害者手帳をお持ちの方は問4-2へ）
 1. 1級 2. 2級 3. 3級
 4. 4級 5. 5級 6. 6級
- 療育手帳
 1. A 2. B1 3. B2
- 精神障害者保健福祉手帳
 1. 1級 2. 2級 3. 3級
- 障害者手帳を持っていない

【身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします】（※お持ちでない方は問5へ）
 問4-2 主たる障害は何ですか。＜主なもの1つに○>

- 視覚障害
- 聴覚・又は平行機能障害
- 音声・言語・そしゃく機能障害
- 肢体不自由（上肢）
- 肢体不自由（下肢）
- 肢体不自由（体幹）
- 内部障害（1～6以外）

【すべての方にお聞きします】
 問5 あなたは、医師等から次の診断を受けていますか。＜あてはまるものすべてに○>

- 難病（特定疾患）*1
- 高次脳機能障害*2
- 発達障害*3
- いずれも受けていない

*1 難病（特定疾患）とは、調節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

*2 高次脳機能障害とは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障害等により、脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状があります。

*3 発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などをいいます。

【40歳以上の方にお聞きします】（※40歳未満の方は問7-1へ）

問6 あなたは現在、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は、あてはまる要介護度をお答えください。＜1つに○>

- 受けていない
- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5
- わからない

介護の状況について

問7-1 あなたは、ふだんの生活の中で、何らかの介護や支援を必要としていますか。

- はい（必要）
- いいえ（必要ない）→次のページの問8-1へ

【「1. はい（必要）」とお答えの方にお聞きします】

問7-2 どのような場面での介護や支援が必要ですか。＜あてはまるものすべてに○>

- 食事
- 排せつ（トイレ）
- 入浴
- 家の中の移動
- 着替え（衣服の着脱）
- 寝返り、起き上がり
- 外出（通学・通勤、通院を含む）
- 家事（調理、洗濯、そうじなど）
- 他者との意思疎通
- 薬・服薬の管理
- お金の管理
- 見守り
- その他（ ）

問7-3 あなたを介護・支援してくれる主な人はどなたですか。
 <最もよく関わっている人に○を1つ>

- 同居している家族
- 別居している家族
- サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）
- 入所施設や病院の職員
- ボランティア
- 手話通訳者・要約筆記者
- 近所の人、知人
- その他（ ）

→ 次のページの問7-4（3～7の回答の方は、次のページの問8-1へ）

【問7-3で「1. 同居している家族」または「2. 別居している家族」とお答えの方にお聞きします】

問7-4 主にあなたを介助・支援してくれる方は何歳ですか。＜1つに○＞

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 29歳以下 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 |

問7-5 主にあなたを介助・支援してくれる方の健康状態や身体状況についてお伺いします。＜あてはまるものすべてに○＞

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 健康である | 4. 障害者手帳を持っている |
| 2. 健康とはいえない（定期的に通院等） | 5. その他（ ） |
| 3. 要介護認定を受けている | 6. わからない |

外出の状況について

問8-1 あなたはだんだん、どのくらいの頻度で外出していますか。＜1つに○＞

※運動・通学・病院へ通院、施設への通所も含みます。

- | |
|--------------------------|
| 1. ほぼ毎日（週に5日以上） |
| 2. 週に3～4日 |
| 3. 週に1～2日 |
| 4. 月に1～3日 |
| 5. 月に1日未満 |
| 6. 外出は全くしない ⇒次のページの問9-1へ |

→ 問8-1で「1. ほぼ毎日」～「5. 月に1日未満」のいずれかと回答した方にお聞きします】

問8-2 外出する際に、付き添ってくれる人は必要ですか。＜1つに○＞

- | |
|----------------|
| 1. はい（必要） |
| 2. いいえ（特に必要ない） |

問8-3 外出する時に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|---|
| 1. 付き添ってくれる人の確保ができない |
| 2. バス停や電車の駅などが近くにない、本数が少ない |
| 3. 電車やバスの乗りの降りが困難 |
| 4. 道路や駅などが障害者に配慮されていない（バリアフリー化がされていない） |
| 5. 点字ブロックや音の出る信号機の整備が不十分 |
| 6. 公共サイン（行き先表示や案内板）など、外出先で情報を得るための配慮がされていない |
| 7. 外出先の建物の設備が利用しにくい（トイレやエレベーターなど） |
| 8. 意思疎通ができない |
| 9. 福祉タクシーや福祉車両の予約がとりづらい |
| 10. 周囲の目が気になる |
| 11. 発作など突然の身体の変化が心配 |
| 12. 困った時にどうすればいいのかわからない |
| 13. その他（ ） |
| 14. 持たない |

日中の過ごし方について

問9-1 あなたは、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。＜1つに○＞

- | |
|------------------------|
| 1. ボランティアなどをしている |
| 2. 自宅で過ごしている |
| 3. スポーツ活動をしている |
| 4. 文化活動をしている |
| 5. 入所している施設や病院等で過ごしている |
| 6. その他（ ） |

問9-2 あなたはふだん、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。＜1つに○＞

1. 通園・通学している ⇒問10-1へ
2. 働いている(会社勤めや自営業などで収入を得ている) ⇒11ページの問11-1へ
3. ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
4. 福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型も含む)
5. 専業主婦(主夫)をしている
6. 病院などのデイケアに通っている
7. リハビリテーションを受けている
8. 自宅で過ごしている(※1～7以外)
9. 入所している施設や病院等で過ごしている
10. その他()

⇒12ページの問12-1へ

通園・通学の状況について

【現在、通園・通学されている方(問9-2で「1. 通園・通学している」とお答えの方)にお聞きします】

問10-1 現在、通園・通学しているところはどこですか。＜1つに○＞

1. 保育所、幼稚園、障害児通園施設
2. 小学校・中学校
3. 小学校・中学校(通常学級)
4. 特別支援学校(小・中学部)
5. 特別支援学校(高等部)
6. 高等学校
7. 大学、専門学校、職業能力開発校
8. その他()

問10-2 学校・園生活をj送るjでの課題は、次のどれですか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 通園・通学が大変
2. 学習サポート体制が不十分
3. 学習・学校生活に必要な設備が不十分
4. 校内・園内での介助が不十分
5. 進路指導が不十分
6. 福祉教育が不十分
7. 友達ができない
8. 教職員の理解が得られない
9. 児童・生徒(またはその保護者)の理解が得られない
10. 家族の同伴を求められる
11. その他()
12. 特にない

問10-3 学校卒業後の進路はどうお考えですか。＜最も希望に近いもの1つに○＞

1. 会社員、団体職員などとして働きたい(正規雇用)
2. パート・アルバイト、派遣・契約社員などとして働きたい(非正規雇用)
3. 自営業(家族従業員など)で働きたい
4. 自宅でできる仕事したい(内職・インターネットを活用したものなど)
5. 作業所や就労継続支援を利用して働きたい(福祉的就労)
6. 就労移行支援を利用して働きたい(福祉的就労)
7. その他()
8. 働きたいとは思わない(働けない)
9. わからない(まだ考えられない)

問10-4 あなたは、障害のある児童・生徒の教育・育成に関し、どのようなことが必要であると思いますか。＜主なもの2つまでに○＞

1. 障害への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進
2. 児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実
3. スロープなど、児童・生徒の障害に対応した施設整備
4. 障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や派遣
5. 教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携
6. 早期発見・早期療育システムの確立
7. 障害のある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援
8. 児童・生徒が地域との繋がりを育てる機会を設ける
9. その他()
10. 特にない

⇒ 回答後、13ページの問13へ

仕事の状況や今後の希望について

【問11】は、現在、働いていない方（問9-2で「2. 働いている」とお答えの方）にお聞きします

問11-1 あなたは現在、どのように働いていますか。＜1つに○＞

1. 会社員、団体職員（正規雇用）
2. パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）
3. 自営業（家族従業員など）
4. 自宅でできる仕事（内職など）
5. 作業所や就労継続支援を利用（福祉的就労）
6. 就労移行支援を利用（福祉的就労）
7. その他（ ）

問11-2 現在の職場に就いたのは、障害や疾患の診断を受けた後でしたか。＜1つに○＞

1. 診断を受けた後
2. 診断を受ける前
3. わからない、覚えていない

問11-3 現在の職場に就くために、次の機種の支援を利用しましたか。
くあてはまるものすべてに○＞

1. ハローワーク
2. 市役所の窓口
3. 宝塚市障害者就業・生活支援センター「あどむ」
4. 国や県の支援センター
5. 通っていた学校
6. 就労移行支援事業所
7. そのほかの福祉施設
8. 市内の福祉団体
9. いずれも利用していない

⇒ 回答後、13 ページの間13へ

【問12】は、現在、働いていない方（問9-2で「3.」～「10.」のいずれかとお答えの方）にお聞きします。※17歳以下または65歳以上の方は次のページの問13へ

問12-1 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いませんか。＜1つに○＞

1. 仕事をしたい
2. 仕事をしたい、できない ⇒ 問12-6へ

→ 【1. 仕事をしたい】とお答えの方にお聞きします

問12-2 どのような形で働きたいと思いませんか。＜1つに○＞

1. 会社員、団体職員（正規雇用）
2. パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）
3. 自営業（家族従業員など）
4. 自宅でできる仕事（内職・インターネットを活用したものなど）
5. 作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）
6. その他（ ）

問12-3 働くにあたって、職業訓練を受けたいと思いませんか。＜1つに○＞

1. 職業訓練を受けたい
2. 職業訓練を受けたいと思わない、受ける必要はない
3. すでに職業訓練を受けている
4. 職業訓練についてよく知らない
5. わからない

問12-4 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いませんか。
く主なもの3つまでに○＞

1. 通勤手段の確保
2. 勤務場所における障得へ配慮した設備（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）
3. 短時間勤務や勤務日数等の配慮
4. 介助者（手話通訳者などのコミュニケーション支援者を含む）の配置
5. 在宅勤務の拡充
6. 職場の障得への理解
7. 就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携
8. 仕事に役立つ講習や職業訓練を受けられること（マナーやスキルなど）
9. 自分に合った仕事をみつけられる支援（仕事探しや会社訪問への同行など）
10. 障得や疾患のある人向けの求人情報の提供
11. 仕事についての職場外での相談対応、支援
12. その他（ ）
13. 特にない
14. わからない

問12-5 あなたが働く際に、こういった条件を重視したいと思いますか。
＜主なもの1つに○＞

- 通勤にかかる時間、距離
- 勤務場所における環境（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）
- 職場の障 碍への理解
- 気のあう同僚や仲間との存在
- やりがいの持てる仕事内容
- 働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）
- 給料や賞与
- その他（ ）
- わからない

【問12-1で「2. 仕事はしたくない、できない」とお答えの方にお聞きます】

問12-6 仕事をしたい、できない理由は何か。＜あてはまるものすべてに○＞

- 障 碍が重い
- 働く場が見つからない
- 賃金が低いなどの労働条件が悪い
- 自分に合う（できる）仕事がない
- 通勤が困難である
- 職場環境（作業・事務室、エレベーター、トイレなど）の障 碍への配慮がない
- 家事・育児・介護・介助のため
- 職場の人間関係がわずらわしい
- 働くことが不安である
- 障 碍に理解のある職場がない
- その他（ ）

サービスの利用について

問13 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。＜1つに○＞

- 区分1
- 区分2
- 区分3
- 区分4
- 区分5
- 区分6
- 受けていない
- わからない

問14 サービスの利用状況、および利用意向についてお聞きます。
（サービスの詳細は調査票1枚目の「主なサービスの内容」を参考してください）

（1）現在利用中のサービスはありますか。＜あてはまるものすべてに○＞

- | 【介護給付】 | 【就労定着支援】 |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 居宅介護（ホームヘルプ） | 13. 自立生活援助 |
| 2. 重度訪問介護 | 14. 自立生活援助 |
| 3. 同行援護 | 15. 共同生活援助（グループホーム） |
| 4. 行動援護 | 【障害児通所支援給付】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 16. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所（ショートステイ） | 17. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 18. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 19. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 20. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練（機能訓練、生活訓練） | 21. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 22. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援（A型・B型） | 23. 1～22のサービスは利用していない |

（2）使いたいときに使えないサービスはありますか。＜あてはまるものすべてに○＞

- | 【介護給付】 | 【就労定着支援】 |
|---------------------|---------------------|
| 1. 居宅介護（ホームヘルプ） | 13. 自立生活援助 |
| 2. 重度訪問介護 | 14. 自立生活援助 |
| 3. 同行援護 | 15. 共同生活援助（グループホーム） |
| 4. 行動援護 | 【障害児通所支援給付】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 16. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所（ショートステイ） | 17. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 18. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 19. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 20. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練（機能訓練、生活訓練） | 21. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 22. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援（A型・B型） | 23. 特にない |

(3) 今後、新たに利用を始めた方、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）はどれですか。〈主なもの3つまでに○〉

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 居宅介護（ホームヘルプ） | 13. 就労定着支援 |
| 2. 重度訪問介護 | 14. 自立生活援助 |
| 3. 同行支援 | 15. 共同生活援助（グループホーム） |
| 4. 行動支援 | 【障害児通所支援（給付）】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 16. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所（ショートステイ） | 17. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 18. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 19. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 20. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練（機能訓練、生活訓練） | 21. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 22. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援（A型・B型） | 23. 持にない |

問15 サービスを利用する際、または利用しようとした際に、あなたは、困ったり、不便だと思うことはありますか。〈主なもの3つまでに○〉

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. サービスに関する情報が少ない | 9. 自分に合う事業所がみつからない |
| 2. 何か利用できるのかわからない | 10. 事業所に要望を伝えづらい |
| 3. 利用したい内容のサービスがない | 11. 事業所の担当者が代わってしまう |
| 4. サービスの利用方法がわかりづらい | 12. 経済的負担が大きい |
| 5. サービス利用のための手続きが大変 | 13. 他人を家に入れることに抵抗がある |
| 6. 利用できる回数や日数が少ない | 14. その他 |
| 7. 事業所との利用日時等の調整が大変 | （ ） |
| 8. サービスの質に不満がある | 15. 特にない |

情報の入手・相談について

問16 あなたはふだん、障碍に関することや福祉サービスなどに関する情報について、十分に得られていると思いますか。〈1つに○〉

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 十分に得られている | 4. あまり得られていない |
| 2. 必要なものは得られている | 5. ほとんど得られていない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問17 ふだん、どこから情報を得ていますか。〈あてはまるものすべてに○〉

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1. 市の広報 | 12. 福祉施設（職員・スタッフなど） |
| 2. 市のホームページ | 13. サービス事業所（ホームヘルパーなど） |
| 3. 市役所（福祉担当など） | 14. ボランティア活動センター |
| 4. 市内の相談支援事業所 | 15. 障害者等の団体や家族会 |
| 5. 市や県の公的機関 | 16. インターネット（ホームページ） |
| 6. 宝塚市社会福祉協議会 | 17. SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス） |
| 7. 民生委員・児童委員 | 18. テレビ・ラジオ |
| 8. 障害者相談員 | 19. 家族や親せき |
| 9. 学校や保育所、幼稚園など | 20. 友人・知人、近所の人 |
| 10. 医療機関（病院など） | 21. その他（ ） |
| 11. ケアマネジャー | 22. 入手する手段がない |

問18 あなたは、悩みごとや困りごとがあったとき、だれに（どこに）相談していますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

1. 市役所の担当窓口

2. 市内の相談支援事業所

3. 市や県の公民館の相談窓口

4. 宝塚市社会福祉協議会

5. 民生委員・児童委員

6. 障害者相談員

7. 学校や教育委員会

8. 医療機関（ケースワーカーなど）

9. ケアマネジャー

10. ピアカウンセラー・ピアサポーター

11. 福祉施設（職員・スタッフなど）

12. サービス事業所（ホームヘルパーなど）

13. ボランティア活動センター

14. 障害者等の団体や家族会

15. 家族や親せき

16. 友人・知人、近所の人

17. その他（ ）

18. （相談したいが）相談先がない

19. 相談しない（相談したいと思わない）

問19 悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることがありますか。
＜主なもの3つまでに○＞

1. どういった相談先があるかわからない

2. 相談場所が遠い

3. 相談する日時が合わない

4. プライバシー（個人情報）が守られるか不安

5. 専門的な知識の不足や対応に不満

6. 実際の支援につながらない、時間がかかる

7. 自宅訪問の相談が受けられない

8. 親身に話を聞いてもらえない

9. 相談先が限られている（少ない）

10. その他（ ）

11. 特になし

17

権利擁護について

問20-1 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。

1. ある（あった）

2. 少しある（あった）

3. ない ⇒次のページの問21へ

問20-2 それはどのような場所（場面）でしたか。＜あてはまるものすべてに○＞

1. 職場（仕事中）

2. 学校や保育所・幼稚園

3. 仕事を探すとき

4. 家を借りるとき

5. お店で買い物をするとき

6. 電車やバスなどを利用するとき

7. 映画館や美術館などを利用するとき

8. レストランなどで外食するとき

9. 旅行などで泊まる宿泊先

10. 病院などの医療機関

11. 住んでいる地域

12. 災害時（避難場所など）

13. その他（ ）

問20-3 その時、あなたは、どのような対応をされましたか。＜あてはまるものすべてに○＞

1. 親や家族に相談した

2. 学校の先生や施設の職員などに相談した

3. 弁護士などの専門家に相談した

4. 行政などの相談窓口相談した

5. 障害を理由とする差別等に関する相談窓口（宝塚市高齢者・障害者権利擁護センター・障害福祉課）に相談した

6. 相談先がわからなかった

7. 泣き寝入りした（救済等をあきらめた）

8. その他（ ）

18

127

問21 障害者に対する理解を深めるためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

＜主なもの3つまでに○＞

- 問22-1 あなたは、成年後見制度について存じですか。＜1つに○＞

- 問22-2 あなたは成年後見制度を活用したいとおもいますか。<1つに○>

- ### 3. 活用したいと思わない

4. わからない

問22-3 現在、活用している成年後見制度に満足していますか。〈1つに○〉

- 【問22-2で「3. 活用したいとは思われない」または「4. わからない」と回答した方にお聞きします】

問23 あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。

1. 名前も内容も知っている
なまえ ないよう ぎょう
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
なまえ ないよう し
3. 名前も内容も知らない
なまえ ないよう ぎょう

今後の暮らしについて

問24 あなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。

＜あなたの希望に最も近いもの1つに○＞

1. 自宅で家族と暮らしたい
2. ひとりで自立して暮らしたい
3. グループホームなどを利用したい（これからもし続けたい）
4. 福祉施設に入所したい（これからもし続けたい）
5. その他（ ）
6. わからない

問25 仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えると、どのような条件（支援）が必要だと思いますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 家族の理解・支援
2. 家族以外の支援者（ボランティア・手記通訳などのコミュニケーション支援者）
3. 必要な在宅サービスの利用（ホームヘルプなど）
4. 在宅医療の充実（訪問診療、訪問看護など）
5. 住むところの確保・支援
6. 働く場の確保・支援
7. 経済的な負担の軽減
8. 身近な相談相手（相談先）
9. 日中いつでも利用できる居場所
10. 地域住民の理解
11. プライバシーの確保（一人部屋の使用、トイレ・入浴など）
12. その他（ ）
13. わからない
14. 特になし

問26 仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えると、どのような地域活動や行事に参加したいと思いますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 地域サロン*
2. 清掃や花壇づくりなどのまちの美化活動
3. 公民館などの講座への参加
4. ボランティア活動
5. 趣味やサークル活動
6. 防災訓練
7. 運動会
8. 盆踊り、夏祭り、地域まつりなどの地域のおまつり
9. おしゃべり、井戸端会議
10. その他（ ）
11. 特になし

* 地域サロンとは、地域住民の方々が気軽に集まり、仲間づくりや社会参加を目的に、地域の方々とより運営されるものです。宝塚市には約174か所あります。

問27 仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えると、どのような支え合い活動があってもいいと思いますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援
2. ゴミ出しや電球の交換などの力のある作業
3. 買い物代行
4. 近場への外出の付き添い
5. 配食サービスの支援
6. 見守り等安全確認
7. 悩み事の相談や話し相手
8. 急病時などへの病院連絡等の対応
9. 緊急時での親族等への連絡
10. その他（ ）
11. 特になし

問28 あなたは、地域との関わりに対してどのようなお考えですか。＜1つに○＞

1. 地域のひと心から打ち解けられる関係を築きたい
2. いざという時のために隣近所の付き合いを大切にしたい
3. 住民がお互いに協力して地域を良くする活動に参加していきたい
4. ボランティアや自治会、まちづくり協議会等の役員として参加したい
5. 隣近所の協力はあてにせず、自分のことは自分でする
6. 地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない ⇒ 問29へ
7. その他（ ）

【問28で「6. 地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない」と回答した方にお聞きします】

問29 地域との関わりを持ちたくないのはなぜですか。＜1つに○＞

1. 自分の生活や時間を大切にしたいから
2. 近所付き合いが苦手だから
3. 必要性を感じないから
4. まわりの人が関わろうとしないから
5. 障害や障壁のある人への理解が不足していると感じるから
6. コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから
7. 理由はない
8. その他（ ）

保健・医療について

問30 あなたは、宝塚市内にかかりつけの医師はいいますか。＜1つに○＞

1. 宝塚市内にかかりつけの医師がいる ⇒ 問32へ
2. 宝塚市内にかかりつけの医師はいない ⇒ 問31へ

【問30で「2. 宝塚市内にかかりつけの医師はいない」と回答した方にお聞きします】

問31 宝塚市内にかかりつけの医師はいないのはなぜですか。＜1つに○＞

1. 宝塚市内に専門に診てくれる医師がいらないから
2. 受診先がその都度異なり、特に決まった医師がいらないから
3. かかりつけの医師の必要性を感じないから
4. かかりつけの医師の探し方がわからないから
5. その他（ ）

問32 医療を受ける上で困っていることはありますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 医療費の負担が大きい
2. 病院までの交通費の負担が大きい
3. 通院（病院までの移動）が困難である
4. 通院時の付き添いがない
5. 専門的な治療をする病院が近くにない
6. 往診を頼める医師がいない
7. 障壁が理由で治療を受けにくい（診療科目： ）
8. 意思の疎通ができない
9. 医療用語など専門的な説明が分かりにくい
10. その他（ ）
11. 特にない

問33 あなたは、障 碍のある人の保健・医療に関し、どのようなことが必要だと思いますか。＜1つに○＞

1. 障 碍のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備
2. 早期発見・早期療 育（治療）システムの確立
3. 乳幼児健診とその後の育児相談の充実
4. 保健・福祉等関係機関の連携による地域リハビリテーション体制の充実
5. 保健・福祉等関係機関の連携による二次的障害の予防・治療
6. その他（ ）
7. 特になし

災害対策について

問34 あなたは、災害が起こったときに心配なことはありますか。＜1つに○＞

1. 心配なことがある ⇒問35へ
2. 心配なことはない
3. わからない

【問34で「1. 心配なことがある」と回答した方にお読みします】

問35 災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 災害に関する正確な情報が伝わらない
2. 自力で救助を求めることができない
3. 救助を求めてもすぐに来てくれる人がいない
4. 避難所など、安全なところまで避難することができない
5. まわりの人とのコミュニケーションをとることができない
6. 避難所などで障 碍に対する配慮をしてもらえない
7. 必要な治療を受けられない、必要な薬 が手に入らない
8. 補食や日常生活用などが必要でない
9. 障 害福祉サービスなど、避難所などで必要な支援を受けることができない
10. その他（ ）
11. わからない

福祉全般について

問36 あなたは、『宝 塚市手話言語条例』についてご存じですか。＜1つに○＞

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も内容も知らない

問37 総合的にみて、現在の宝塚市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか。＜1つに○＞

1. 暮らしやすい
2. どちらかというと暮らしやすい
3. どちらともいえない
4. どちらかというと暮らしにくい
5. 暮らしにくい

問38 障 碍のある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、特に重要なことは何だと思いますか。（○は主なもの5つまで）

1. 障 碍の有無にかかわらず、地域でともに生活するのが自然という意識
2. 歩道や交通手段が使いやすい、いつでも気軽に外出 できる
3. 地域の行事やイベント、スポーツ活動などについても気軽に参加できる
4. 必要な情報 がすぐに入手 できる
5. 困ったことやわからないことを身近なところでも気軽に相談 できる
6. 必要なサービスが、必要に応じて利用できる
7. いろいろな種類の日 中活動の場がある
8. 家族の介助負担も少なく、経済的な不安もあまりない
9. 家族に何かあったときなど、いざというときに利用できる施設がある
- 10.さまざまなタイプの働 く場が用意されている（働 くための支援がある）
11. 働き続けるための相談先や生活支援がある
12. 医療やリハビリテーションが十分に（適切に）受けられる
13. 病気の早期発見・リハビリ・サービス利用と、保健・医療・福祉の連携がとれている
14. 療 育・保育・就 学 など、障 碍児に対する継続的な支援がある
15. 幼稚園・保育所、学校において適切な支援を受けて学ぶことができる
16. 学校卒業後の就 労 支援や地域活動、生活支援など、安心できる支えがある
17. 将来にあたって地域（自宅）で安心して暮らしていただける生活の場がある
18. 緊急時や災害時でも、安心して暮らせる備え・体制が整 っている
19. その他（ ）
20. 特になし

■ 障害福祉サービスや行政の取組について、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。記入もれないかご確認いただき、返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストに投函してください。（※切手不要）

団体へのヒアリング調査結果

1. 医療・介護等について

- ・医療従事者、手話通訳者、ろう者のやり取りが難しいため、それぞれ3者の歩み寄りが必要。ただし、医療従事者とろう者の両者のことが理解できる手話通訳者の専門性を高めることが一番重要である。
- ・宝塚市立病院ではなく他市の病院（市立伊丹病院）を利用している人が多い。
- ・市立伊丹病院はてんかんについて専門の外来がある。
- ・かかりつけ医は障碍特性を理解しているが、かかりつけ医以外の診療科へ受診するときが大変である。
- ・自立支援協議会で作成した絵カードを普及させてもらいたい。
- ・宝塚市立病院や宝塚市医師会へ「宝塚すみれ隊」による知的障害疑似体験を実施したい。
- ・入院中の移動にも危険が伴うので同行援護を使用したい。
- ・市立病院の重度身体障害者の受け入れに対する対応が悪い。（夜間に救急で診てもらいたかった時、市立病院に連れていくため電話をしたら満床と言われ断わられた。しかし、救急車を呼んだら、結局、市立病院に搬送されたなど）
- ・市立病院の駐車場の身体障害者枠3台しかなく、当事者しか止められない。（介護者×）また、駐車場が狭かったり、障害者用であっても前後のスペースが少なく、前向き駐車しかできない。
- ・市立病院の医療型レスパイトは事前の手続き等が複雑で利用しにくい。急性期の病院ということで、レスパイト的な入院が馴染まないと言われる。
- ・リハビリテーションについて、今は施設に連れていけるが、今後、介護者が高齢になってきたら連れていけなくなる可能性があるため、訪問リハビリ等の人材確保が必要。
- ・リハビリの内容によっては、器具が必要になってくるので、訪問リハビリも限界がある。

2. 年金等について

- ・障害年金を申請しない人や停止になったときにも不服申し立てをしない人がいる。
- ・障害年金の申請には診断書が必要だが、知的障害のことを理解している医師が少ない。
- ・障害基礎年金だけで生活ができるようにしてもらいたい。

3. 教育について

- ・小中学校は希望者に対して、手話通訳やノートテイクを利用できるような制度があるが、そのことを知らない人が多く、活用されていないのではないかと。
- ・中学校までは上記制度があるが、高校になると支援が途切れてしまう。県と市の教育委員会の違いはあると思うが、制度が途切れないようにしてもらいたい。
- ・手話に触れる機会を増やしてもらいたい。手話で学ぶ、手話を学ぶ。
- ・地域の学校の受け入れについては、その時の校長先生の考え方に左右されているように感じる。
- ・中学校からは勉強が中心になり、地域の学校では難しくなるため、障碍に対する専門性が高い特別支援学校を選ぶ人が増える。
- ・特別支援学級では、点字などの専門的な教育を受ける機会が少ない。

- ・特別支援学校では、重複障碍の人が多く生活支援が主となり、視覚障碍に必要な専門的な教育を受けられなくなっている。
- ・低学年のうちから福祉教育を実践して欲しい。
- ・小学校の高学年になると地域の学校と養護学校の交流が形だけになっている。
- ・地域の学校に所属していても、結局は特別支援学級で別の教室となり、他の児童とあまり交流がない。
- ・中学校になると支援が手厚い養護学校を選ぶ人が多い。
- ・人工内耳の電池代補助は、子どもの言葉獲得のため強く希望する。

4. 療育について

- ・5歳児検診ができたことは良かった。
- ・障碍受容ができていない保護者に対して、傷つけないように伝えてもらいたい。
- ・療育の拠点であるすみれ園と、他の児童発達支援事業所や養護学校との連携を図る。
- ・すみれ園は様々な療育器具が揃っていない。
- ・すみれ園には専門性を発揮してもらいたい。

5. 職業相談等について

- ・職業相談会の継続実施を望む

6. 雇用の促進等について

- ・一般就労ができたとしても、職場の人に障碍特性を理解してもらうまで時間がかかる。
- ・一般就労をしていても、体調の変化により通勤が大変になる。
- ・薬が効かなくなると体調管理が困難となり、就労を継続するうえで課題が多くなる。
- ・在宅でできる仕事の情報が欲しい。

7. 住宅の確保について

- ・賃貸契約をするときに聴覚障害だと貸せないと言われることがある。
- ・日常生活用具の設置を断られることがある。
- ・視覚障碍者の一人暮らしだと火事を心配され、部屋を貸してもらえないことがある。
- ・要約筆記の普及

8. 公共的施設のバリアフリー化について

- ・すべての道路に歩道を設置してもらいたい。
- ・歩道には2人が並んで歩けるスペースを確保してもらいたい。

- ・自転車専用道路ができているが、まだまだ歩道を走る自転車があり危険である。
- ・点字ブロックが大きすぎるので小さくしてもらいたい。

9. 情報の利用におけるバリアフリー化等について

- ・要約筆記の普及

10. 相談等について

- ・相談支援事業所や地域包括支援センターなど福祉の相談窓口がわかりづらい。
- ・計画相談の相談員の力量にかなりばらつきがある。
- ・要約筆記の普及

11. 経済的負担の軽減について

- ・働いて収入を得られる環境が整っていない。
- ・人工内耳の電池代補助は、子どもの言葉獲得のため強く希望する。

12. 文化的諸条件の整備について

- ・障害者でも健常者でも対応できるユニバーサルデザインとなっている施設であれば専用の施設は必要ないと思う。しかし、ユニバーサルデザインの施設が一つあったとしても、健常者は他の施設も利用できることを考えると障害者は優先的に使用できるような配慮は必要であると思う。
- ・障害特性のためにイベントに参加しにくい。
- ・障害者に対応できるスポーツ指導員が少ない。
- ・スポーツセンターに障害者スポーツの器具を置いてもらいたい。
- ・新たにできる芸術文化施設で障害者が活動できるようにして欲しい。
- ・既存の資源があれば、情報発信して欲しい。
- ・イベントの案内を見たときに、障害者への配慮が明記されていないと参加しにくい。

13. 防災及び防犯について

- ・避難所で手話や筆談をしてもらえる保証がないため、自宅で過ごしている。
- ・ホワイトボードに情報を書くなど誰にでも情報がわかるような方法を考えてもらいたい。
- ・災害時要援護者制度など普段からの近所付き合いが大切なのはよくわかるが、手話ができない人のなかに入るのはハードルが高い。
- ・避難所にいる他の市民の視線を感じるので、避難所には行かず、自宅や車で過ごしている。
- ・一般的には避難所に車で行くことは遠慮してくださいとなっているので、障害者は行きづらい。

- ・聞こえないため、情報取得手段の確保を望む

14. 選挙等における配慮について

- ・字が書けなかったり、何を書いたら良いかわからないため、選挙に行かない人が多い。

15. その他

- ・手帳要件は変えなくてもよいが、補聴器の補助要件を変えて欲しい（現在 70 d → せめて 60 d）。

宝塚市障^{がい}碍者差別解消に関する条例

宝塚市条例第38号

宝塚市^{がい}障害者差別解消に関する条例

目次

前文

第1章 総則（第1条—第6条）

第2章 障害^{がい}を理由とする差別を解消するための施策

第1節 普及啓発（第7条・第8条）

第2節 障害^{がい}を理由とする差別の解消のための手続（第9条—第13条）

第3節 宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会（第14条）

第3章 宝塚市障害者差別解消支援地域協議会（第15条）

第4章 雑則（第16条・第17条）

第5章 罰則（第18条）

附則

全ての市民は、障害の有無にかかわらず、基本的人権を享有するかけがえない個人としての尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活が保障される権利を有しています。

宝塚市は、平成11年に「シンシアのまち宝塚」を宣言し、全国に先駆けて、身体障害者補助犬支援事業に取り組むなど、人にやさしいまちづくりを推進してきました。しかしながら、保育、教育、就労、医療、移動、生活環境、情報、防災など様々な場面で障害のある人への差別が依然として存在しています。

ここに、宝塚市は、全ての市民が障害を理由とする差別の解消に取り組むことにより、障害のある人もない人も共に住みよいまち宝塚を実現するため、この条例を制定します。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、障害を理由とする差別の解消に関して基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、障害を理由とする差別を解消するための施策を定めることにより、障害を理由とする差別の解消を推進し、もって障害がある者の人権を尊重し、障害の有無にかかわらず、住みよい地域社会を実現することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- （1） 障害者身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難治性疾患その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であつて、障害及び社会的障壁により、継続的又は断続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
- （2） 社会的障壁障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。
- （3） 障害を理由とする差別障害を理由とする不当な差別的取扱いを行うこと又は合理的配慮の提供をしないことをいう。
- （4） 障害を理由とする不当な差別的取扱い客観的にやむを得ないと認められる特別な事情なく、障害又は障害に関連する事由により障害者を区別し、排除し、又は制限すること、障害者に条件をつけることその他の不利益な取扱いをいう。

- (5) 合理的配慮の提供障害者が現に日常生活又は社会生活において、社会的障壁の除去を必要とすることが認識される場合において、当該障害者が障害者でない者と同等の権利を行使するため、その実施が相当と認められる範囲を超えた過重な負担を課すこととなるものを除き、必要かつ適切な変更、調整等を行うことをいう。
- (6) 行政機関等障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号。以下「障害者差別解消法」という。）第2条第3号に規定する行政機関等をいう。
- (7) 事業者市内において商業その他の事業を行う者（行政機関等を除く。）をいう。
- (8) 市民市内に居住し、通勤し、又は通学する者をいう。

（基本理念）

第3条 障害を理由とする差別の解消は、全ての障害者が障害者でない者と等しく、基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを前提としつつ、次に掲げる事項を旨として図られなければならない。

- (1) 全ての障害者は、社会を構成する一員として経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること。
- (2) 全ての障害者は、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々との共生を妨げられないこと。
- (3) 全ての障害者は、言語その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会が拡大される必要があること。
- (4) 障害を理由とする差別の多くが、障害及び障害者に対する誤解、偏見その他の理解の不足から生じていることを踏まえ、全ての市民が障害及び障害者に対する知識及び理解を深める必要があること。
- (5) 合理的配慮の提供は、障害の特性並びに社会的障壁の除去が求められる具体的場面及び状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであり、障害者が現に置かれている状況を踏まえ、双方の建設的対話による相互理解を通じて、代替措置の選択も含め、合理的な範囲で、柔軟に行われる必要があること。
- (6) 差別を解消するための取組は、当該差別をした者を一方的に非難するのではなく、障害の有無にかかわらず、共に学び合い、共に協力していくことを基本とすること。

（差別の禁止）

第4条 何人も、障害を理由とする差別をしてはならない。

（市の責務）

第5条 市は、第3条に規定する基本的な理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、障害を理由とする差別を解消するための施策を総合的かつ計画的に実施するものとする。

（市民及び事業者の責務）

第6条 市民及び事業者は、基本理念にのっとり、障害及び障害者に対する知識及び理解を深めるとともに、市が実施する障害を理由とする差別を解消するための施策に協力するよう努めなければならない。

第2章 障害を理由とする差別を解消するための施策

第1節 普及啓発

(市民及び事業者への啓発)

第7条 市は、障碍及び障碍者に対する知識及び理解を深めることを市民及び事業者に求め、市民及び事業者が障碍を理由とする差別を解消し、合理的配慮の提供を円滑に行うことができるよう、その普及啓発を行うものとする。

(職員研修)

第8条 市(地方公営企業法(昭和27年法律第292号)第3章の規定の適用を受ける市の経営する企業を除く。)は、障害者差別解消法第10条に規定する職員対応要領を定め、その適切な実施に関する職員研修を行うものとする。

第2節 障碍を理由とする差別の解消のための手続

(相談)

第9条 障碍者、その家族又は支援者及び事業者は、市に対し、障碍を理由とする差別に該当すると思われる事案について相談することができる。

2 市は、前項の規定による相談があったときは、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 相談を受けた事案に係る事実の確認及び調査を行うこと。
- (2) 必要な情報の提供を行うこと。
- (3) 関係者間の調整を行うこと。
- (4) 関係行政機関への連絡調整を行うこと。

3 市は、障碍者の権利擁護のために必要な援助を行う事業所に対し、前項各号に掲げる業務の全部又は一部を委託することができる。この場合において、市は、当該受託事業所と共同して相談業務を行うものとする。

(助言又はあっせんの申立て)

第10条 障碍者、その家族又は支援者は、障碍を理由とする差別を受けたと思われる事案(行政機関等又は事業者が市内で行う事業におけるものに限る。以下「差別事案」という。)に関して、市長に対し、当該差別事案を解決するために必要な助言又はあっせんの申立てをすることができる。

2 前項の障碍者の家族及び支援者は、申立てをすることが当該障碍者の意に反することが明らかであると認められるときは、申立てをすることができない。

3 第1項の申立ては、前条第1項の規定による相談を経た後でなければ、これを行うことができない。ただし、正当な理由があるときは、この限りでない。

4 差別事案が次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の申立てをすることができない。

- (1) 行政庁の行った処分の取消し又は変更を求めるものであるとき。
- (2) 申立ての原因となる事実のあった日(継続する行為にあっては、その行為の終了した日)から3年を経過しているものであるとき(その間に申立てをしなかったことにつき正当な理由があるときを除く。)

(調査)

第11条 市長は、前条第1項の申立てがあったときは、その申立てに係る事実について、必要な調査を行うことができる。この場合において、調査の対象者は、正当な理由があるときを除き、これに協力しなければならない。

(助言又はあっせん)

第12条 市長は、前条の調査が終了したときは、第14条第1項に規定する宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会（同項を除き、以下「調整委員会」という。）に対して、当該調査の結果を添えて、助言又はあっせんの手続を開始するよう求めるものとする。

2 調整委員会は、前項の規定による求めがあったときは、次に掲げる場合を除き、助言又はあっせんの手続を開始するものとする。

（1）助言又はあっせんの必要がないと認めるとき。

（2）当該差別事案がその性質上助言又はあっせんをするのに適当でないと認めるとき。

3 調整委員会は、助言又はあっせんのために必要があると認めるときは、当該差別事案の関係者に調整委員会への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

4 調整委員会は、助言又はあっせんの手続の開始後においても、第2項各号のいずれかに該当することが明らかになったときは、当該手続を中止することができる。

5 調整委員会は、第1項の規定による求めにより助言又はあっせんを行ったときは、市長に対して、その旨を報告するものとする。

6 調整委員会は、第2項各号のいずれかに該当するとして、助言又はあっせんを行わないときは、市長に対して、その旨を報告するものとする。

（勧告及び公表）

第13条 調整委員会は、障害を理由とする差別をしたとされる者が、正当な理由があるときを除き、前条のあっせんを受諾せず、又はこれを受諾したにもかかわらずあっせんに従わないときは、当該障害を理由とする差別をしたとされる者に対して、必要な措置をとるよう勧告することを市長に求めることができる。

2 市長は、調整委員会から前項の規定による勧告を求められたときは、当該障害を理由とする差別をしたとされる者に必要な措置をとるよう勧告することができる。

3 市長は、前項の規定による勧告をしようとするときは、あらかじめ当該勧告を受ける者に対しその旨を通知し、かつ、その者に対し意見を述べる機会を与えなければならない。

4 市長は、第2項の規定による勧告を受けた者が、正当な理由なく当該勧告に従わないときは、その旨を公表することができる。

5 市長は、前項の規定による公表をしようとするときは、あらかじめ当該公表に係る者に対しその旨を通知し、かつ、その者に対し意見を述べる機会を与えなければならない。

第3節 宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会

（調整委員会）

第14条 市は、差別事案に関する申立てに係る助言又はあっせんを行うため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づく市長の附属機関として宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会を設置する。

2 調整委員会は、委員7人以内をもって組織する。

3 委員は、職務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

4 この条例に定めるもののほか、調整委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、執行機関の附属機関設置に関する条例（昭和41年条例第1号）の定めるところによる。

第3章 宝塚市障害者差別解消支援地域協議会

第15条 市は、障害者差別解消法第17条第1項の規定に基づき、宝塚市障害者差別解消支援地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

第4章 雑則

（施策の実施状況の確認及び評価）

第16条 市は、この条例に基づく施策の実施状況を確認し、及び評価した上で公表し、施策に反映するものとする。

2 市は、施策の実施状況の確認及び評価をするに当たっては、協議会において協議を行うものとする。
（委任）

第17条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、別に市長が定める。

第5章 罰則

第18条 第14条第3項に違反した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成29年1月1日から施行する。ただし、第10条から第14条まで及び第18条並びに附則第4項の規定は、平成29年7月1日から施行する。

（検討）

2 市長は、この条例の施行後3年を目途として、この条例の施行の状況、社会情勢の推移等を勘案し、必要があると認めるときは、この条例の規定について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

3 市長は、前項の規定による検討を加えるに当たっては、協議会において協議を行うものとする。（執行機関の附属機関設置に関する条例の一部改正）

4 執行機関の附属機関設置に関する条例（昭和41年条例第1号）の一部を次のように改正する。第1条の表市長の部宝塚市介護老人福祉施設等事業者選考委員会の項の次に次のように加える。

宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会	宝塚市障害者差別解消に関する条例（平成28年条例第38号）第10条第1項に規定する差別事案を解決するために必要な助言又はあっせんに関する事務	7人以内	知識経験者3人以内 事業主を代表する者2人以内 障害者その他障害を理由とする差別の解消に関して理解のある者2人以内
---------------------------	--	------	---

宝塚市手話言語条例

宝塚市条例第37号

宝塚市手話言語条例

私たちは、言語を使うことにより、他者とコミュニケーションを図り、社会生活を営み、さらに、知識を蓄え、文化を創造してきました。

手話もまた、音声言語である日本語とは異なる独自の体系を持つ言語であり、ろう者によって使われ、育まれてきました。障害者の権利に関する条約や障害者基本法においても、手話は言語の一つとして、明記されています。

しかし、今なお、手話は言語である、との認識は十分にされておらず、手話を使用しやすい環境が整えられているとはいえません。

全ての市民が心豊かに共に生きる地域社会を実現していくためには、市民が相互に人格と個性を尊重するとともに、市、市民及び事業者全てが言語を含めた市民の中にある多様性を理解することが大切です。

ここに、私たちは、手話は言語であることを認識し、手話への理解に努め、手話を使用しやすい環境づくりを推進することにより、インクルーシブな地域社会の実現を目指すことを決意し、この条例を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、手話への理解の促進及び手話の普及に関する基本理念を定め、市の責務並びに市民及び事業者の役割を明らかにするとともに、市が推進する施策を定めることにより、全ての市民が相互に人格及び個性を尊重し、心豊かに共に生きる地域社会を実現することを目的とする。

(基本理念)

第2条 手話への理解の促進及び手話の普及は、手話は音声言語である日本語とは異なる独自の体系を持つ言語であるとの認識に基づき、市民が手話により意思疎通を図る権利を有すること及びその権利を尊重することを基本として行われなければならない。

(市の責務)

第3条 市は、前条に規定する基本的な理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、手話への理解の促進及び手話の普及を図り、市民が手話を使用しやすい環境を整備するため、必要な施策を推進するものとする。

(市民及び事業者の役割)

第4条 市民及び事業者は、基本理念に対する理解を深め、市が推進する施策に協力するよう努めるものとする。

(施策の推進)

第5条 市は、次に掲げる施策を推進するものとする。

- (1) 手話に係る研修及び啓発（学校教育におけるものを含む。）に関すること。
- (2) 手話による情報発信及び情報取得に関すること。
- (3) 手話による意思疎通支援に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、手話への理解の促進及び手話の普及に関し市長が必要があると認めること。

(意見の聴取)

第6条 市長は、前条に掲げる施策の実施状況、見直しその他手話への理解の促進及び手話の普及に関し必要な事項について、広く市民、事業者、知識経験者その他市長が必要があると認める者に意見を聴くものとする。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に市長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。